介護者調査　編

４　介護者調査結果

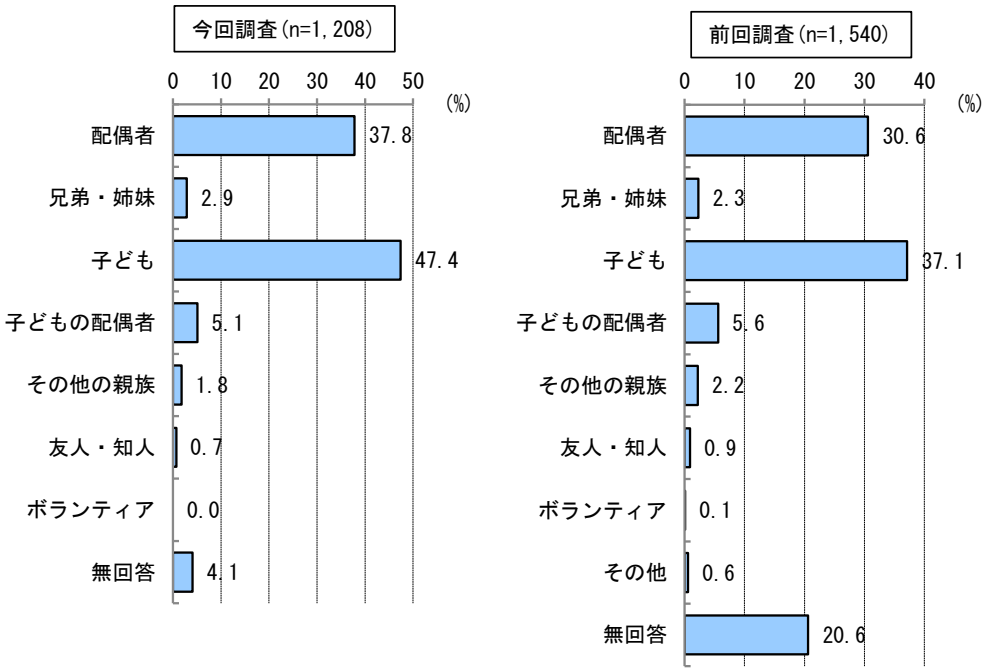
（１）介護者の基本属性

問15[18]　本人との関係

主な介護者は、ご本人とはどのような関係ですか。（○はひとつ）

＜Ａ．サービス利用者＞

【A図15[18]　本人との関係（経年比較）】



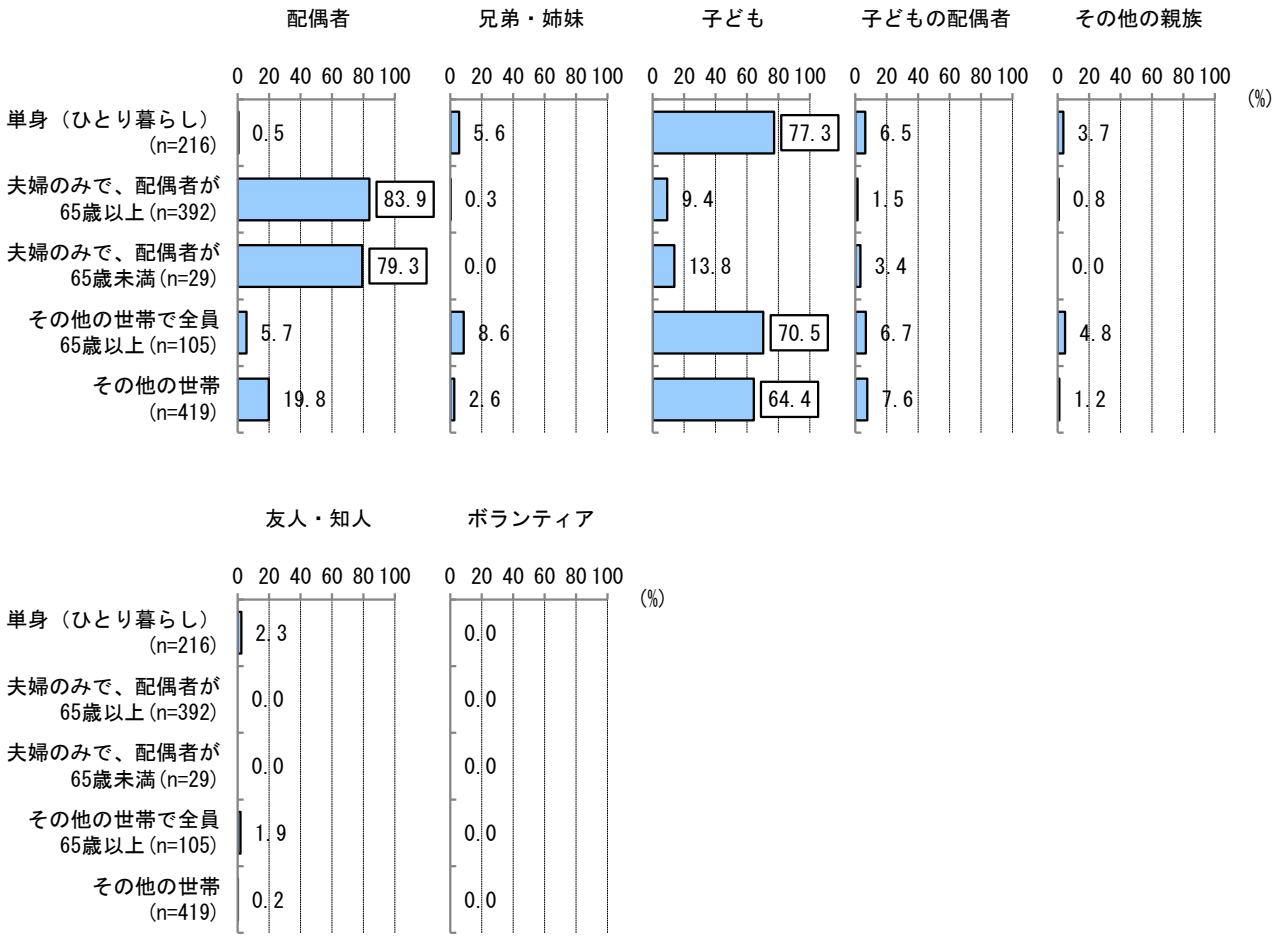
※「その他」は、今回調査では設けられていない。

サービス利用者本人との関係については、「子ども」が47.4％で最も多く、次いで「配偶者」が37.8％、「子どもの配偶者」が5.1％となっている。

前回調査と比較すると、上記２つの項目が多い傾向は変わらない。（A図15[18]）

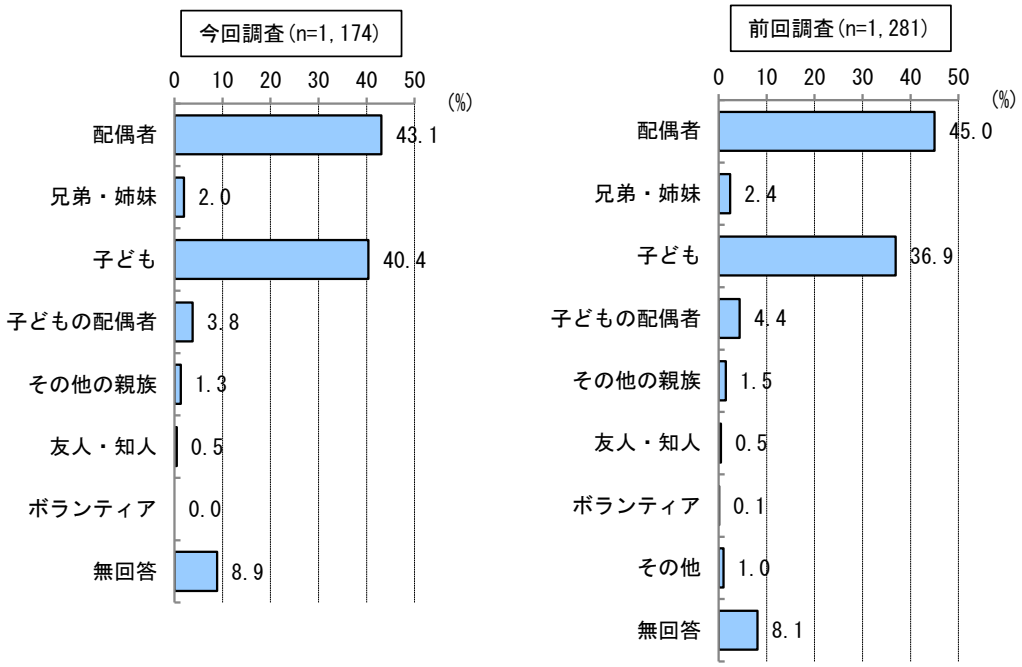
世帯状況別でみると、単身（ひとり暮らし）世帯、全員65歳以上のその他世帯、その他の世帯では「子ども」が最も多く、夫婦のみ世帯では「配偶者」が最も多くなっている。(A図15[18]-a)

【A図15[18]-a　本人との関係（世帯状況別）】



＜Ｂ．サービス未利用者＞

【B図15[18]　本人との関係（経年比較）】



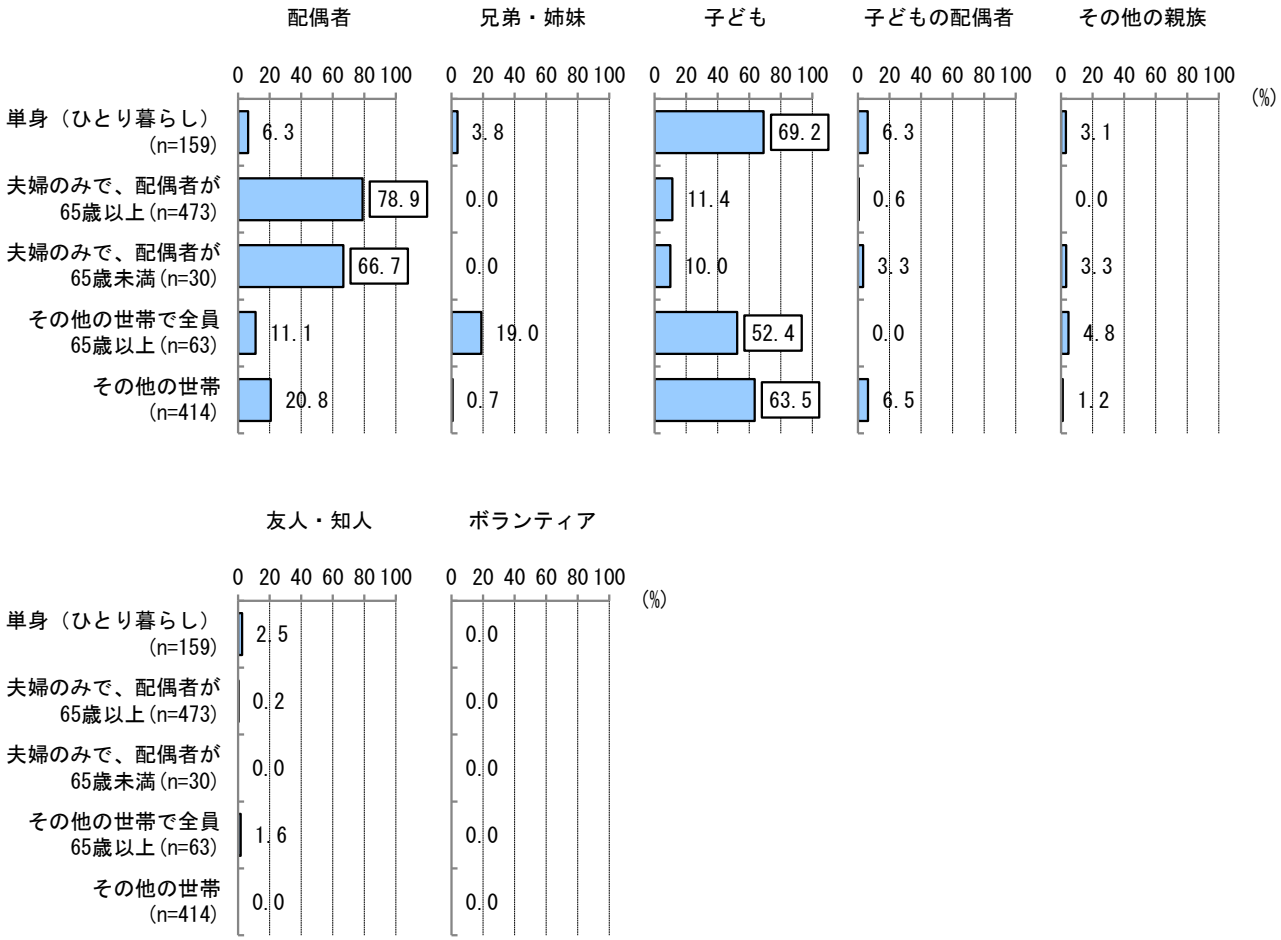
※「その他」は、今回調査では設けられていない。

サービス未利用者本人との関係については、「配偶者」が43.1％で最も多く、次いで「子ども」が40.4％、「子どもの配偶者」が3.8％となっている。

前回調査と比較すると、上記２つの項目が多い傾向は変わらない。(B図15[18])

世帯状況別でみると、単身（ひとり暮らし）世帯、全員65歳以上のその他世帯、その他の世帯では「子ども」が最も多く、夫婦のみ世帯では「配偶者」が最も多くなっている。(B図15[18]-a)

【B図15[18]-a　本人との関係（世帯状況別）】

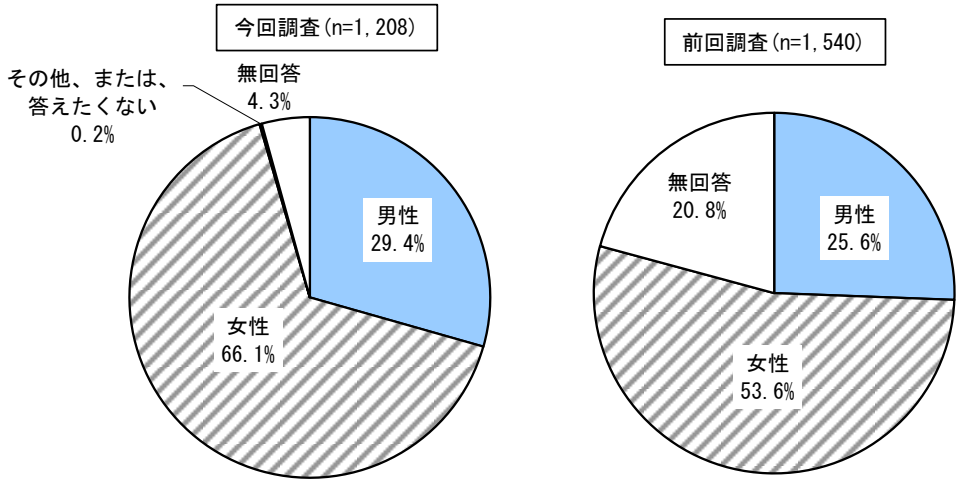


問16[19]（１）　介護者の性別

主な介護者の性別、年齢、居住地についておうかがいします。（それぞれ○はひとつ）

＜Ａ．サービス利用者＞

【A図16[19](1)　介護者の性別（経年比較）】



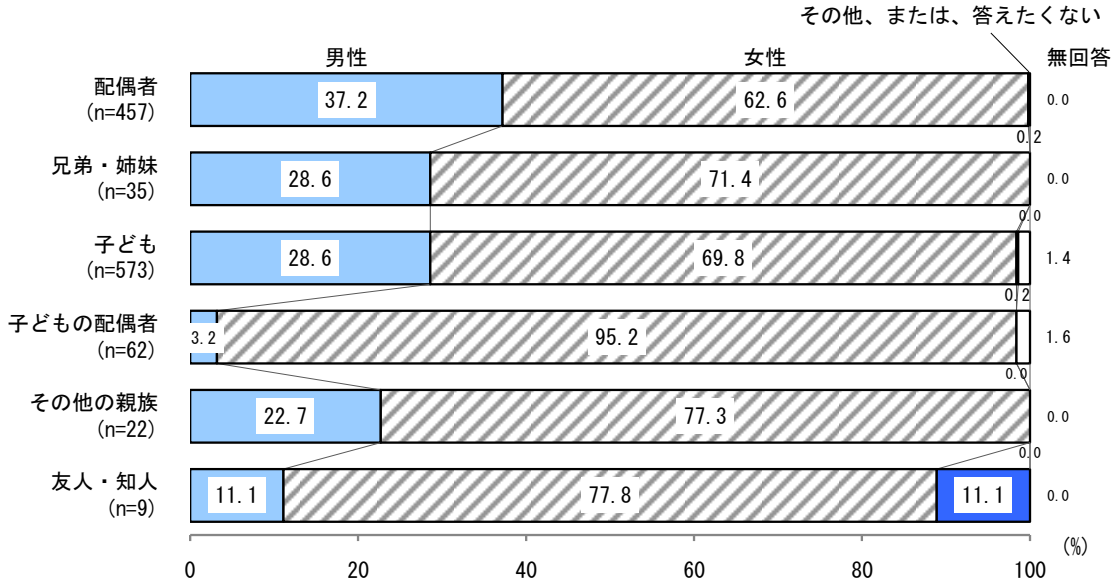
※「その他、または、答えたくない」は、今回調査の新規項目である。

サービス利用者の介護者の性別については、「男性」が29.4%、「女性」が66.1%となっている。

前回調査と比較すると、「男性」より「女性」の割合が多い傾向は変わらない。(A図16[19](1))

本人との関係別でみると、関係性にかかわらず「女性」のほうが多くなっている。一方、「男性」の割合では、配偶者の介護者が37.2%で最も多く、次いで兄弟・姉妹の介護者と子どもの介護者はともに28.6%となっている。(A図16[19](1)-a)

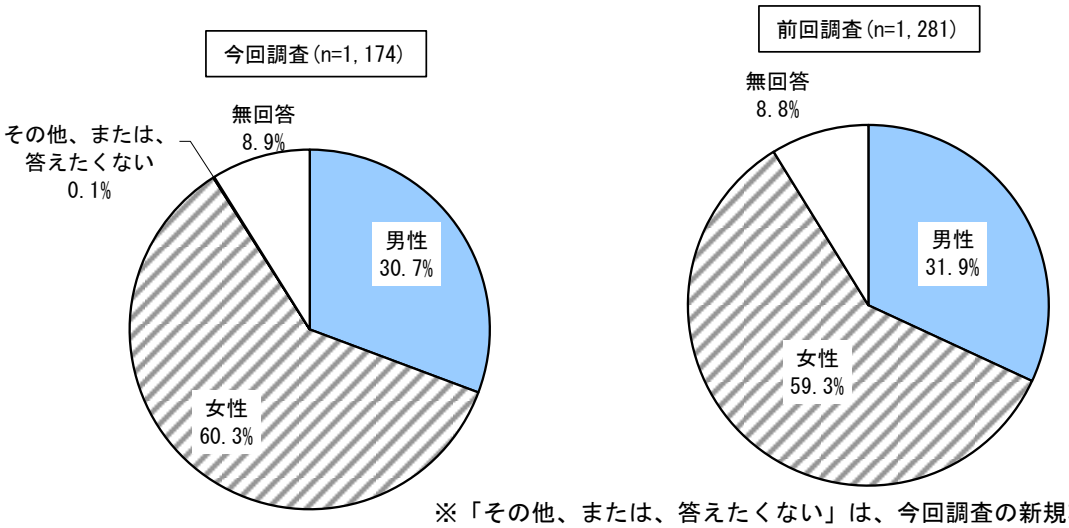
【A図16[19](1)-a　介護者の性別（本人との関係別）】



※「ボランティア」の介護者がいなかったので省く。（以下の「本人との関係別」は同様）

＜B．サービス未利用者＞

【B図16[19](1)　介護者の性別（経年比較）】



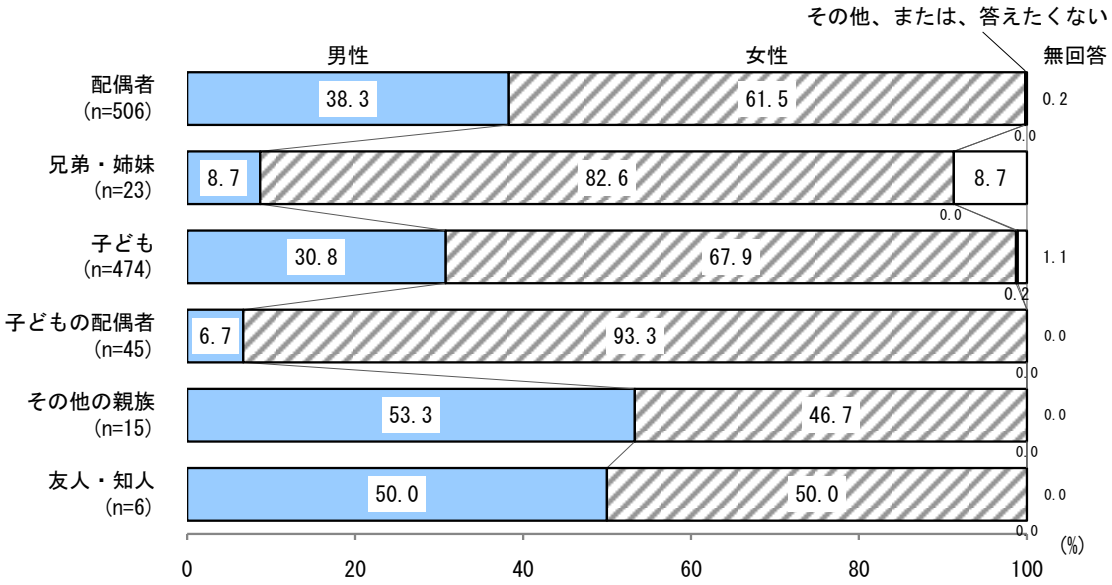
※「その他、または、答えたくない」は、今回調査の新規項目である。

サービス未利用者の介護者の性別については、「男性」が30.7%、「女性」が60.3%となっている。

前回調査と比較すると、「男性」より「女性」の割合が高い傾向は変わらない。(B図16[19](1))

本人との関係別でみると、配偶者の介護者は「男性」が38.3%、「女性」が61.5%となっている。子どもの介護者は「男性」が30.8%、「女性」が67.9%となっている。(B図16[19](1)-a)

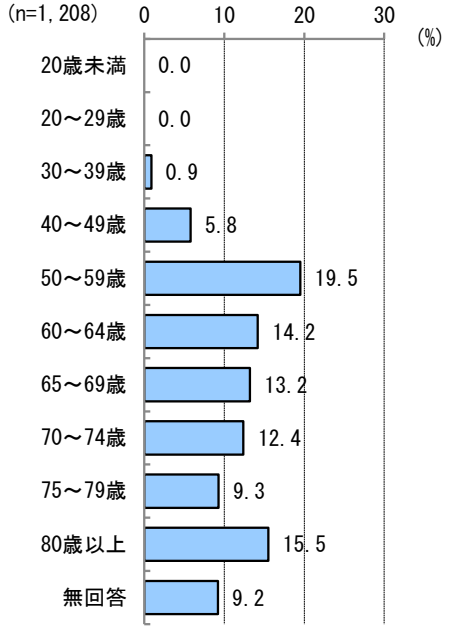
【B図16[19](1)-a　介護者の性別（本人との関係別）】



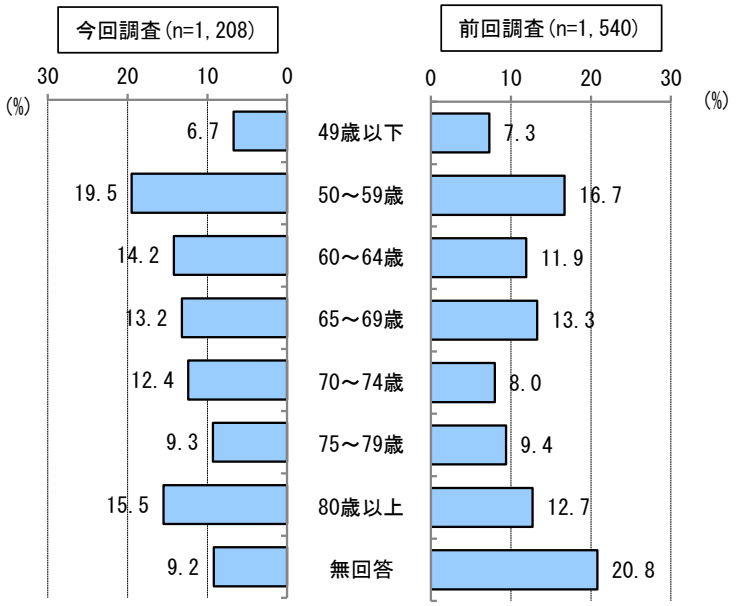
問16[19]（２）　介護者の年齢

＜Ａ．サービス利用者＞

【A図16[19](2)　介護者の年齢】



【A図16[19](2)-a　介護者の年齢（経年比較）】



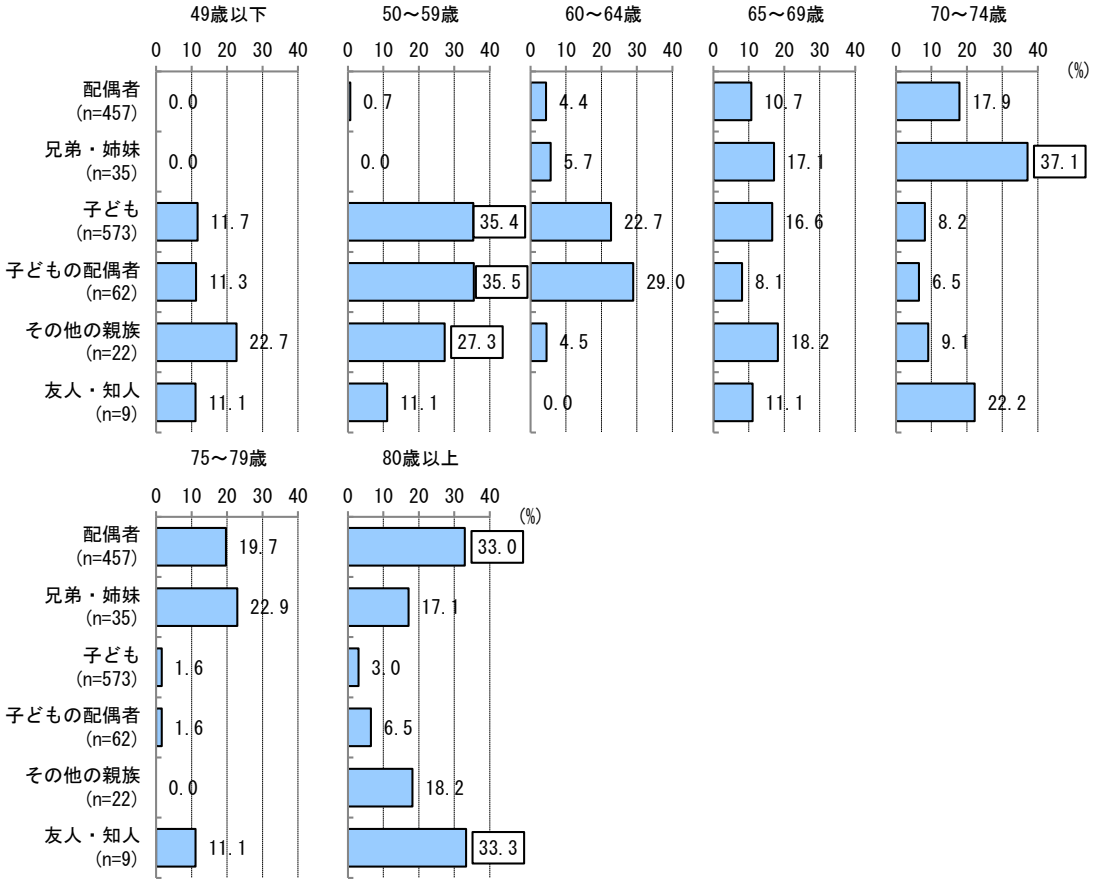
※今回調査は「20歳未満」「20～29歳」「30～39歳」「40～49歳」を合わせて「49歳以下」とする。

サービス利用者の介護者の年齢については、「50～59歳」が19.5％で最も多く、次いで「80歳以上」が15.5％となっている。(A図16[19](2))

前回調査と比較すると、「50～59歳」の割合が最も高い傾向に変わりはないが、「80歳以上」の割合が高くなっている。(A図16[19](2)-a)

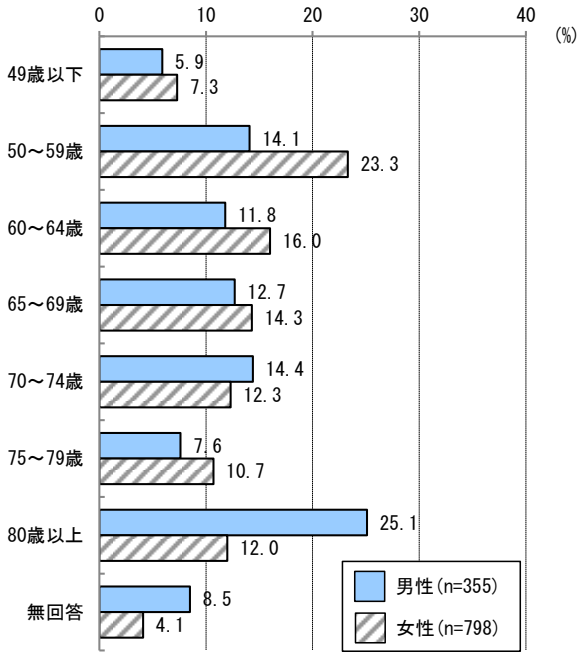
本人との関係別でみると、配偶者や友人・知人の介護者は「80歳以上」、兄弟・姉妹の介護者は「70～74歳」、子どもや子の配偶者、その他の親族の介護者は「50～59歳」が、それぞれ最も多くなっている。(A図16[19](2)-b)

【A図16[19](2)-b　介護者の年齢（本人との関係別）】



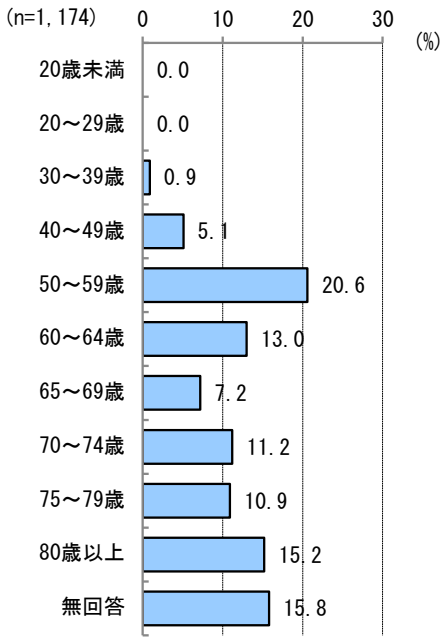
介護者の性別でみると、男性の介護者は「80歳以上」が25.1%で最も多くなっている。女性の介護者は「50～59歳」が23.3%で最も多くなっている。(A図16[19](2)-c)

【A図16[19](2)-c　介護者の年齢（介護者の性別）】

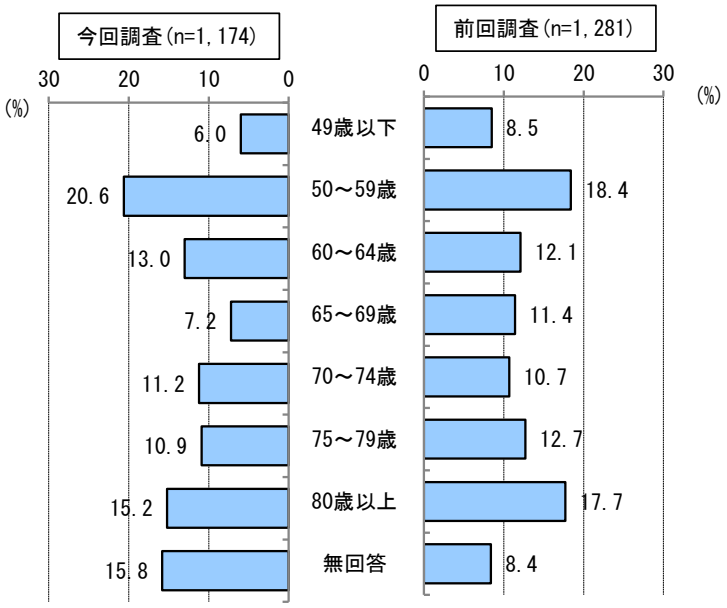


＜Ｂ．サービス未利用者＞

【B図16[19](2)　介護者の年齢】



【B図16[19](2)-a　介護者の年齢（経年比較）】



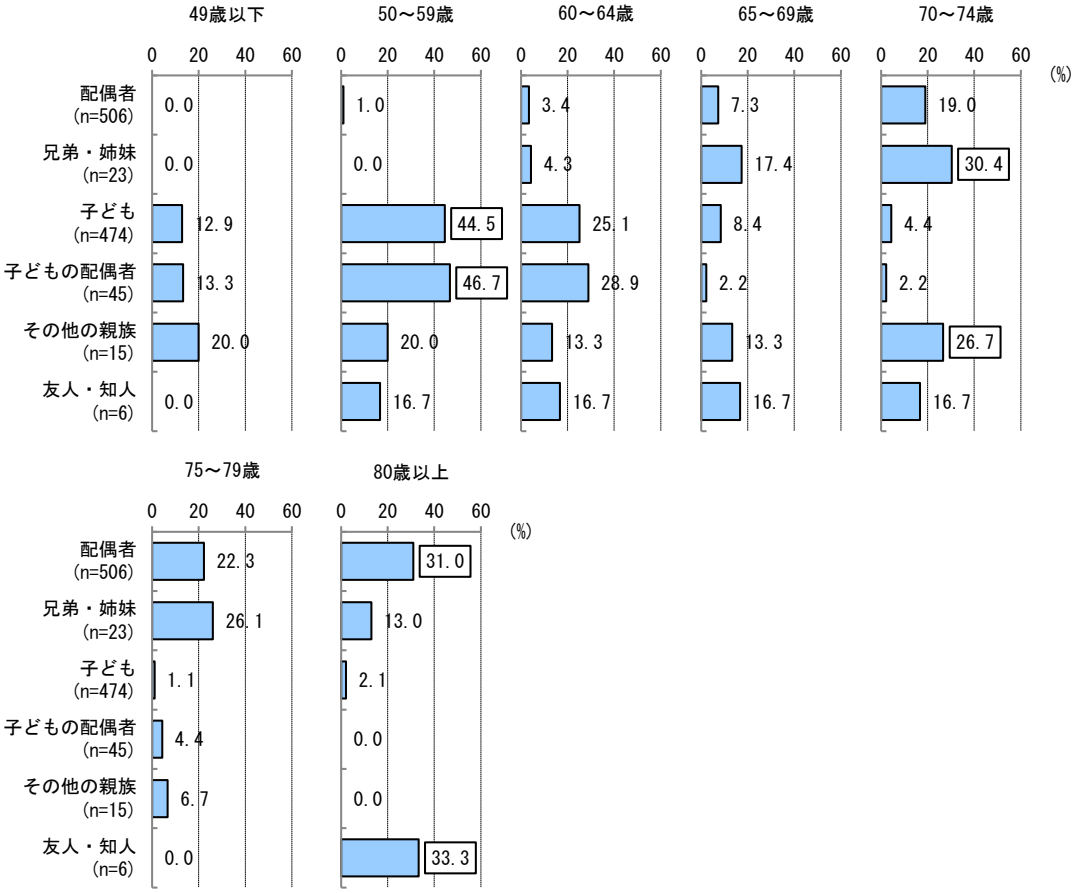
※今回調査は「20歳未満」「20～29歳」「30～39歳」「40～49歳」を合わせて「49歳以下」とする。

サービス未利用者の介護者の年齢については、「50～59歳」が20.6％で最も多く、次いで「80歳以上」が15.2％となっている。(B図16[19](2))

前回調査と比較すると、「50～59歳」の割合が最も高い傾向に変わりはないが、「80歳以上」「65～69歳」の割合は4.2ポイント、「80歳以上」の割合は2.5ポイント低くなっている。(B図16[19](2)-a)

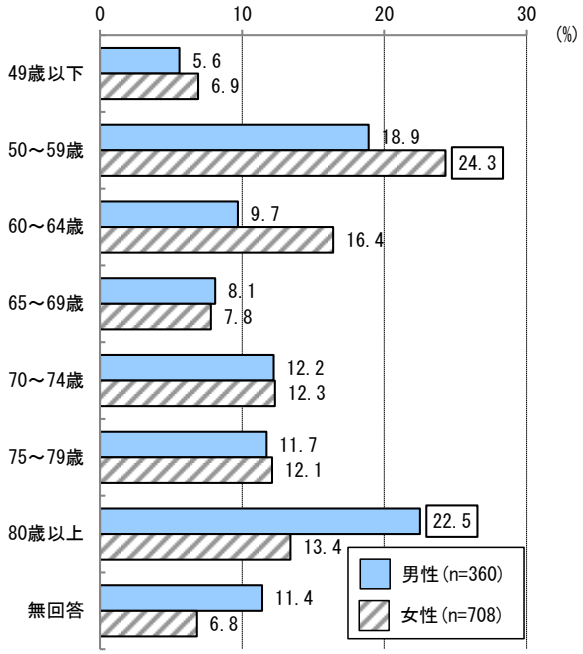
本人との関係別でみると、配偶者や友人・知人の介護者は「80歳以上」、兄弟・姉妹やその他の親族の介護者は「70～74歳」、子どもや子の配偶者の介護者は「50～59歳」が、それぞれ最も多くなっている。(B図16[19](2)-b)

【B図16[19](2)-b　介護者の年齢（本人との関係別）】



介護者の性別でみると、男性の介護者は「80歳以上」が22.5%で最も多くなっている。女性の介護者は「50～59歳」が24.3%で最も多くなっている。(B図16[19](2)-c)

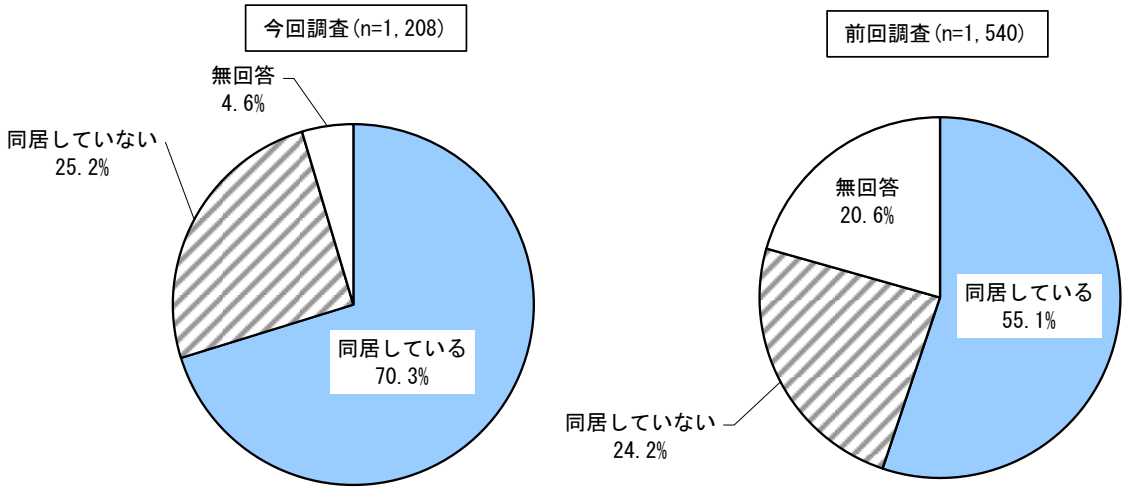
【B図16[19](2)-c　介護者の年齢（介護者の性別）】



問16[19]（３）　同居有無

＜Ａ．サービス利用者＞

【A図16[19](3)　同居有無（経年比較）】

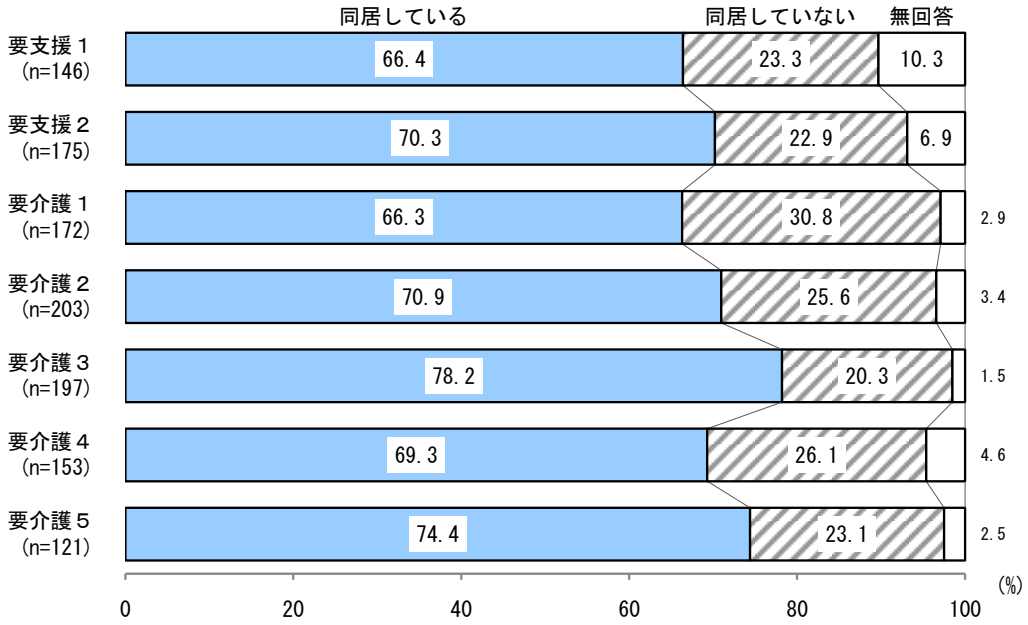


サービス利用者との同居有無について、「同居している」が70.3%、「同居していない」が25.2%となっている。

前回調査と比較すると、「同居している」人のほうが多い傾向は変わらない。(A図16[19](3))

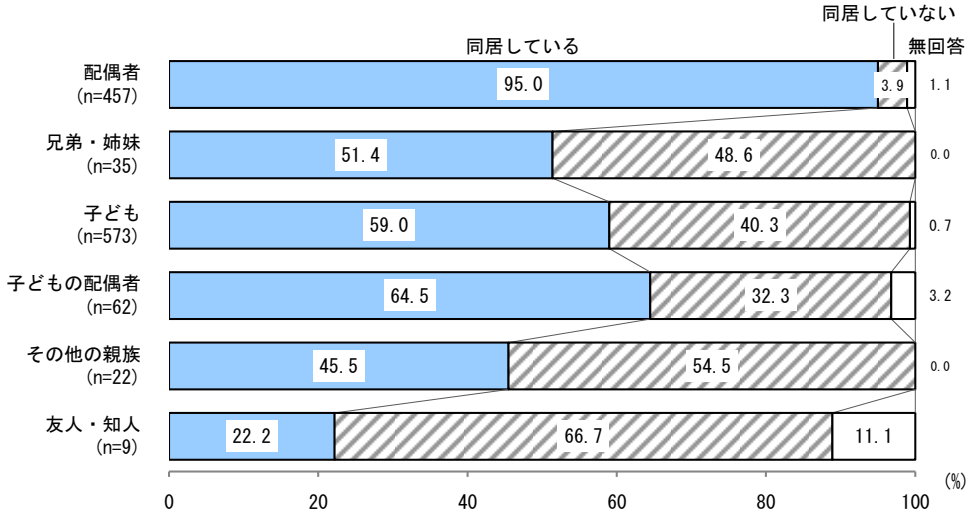
本人の要介護度別でみると、要介護度にかかわらず「同居している」が過半数を占めている。(A図16[19](3)-a)

【A図16[19](3)-a　同居有無（本人の要介護度別）】



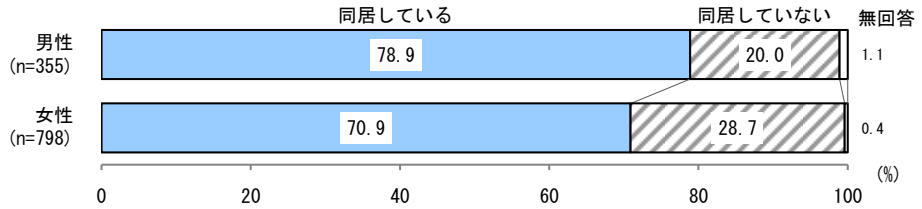
本人との関係別でみると、配偶者や兄弟・姉妹、子ども、子の配偶者の介護者では「同居している」が過半数を占めている。(A図16[19](3)-b)

【A図16[19](3)-b　同居有無（本人との関係別）】



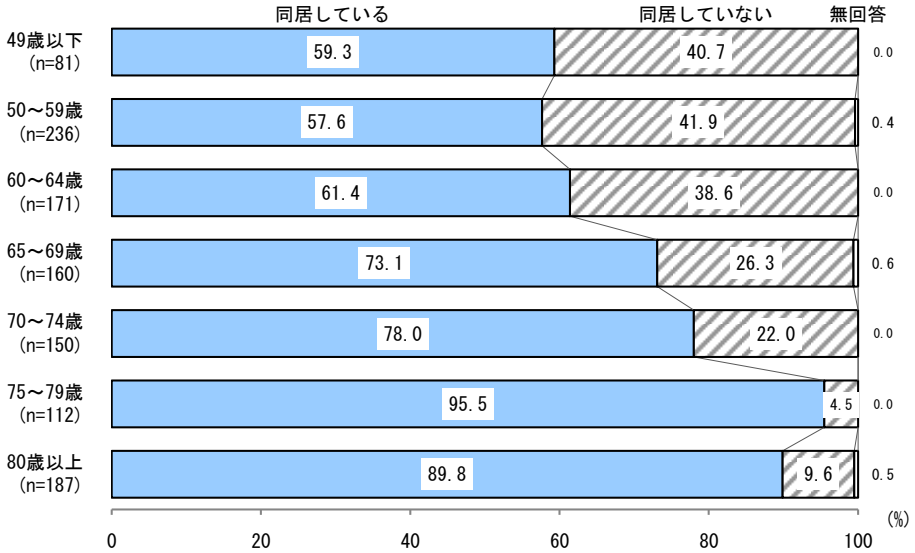
介護者の性別でみると、男女とも「同居している」のほうが多くなっており、男性の介護者は78.9%、女性の介護者は70.9%で、男性の介護者のほうが8.0ポイント高くなっている。(A図16[19](3)-c)

【A図16[19](3)-c　同居有無（介護者の性別）】



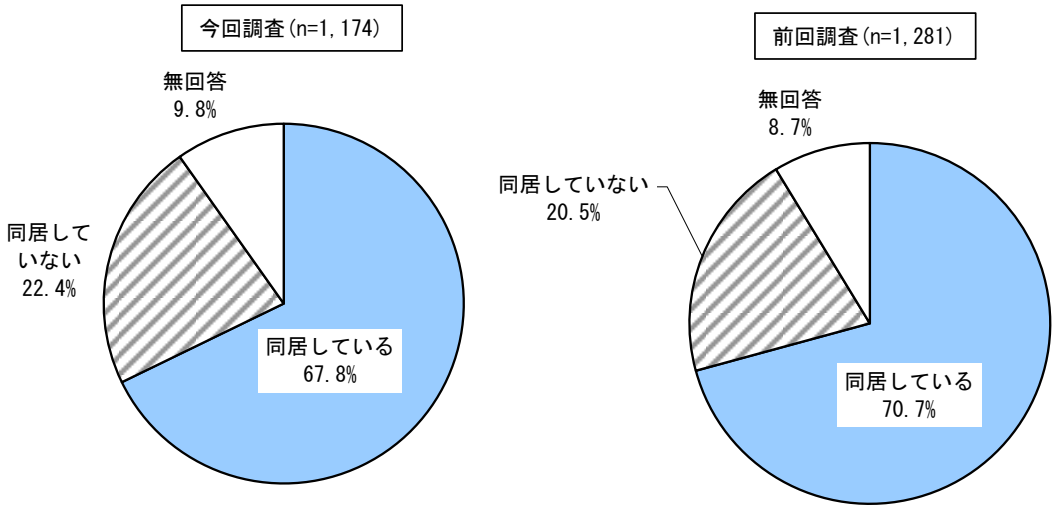
介護者の年齢別でみると、年齢にかかわらず「同居している」のほうが多くなっている。一方、「同居していない」の割合では、64歳以下の各年代は４割前後、65～74歳の各年代は２割台となっている。(A図16[19](3)-d)

【A図16[19](3)-d　同居有無（介護者の年齢別）】



＜Ｂ．サービス未利用者＞

【B図16[19](3)　同居有無（経年比較）】

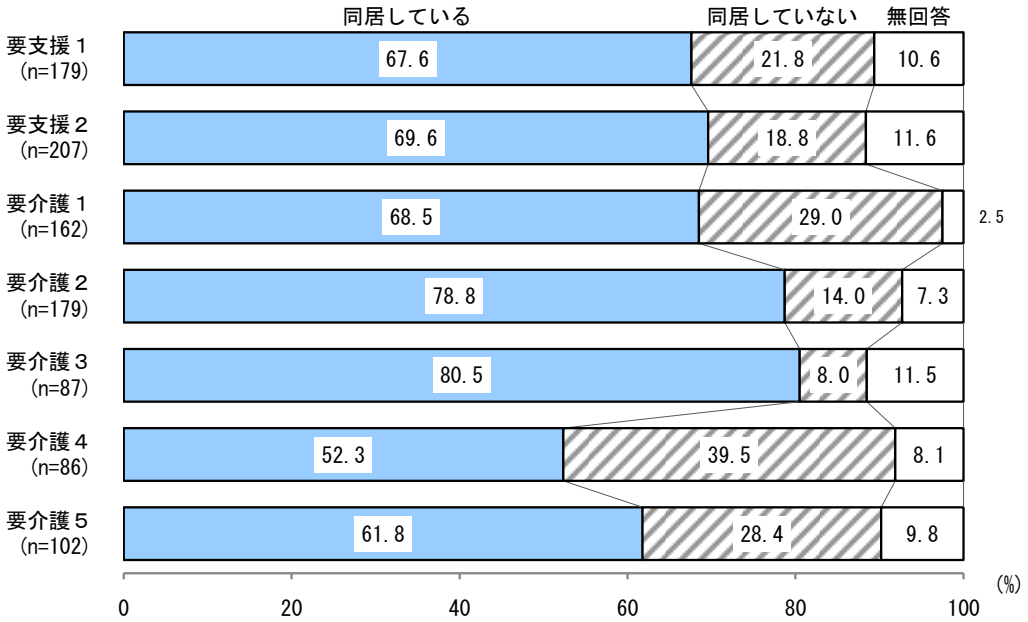


サービス未利用者との同居有無について、「同居している」が67.8%、「同居していない」が22.4%となっている。

前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。(B図16[19](3))

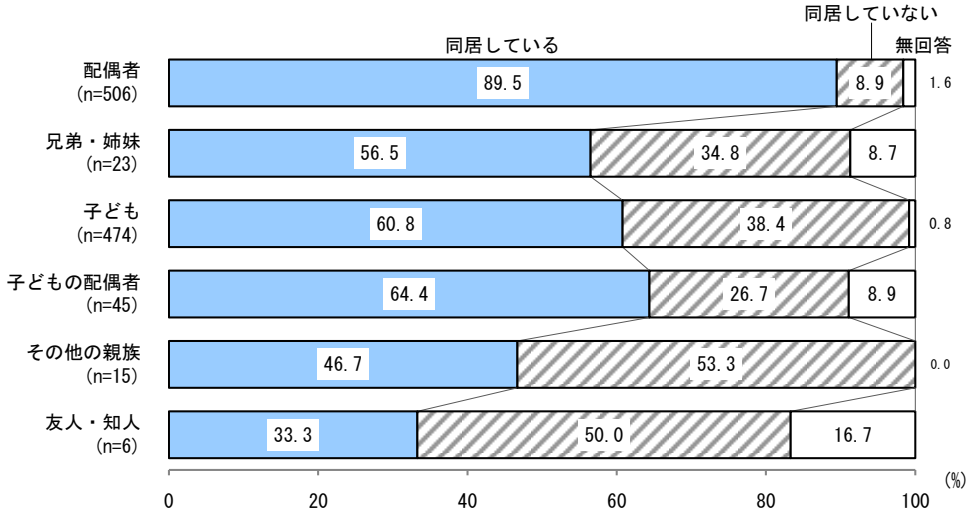
本人の要介護度別でみると、要介護度にかかわらず「同居している」が過半数を占めている。しかし、要介護４は「同居していない」が39.5%と他の要介護度に比べて高い割合になっている。(B図16[19](3)-a)

【B図16[19](3)-a　同居有無（本人の要介護度別）】



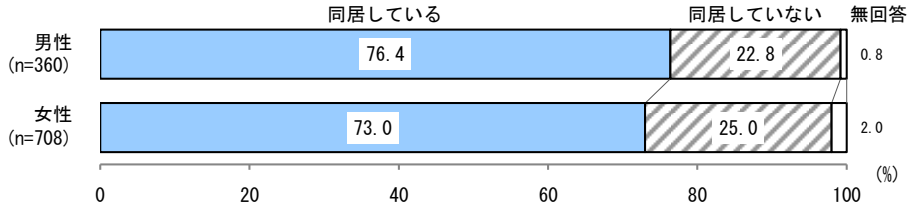
本人との関係別でみると、配偶者や兄弟・姉妹、子ども、子の配偶者の介護者では「同居している」が過半数を占めている。(B図16[19](3)-b)

【B図16[19](3)-b　同居有無（本人との関係別）】



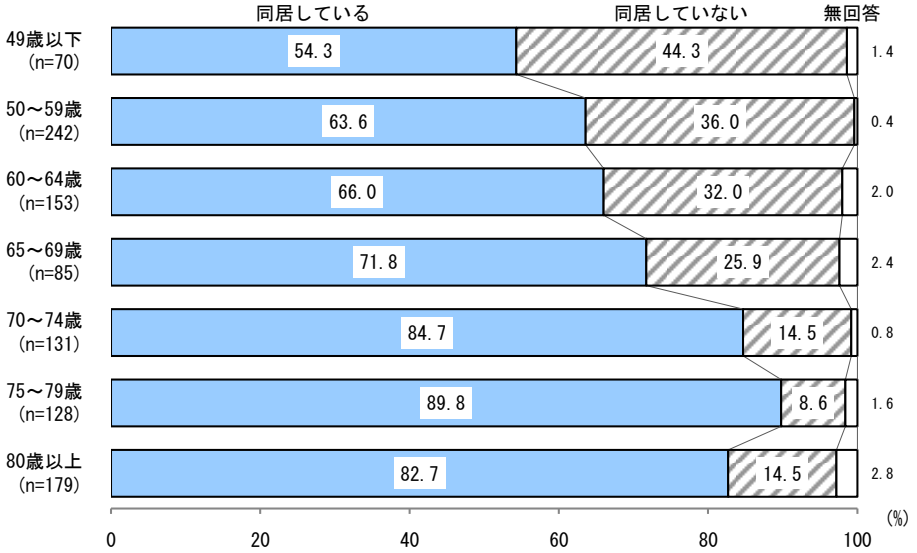
介護者の性別でみると、男女とも「同居している」のほうが多くなっており、男性の介護者は76.4%、女性の介護者は73.0%で、男性の介護者のほうが3.4ポイント高くなっている。(B図16[19](3)-c)

【B図16[19](3)-c　同居有無（介護者の性別）】



介護者の年齢別でみると、年齢にかかわらず「同居している」のほうが多くなっており、高齢になるほど割合が高くなっている。(B図16[19](3)-d)

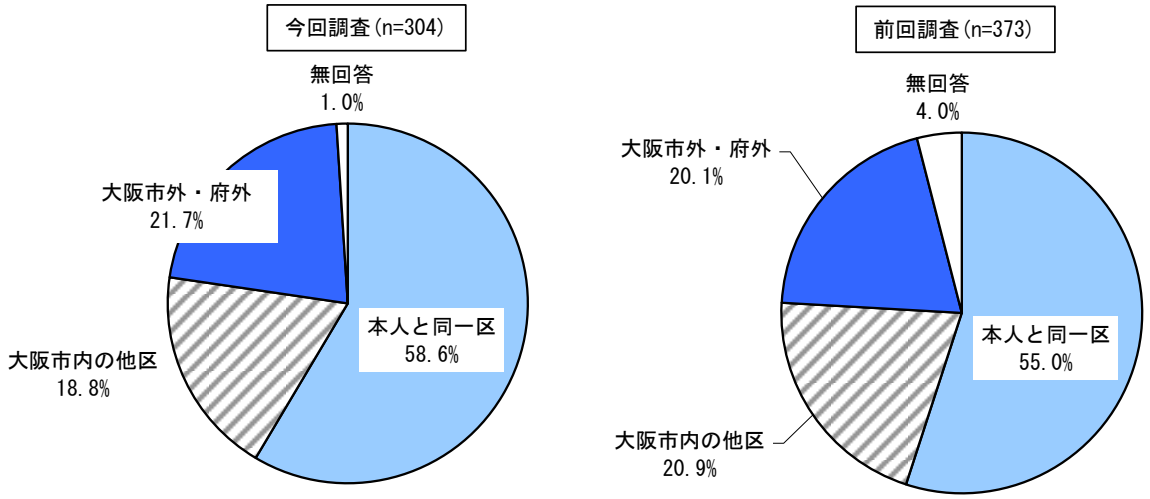
【B図16[19](3)-d　同居有無（介護者の年齢別）】



付問16[19]（３）　介護者の居住地

＜Ａ．サービス利用者＞

【A付図16[19](3)　介護者の居住地（経年比較）】

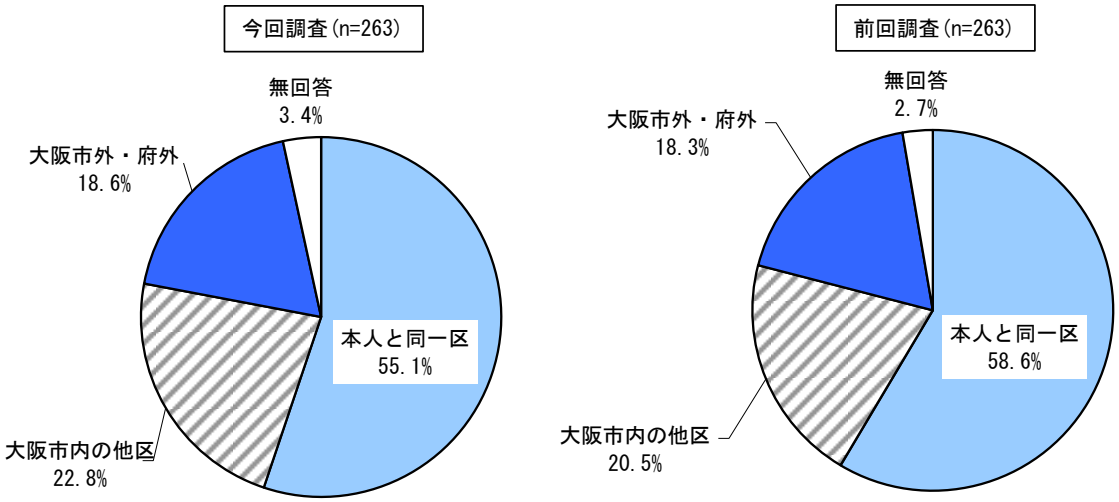


サービス利用者本人と同居していないと回答した介護者に、居住地をたずねると、「本人と同一区」が58.6%で最も多く、次いで「大阪市外・府外」が21.7%、「大阪市内の他区」が18.8%となっている。

前回調査と比較すると、「本人と同一区」の割合が3.1ポイント高くなっている。(A図16[19](3))

＜Ｂ．サービス未利用者＞

【B付図16[19](3)　介護者の居住地（経年比較）】



サービス未利用者本人と同居していないと回答した介護者に、居住地をたずねると、「本人と同一区」が55.1%で最も多く、次いで「大阪市内の他区」が22.8%、「大阪市外・府外」が18.6%となっている。

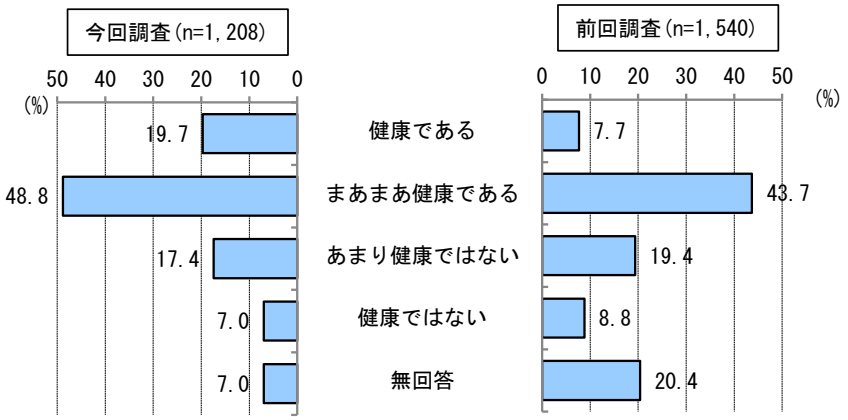
前回調査と比較すると、「本人と同一区」の割合が3.5ポイント低くなっている。(B図16[19](3))

問17[20]　介護者の健康状態

主な介護者の健康状態はいかがですか。（○はひとつ）

＜Ａ．サービス利用者＞

【A図17[20]　介護者の健康状態（経年比較）】

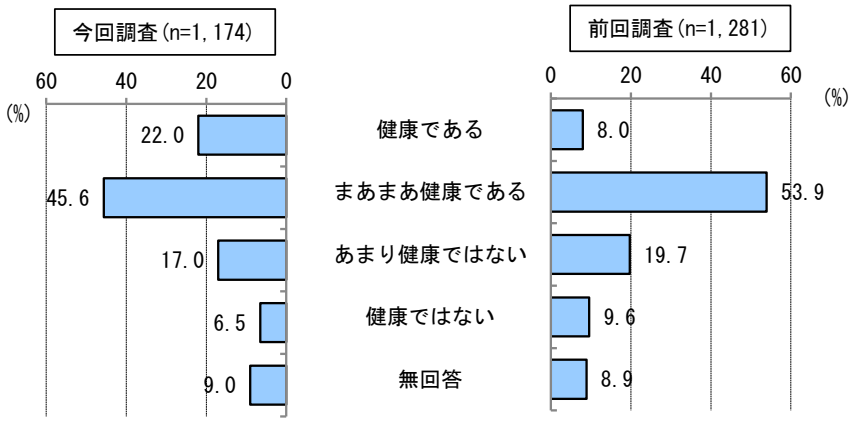


サービス利用者の介護者の健康状態については、「まあまあ健康である」が48.8%で最も多く、次いで「健康である」が19.7%、「あまり健康ではない」が17.4%となっている。

前回調査と比較すると、「まあまあ健康である」が5.1ポイント高くなっている。(A図17[20])

＜Ｂ．サービス未利用者＞

【B図17[20]　介護者の健康状態（経年比較）】



サービス未利用者の介護者の健康状態については、「まあまあ健康である」が45.6%、「健康である」が22.0%、「あまり健康ではない」が17.0%となっている。

前回調査と比較すると、「健康である」の割合が14.0ポイント高くなっている。また「まあまあ健康である」が8.3ポイント低くなっている。(B図17[20])

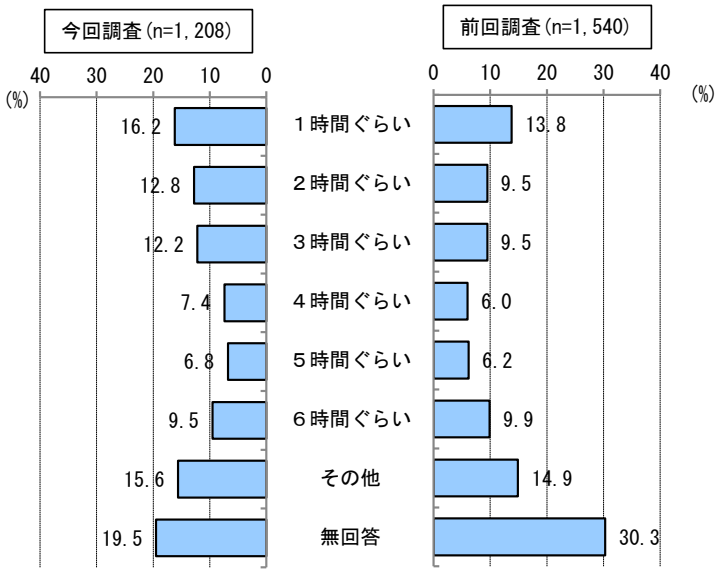
（２）介護の状況

問18[21]　１日平均の介護時間

主な介護者は、１日平均どのくらいの時間、介護を行っていますか。もっとも近いものに○をつけてください。（○はひとつ）

＜Ａ．サービス利用者＞

【A図18[21]　１日平均の介護時間（経年比較）】

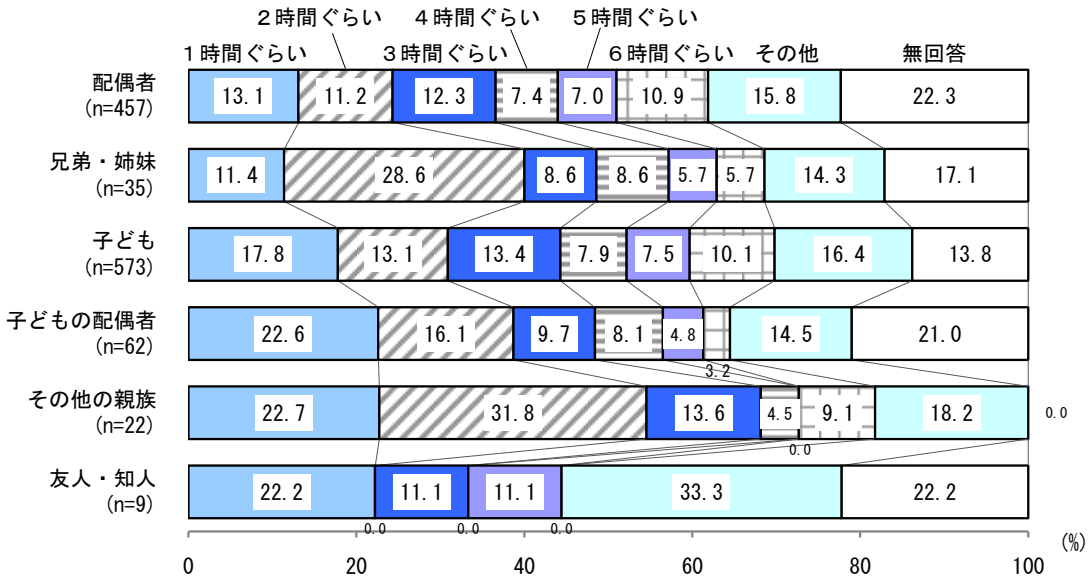


サービス利用者の介護者の１日平均の介護時間について、「１時間ぐらい」が16.2%で最も多くなっている。これに次いで「その他」が15.6%で７時間以上の平均が16.1時間となっている。

前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。(A図18[21])

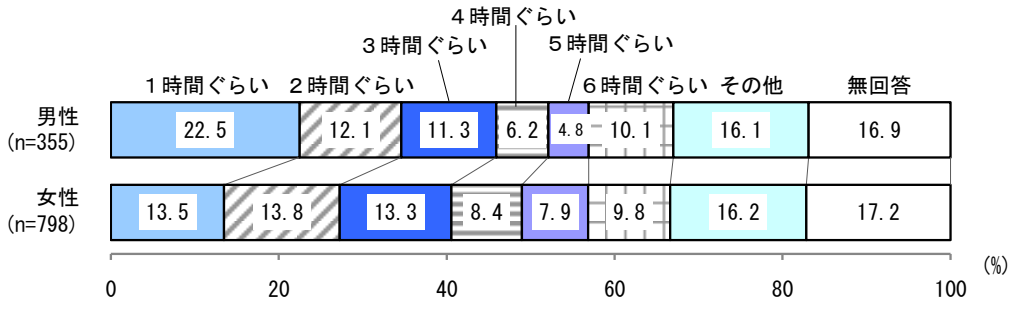
本人との関係別でみると、配偶者の介護者は「その他」が15.8%で最も多く、７時間以上の平均が17.9時間となっている。子どもや子の配偶者、友人・知人の介護者は「１時間くらい」が最も多く、兄弟・姉妹とその他の親族の介護者は「２時間ぐらい」が最も多くなっている。(A図18[21]-a)

【A図18[21]-a　１日平均の介護時間（本人との関係別）】



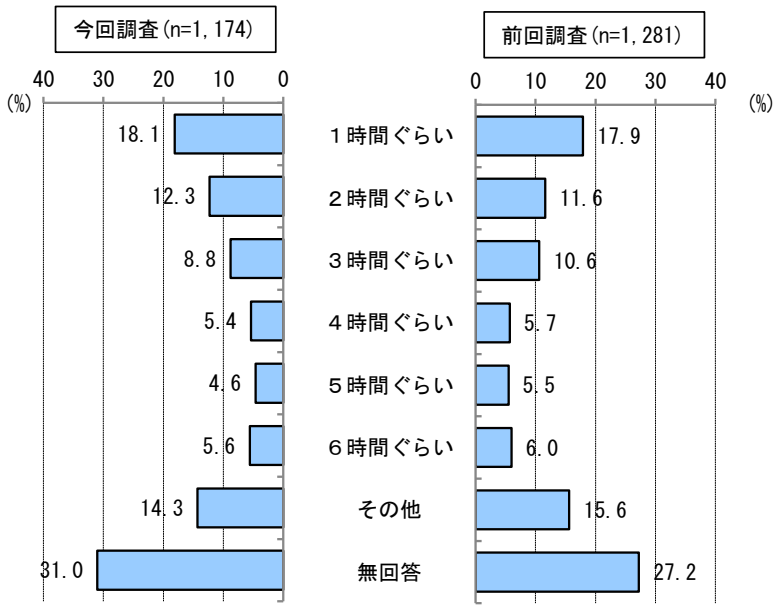
介護者の性別でみると、男性の介護者は「１時間ぐらい」が22.5%で最も多くなっている。一方、女性の介護者は「その他」が16.2%で最も多く、７時間以上の平均が15.5時間となっている。また、男性の介護者は「１時間ぐらい」の割合が女性の介護者（13.5%）に比べて9.0ポイント高くなっており、女性の介護者は「２時間ぐらい」から「５時間ぐらい」の各割合が男性の介護者に比べて高い割合になっている。(A図18[21]-a)

【A図18[21]-a　１日平均の介護時間（介護者の性別）】



＜Ｂ．サービス未利用者＞

【B図18[21]　１日平均の介護時間（経年比較）】

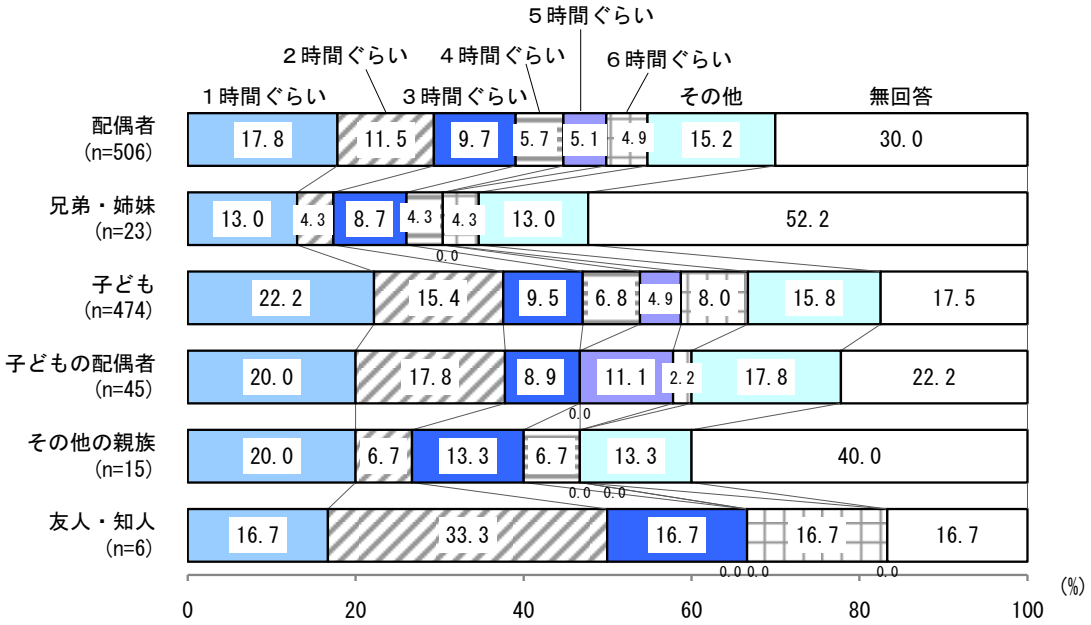


サービス未利用者の介護者の１日平均の介護時間について、「１時間ぐらい」が18.1%で最も多く、次いで「その他」が14.3%で７時間以上の平均が18.0時間となっている。

前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。(B図18[21])

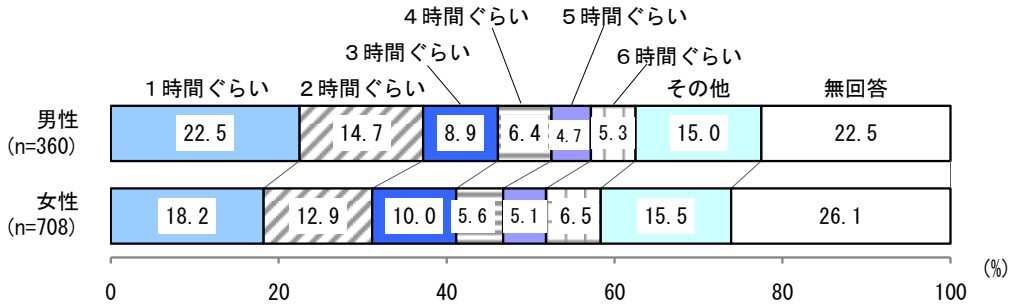
本人との関係別でみると、配偶者、子ども、子の配偶者のどの介護者も「１時間くらい」が２割前後で最も多くなっている。(B図18[21]-a)

【B図18[21]-a　１日平均の介護時間（本人との関係別）】



介護者の性別でみると、男女とも「１時間ぐらい」が最も多く、男性の介護者は22.5%、女性の介護者は18.2%となっており、男性の介護者のほうが4.3ポイント高い割合になっている。(B図18[21]-a)

【B図18[21]-a　１日平均の介護時間（介護者の性別）】

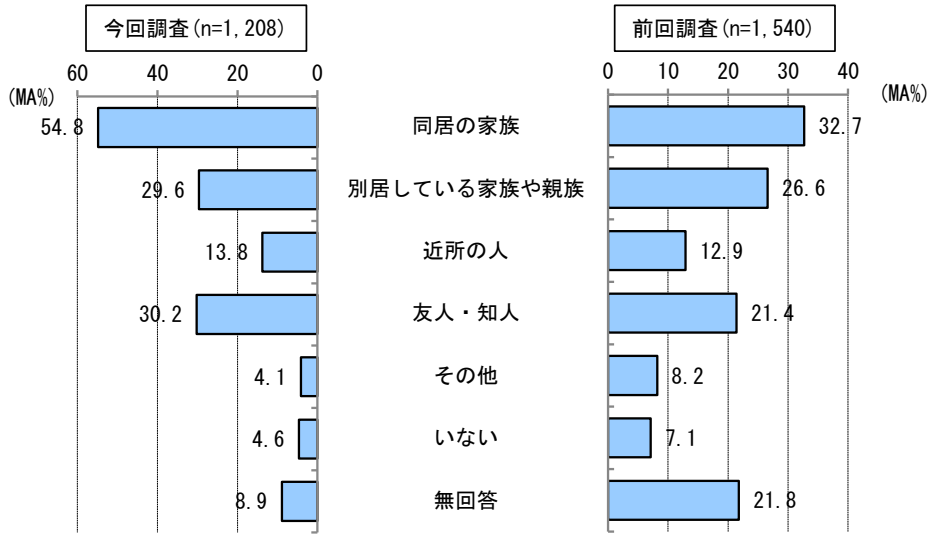


問19[22]　介護者がよく話をする相手

主な介護者がよく話をする相手は誰ですか。（○はいくつでも）

＜Ａ．サービス利用者＞

【A図19[22]　介護者がよく話をする相手（経年比較）】

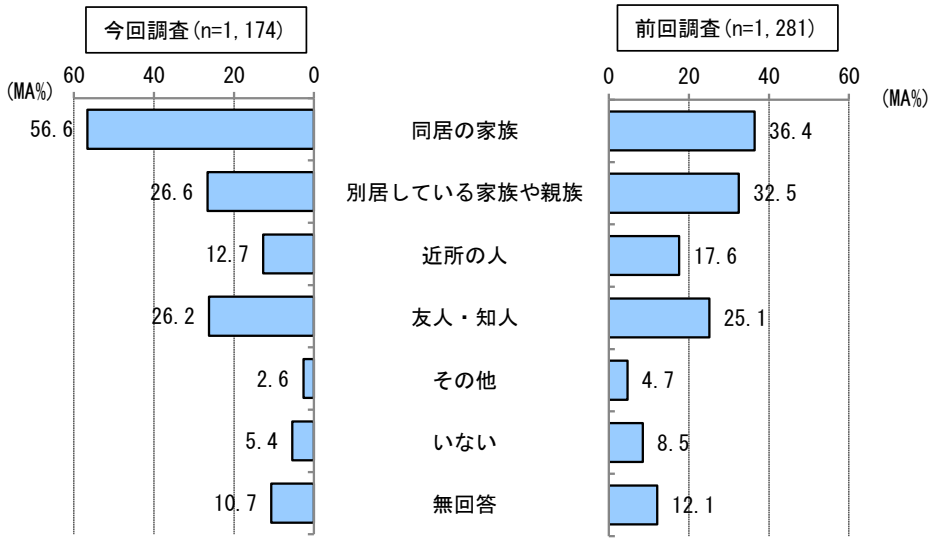


サービス利用者本人以外でよく話をする相手については、「同居の家族」が54.8%で最も多く、次いで「友人・知人」が30.2%、「別居している家族や親族」が29.6%となっている。

前回調査と比較すると、上記３項目が多い傾向は変わらない。(A図19[22])

＜Ｂ．サービス未利用者＞

【B図19[22]　介護者がよく話をする相手（経年比較）】



サービス未利用者本人以外でよく話をする相手については、「同居の家族」が56.6%で最も多く、次いで「別居している家族や親族」が26.6%、「友人・知人」が26.2%となっている。

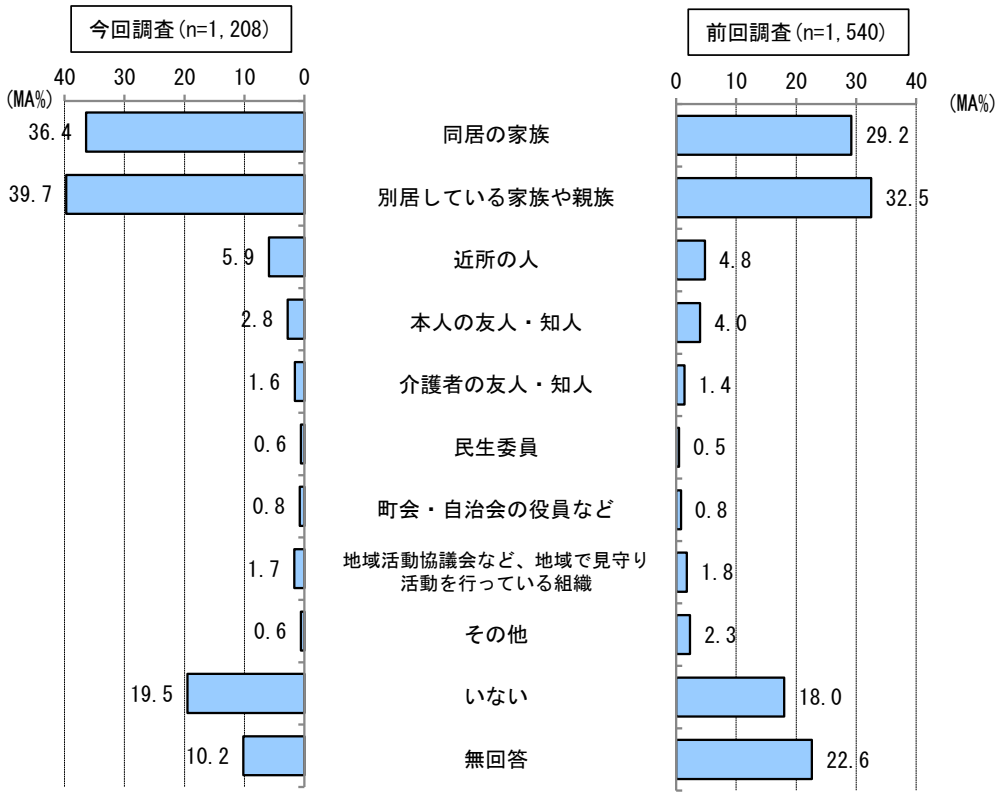
前回調査と比較すると、「同居の家族」の割合が20.2ポイント高くなっている。(B図19[22])

問20[23]　介護を手助けしてくれる人の有無

介護保険サービス提供者以外で、介護を手助けしてくれる方はいますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

＜Ａ．サービス利用者＞

【A図20[23]　介護を手助けしてくれる人（経年比較）】

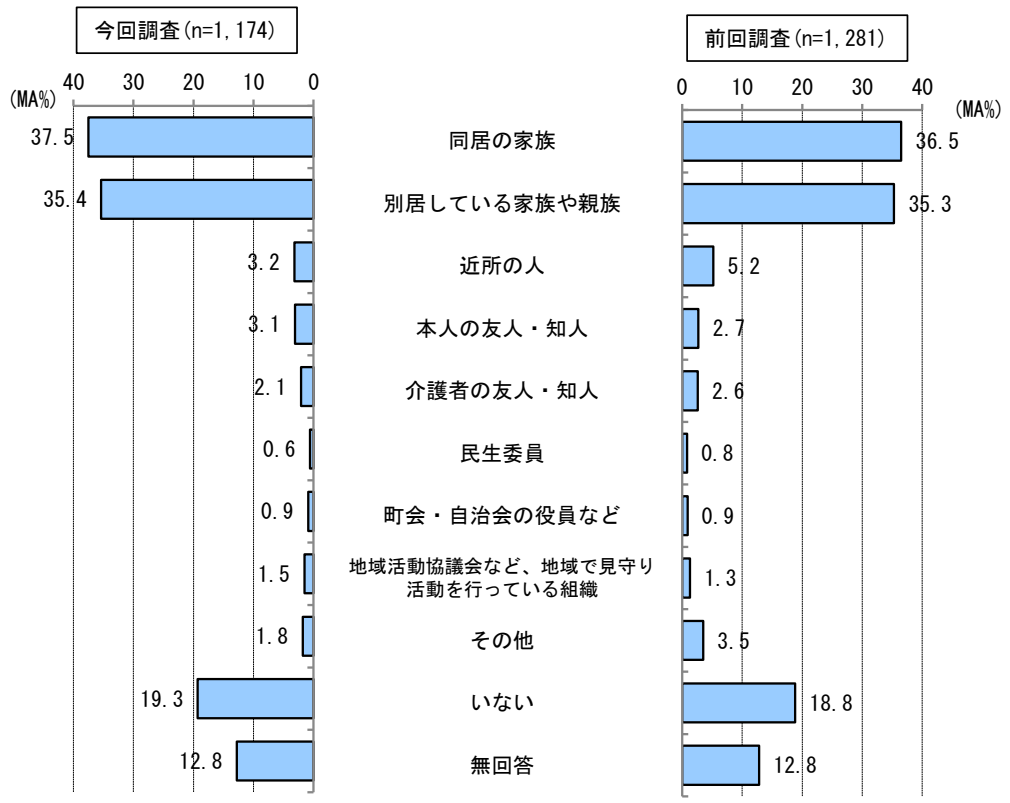


サービス利用者本人の介護を手助けしてくれる人はいるかについては、「別居している家族や親族」が39.7%で最も多く、次いで「同居の家族」が36.4%となっている。また「いない」は19.5%となっている。

前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。(A図20[23])

＜Ｂ．サービス未利用者＞

【B図20[23]　介護を手助けしてくれる人（経年比較）】



サービス未利用者本人の介護を手助けしてくれる人はいるかについては、「同居の家族」が37.5%で最も多く、次いで「別居している家族や親族」が35.4%となっている。また「いない」は19.3%となっている。

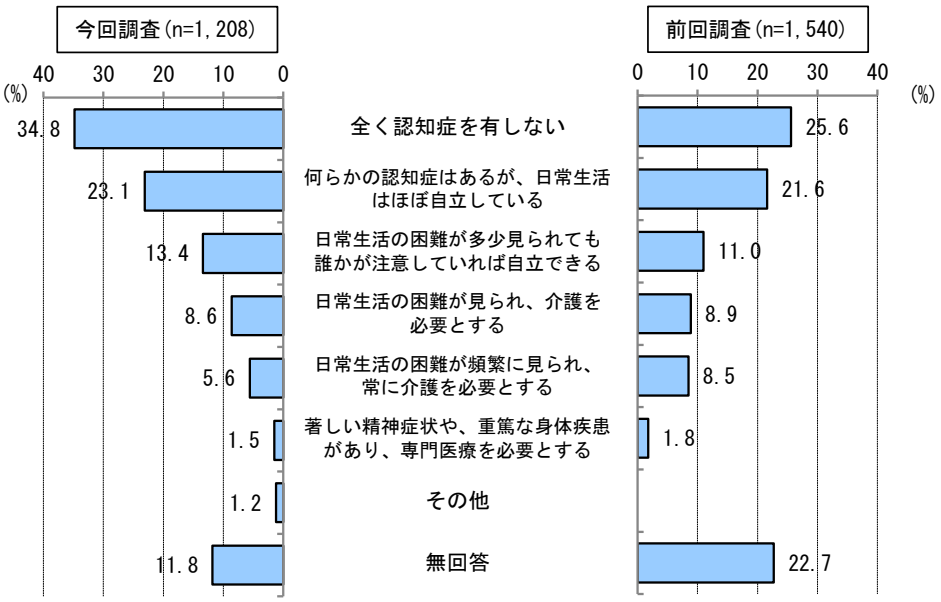
前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。(B図20[23])

問21[24]　本人の認知症の程度

ご本人の認知症の程度について、もっとも近いものに○をつけてください。（○はひとつ）

＜Ａ．サービス利用者＞

【A図21[24]　本人の認知症の程度（経年比較）】



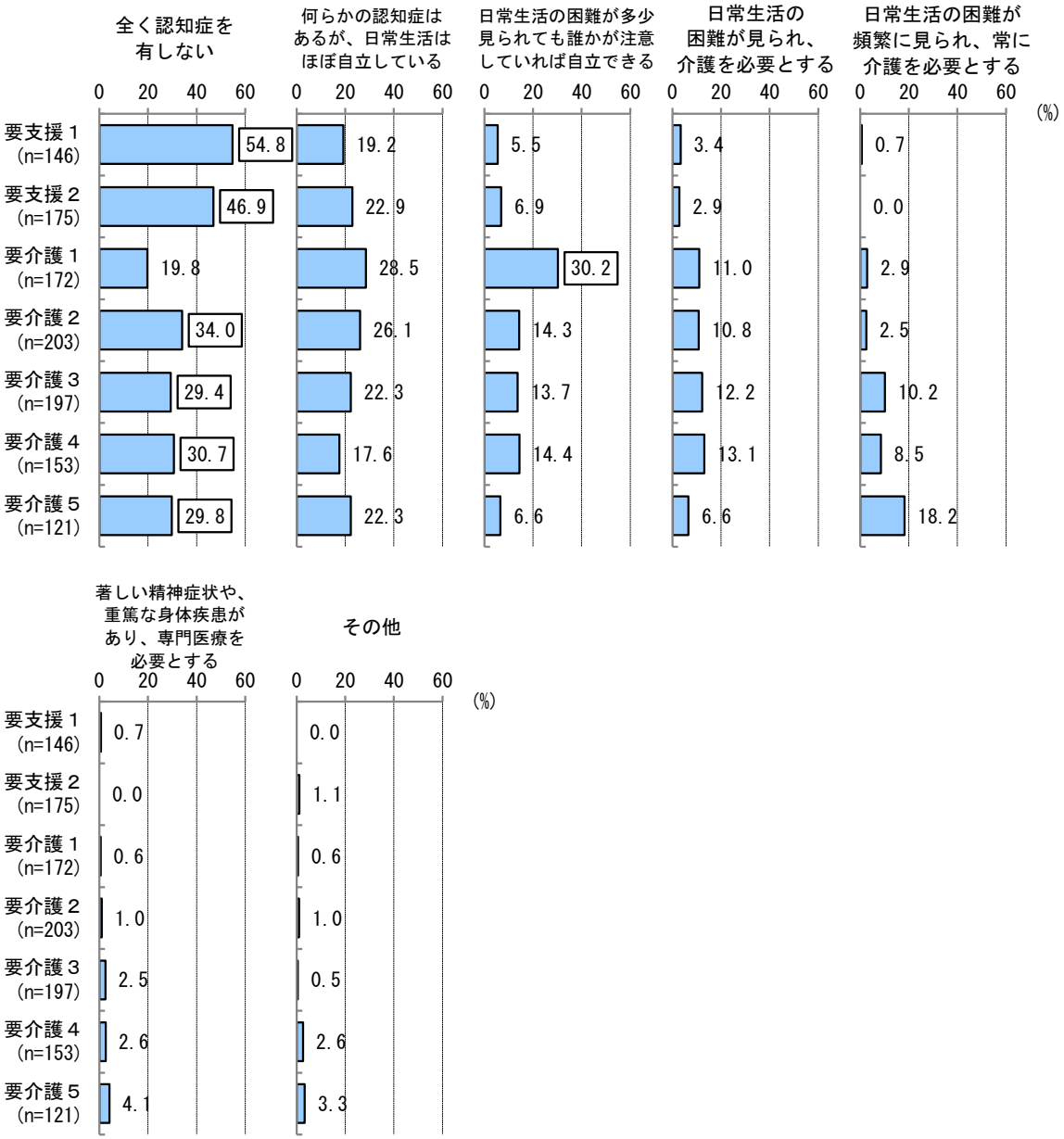
※「その他」は、前回調査では設けられていない。

サービス利用者本人の認知症の程度については、「全く認知症を有しない」が34.8%で最も多く、次いで「何らかの認知症はあるが、日常生活はほぼ自立している」が23.1%、「日常生活の困難が多少見られても誰かが注意していれば自立できる」が13.4%となっている。

前回調査と比較すると、上記３項目が多い傾向は変わらない。(A図21[24])

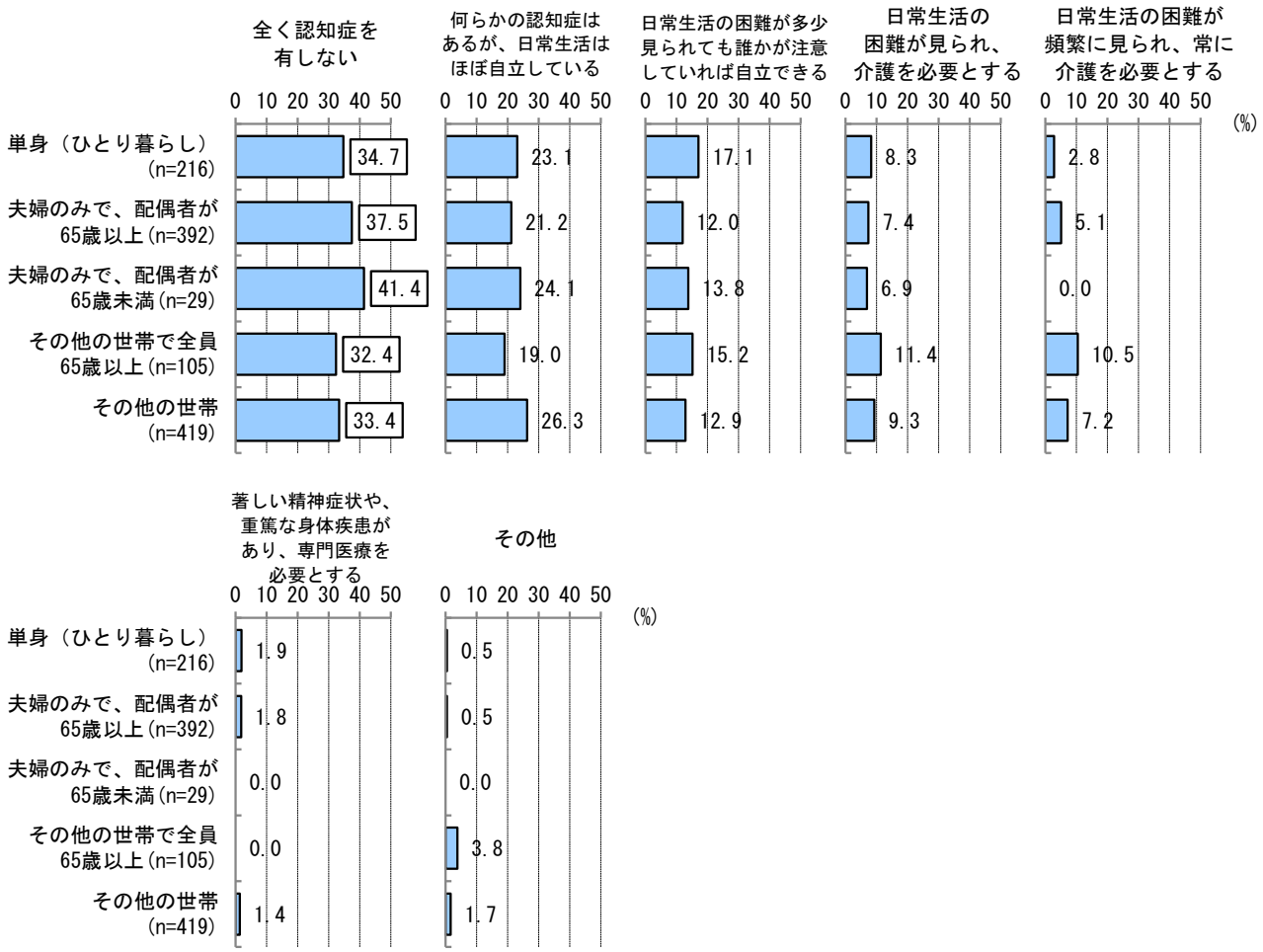
本人の要介護度別でみると、要支援１・２と要介護２～５は「全く認知症を有しない」が最も多くなっているが、要介護度が重度になるほど割合が低くなる傾向がみられる。なお、要介護１では「日常生活の困難が多少見られても誰かが注意していれば自立できる」が最も多くなっているが、介護や専門医療を必要とする割合は、要介護度が重度になるほど高くなる傾向がみられる。(A図21[24]-a)

【A図21[24]-a　本人の認知症の程度（本人の要介護度別）】



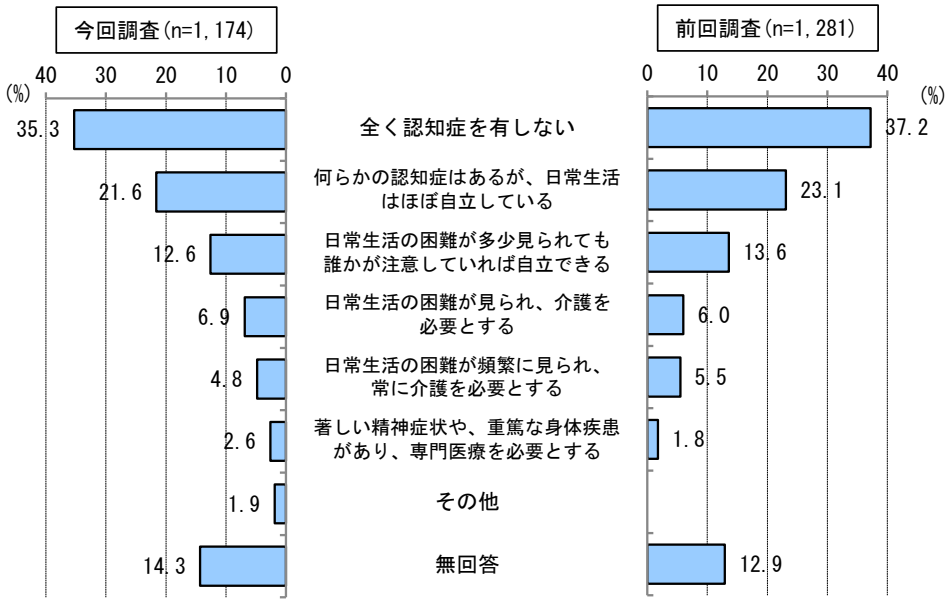
世帯状況別でみると、いずれの世帯も「全く認知症を有しない」が最も多くなっている。一方、「日常生活の困難が見られ、介護を必要とする」と「日常生活の困難が頻繁に見られ、常に介護を必要とする」の割合では、全員65歳以上のその他世帯が、各々１割台となっており、他の世帯に比べて高くなっている。(A図21[24]-b)

【A図21[24]-b　本人の認知症の程度（世帯状況別）】



＜Ｂ．サービス未利用者＞

【B図21[24]　本人の認知症の程度（経年比較）】



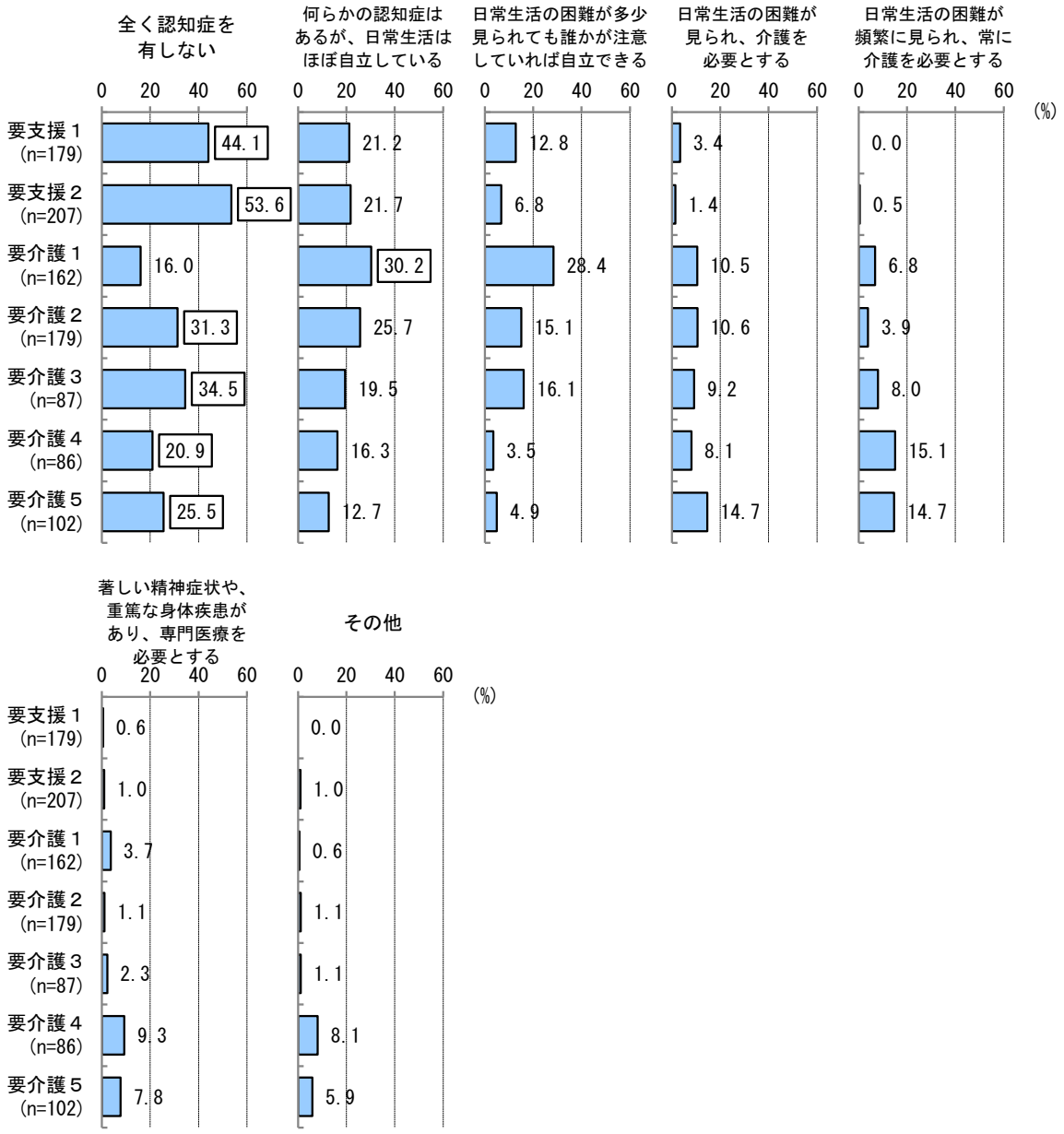
※「その他」は、前回調査では設けられていない。

サービス未利用者本人の認知症の程度については、「全く認知症を有しない」が35.3%で最も多く、次いで「何らかの認知症はあるが、日常生活はほぼ自立している」が21.6%、「日常生活の困難が多少見られても誰かが注意していれば自立できる」が12.6%となっている。

前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。(B図21[24])

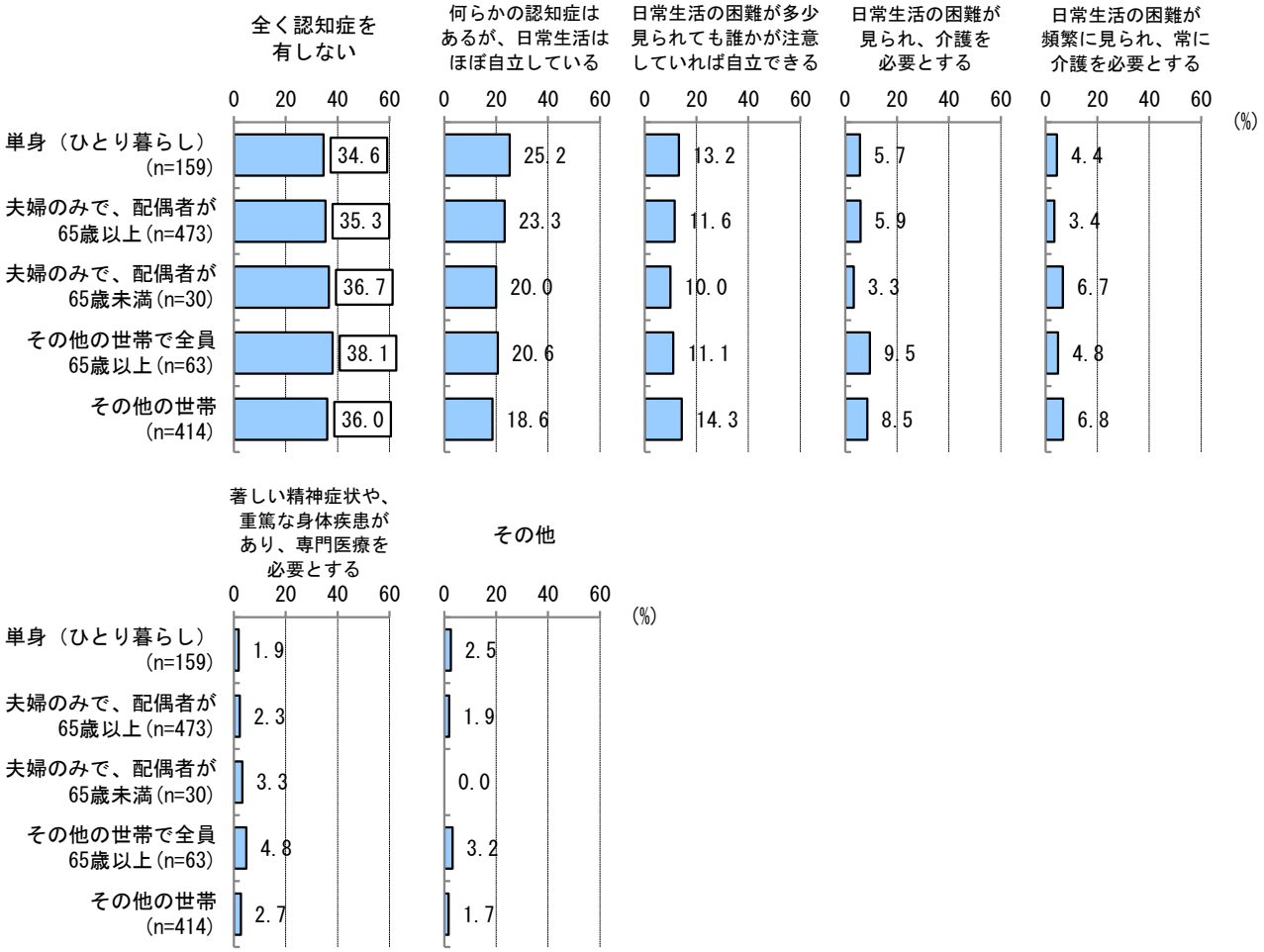
本人の要介護度別でみると、要支援１・２と要介護２～５は「全く認知症を有しない」が最も多くなっている。要介護１では「何らかの認知症はあるが、日常生活はほぼ自立している」が最も多くなっているが、介護や専門医療を必要とする割合は、要介護度４・５で高くなる傾向がみられる。(B図21[24]-a)

【B図21[24]-a　本人の認知症の程度（本人の要介護度別）】



世帯状況別でみると、いずれの世帯も「全く認知症を有しない」が最も多くなっている。(A図21[24]-b)

【B図21[24]-b　本人の認知症の程度（世帯状況別）】

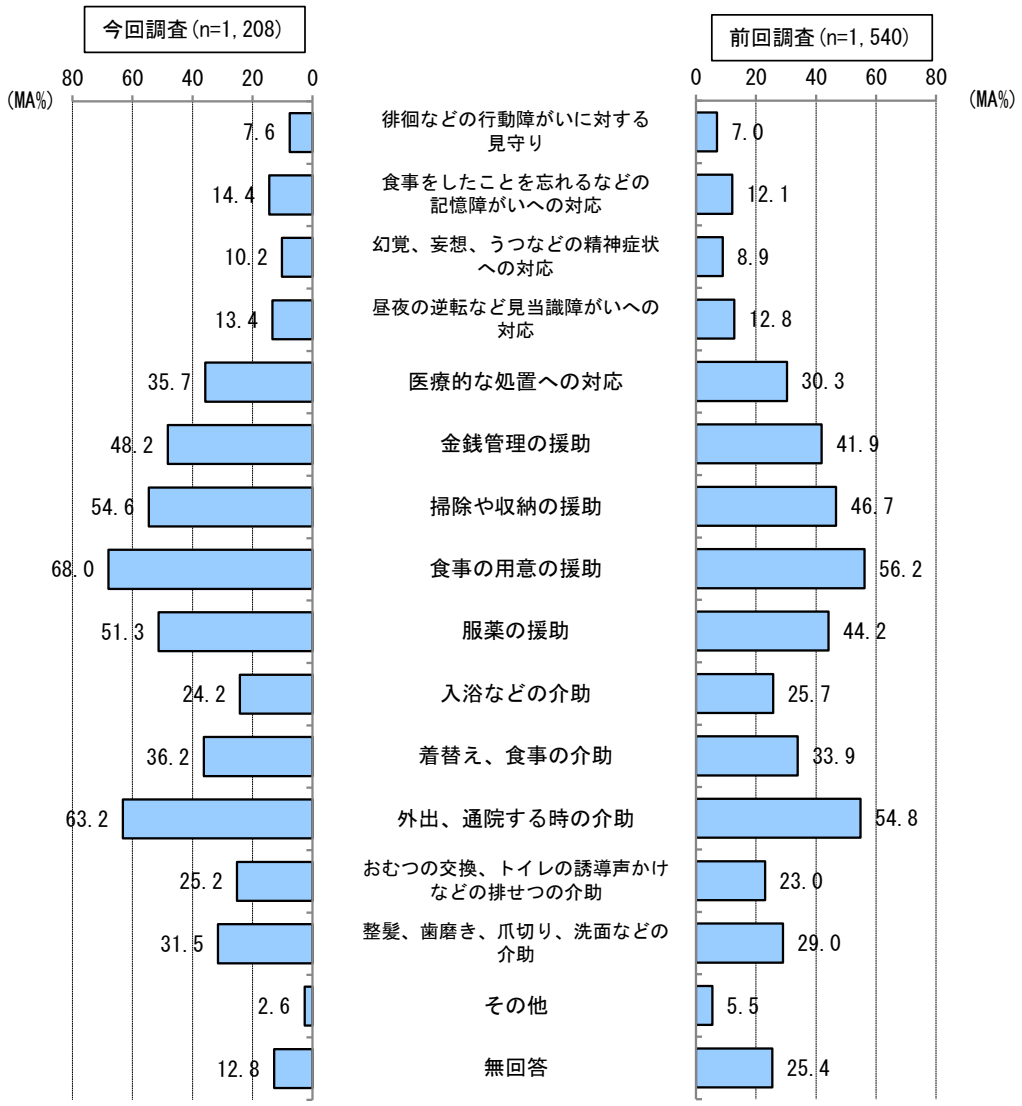


問22[25]　本人に行っている介護内容

主な介護者は、ご本人に対し、どのような介護を行っていますか。（○はいくつでも）

＜Ａ．サービス利用者＞

【A図22[25]　本人に行っている介護内容（経年比較）】

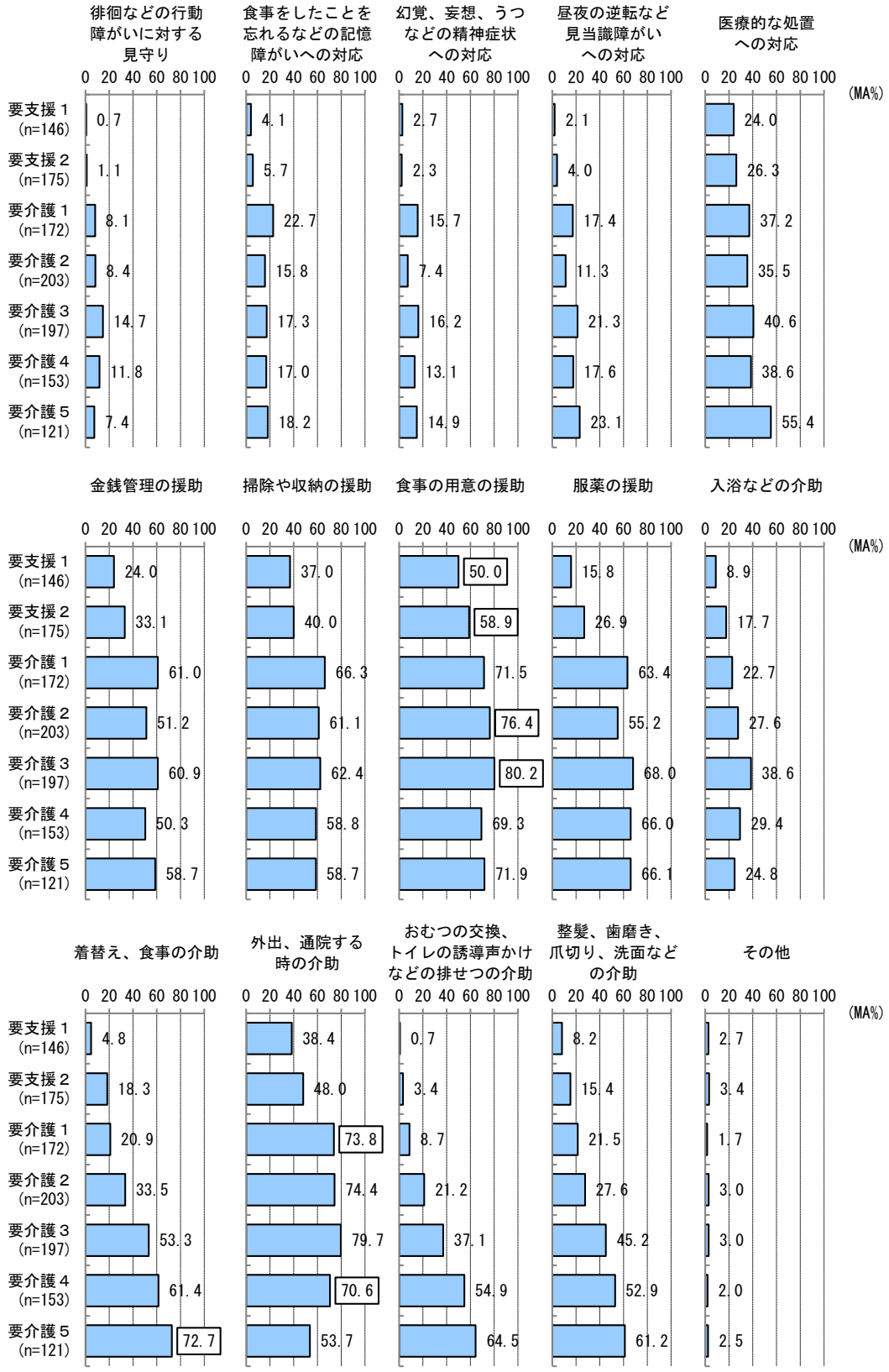


サービス利用者本人に行っている介護内容については、「食事の用意の援助」が68.0％で最も多く、次いで「外出、通院する時の介助」が63.2％、「掃除や収納の援助」が54.6％、「服薬の援助」が51.3％となっている。

前回調査と比較すると、「食事の用意の援助」の割合が11.8ポイント、「外出、通院する時の介助」の割合が8.4ポイントそれぞれ高くなっている。(A図22[25])

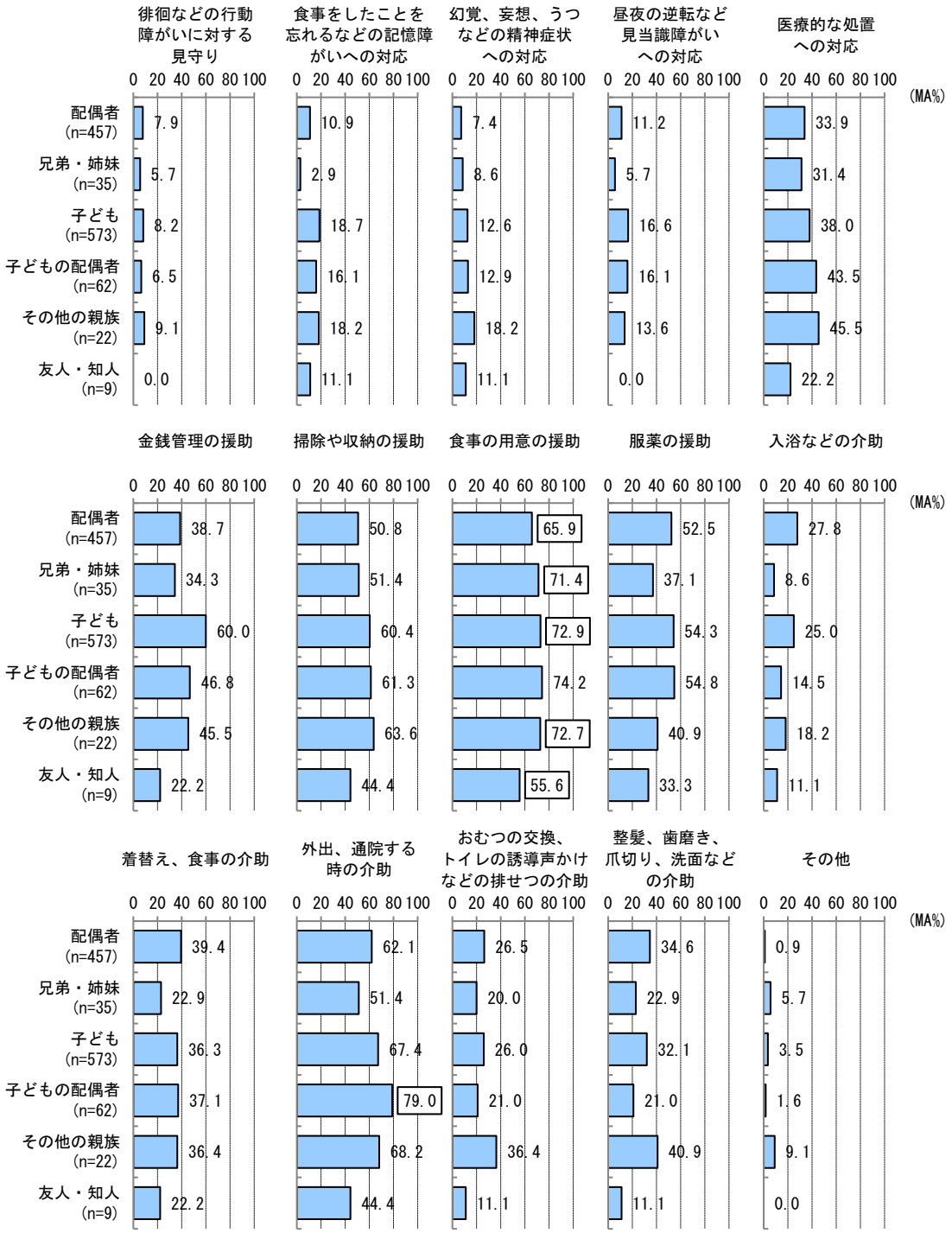
本人の要介護度別でみると、要支援１・２と要介護２・３は「食事の用意の援助」、要介護１・４は「外出、通院するときの介助」、要介護５は「着替え、食事の介助」が、それぞれ最も多くなっている。なお、重度になるほど「医療的な処置への対応」「着替え、食事の介助」「おむつの交換、トイレの誘導声かけなどの排せつの介助」「整髪、歯磨き、爪切り、洗面などの介助」の割合が高くなる傾向がみられる。(A図22[25]-a)

【A図22[25]-a　本人に行っている介護内容（本人の要介護度別）】



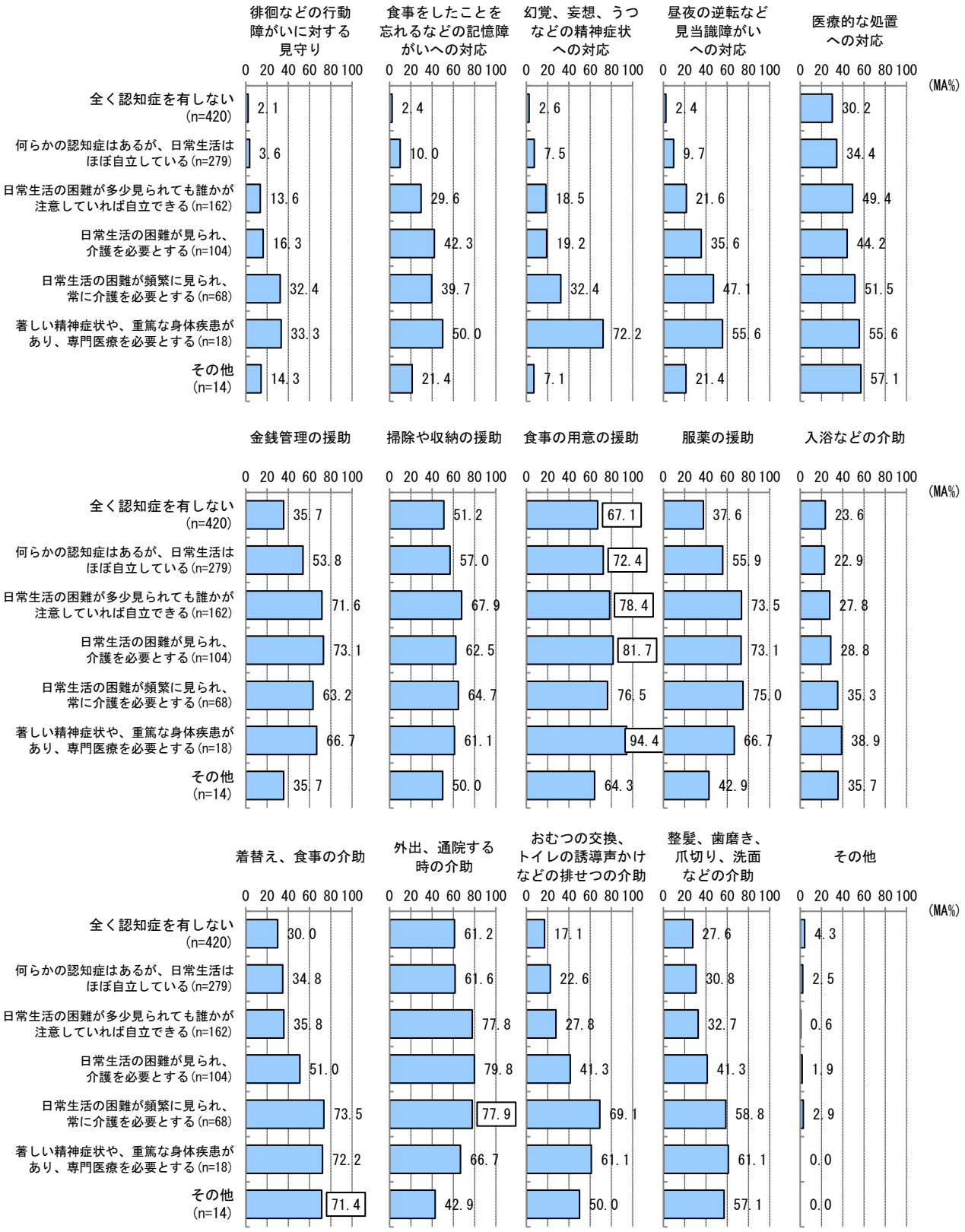
本人との関係別でみると、子の配偶者の介護者は「外出、通院する時の介助」が79.0%で最も多く、他の介護者に比べて高い割合になっている。一方、それ以外の介護者では「食事の用意の援助」が最も多くなっている。また、「金銭管理の援助」の割合は、子どもの介護者が60.0%で他の介護者に比べて高くなっている。(A図22[25]-b)

【A図22[25]-b　本人に行っている介護内容（本人との関係別）】



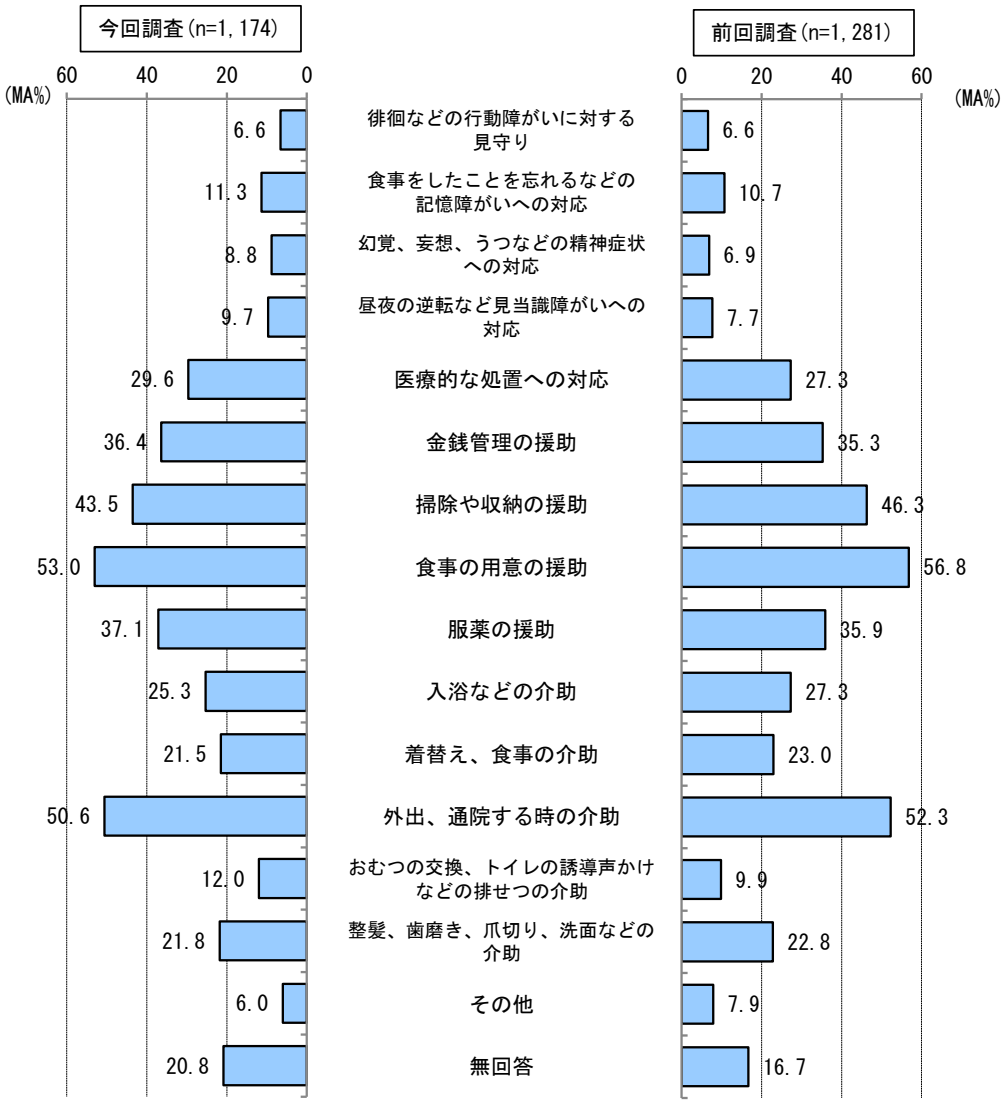
本人の認知症の程度別でみると、いずれの介護内容の割合も、認知症の重度化に伴って割合が高くなる傾向にある。なお、「金銭管理の援助」と「服薬の援助」の割合では、認知症を有しない人が３割台に対し、認知症の症状が少しでも見られると５割以上と高くなっている。（A図22[25]-c）

【A図22[25]-c　本人に行っている介護内容（本人の認知症の程度別）】



＜Ｂ．サービス未利用者＞

【B図22[25]　本人に行っている介護内容（経年比較）】

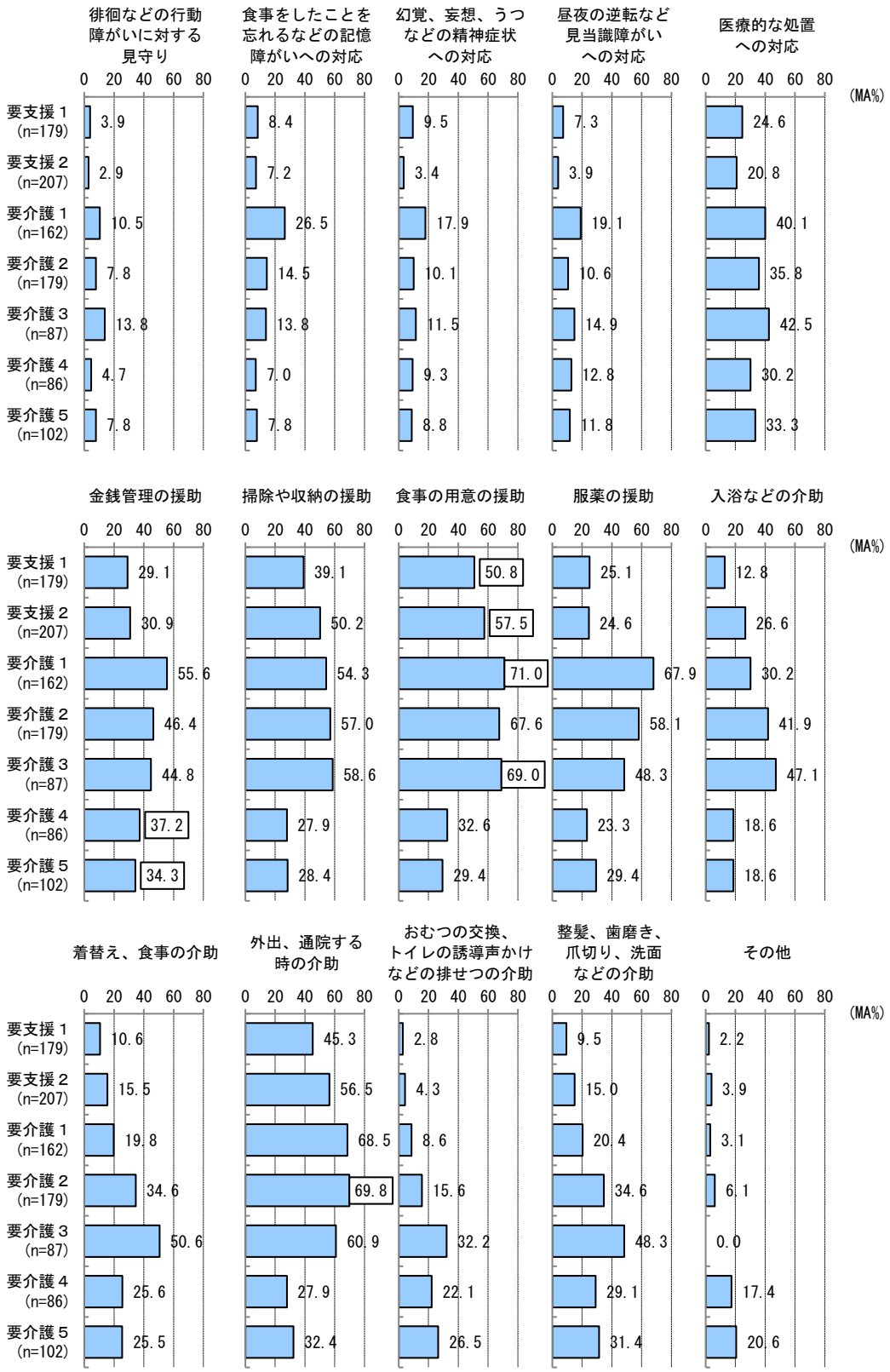


サービス未利用者本人に行っている介護内容については、「食事の用意の援助」が53.0％で最も多く、次いで「外出、通院する時の介助」が50.6％、「掃除や収納の援助」が43.5％、「服薬の援助」が37.1％となっている。

前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。(B図22[25])

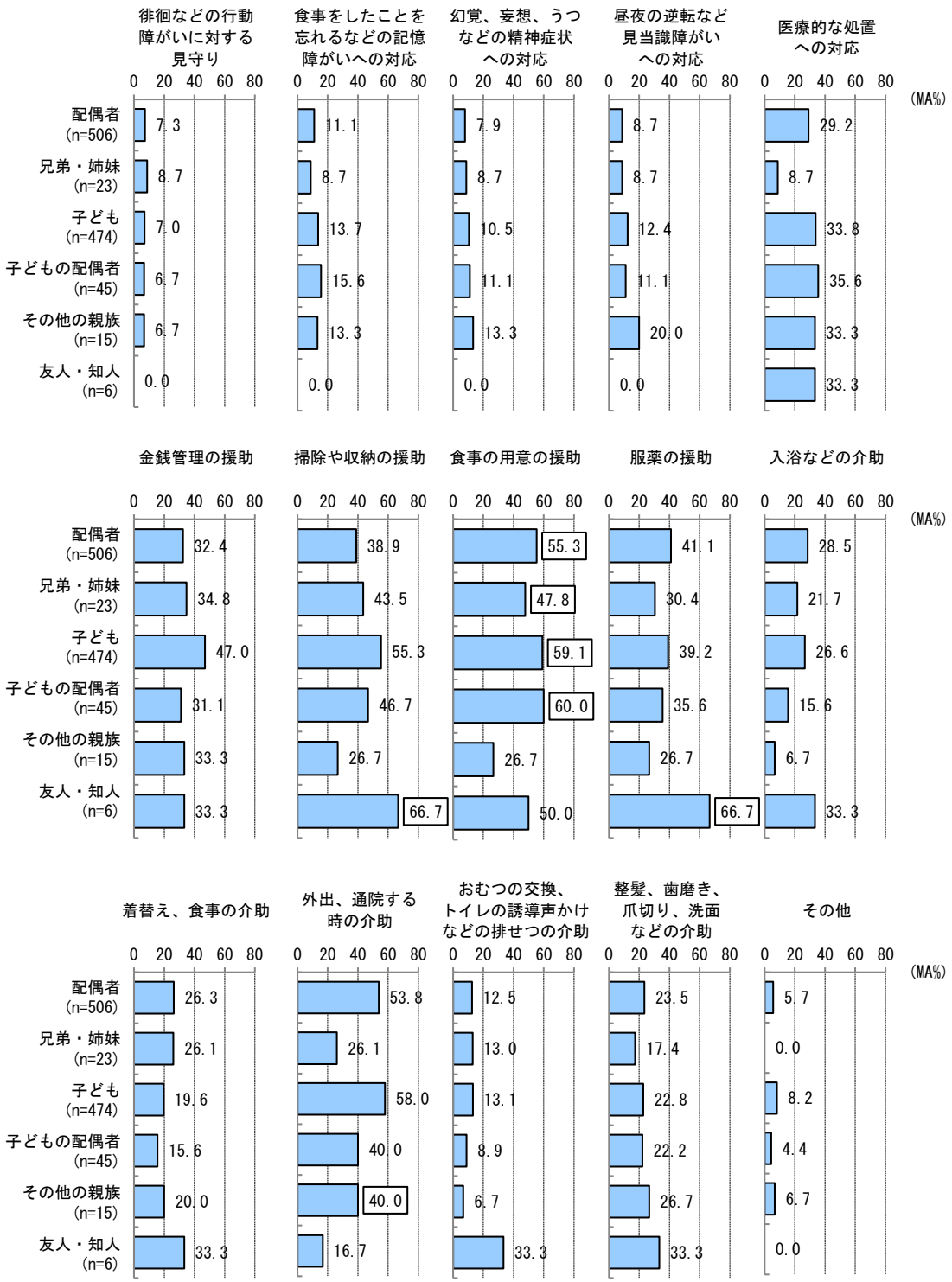
本人の要介護度別でみると、、要支援１・２と要介護１・３は「食事の用意の援助」、要介護２は「外出、通院するときの介助」、要介護４・５は「金銭管理の援助」が、それぞれ最も多くなっている。なお、いずれの介護内容の割合も、要介護１～３で高くなっている傾向がみられる。(B図22[25]-a)

【B図22[25]-a　本人に行っている介護内容（本人の要介護度別）】



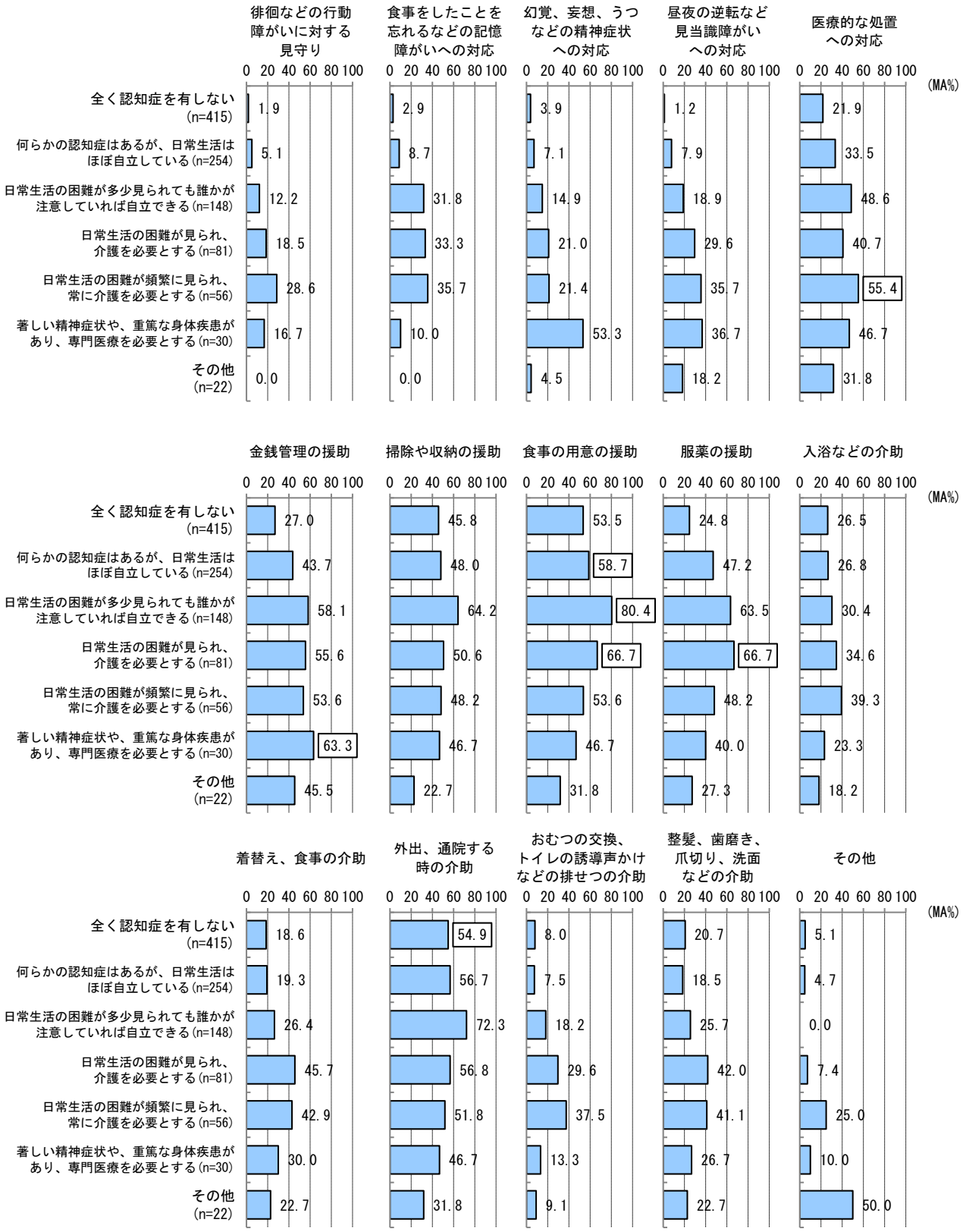
本人との関係別でみると、配偶者や子ども、子の配偶者の介護者は「食事の用意の援助」が最も多くなっている。また、「金銭管理の援助」の割合は、子どもの介護者が47.0%で他の介護者に比べて高くなっている。「外出、通院する時の介助」の割合では、配偶者と子どもの介護者が５割台と高くなっている。(B図22[25]-b)

【B図22[25]-b　本人に行っている介護内容（本人との関係別）】



本人の認知症の程度別でみると、認知症の重度化に伴って割合が高くなる内容は、「幻覚、妄想、うちなどの精神症状への対応」「昼夜の逆転など見当識障がいへの対応」「医療的な処置への対応」「金銭管理の援助」となっている。一方、介護や専門医療を必要とする人には、「食事の用意の援助」や「服薬の援助」、「外出、通院する時の介助」の割合が低くなる傾向がみられる。(B図22[25]-c)

【B図22[25]-c　本人に行っている介護内容（本人の認知症の程度別）】

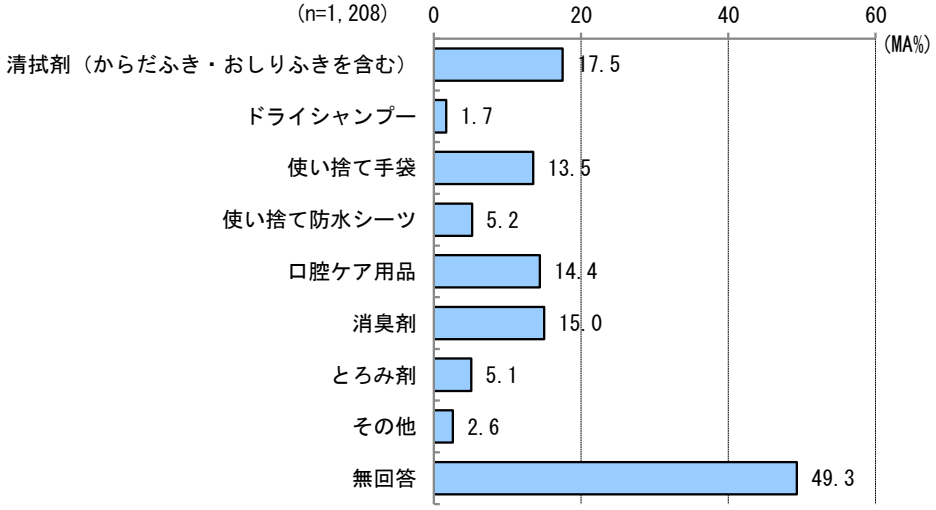


問23[26]　自宅での介護で毎月もっとも必要とするもの

主な介護者が、自宅での介護を行う上で紙おむつや尿とりパッドのほかに、次のうち、毎月もっとも必要とするものに○をつけてください。（○はひとつ）

＜Ａ．サービス利用者＞

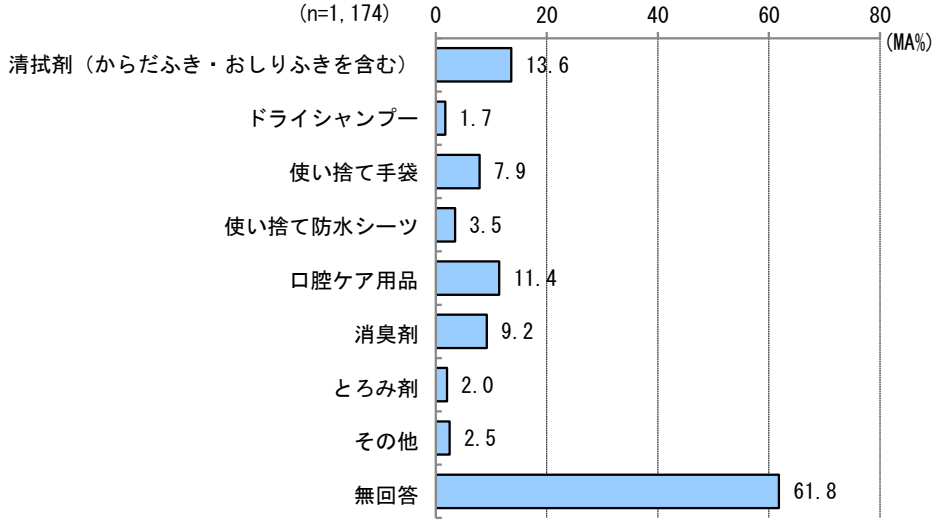
【A図23[26]　自宅での介護で毎月もっとも必要とするもの】



サービス利用者の自宅での介護で毎月もっとも必要とするものについては、「清拭剤（からだふき・おしりふきを含む）」が17.5％で最も多く、次いで「消臭剤」が15.0％、「口腔ケア用品」が14.4％となっている。（A図23[26]）

＜Ｂ．サービス未利用者＞

【B図23[26]　自宅での介護で毎月もっとも必要とするもの】



サービス未利用者の自宅での介護で毎月もっとも必要とするものについては、「清拭剤（からだふき・おしりふきを含む）」が13.6％で最も多く、次いで「口腔ケア用品」が11.4％、「消臭剤」が9.2％、となっている。（B図23[26]）

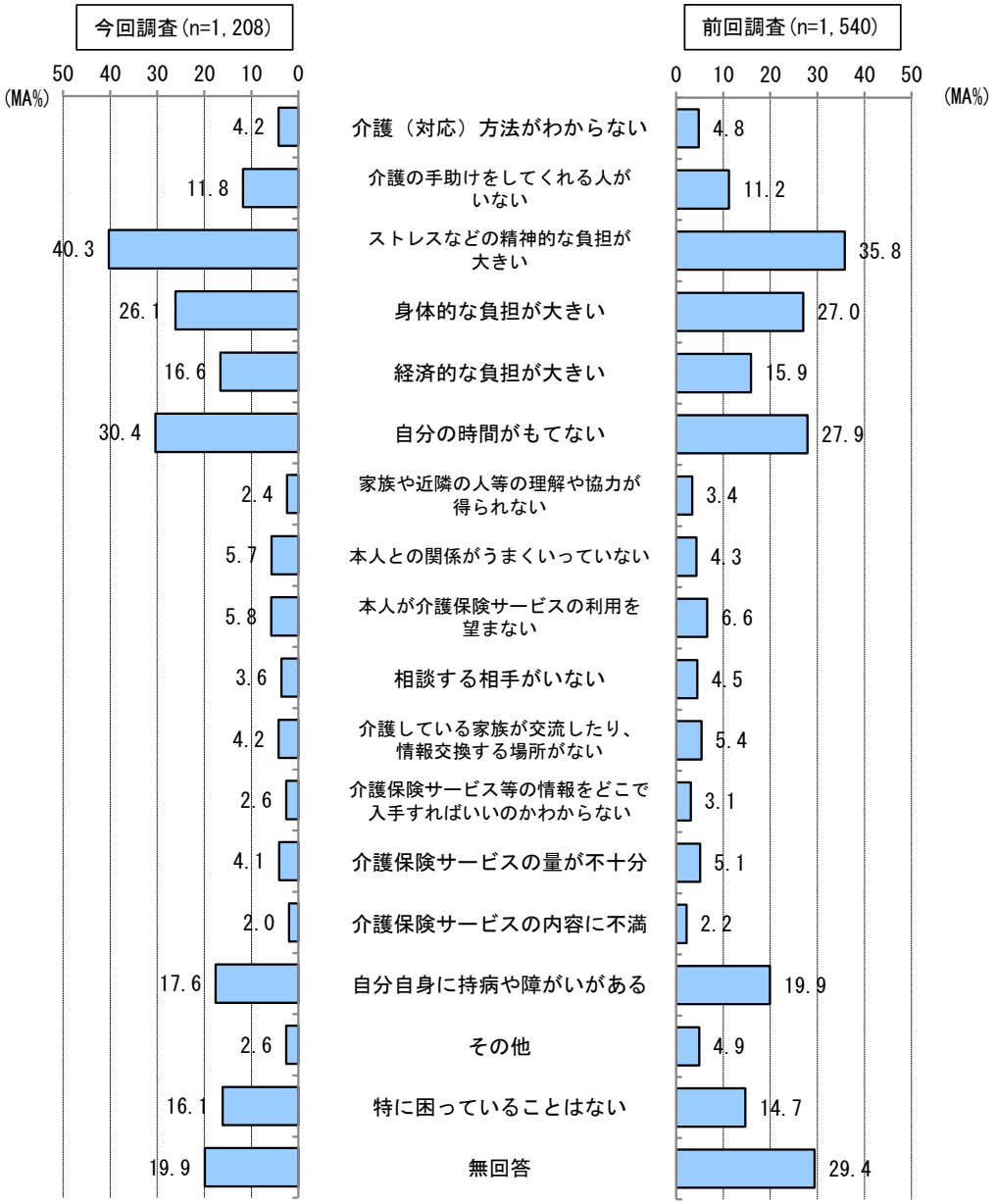
（３）介護上の問題

問24[27]　自宅での介護で困っていること

主な介護者が、自宅での介護を行ううえで困っていることはどのようなことですか。 （○はいくつでも）

＜Ａ．サービス利用者＞

【A図24[27]　自宅での介護で困っていること（経年比較）】

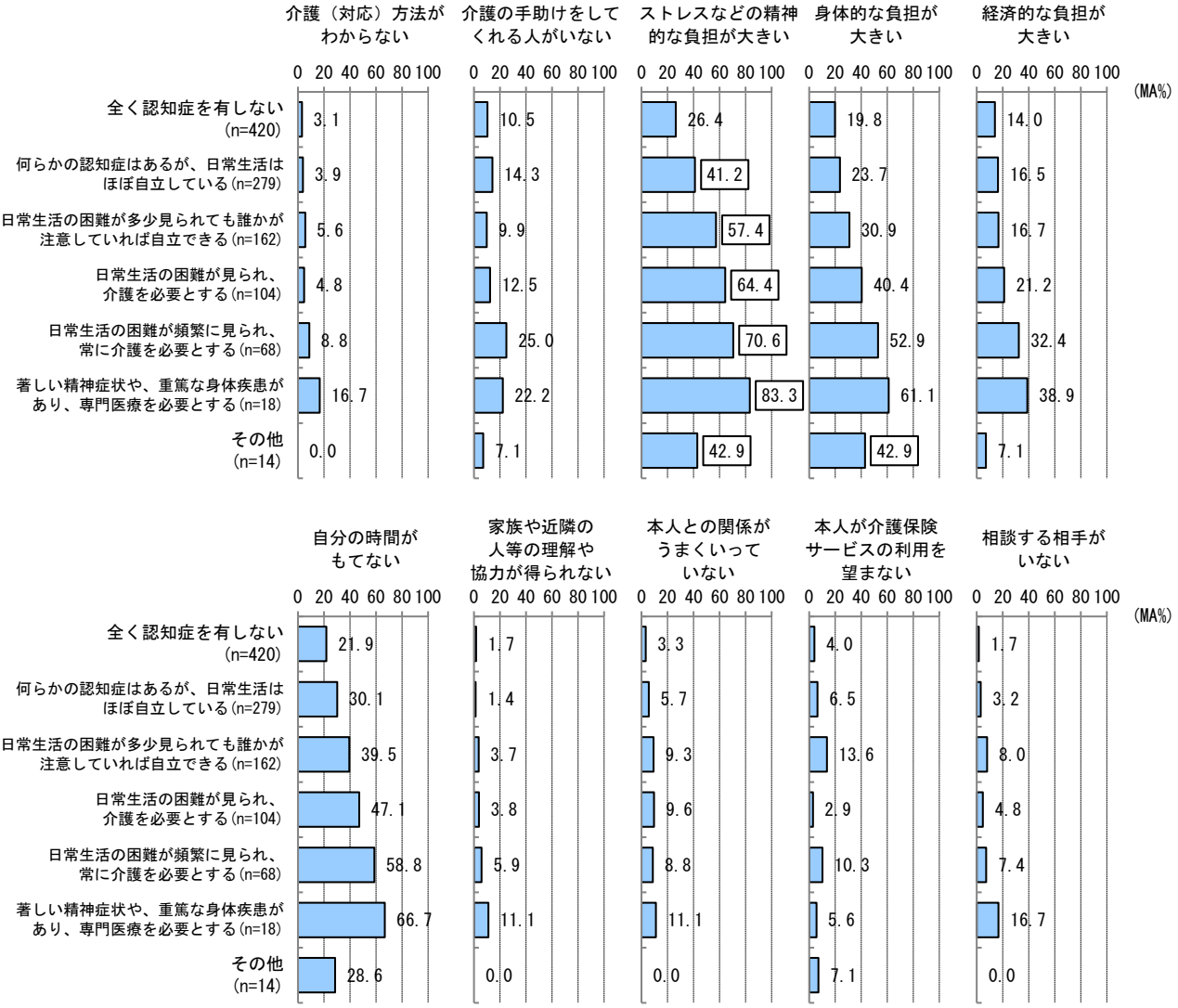


自宅でのサービス利用者の介護で困っていることについては､「ストレスなどの精神的な負担が大きい」が40.3％で最も多く、次いで「自分の時間がもてない」が30.4％、「身体的な負担が大きい」が26.1％となっている。また「特に困っていることはない」は16.1％となっている。

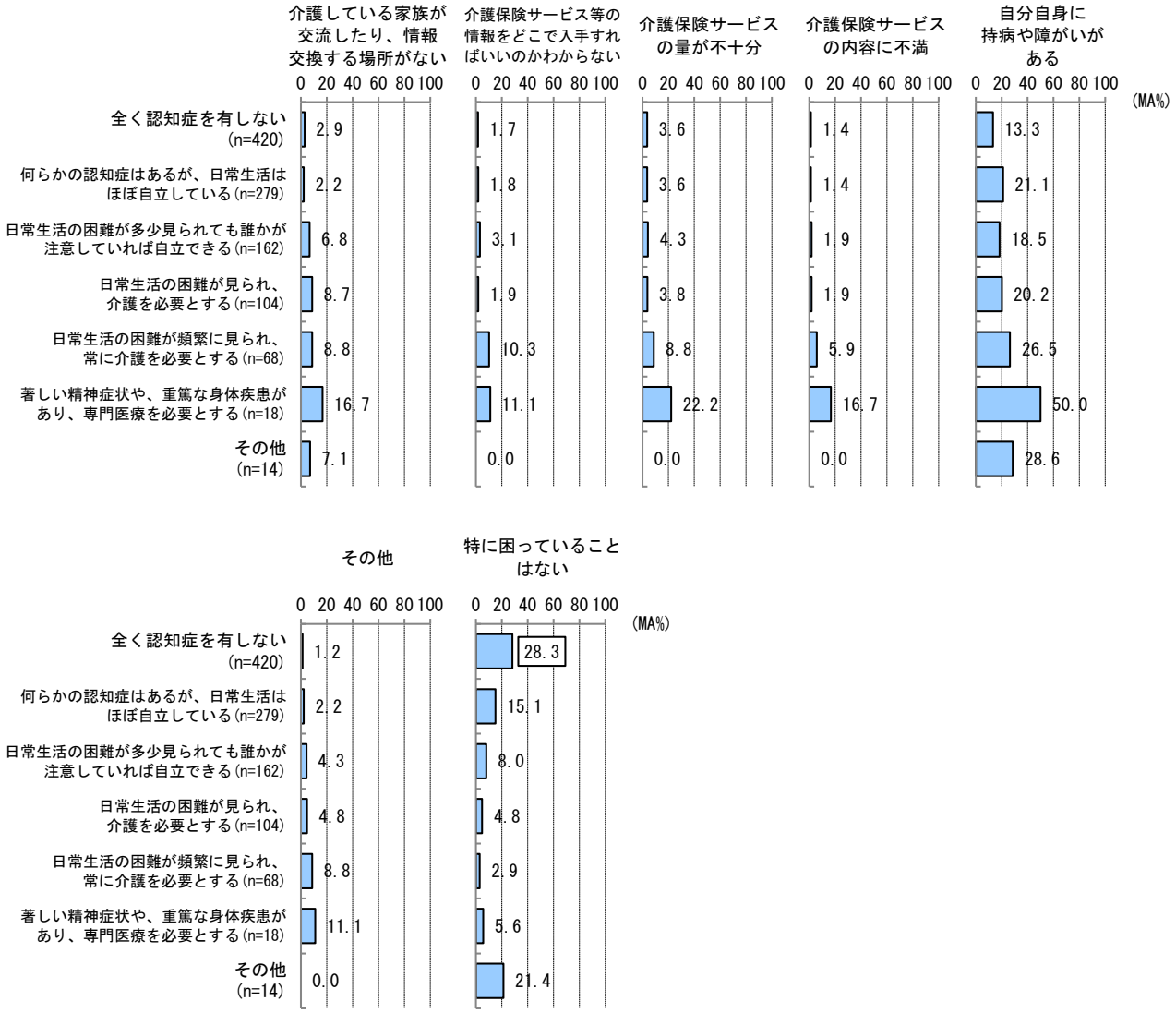
前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。(A図24[27])

本人の認知症の程度別でみると、認知症を有しない人は「特に困っていることはない」が28.3%で最も多くなっている。一方、認知症の症状が少しでも見られる人は「ストレスなどの精神的な負担が大きい」が最も多く、これ以外にも「身体的な負担が大きい」や「経済的な負担が大きい」「自分の時間がもてない」の割合は、認知症の重度化に伴って割合が高くなる傾向がみられる。しかし、「介護（対応）方法がわからない」「介護保険サービス等の情報をどこで入手すればいいのかわからない」といった情報弱者の割合や、「介護の手助けをしてくれる人がいない」「家族や近隣の人等の理解や協力が得られない」「相談する相手がいない」「介護している家族が交流したり、情報交換する場所がない」といった支援者がいない割合は、比較的に低いことがうかがえる。(A図24[27]-a)

【A図24[27]-a　自宅での介護で困っていること（本人の認知症の程度別）①】

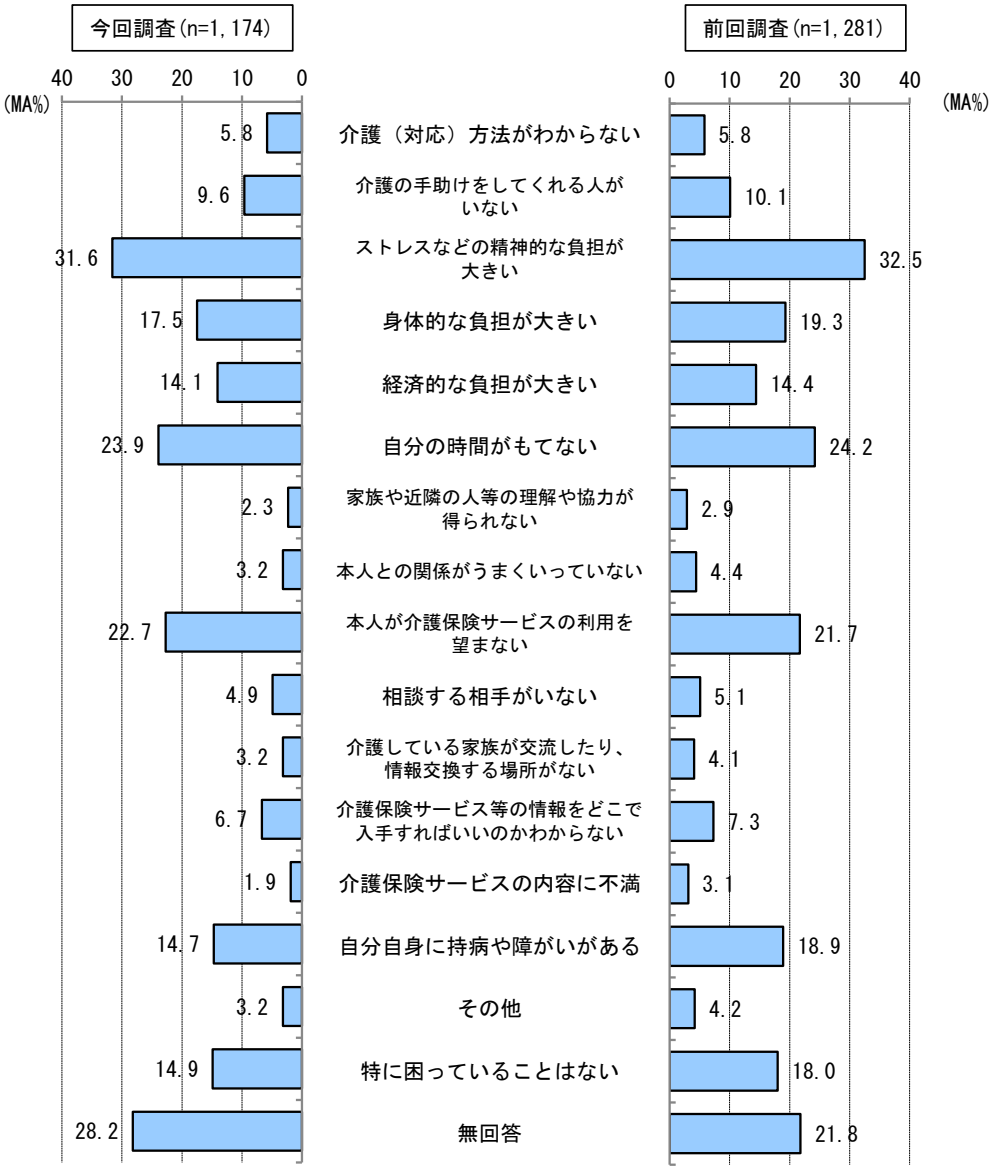


【A図24[27]-a　自宅での介護で困っていること（本人の認知症の程度別）②】



＜Ｂ．サービス未利用者＞

【B図24[27]　自宅での介護で困っていること（経年比較）】

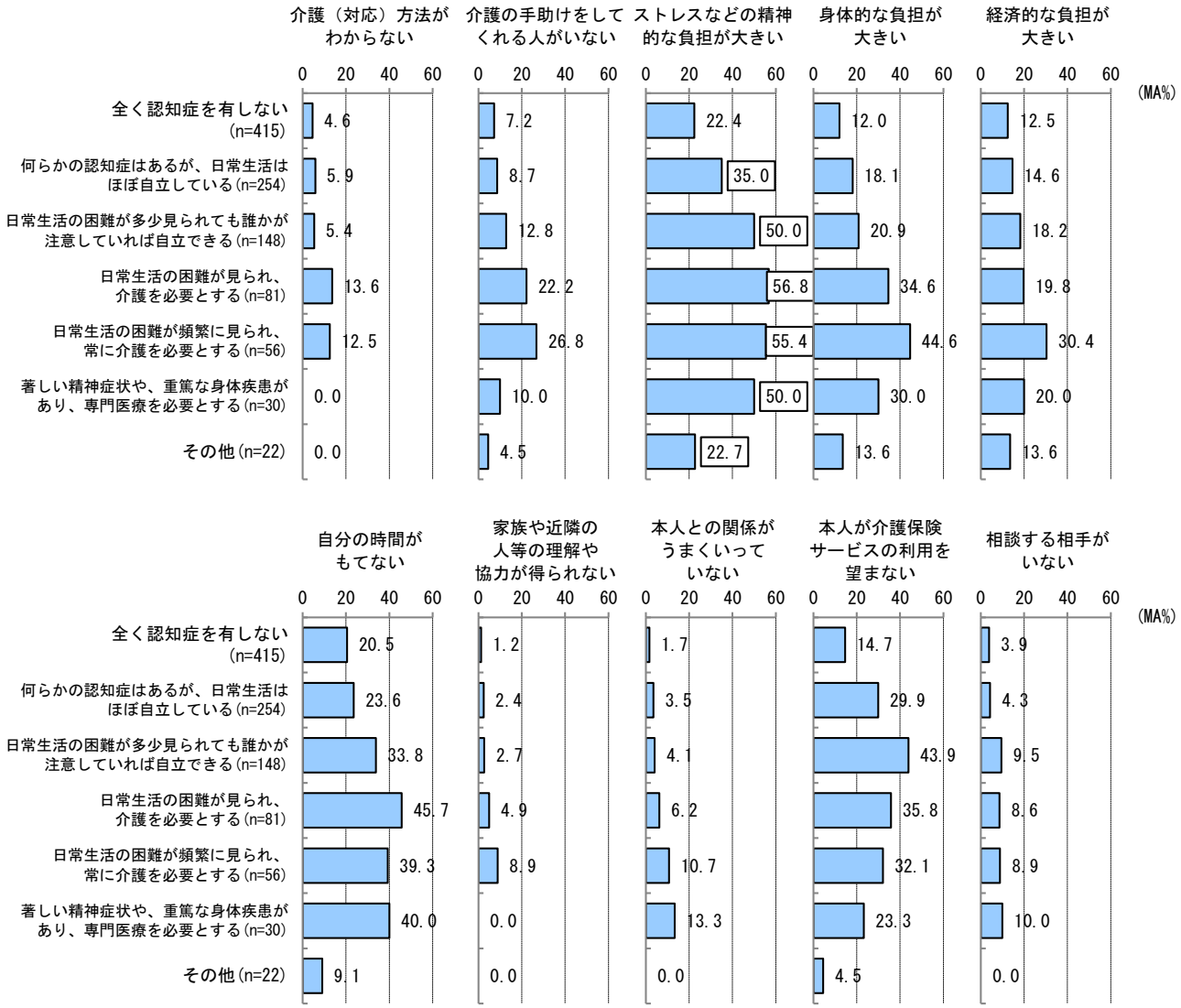


自宅でのサービス未利用者の介護で困っていることについては､｢ストレスなどの精神的な負担が大きい」が31.6%で最も多く、次いで「自分の時間がもてない」が23.9%､「本人が介護保険サービスの利用を望まない」が22.7%となっている。また「特に困っていることはない」は14.9%となっている。

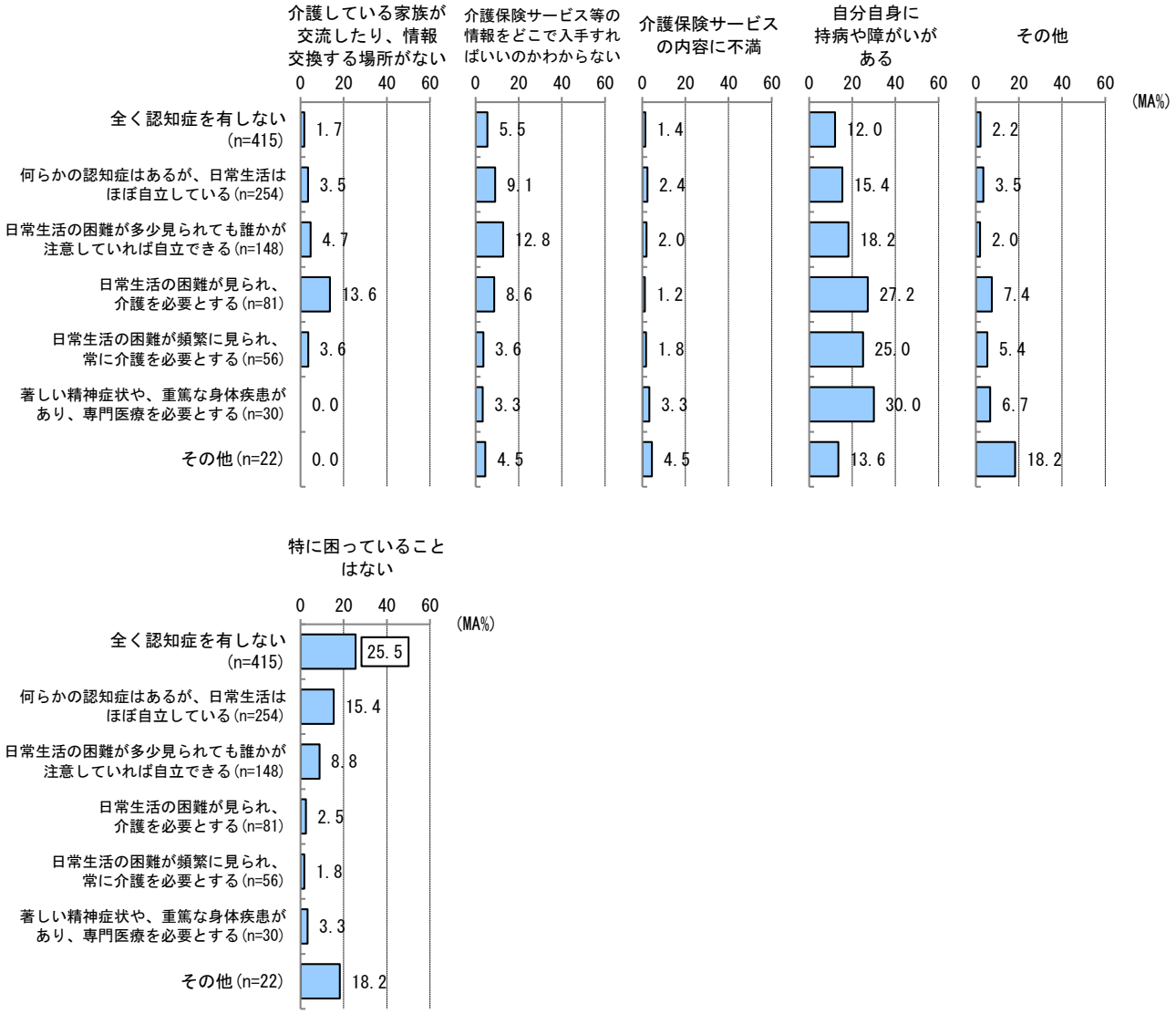
前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。(B図24[27])

本人の認知症の程度別でみると、認知症を有しない人は「特に困っていることはない」が25.5%で最も多くなっている。一方、認知症の症状が少しでも見られる人は「ストレスなどの精神的な負担が大きい」が最も多く、これ以外にも「身体的な負担が大きい」や「経済的な負担が大きい」「自分の時間がもてない」の割合は、認知症の重度化に伴って割合が高くなる傾向がみられる。また、介護を必要とする人では「介護（対応）方法がわからない」や「介護の手助けをしてくれる人がいない」「介護している家族が交流したり、情報交換する場所がない」の割合が比較的に高い傾向がみられる。(B図24[27]-a)

【B図24[27]-a　自宅での介護で困っていること（本人の認知症の程度別）①】



【B図24[27]-a　自宅での介護で困っていること（本人の認知症の程度別）②】

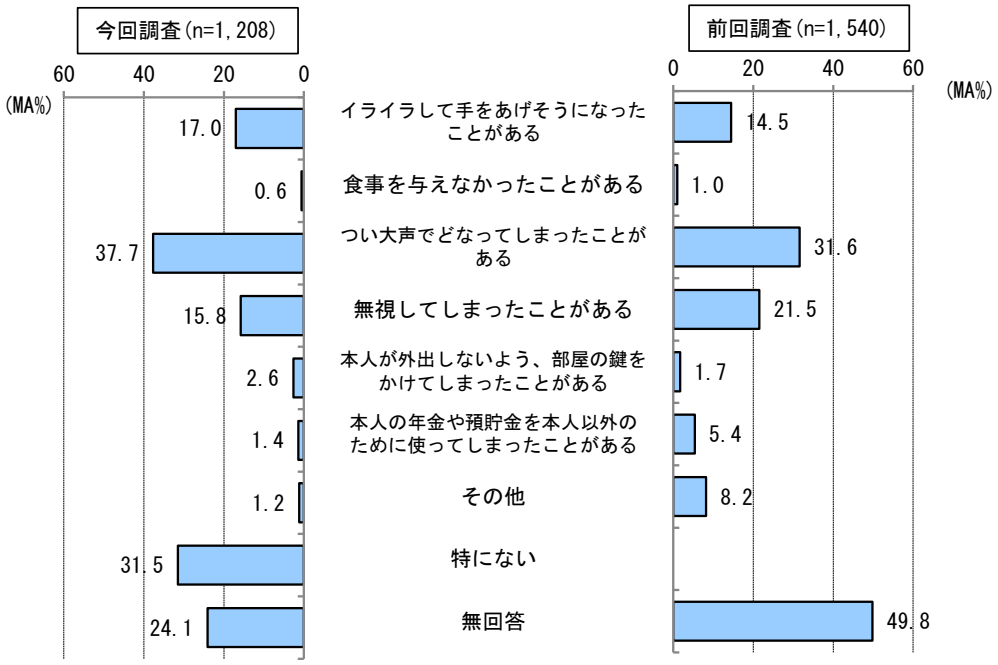


問25[28]　自宅での介護で本人に対して行ってしまったこと

主な介護者が、自宅での介護を行ううえで、次のような状態になったことがありますか。 （○はいくつでも）

＜Ａ．サービス利用者＞

【A図25[28]　自宅での介護で本人に対して行ってしまったこと（経年比較）】



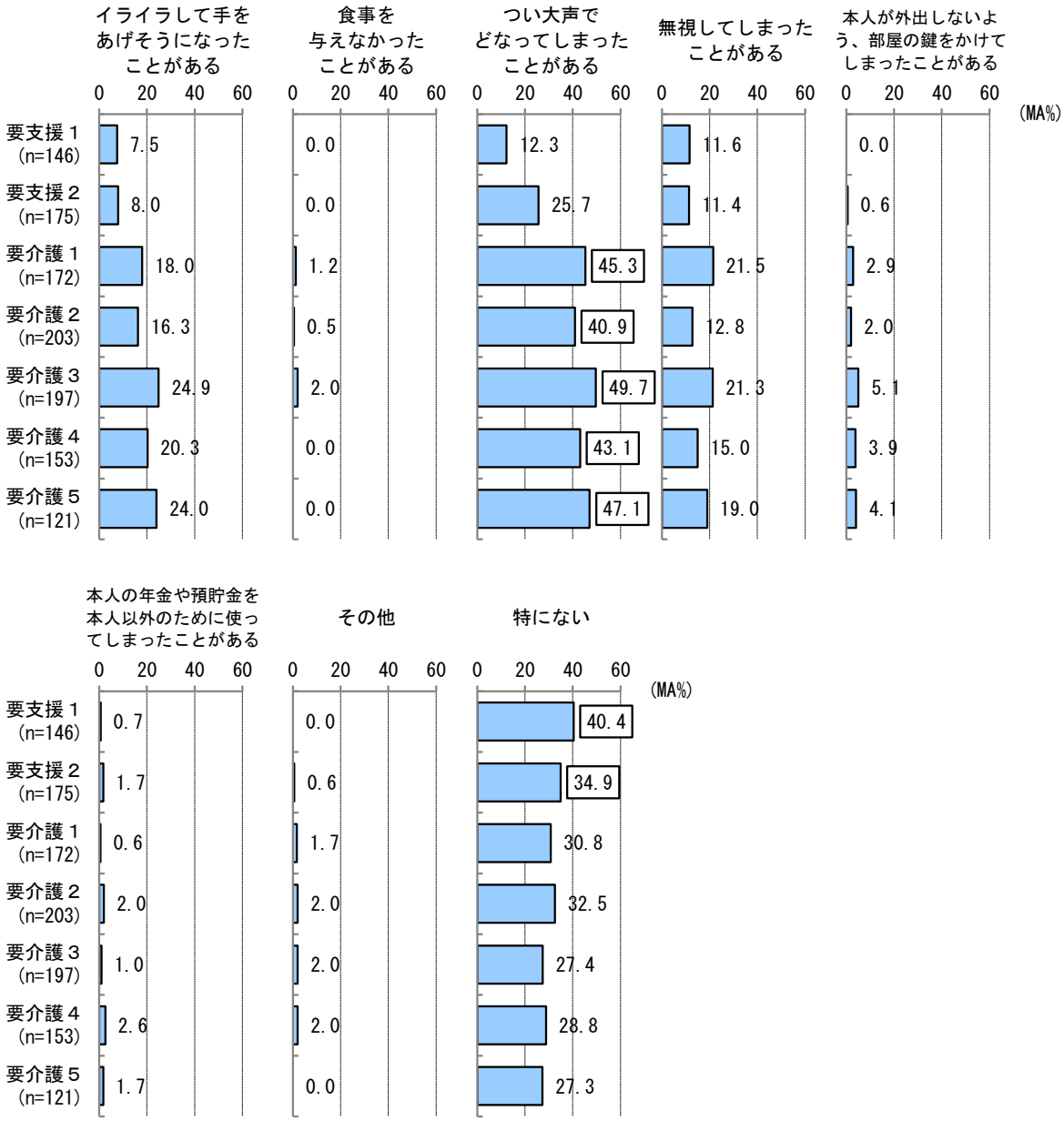
※「特にない」は、前回調査では設けていない。

自宅での介護でサービス利用者本人に対して行ってしまったことについては､「つい大声でどなってしまったことがある」が37.7%で最も多く、次いで「イライラして手をあげそうになったことがある」が17.0%､「無視してしまったことがある」が15.8%となっている。また「特にない」は31.5%となっている。

前回調査と比較すると、「つい大声でどなってしまったことがある」の割合が6.1ポイント高くなっている。(A図25[28])

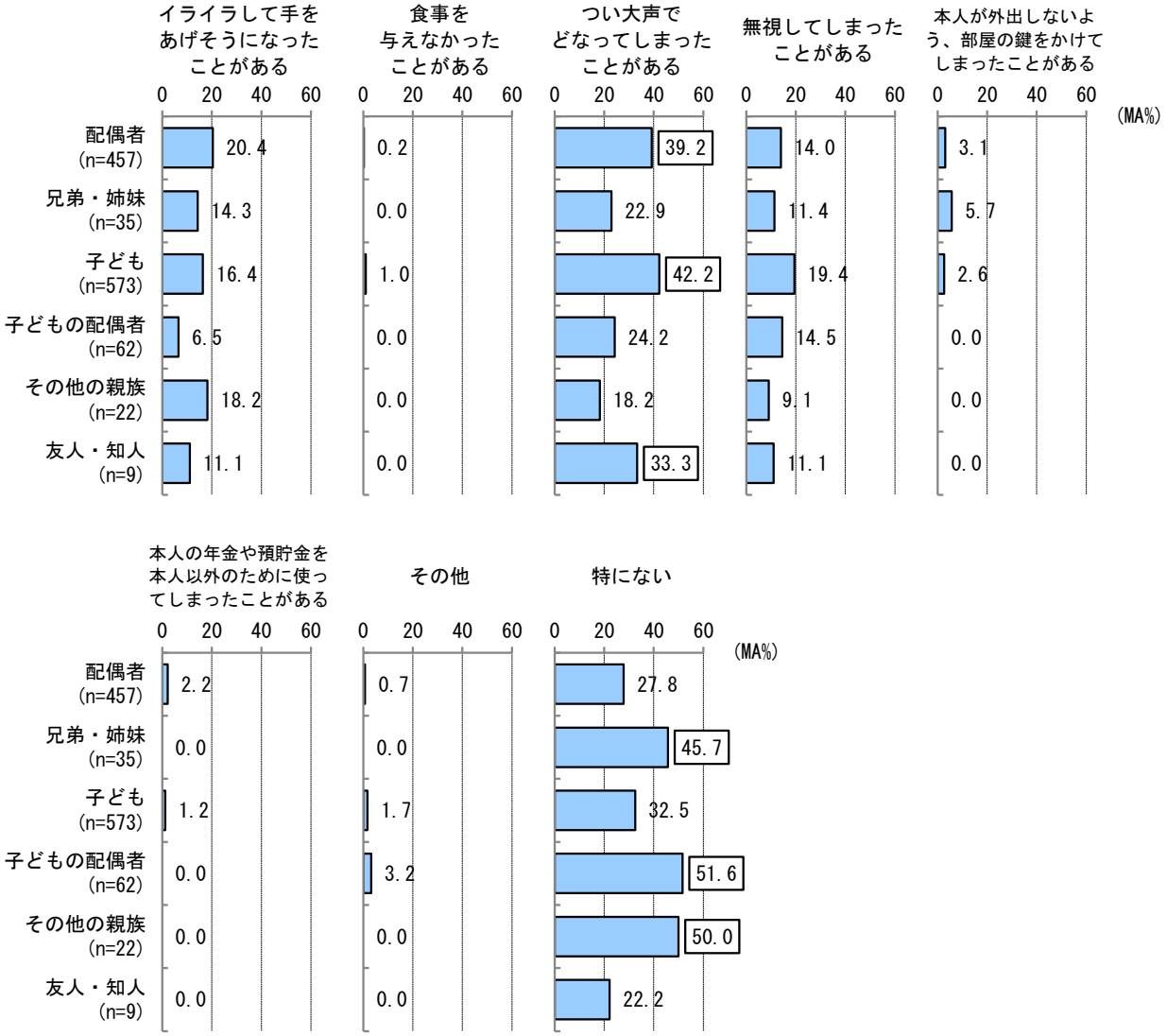
本人の要介護度別でみると、要支援１・２は「特にない」が最も多いが、重度になるほど割合が低くなる傾向がみられる。要介護１～５では「つい大声でどなってしまったことがある」が４割台で最も多く、要支援１・２に比べて10ポイント以上高い割合になっている。(A図25[28]-a)

【A図25[28]-a　自宅での介護で本人に対して行ってしまったこと（本人の要介護度別）】



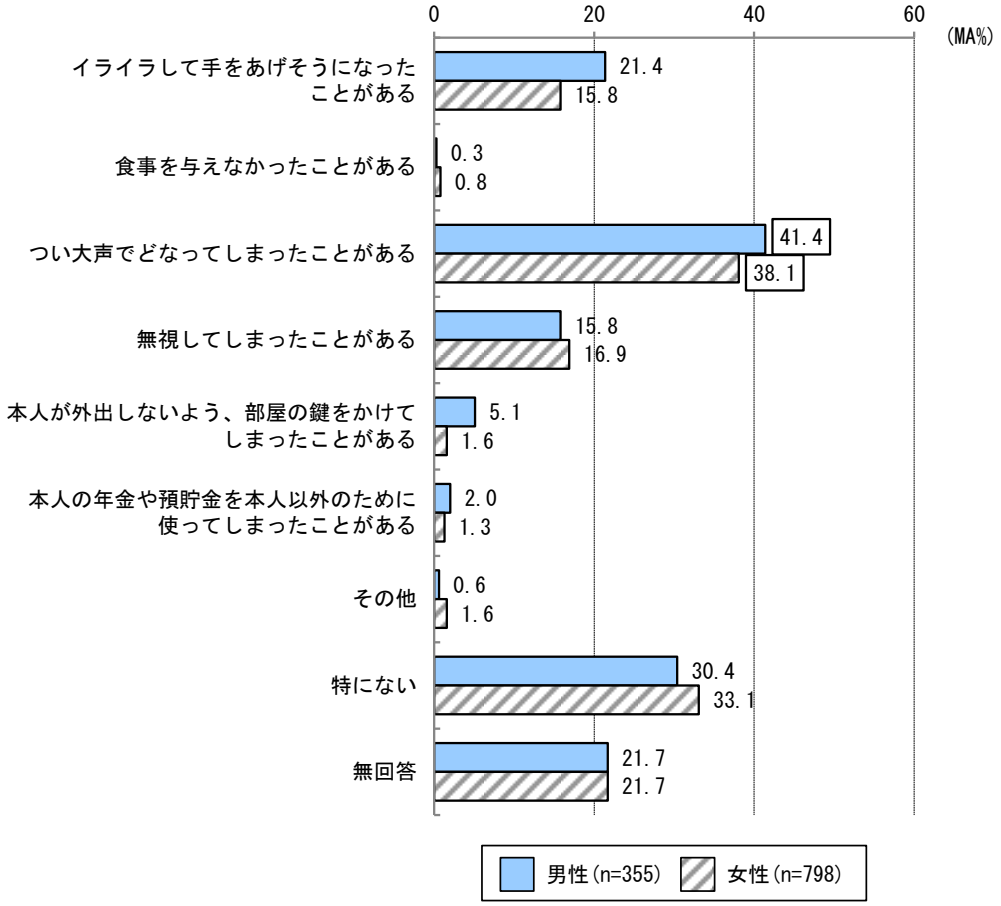
本人との関係別でみると、配偶者と子どもの介護者は「つい大声でどなってしまったことがある」が４割前後で最も多く、「特にない」は３割前後となっている。兄弟・姉妹や子の配偶者、その他の親族では「特にない」が５割前後と比較的に高くなっている。(A図25[28]-b)

【A図25[28]-b　自宅での介護で本人に対して行ってしまったこと（本人との関係別）】



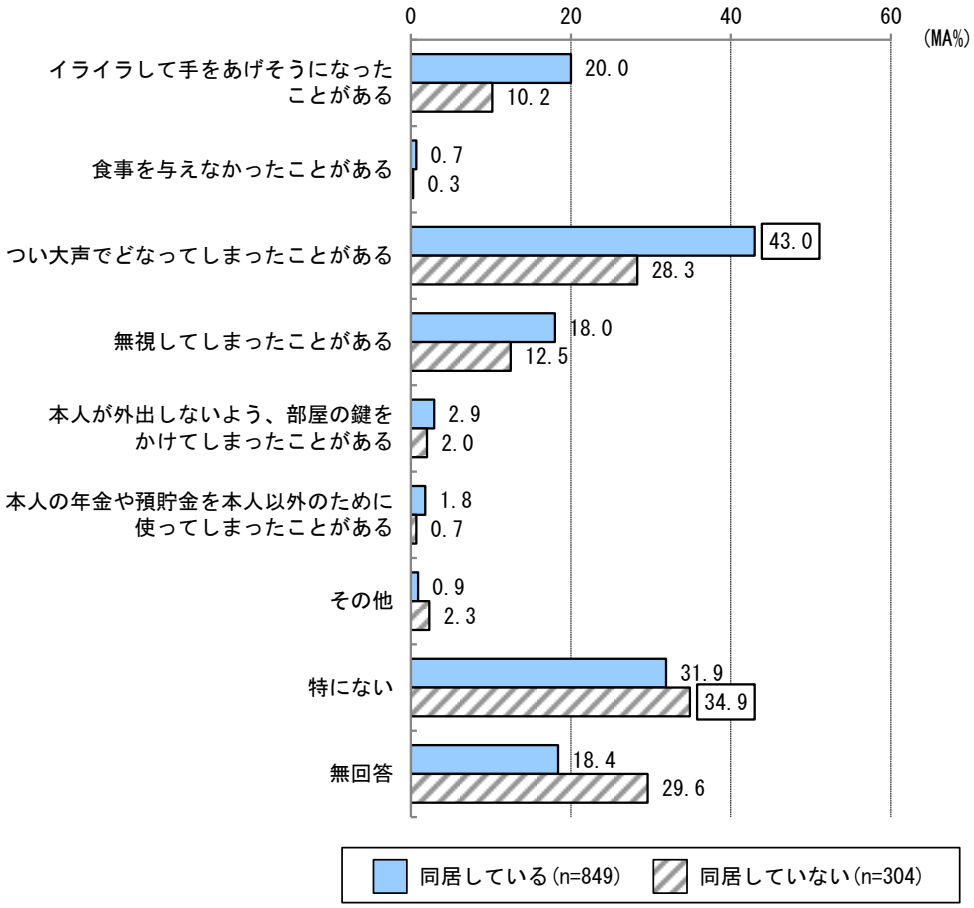
介護者の性別でみると、男女とも「つい大声でどなってしまったことがある」が４割前後で最も多く、次いで「特にない」が３割台となっている。また、「イライラして手をあげそうになったことがある」の割合では、男性が21.4％で、女性（15.8％）に比べて5.6ポイント高くなっている。(A図25[28]-c)

【A図25[28]-c　自宅での介護で本人に対して行ってしまったこと（介護者の性別）】



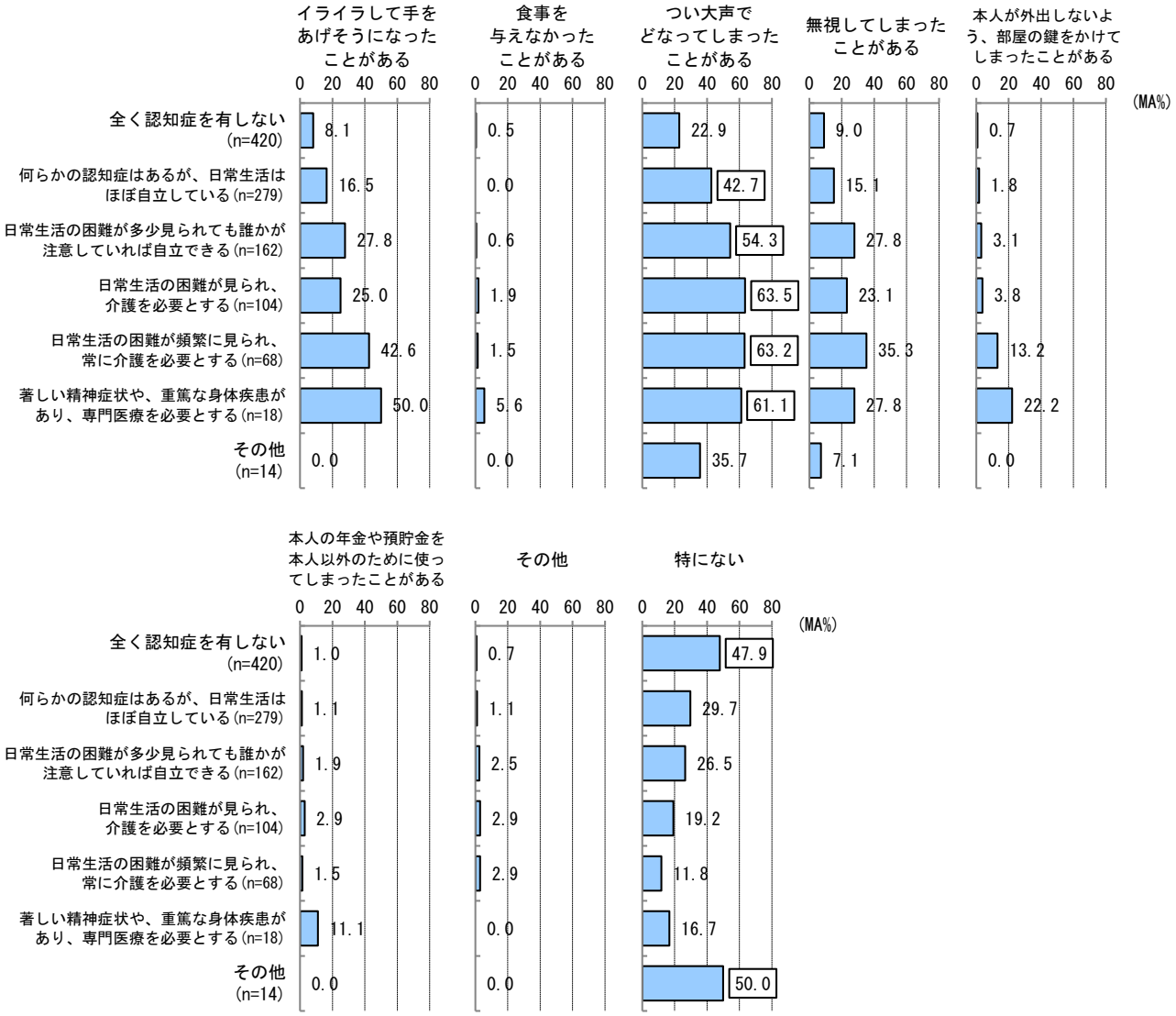
同居有無別でみると、同居している介護者は「つい大声でどなってしまったことがある」が43.0％で最も多く、次いで「特にない」が31.9％となっているが、虐待的行為の割合は、同居していない介護者に比べて高い割合になっている。なお、同居していない介護者では「特にない」が34.9％で最も多くなっている。(A図25[28]-d)

【A図25[28]-d　自宅での介護で本人に対して行ってしまったこと（同居有無性別）】



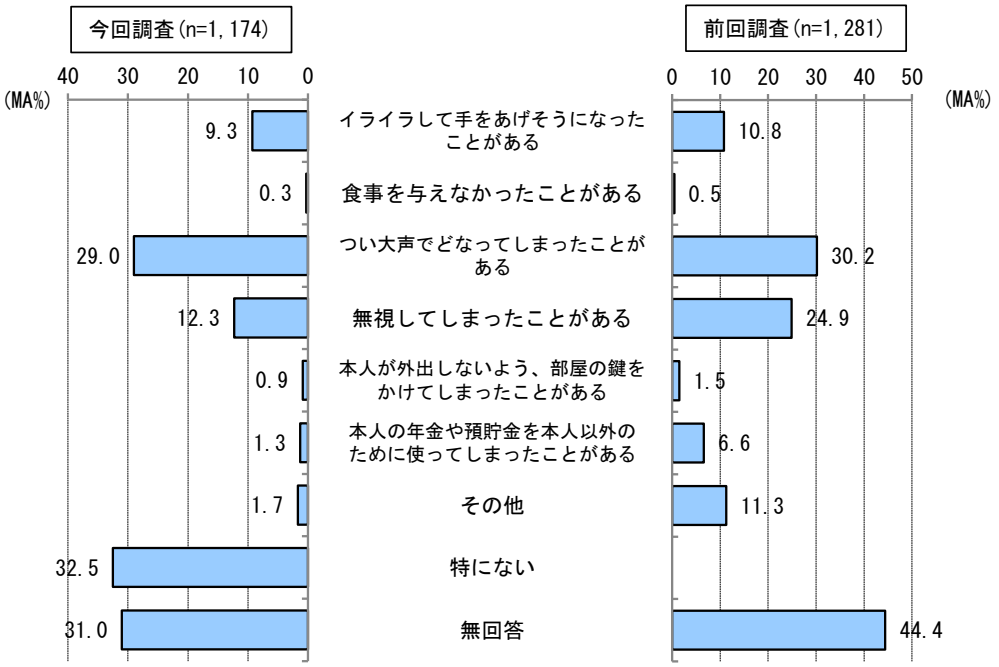
本人の認知症の程度別でみると、認知症を有しない人には「特にない」が47.9%で最も多くなっている。一方、認知症の症状が少しでも見られる人に対しては「つい大声でどなってしまったことがある」が最も多くなっており、認知症の重度化に伴って虐待的行為の割合は高くなる傾向がみられる。(A図25[28]-e)

【A図25[28]-e　自宅での介護で本人に対して行ってしまったこと（本人の認知症の程度別）】



＜Ｂ．サービス未利用者＞

【B図25[28]　自宅での介護で本人に対して行ってしまったこと（経年比較）】



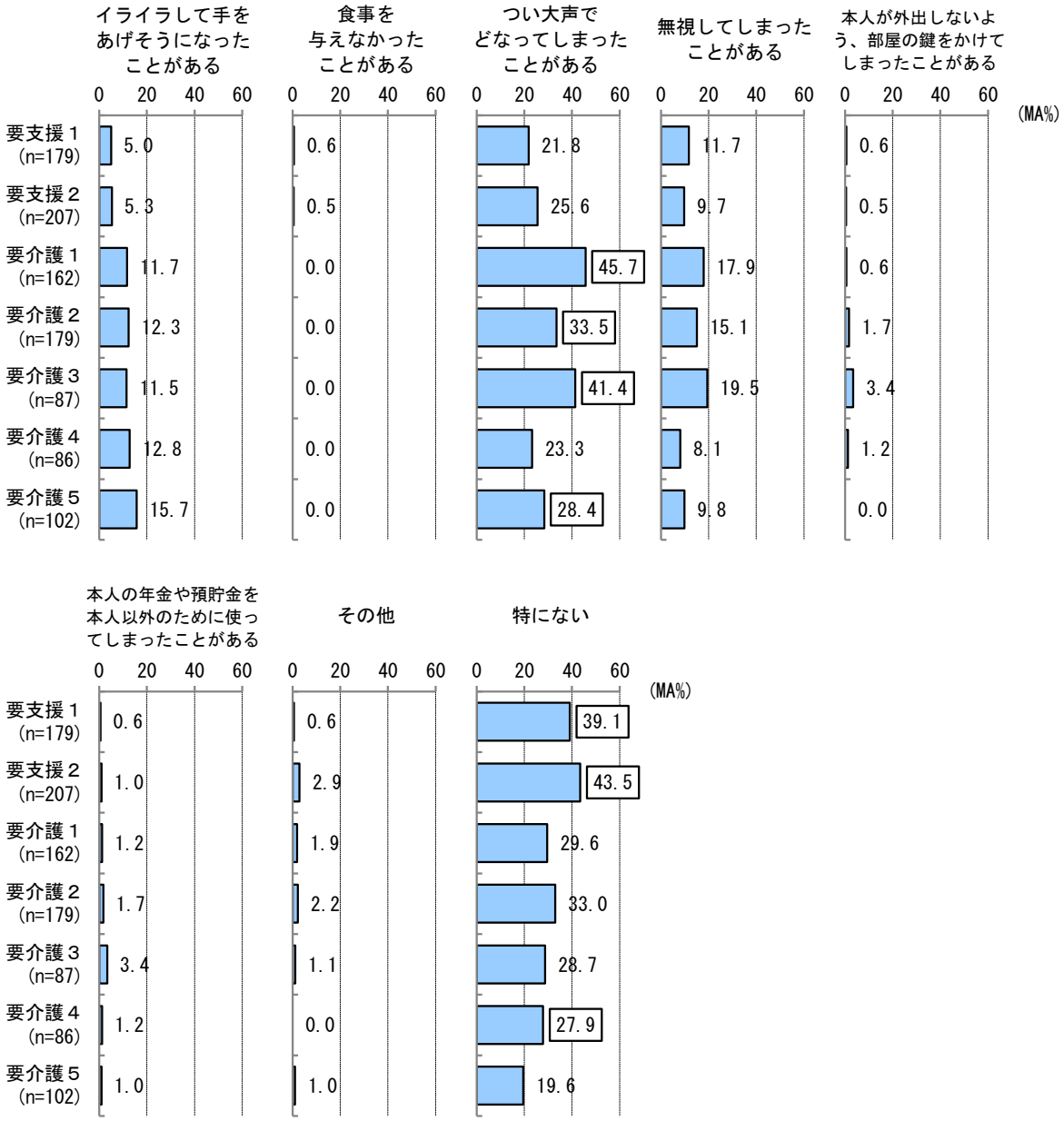
※「特にない」は、前回調査では設けていない。

自宅での介護でサービス未利用者本人に対して行ってしまったことについては、「つい大声でどなってしまったことがある」が29.0%で最も多く、次いで「無視してしまったことがある」が12.3%、「イライラして手をあげそうになったことがある」が9.3%となっている。また「特にない」は32.5%となっている。

前回調査と比較すると、「無視してしまったことがある」の割合が12.6ポイント低くなっている。(B図25[28])

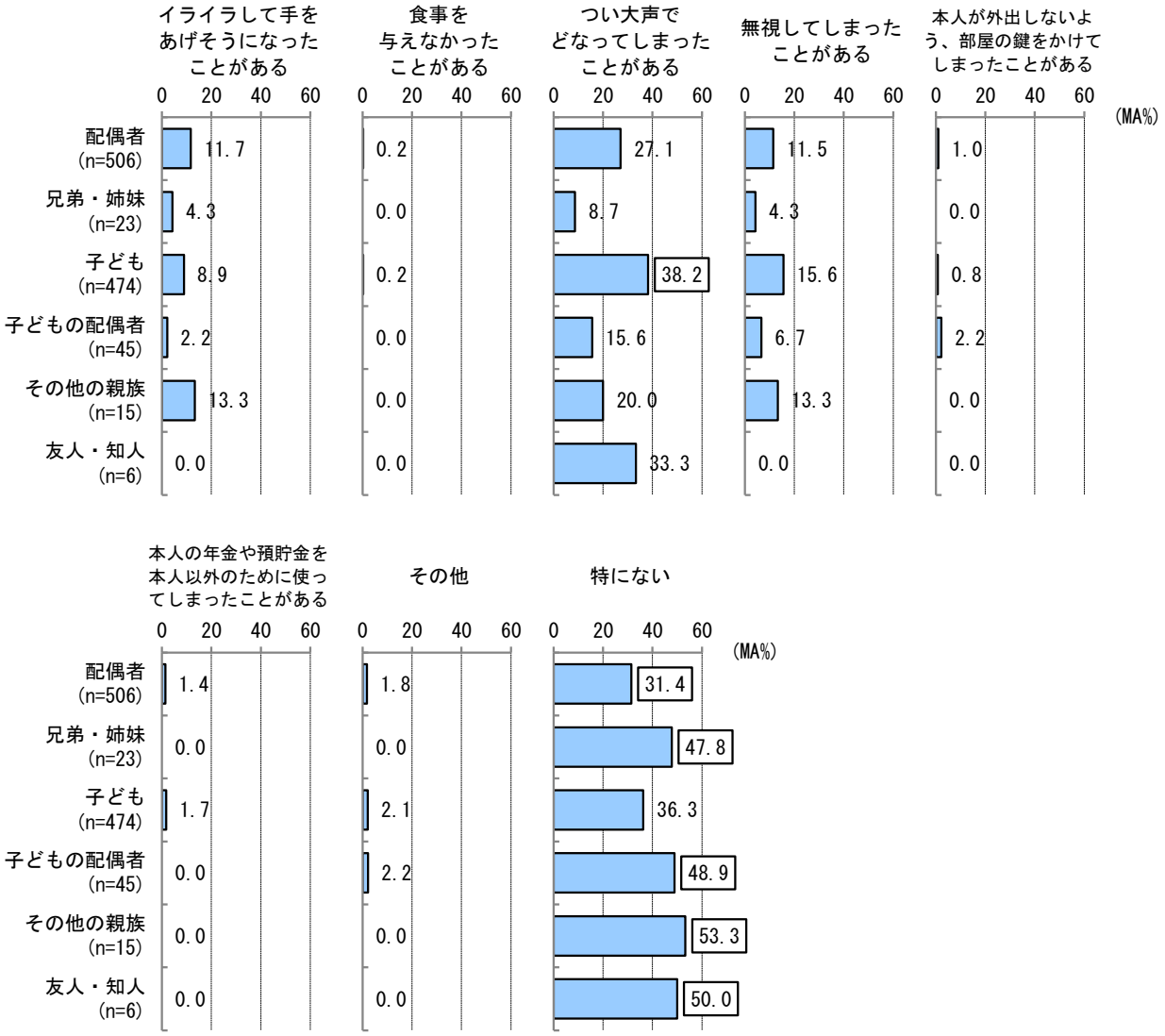
本人の要介護度別でみると、要支援１・２と要介護４は「特にない」が最も多いが、重度になるほど割合が低くなる傾向がみられる。要介護１～３・５では「つい大声でどなってしまったことがある」が最も多くなっている。また、重度になるほど「イライラして手をあげそうになったことがある」の割合が高くなる傾向にある。(B図25[28]-a)

【B図25[28]-a　自宅での介護で本人に対して行ってしまったこと（本人の要介護度別）】



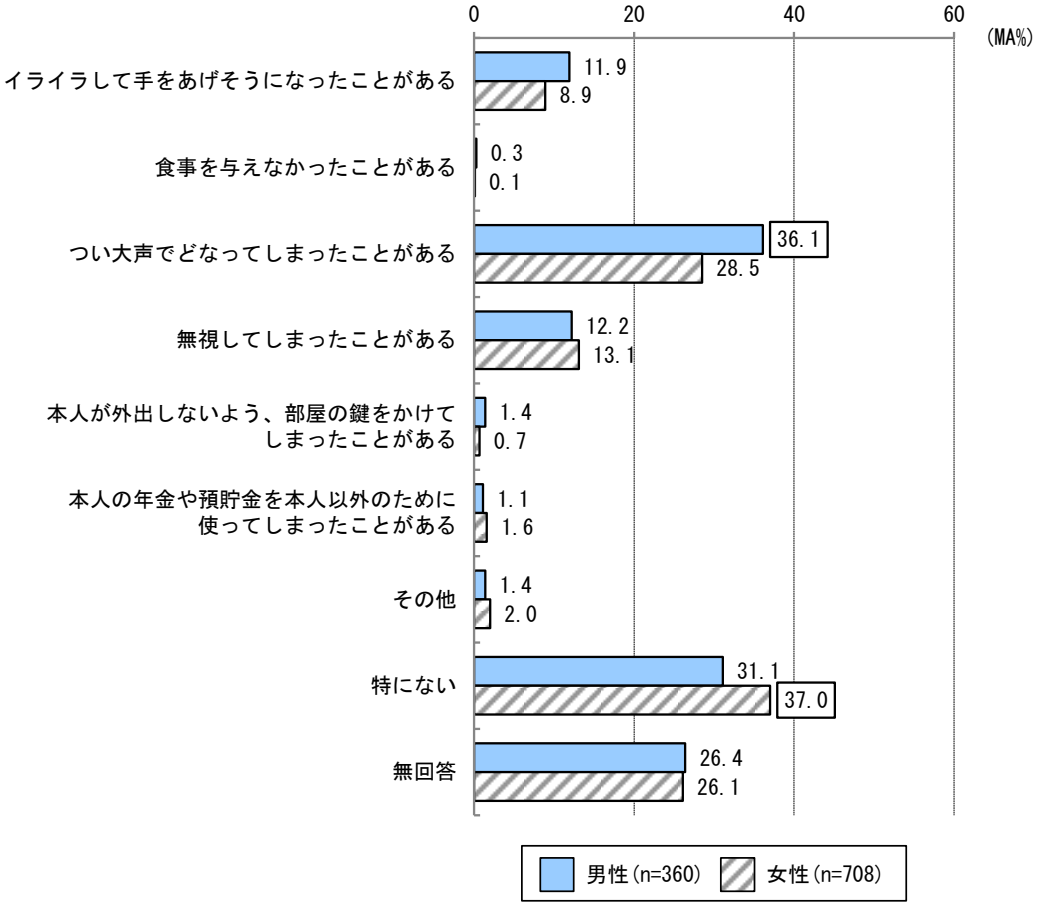
本人との関係別でみると、子どもの介護者は「つい大声でどなってしまったことがある」が38.2%で最も多く、「特にない」は36.3%となっている。その他の介護者では「特にない」が最も多くなっている。(B図25[28]-b)

【B図25[28]-b　自宅での介護で本人に対して行ってしまったこと（本人との関係別）】



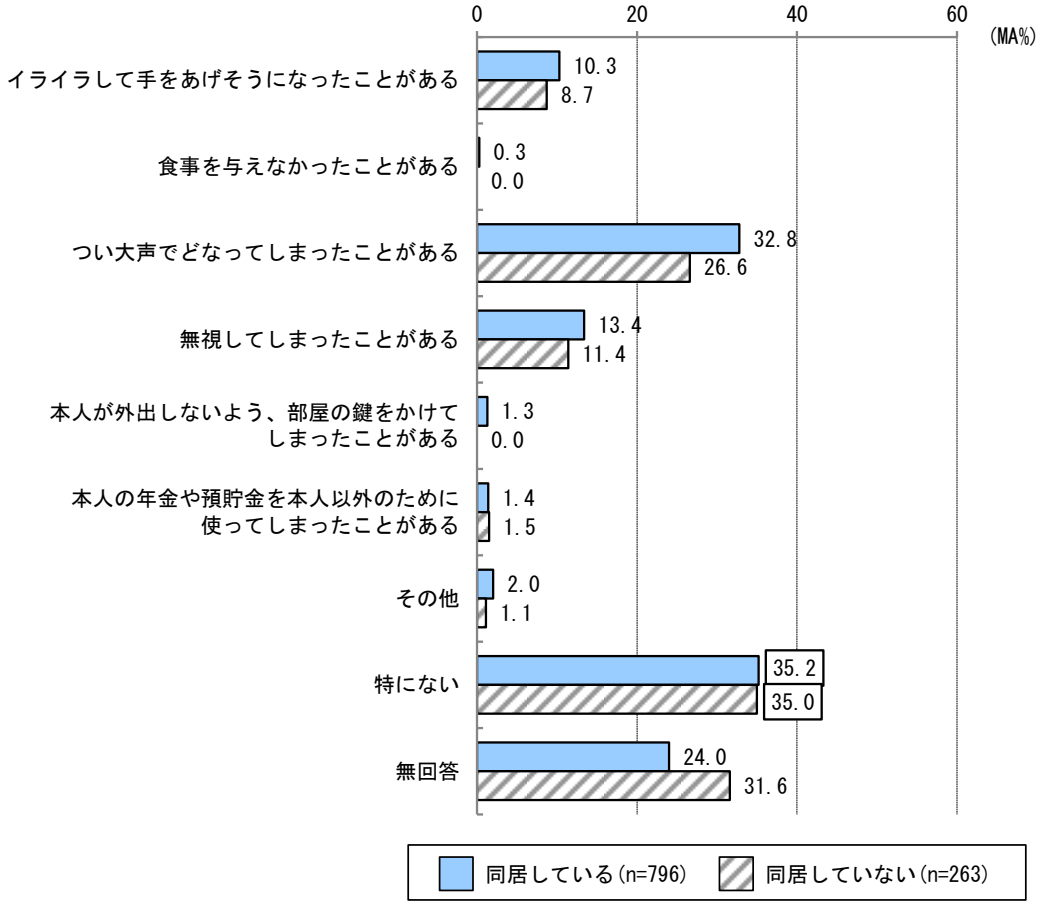
介護者の性別でみると、男性の介護者は「つい大声でどなってしまったことがある」が36.1%で最も多く、次いで「特にない」が31.1%となっている。女性の介護者では「特にない」が37.0%で最も多く、次いで「つい大声でどなってしまったことがある」が28.5%となっている。(B図25[28]-c)

【B図25[28]-c　自宅での介護で本人に対して行ってしまったこと（介護者の性別）】



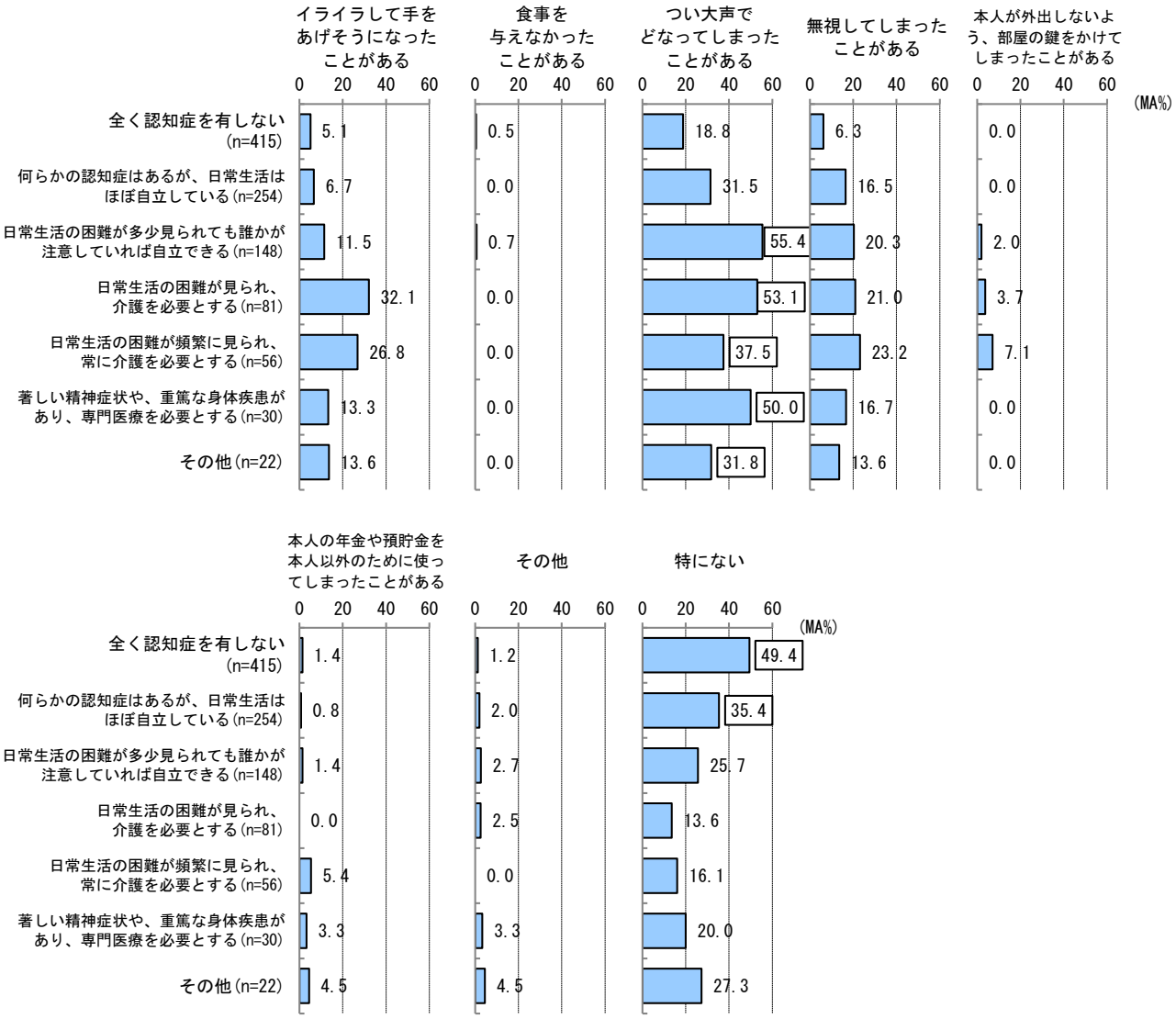
同居有無別でみると、同居の有無にかかわらず「特にない」が最も多くなっている。しかし、いずれの虐待的行為の割合も、同居している介護者のほうが、同居していない介護者に比べて高い割合になっており、「つい大声でどなってしまったことがある」の割合では6.2ポイント高くなっている。(B図25[28]-d)

【B図25[28]-d　自宅での介護で本人に対して行ってしまったこと（同居有無性別）】



本人の認知症の程度別でみると、認知症を有しない人と、ほぼ自立している人は「特にない」が最も多くなっている。しかし、誰かが注意していれば自立できる人や、介護や専門医療が必要な人では「つい大声でどなってしまったことがある」が最も多くなっている。また、「イライラして手をあげそうになったことがある」の割合では、介護を必要とする人で比較的に高い割合になっている。(B図25[28]-e)

【B図25[28]-e　自宅での介護で本人に対して行ってしまったこと（本人の認知症の程度別）】

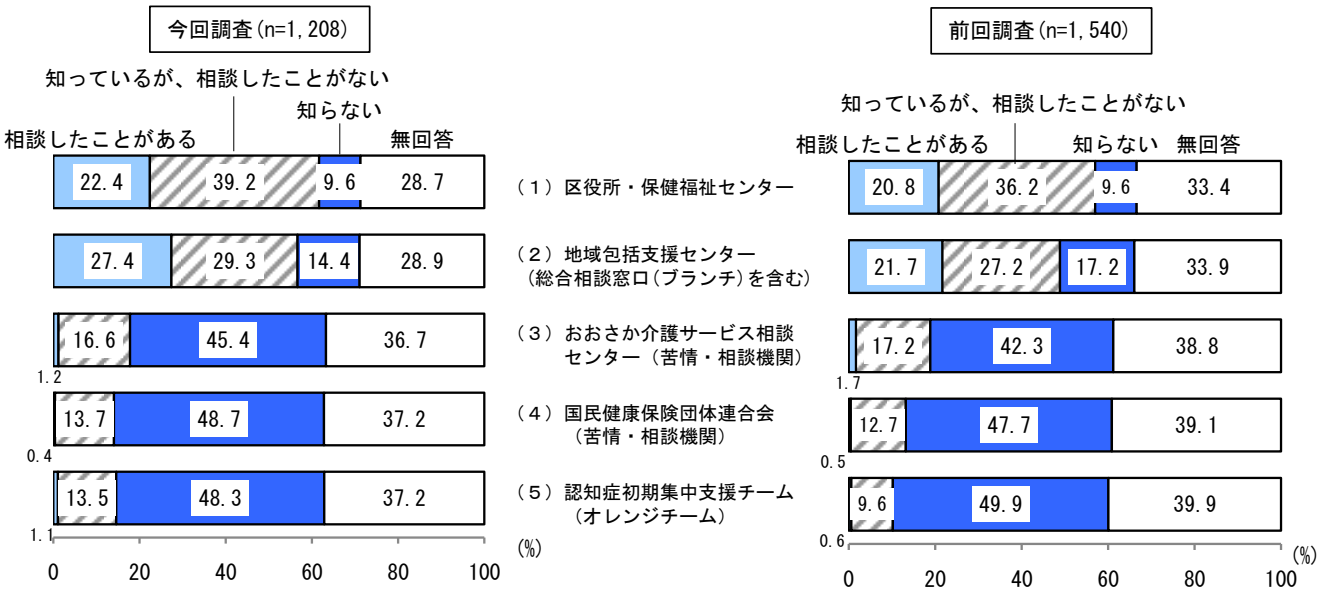


問26[29]　相談窓口の利用状況

次の相談窓口等について、利用したことがありますか。(1)～(5)の相談窓口の利用状況について、あてはまる番号に○をつけてください。（それぞれ○はひとつ）

＜Ａ．サービス利用者＞

【A図26[29]　相談窓口の利用状況（経年比較）】

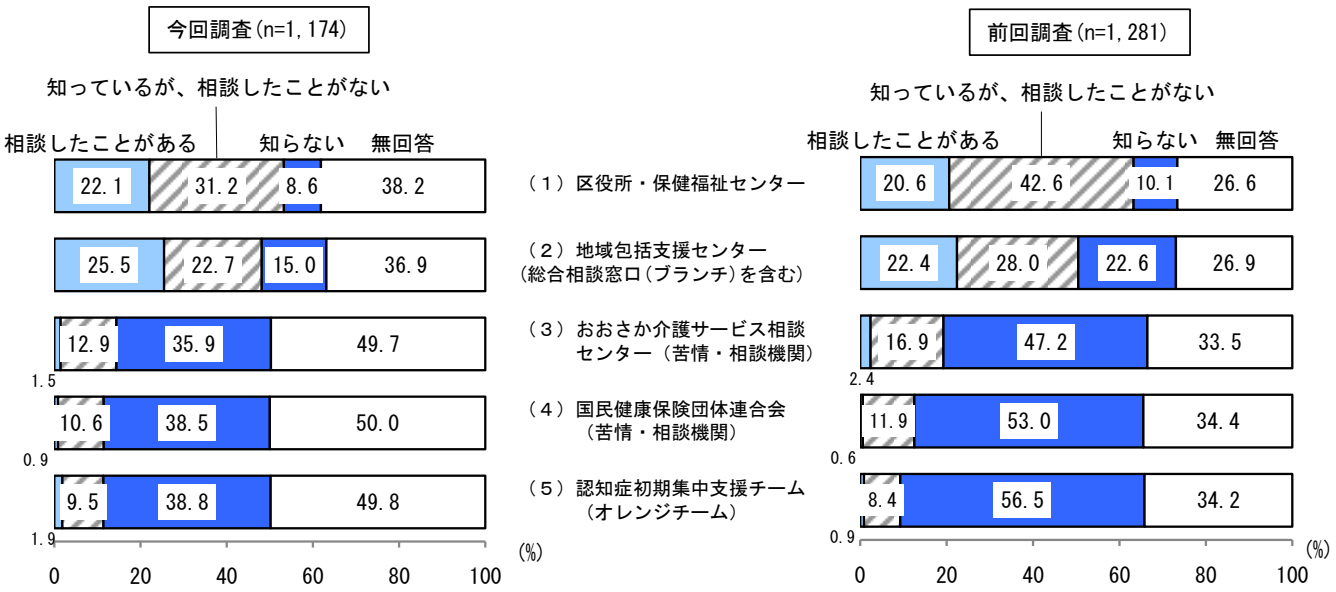


サービス利用者の介護者の相談窓口の利用状況については、“（１）区役所・保健福祉センター”“（２）地域包括支援センター（総合窓口（ブランチ）を含む”は「知っているが、相談したことがない」が最も多く、“（３）おおさか介護サービス相談センター（苦情・相談機関)”“（４）国民健康保険団体連合会（苦情・相談機関)”“（５）認知症初期集中支援チーム（オレンジチーム)”は「知らない」が最も多くなっている。

前回調査と比較すると、“（２）地域包括支援センター（総合窓口（ブランチ）を含む”の「相談したことがある」の割合が5.7ポイント高くなっている。(A図26[29])

＜Ｂ．サービス未利用者＞

【B図26[29]　相談窓口の利用状況（経年比較）】



サービス未利用者の介護者の相談窓口の利用状況については、“（１）区役所・保健福祉センター”は「知っているが、相談したことがない」が最も多く、“（２）地域包括支援センター（総合窓口（ブランチ）を含む”は「相談したことがある」が最も多く、“（３）おおさか介護サービス相談センター（苦情・相談機関）”“（４）国民健康保険団体連合会（苦情・相談機関）”“（５）認知症初期集中支援チーム（オレンジチーム）”は「知らない」が最も多くなっている。

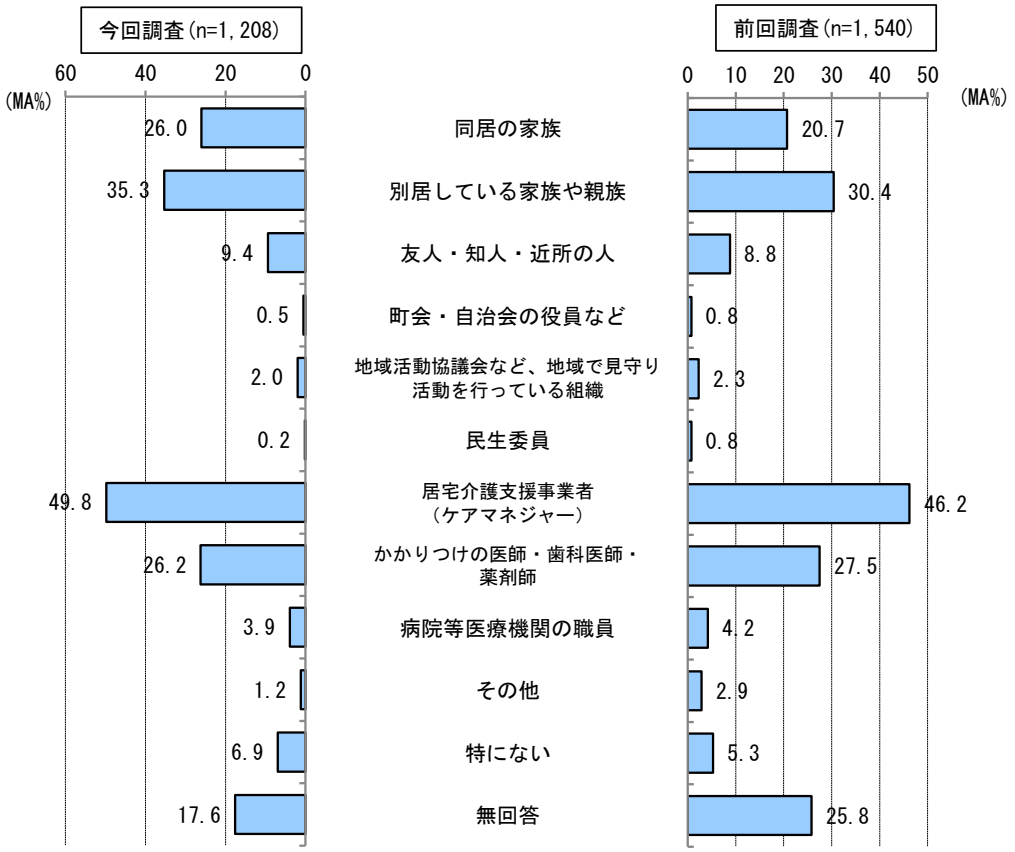
前回調査と比較すると、“（２）地域包括支援センター（総合窓口（ブランチ）を含む”の「相談したことがある」の割合が3.1ポイント高くなっている。(B図26[29])

問26-1[30]　自宅での介護で困った時の相談先

問26[問29]の相談窓口以外で、主な介護者が、自宅での介護を行ううえで困った時はどちらに相談していますか。（○はいくつでも）

＜Ａ．サービス利用者＞

【A図26-1[30]　自宅での介護で困った時の相談先（経年比較）】

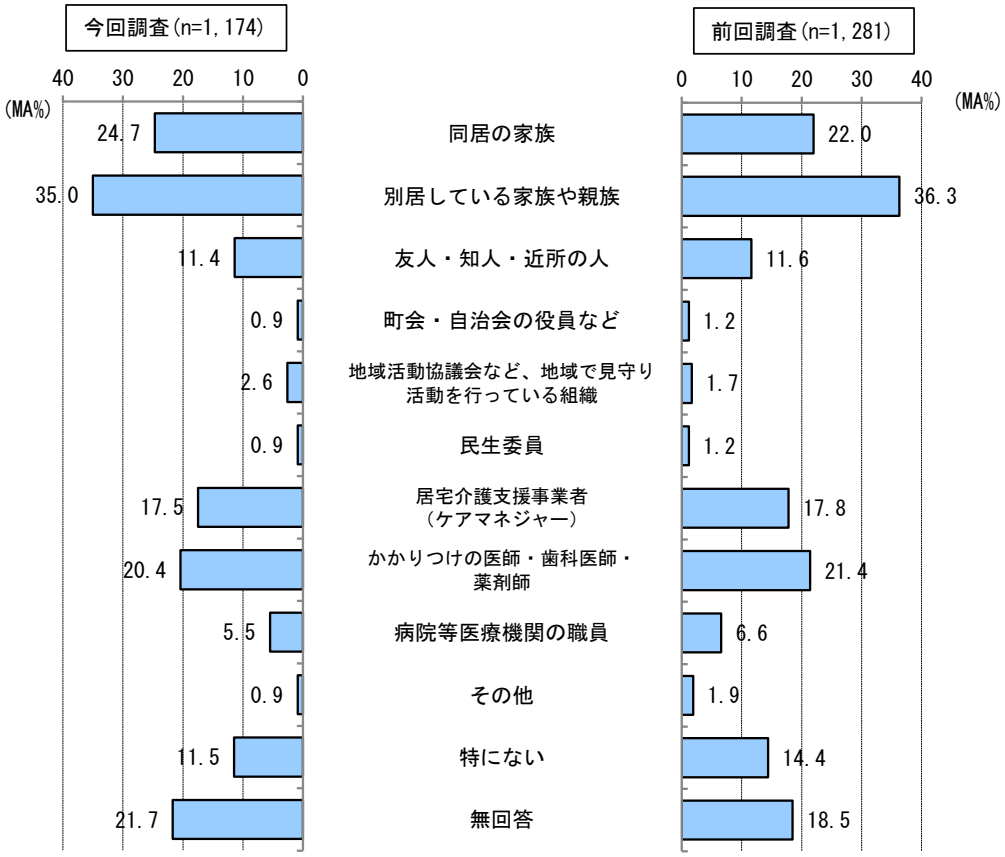


自宅でのサービス利用者の介護で困った時の相談先については、「居宅介護支援事業者（ケアマネジャー）」が49.8%で最も多く、次いで「別居している家族や親族」が35.3%、「かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師」が26.2%となっている。

前回調査と比較すると、「同居の家族」の割合が5.3ポイント高くなっている。(A図26-1[30])

＜Ｂ．サービス未利用者＞

【B図26-1[30]　自宅での介護で困った時の相談先（経年比較）】



自宅でのサービス未利用者の介護で困った時の相談先については､｢別居している家族や親族」が35.0％で最も多く、次いでが「同居の家族」が24.7％､「かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師」が20.4％となっている。

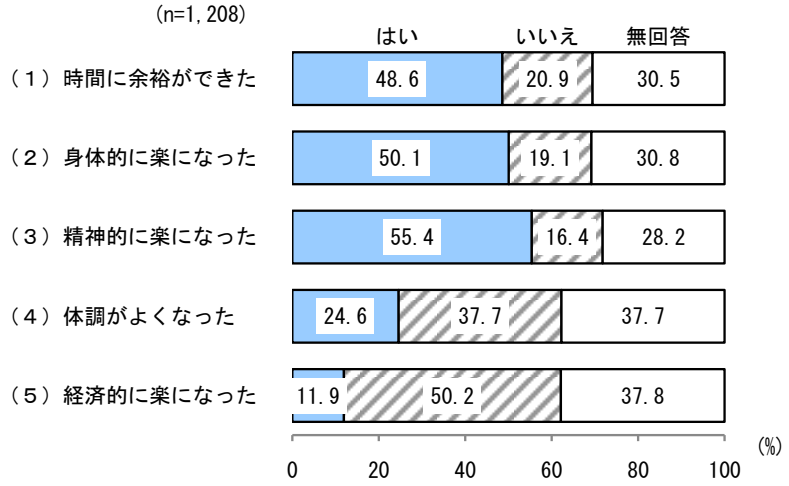
前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。(B図26-1[30])

問27　本人が介護保険サービスを利用することによる介護者の変化

ご本人が介護保険サービスを利用することによって、主な介護者にどのような変化がありましたか。「はい・いいえ」のどちらかに○をつけてください。

＜Ａ．サービス利用者のみ＞

【A図27　本人が介護保険サービスを利用することによる介護者の変化】



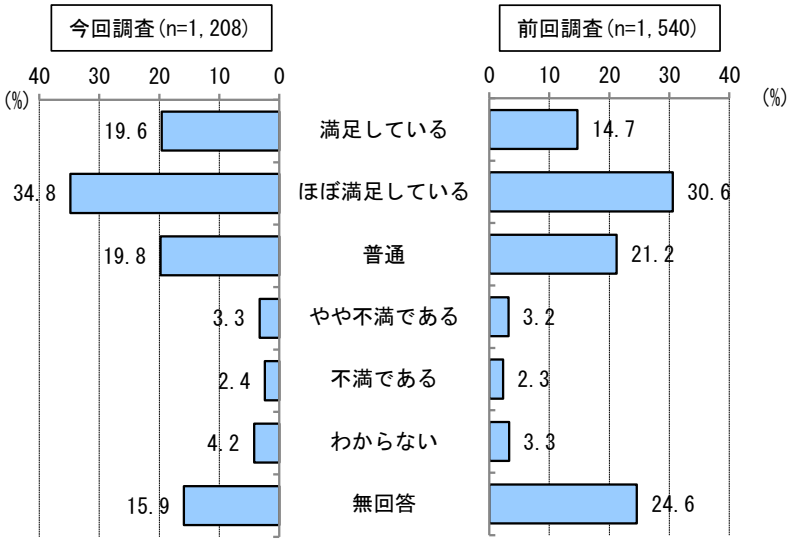
サービス利用者本人が介護保険サービスを利用することで、介護者にどのような変化があったかについては、「はい」が最も多いのは“（３）精神的に楽になった”（55.4%）で、次いで“（２）身体的に楽になった”（50.1%）、“（１）時間に余裕ができた”（48.6%）が続く。一方、“（４）体調がよくなった”と“（５）経済的に楽になった”は「はい」より「いいえ」のほうが多くなっている。（A図27）

問28　本人が利用している介護保険サービスに対する介護者の満足度

ご本人が利用している介護保険サービスについて、主な介護者の方は満足していますか。 （○はひとつ）

＜Ａ．サービス利用者のみ＞

【A図28　本人が利用している介護保険サービスに対する介護者の満足度（経年比較）】

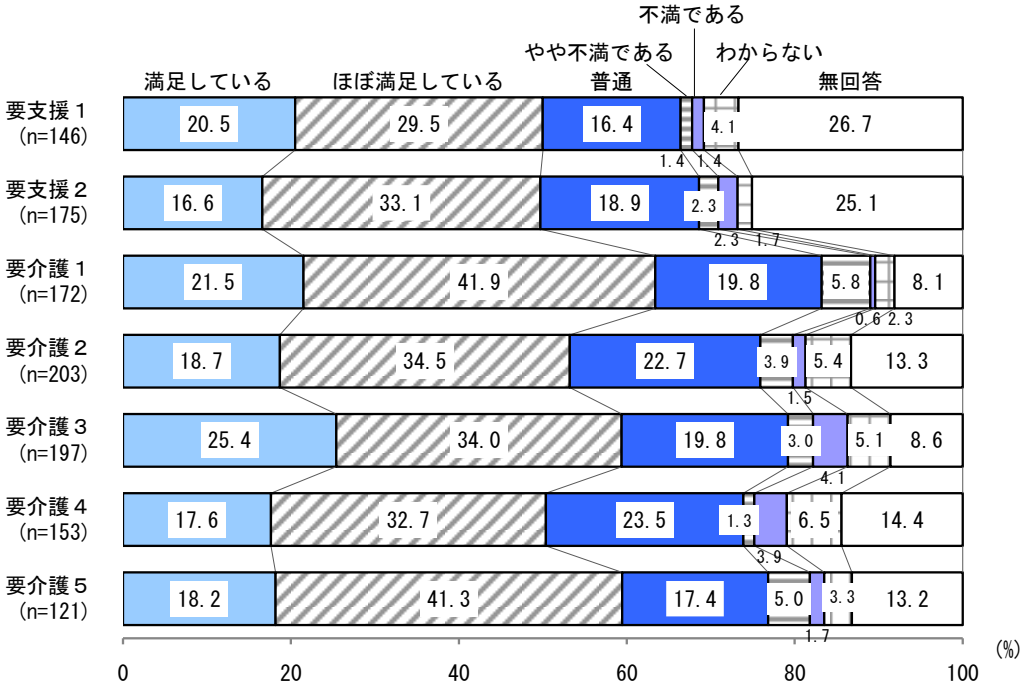


サービス利用者本人が利用している介護保険サービスに対する介護者の満足度については、「ほぼ満足している」が34.8％で最も多く、次いで「普通」が19.8％、「満足している」が19.6％となっており、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた54.4％が満足と回答している。(A図28)

前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。(A図28)

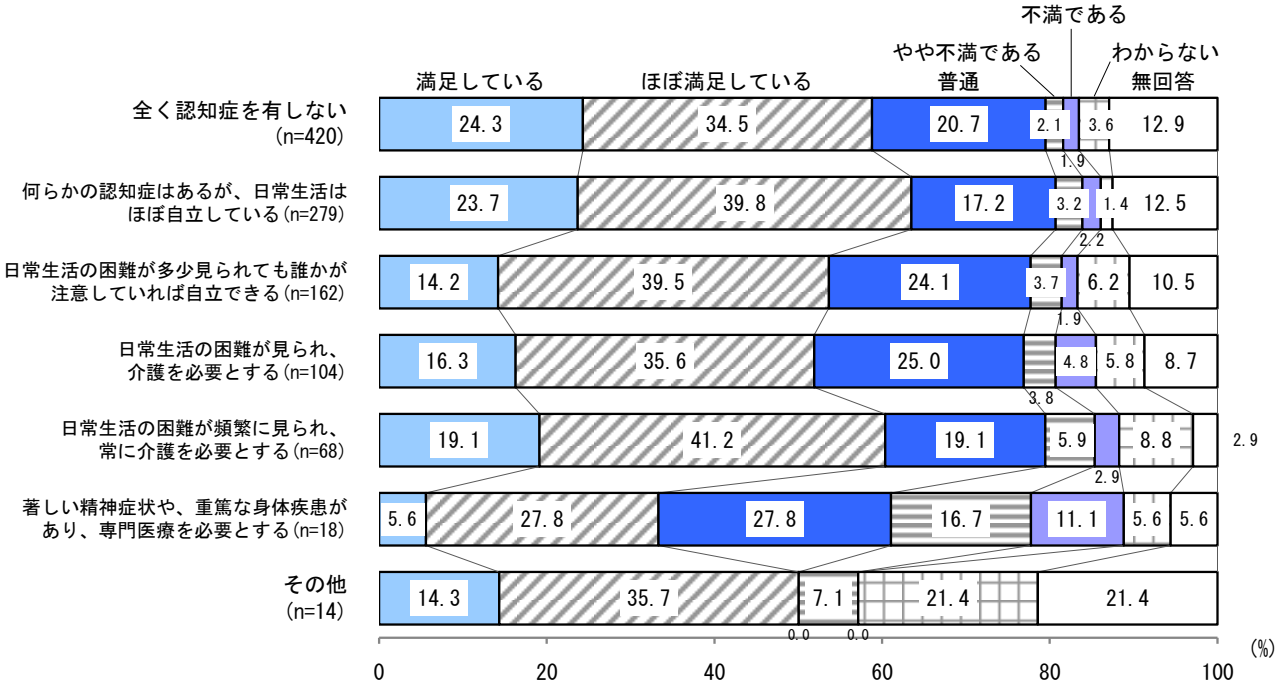
本人の要介護度別でみると、要介護度にかかわらず「ほぼ満足している」が最も多くなっている。満足と回答した割合では、要介護１を介護している人が63.4%で最も高く、次いで要介護５を介護している人が59.5%、要介護３を介護している人が59.4%となっており、他の介護者も５割前後を占めている。(A図28-a)

【A図28-a　本人が利用している介護保険サービスに対する介護者の満足度（本人の要介護度別）】



本人の認知症の程度別でみると、専門医療を必要とする人は母数が少ないので省くが、満足と回答した割合は、認知症の程度にかかわらず５～６割台を占めている。(A図28-b)

【A図28-b　本人が利用している介護保険サービスに対する介護者の満足度（本人の認知症の程度別）】

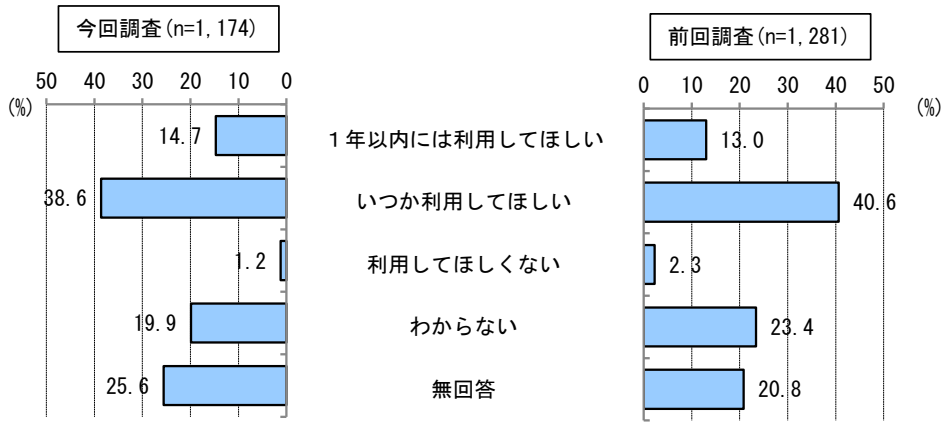


［問31］　本人に対する介護保険サービスの利用意向

今後、ご本人に介護保険サービスの利用をしてほしいですか。（○はひとつ）

＜Ｂ．サービス未利用者のみ＞

【［B図31］　本人に対する介護保険サービスの利用意向（経年比較）】



サービス未利用者本人に介護保険サービスを利用してほしいかについては､｢いつか利用してほしい」が38.6％で最も多く、次いで「わからない」が19.9％、「１年以内には利用してほしい」が14.7％となっている。

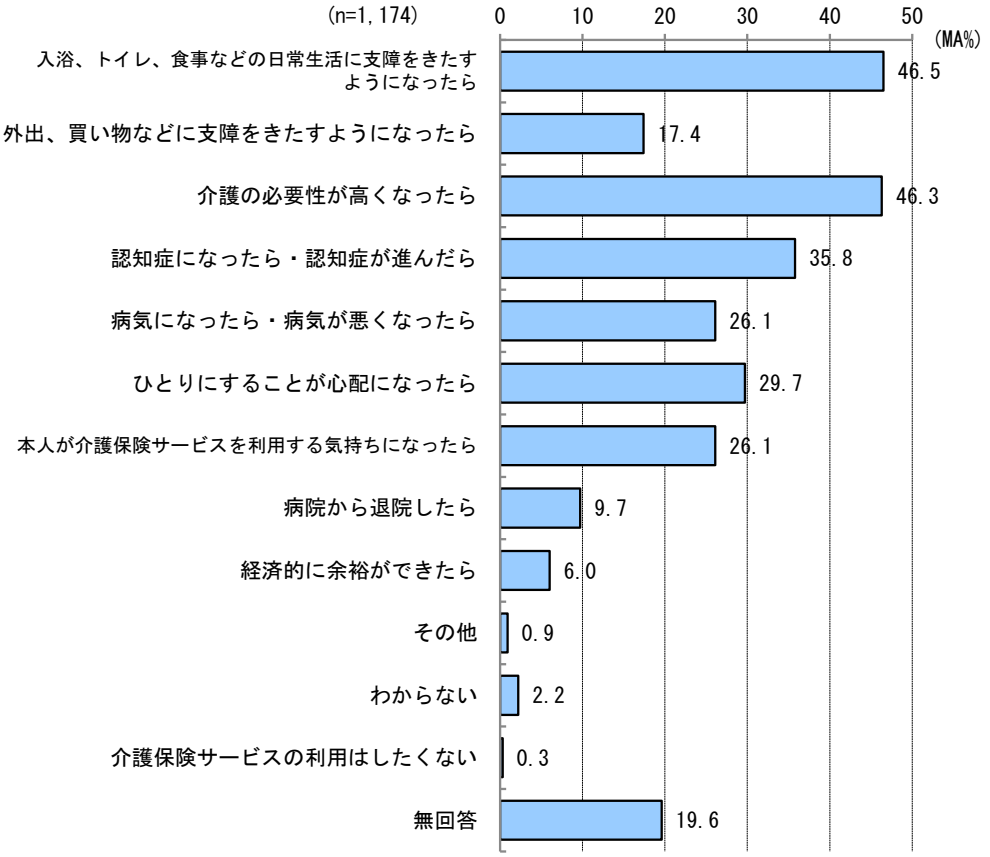
前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。（［B図31］）

［問32］　介護保険サービスを利用しようと思う本人の状態

ご本人は、現在、介護保険サービスを利用していませんが、ご本人がどのような状態になれば、介護保険サービスを利用しますか。（○はいくつでも）

＜Ｂ．サービス未利用者のみ＞

【[B図32]　介護保険サービスを利用しようと思う本人の状態】



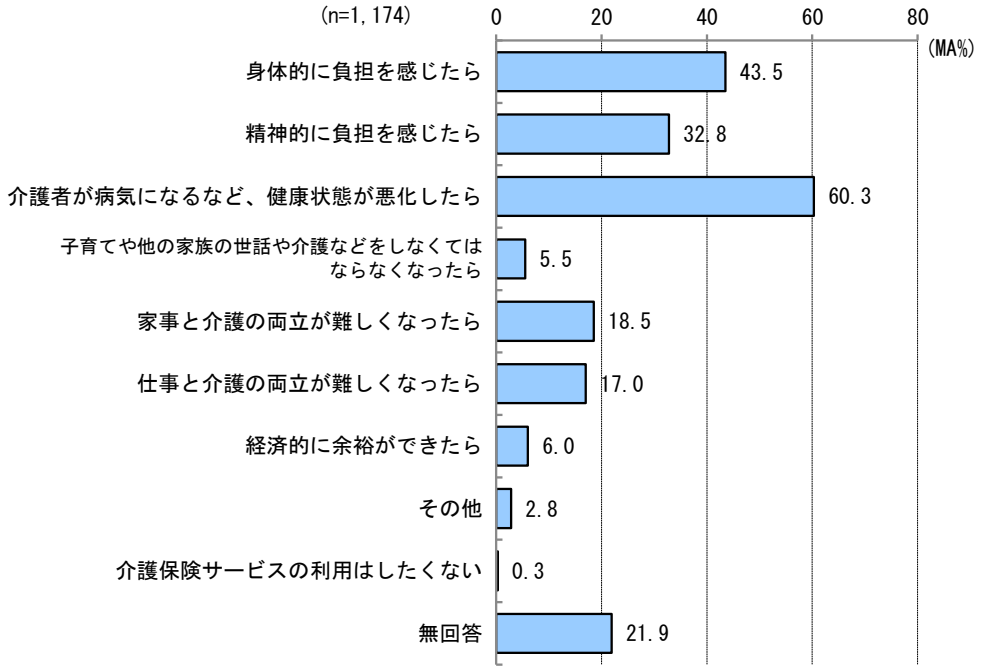
介護保険サービスを利用しようと思うサービス未利用者本人の状態については、「入浴、トイレ、食事などの日常生活に支障をきたすようになったら」が46.5％で最も多く、次いで「介護の必要性が高くなったら」が46.3％、「認知症になったら・認知症が進んだら」が35.8％となっている。([B図32])

［問33］　介護保険サービスを利用しようと思う介護者の状態

ご本人は、現在、介護保険サービスを利用していませんが、主な介護者がどのような状態になれば、介護保険サービスを利用しますか。（○はいくつでも）

＜Ｂ．サービス未利用者のみ＞

【[B図33]　介護保険サービスを利用しようと思う介護者の状態】



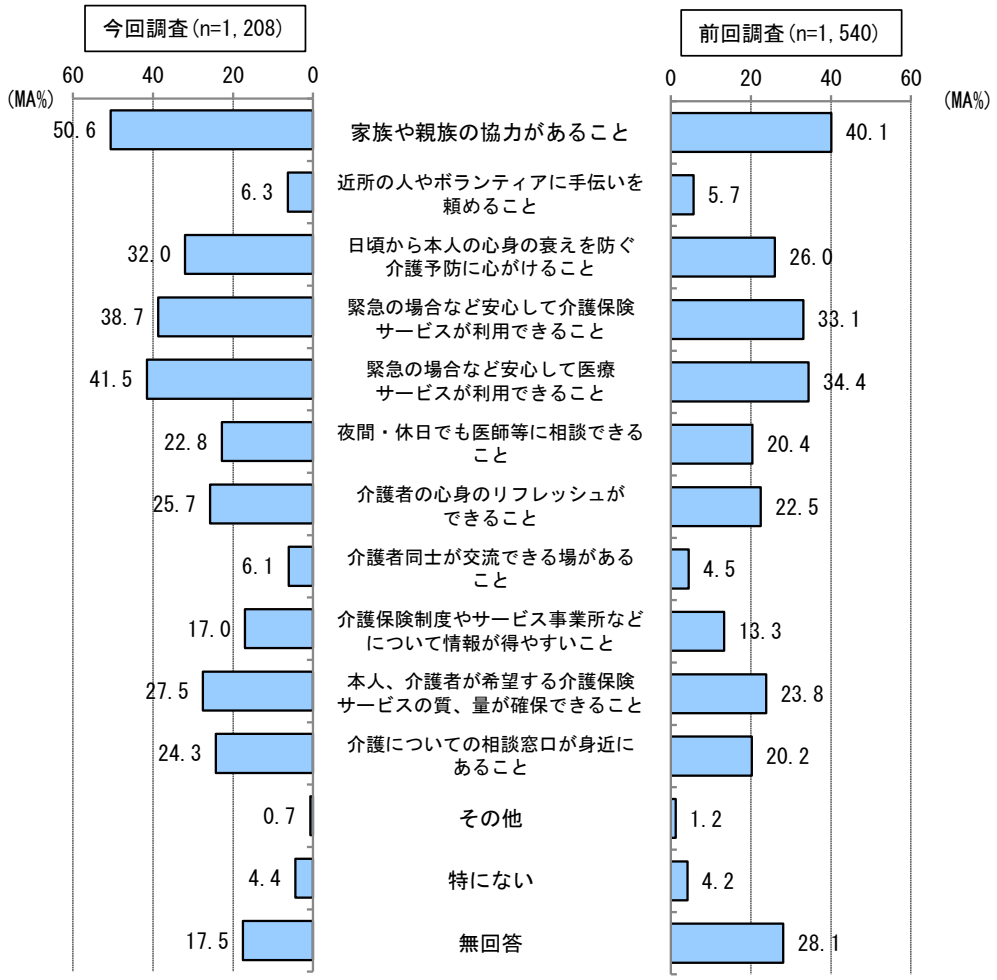
サービス未利用者本人に介護保険サービスを利用しようと思う介護者の状態については、「介護者が病気になるなど、健康状態が悪化したら」が60.3%で最も多く、次いで「身体的に負担を感じたら」が43.5%、「精神的に負担を感じたら」が32.8%となっている。([B図33])

問29[34]　自宅での介護で重要なこと

主な介護者にとって、自宅での介護にあたって重要なことは何ですか。（○はいくつでも）

＜Ａ．サービス利用者＞

【A図29[34]　自宅での介護で重要なこと（経年比較）】

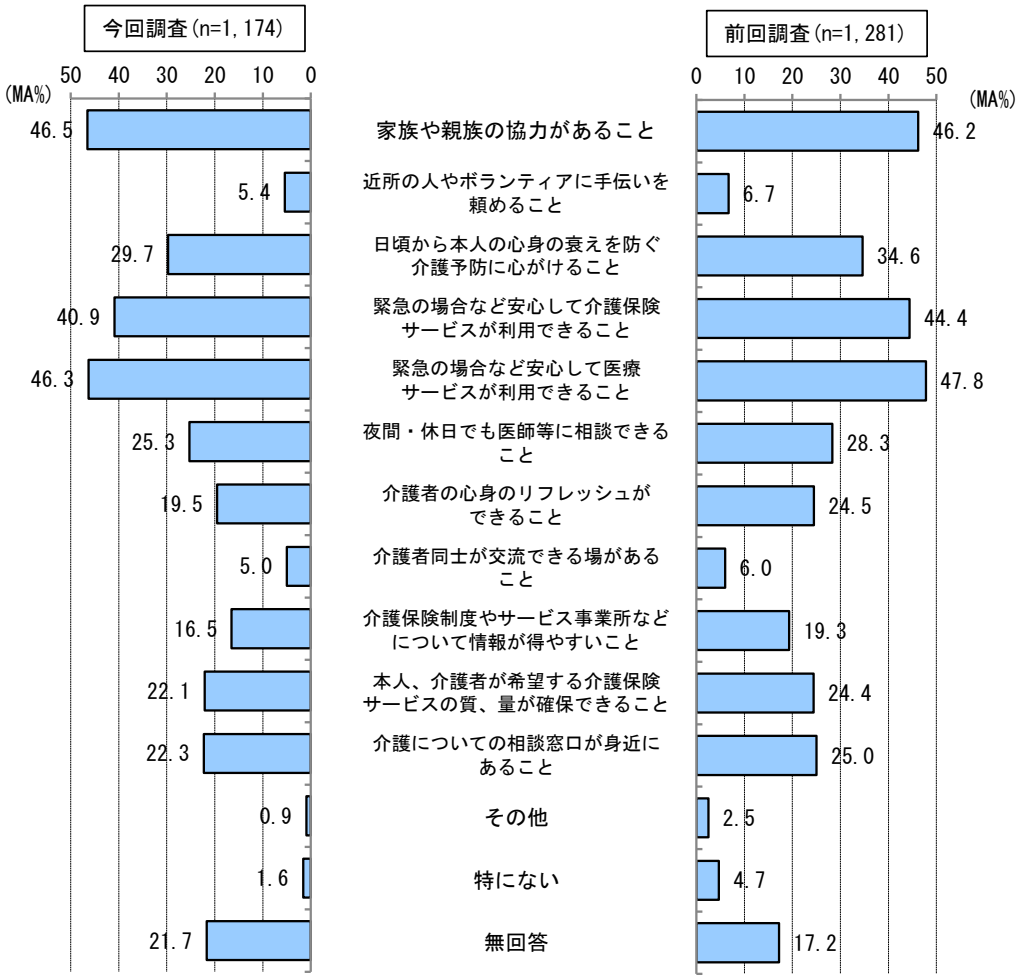


自宅でのサービス利用者の介護で重要なことについては、「家族や親族の協力があること」が50.6%で最も多く、次いで「緊急の場合など安心して医療サービスが利用できること」が41.5%、「緊急の場合など安心して介護保険サービスが利用できること」が38.7%となっている。

前回調査と比較すると、「家族や親族の協力があること」の割合が10.5ポイント、「緊急の場合など安心して医療サービスが利用できること」の割合が7.1ポイントそれぞれ高くなっている。(A図29[34])

＜Ｂ．サービス未利用者＞

【B図29[34]　自宅での介護で重要なこと（経年比較）】



自宅でのサービス未利用者の介護で重要なことについては､｢家族や親族の協力があること｣が46.5%で最も多く、次いで「緊急の場合など安心して医療サービスが利用できること」が46.3%､｢緊急の場合など安心して介護保険サービスが利用できること｣が40.9%となっている。

前回調査と比較すると、上記３項目が多い傾向は変わらない。(B図29[34])

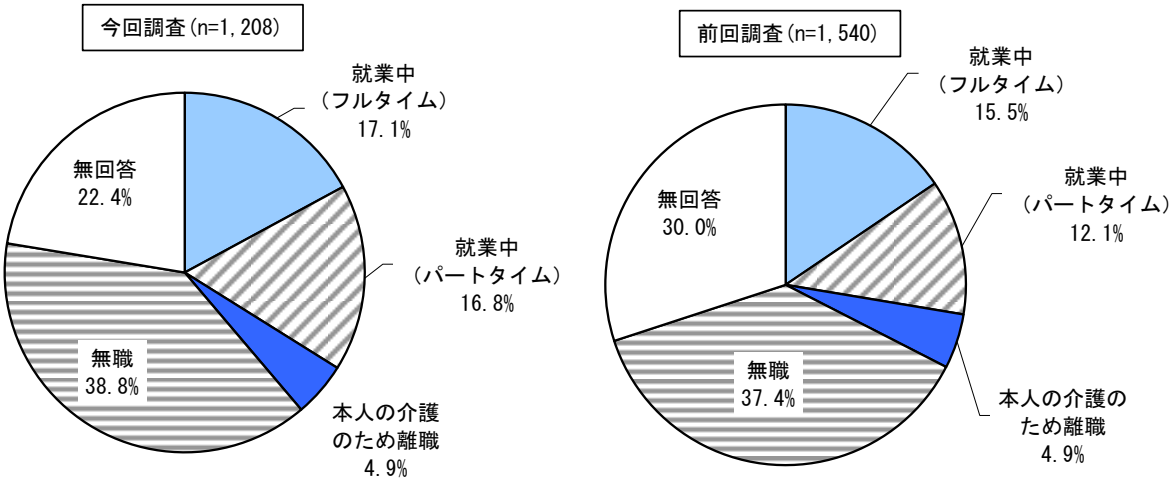
（４）介護離職に関する問題

問30[35]　介護者の就業状況

主な介護者の現在の就業状況についておうかがいします。（○はひとつ）

＜Ａ．サービス利用者＞

【A図30[35]　介護者の就業状況（経年比較）】

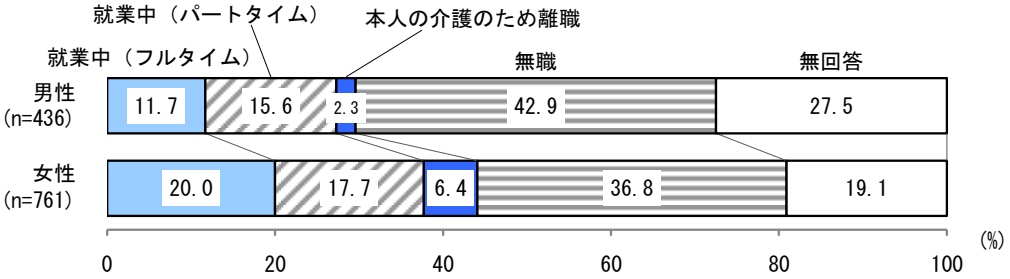


サービス利用者の介護者の就業状況については、「無職」が38.8%で最も多くなっている。これに次いで「就業中（フルタイム）」が17.1%、「就業中（パートタイム）」が16.8%となっており、両者を合わせた就業者の割合は33.9%を占めている。また、「本人の介護のため離職」は4.9%となっている。

前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。(A図30[35])

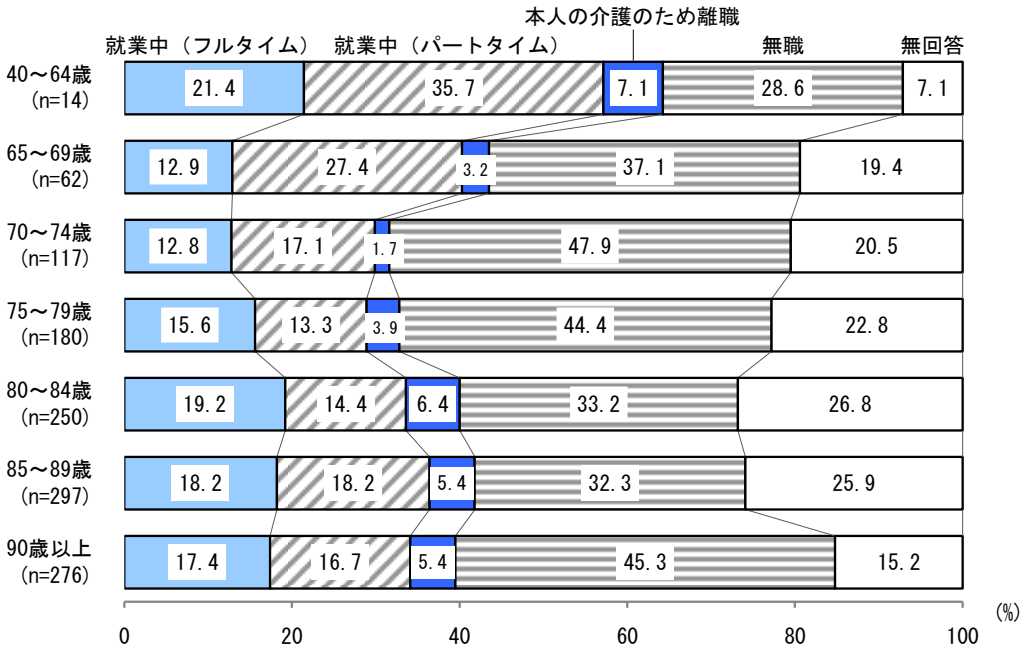
本人の性別でみると、男女にかかわらず、介護者は「無職」が最も多くなっている。就業している介護者の割合では、男性を介護している人が27.3%、女性を介護している人が37.7%で、女性を介護している人のほうが10.4ポイント高くなっている。(A図30[35]-a)

【A図30[35]-a　介護者の就業状況（本人の性別）】



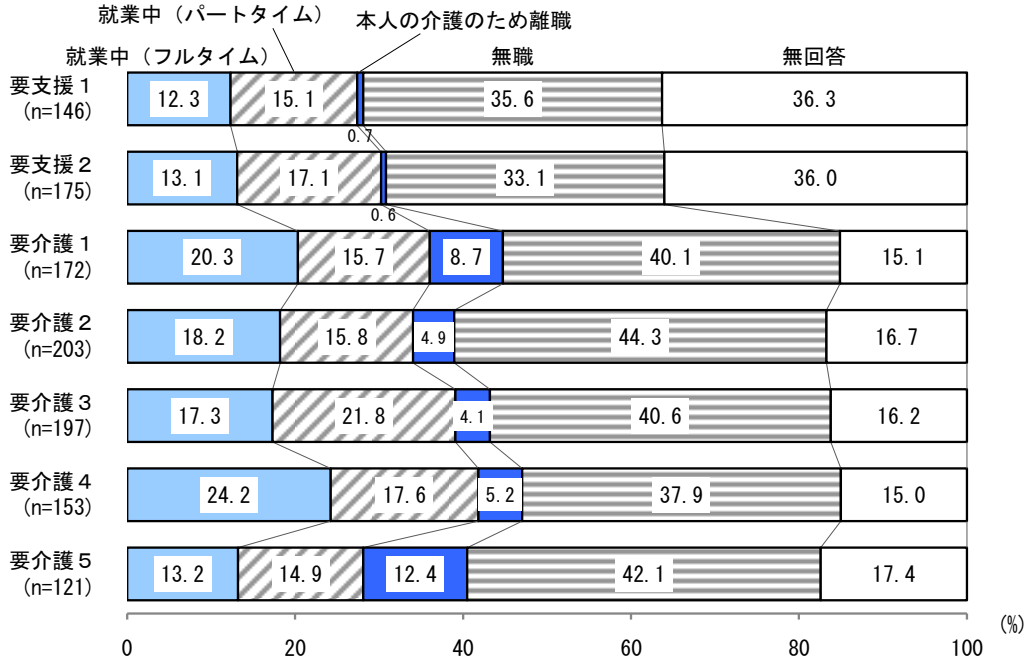
本人の年齢別でみると、65歳以降の本人を介護している人は「無職」が最も多くなっている。就業している介護者の割合では、40～64歳の本人は母数が少ないので一概には言えないが、57.1％（８人）で最も高く、次いで65～69歳の本人を介護する人が40.3％、85～89歳の本人を介護する人が36.4％となっている。(A図30[35]-b)

【A図30[35]-b　介護者の就業状況（本人の年齢別）】



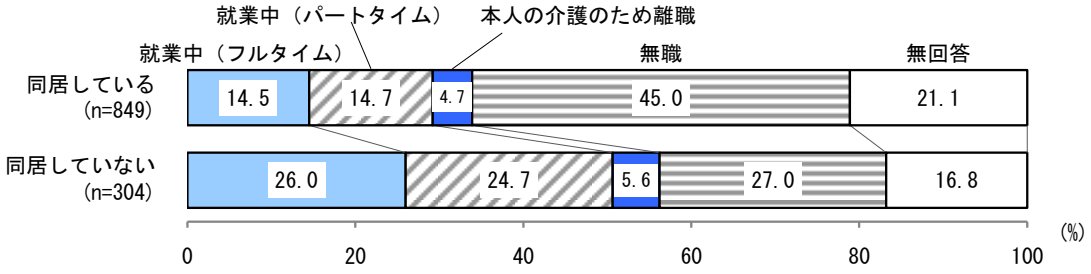
本人の要介護度別でみると、本人の要介護度にかかわらず、介護者は「無職」が最も多くなっている。就業している介護者の割合では、要支援１・２と要介護５を介護している人で３割前後、要介護１・２を介護している人は３割強、要介護３・４を介護している人は４割前後となっている。(A図30[35]-c)

【A図30[35]-c　介護者の就業状況（本人の要介護度別）】



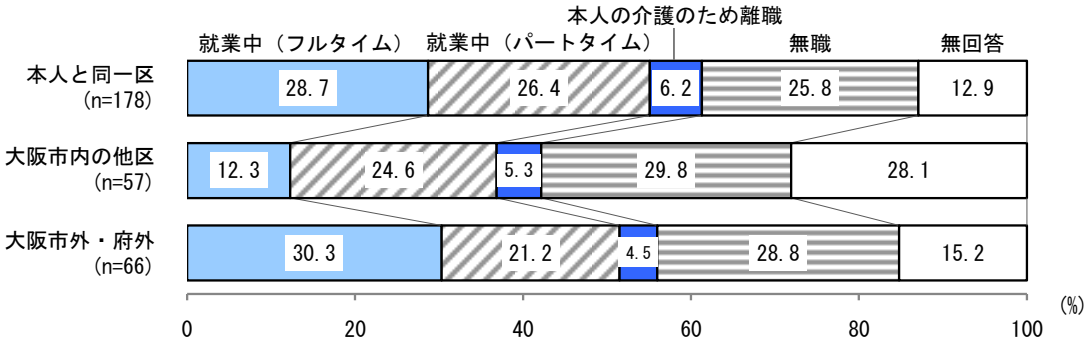
同居有無別でみると、同居している介護者は「無職」が45.0%で最も多く、就業している割合は29.2%となっている。同居していない介護者はも「無職」が27.0%で最も多いが、就業している割合は50.7%となっている。(A図30[35]-d)

【A図30[35]-d　介護者の就業状況（同居有無別）】



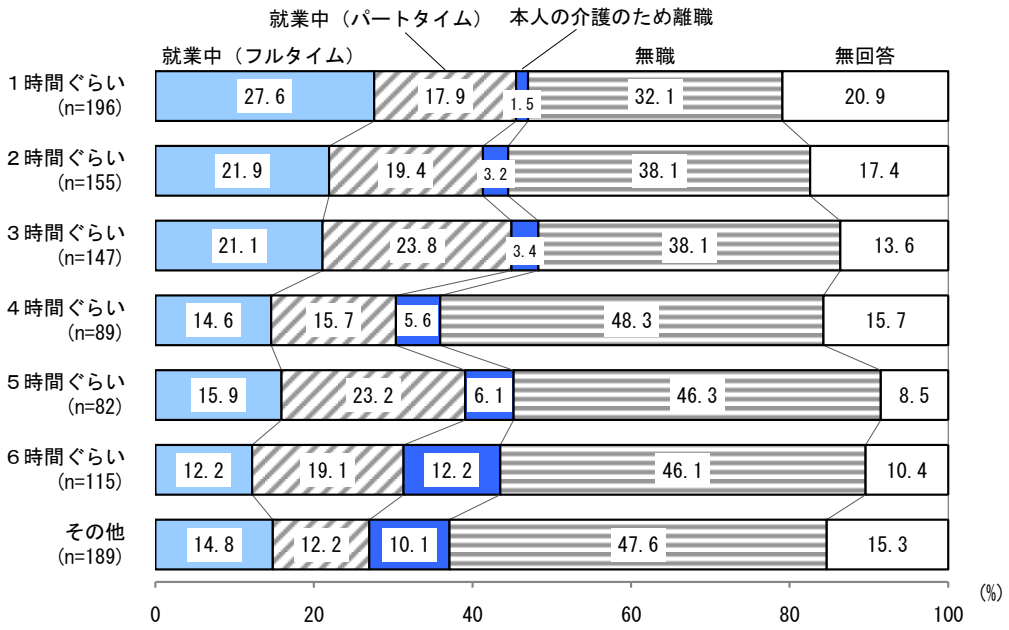
同居していない介護者の居住区別でみると、本人と同一区の介護者と大阪市外・府外の介護者は「就業中（フルタイム）」が３割前後で最も多く、就業している割合は５割台となっている。大阪市内の他区の介護者では「無職」が29.8%で最も多いが、就業している割合では36.9%となっている。(A図30[35]-e)

【A図30[35]-e　介護者の就業状況（同居していない介護者の居住区別）】



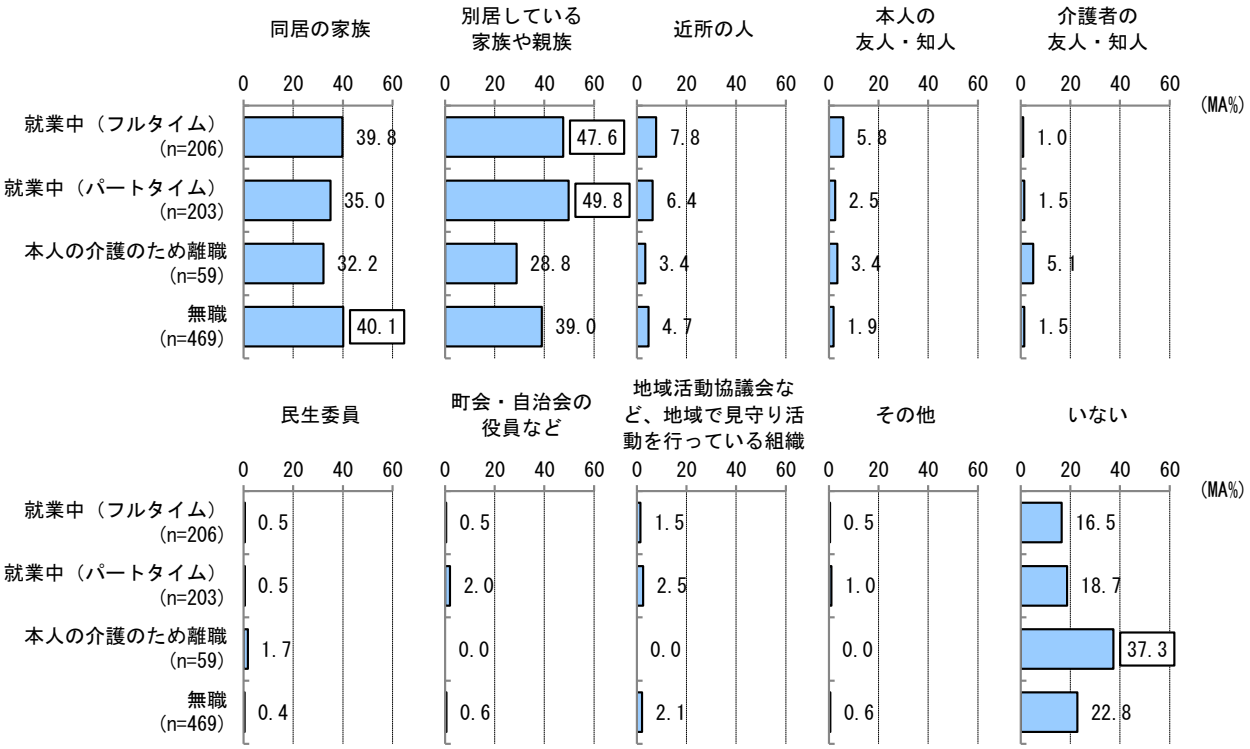
１日平均の介護時間別でみると、介護時間にかかわらず「無職」が最も多くなっているが、就業している割合では、３時間ぐらいまで介護をしている介護者が４割台となっている。また、「就業中（フルタイム）」の割合は、介護時間が多くなるほど低い割合になる傾向がみられる。(A図30[35]-f)

【A図30[35]-f　介護者の就業状況（１日平均の介護時間別）】



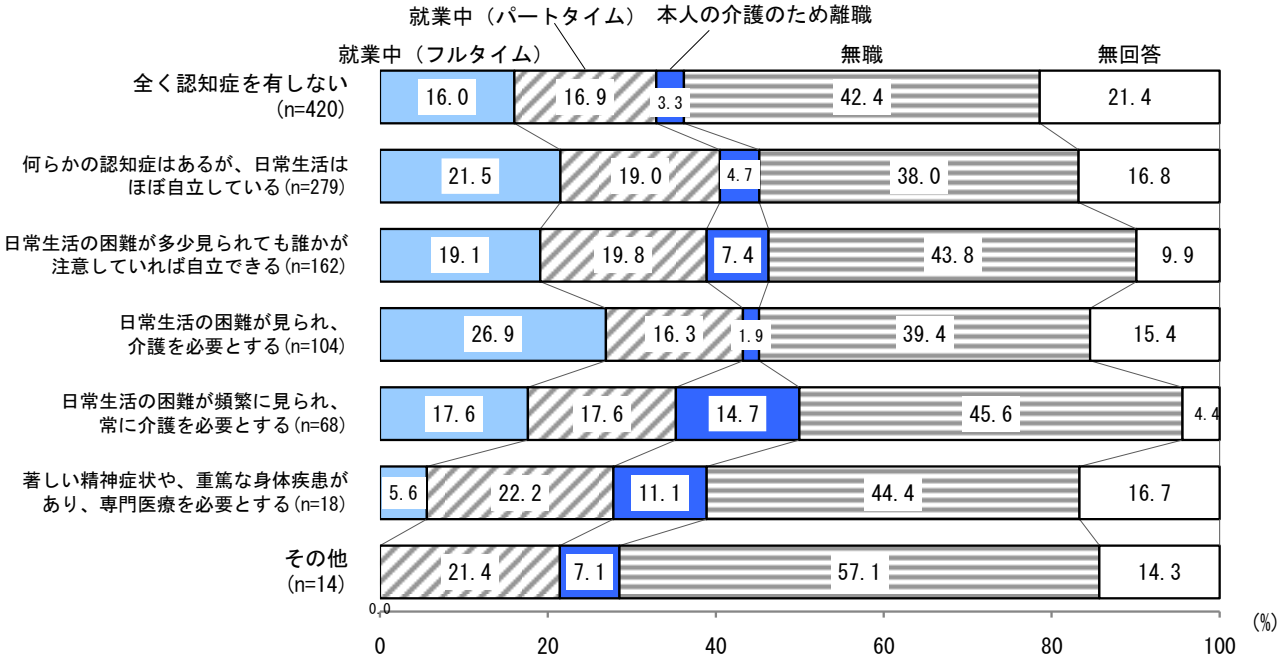
介護を手助けしてくれる人の有無を、介護者の就業状況別でみると、就業している介護者は「別居している家族や親族」が５割弱で最も多く、無職の介護者は「同居の家族」が40.1%で最も多くなっている。離職した介護者では「(介護を手助けしてくれる人が）いない」が37.3%で最も多くなっている。(A図30[35]-g)

【A図30[35]-g　介護を手助けしてくれる人の有無（介護者の就業状況別）】



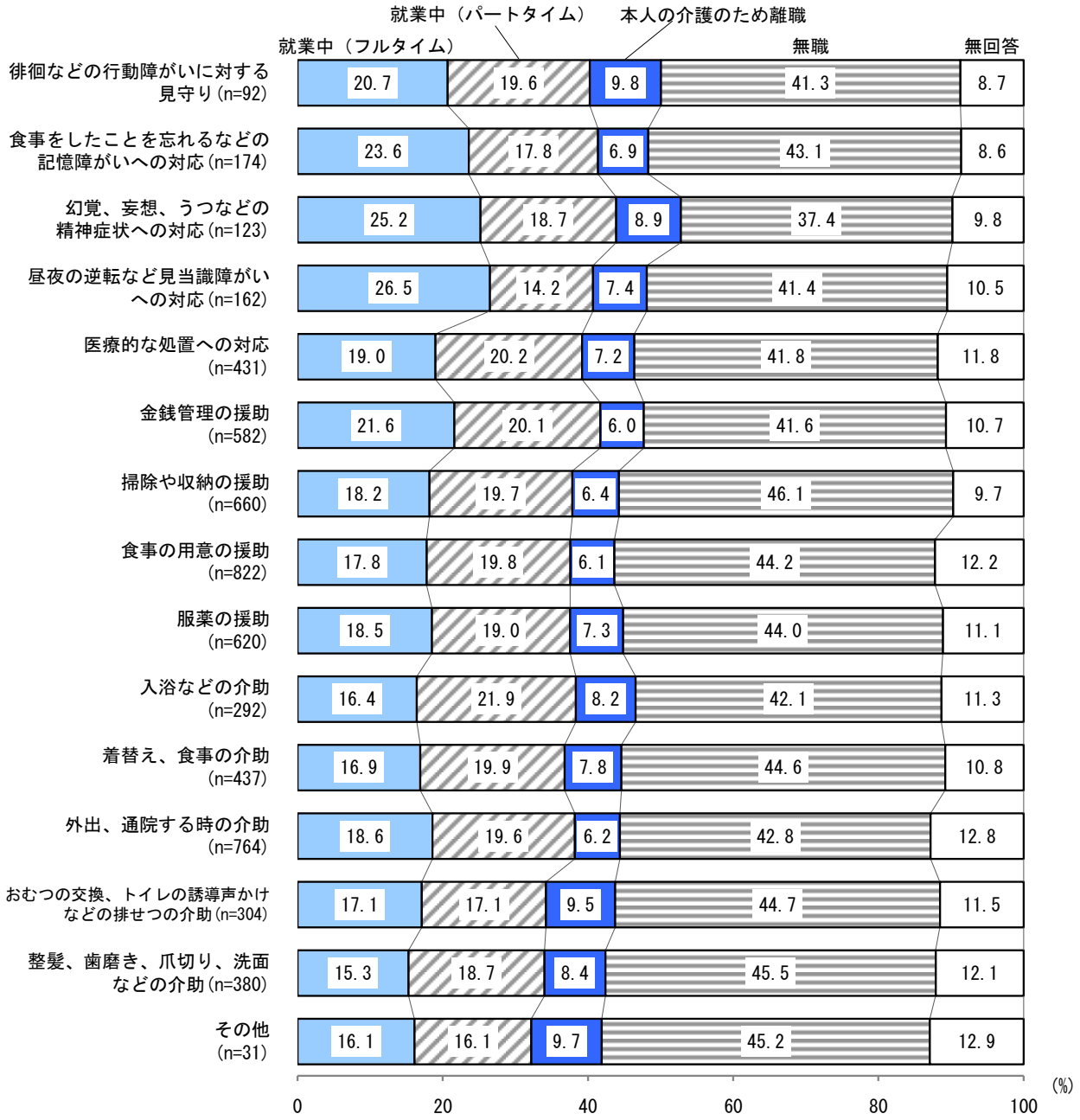
本人の認知症の程度別でみると、認知症の程度にかかわらず、介護者は「無職」が最も多くなっている。なお、常に介護を必要とする本人を介護する人では、「本人の介護のため離職」が14.7%と他の程度に比べて高い割合になっている。(A図30[35]-h)

【A図30[35]-h　介護者の就業状況（本人の認知症の程度別）】



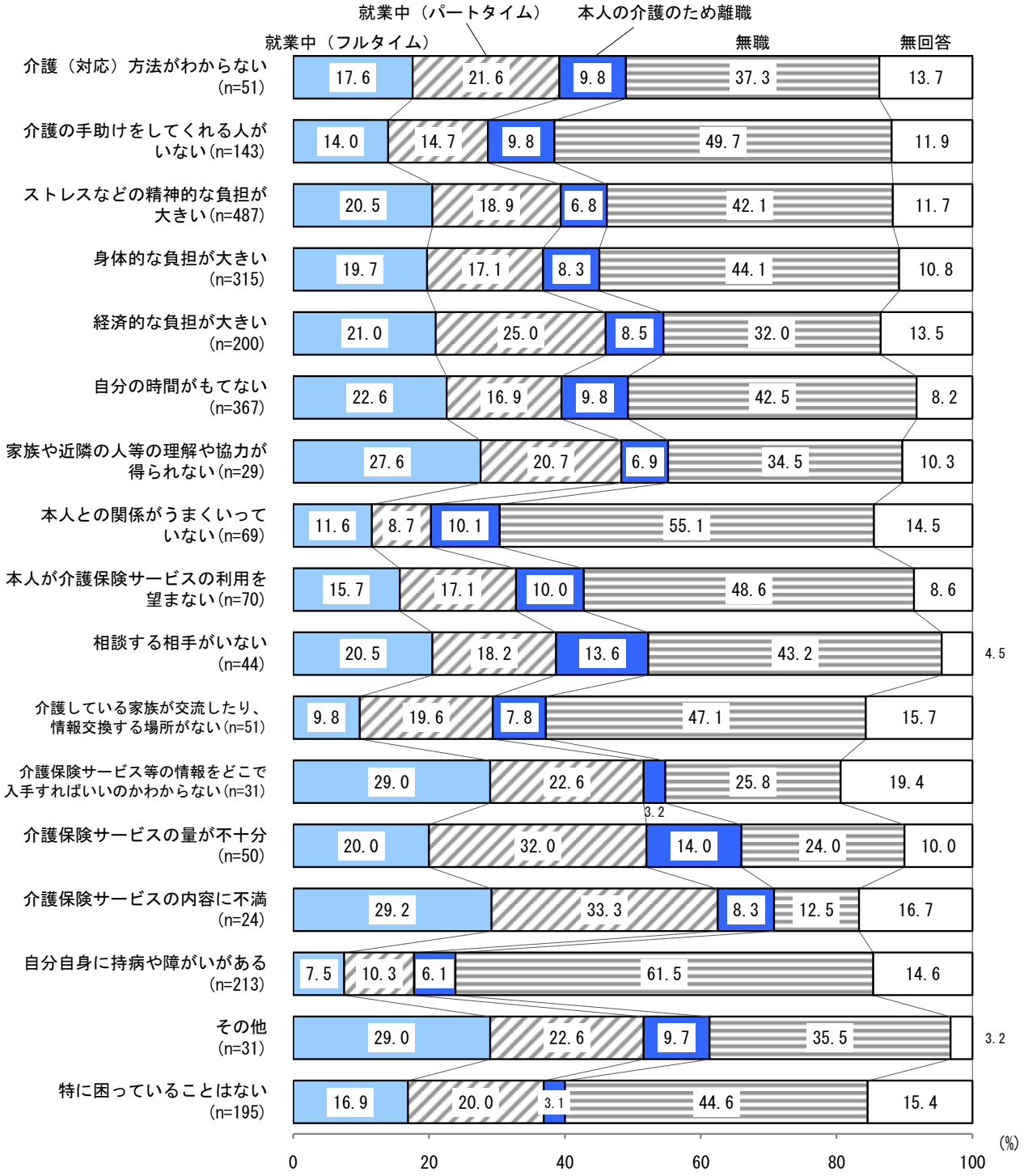
本人に行っている介護内容別でみると、介護内容にかかわらず、介護者は「無職」が最も多くなっている。「本人の介護のため離職」の割合では、行動障がいに対する見守りをしている介護者が9.8%で最も高く、次いで排せつの介助をしている介護者が9.5%、精神症状への対応をしている介護者が8.9%となっている。(A図30[35]-i)

【A図30[35]-i　介護者の就業状況（本人に行っている介護内容別）】



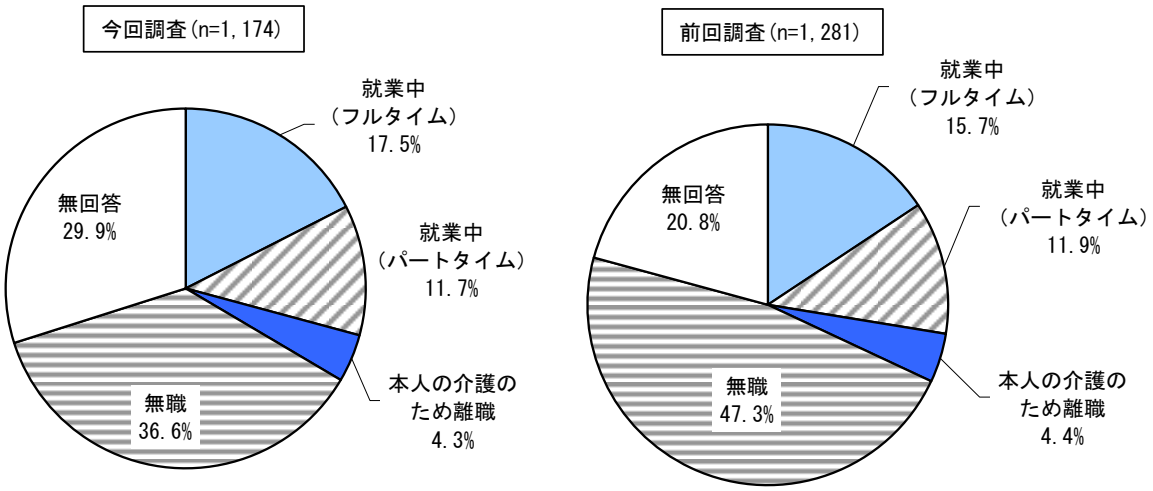
自宅での介護で困っていること別でみると、「無職」の割合が高いのは、介護の手助けをしてくれる人がいない介護者、本人との関係がうまくいっていない介護者、介護保険サービスの利用を望まない本人を介護している介護者、情報交換する場所がない介護者で５割前後となっている。また、介護保険サービス等の情報の入手方法がわからない介護者では「就業中（フルタイム）」が29.0％で最も多く、介護保険サービスの量や内容に不満がある介護者では「就業中（パートタイム）」が３割強で最も多くなっている。(A図30[35]-j)

【A図30[35]-j　介護者の就業状況（自宅での介護で困っていること別）】



＜Ｂ．サービス未利用者＞

【B図30[35]　介護者の就業状況（経年比較）】

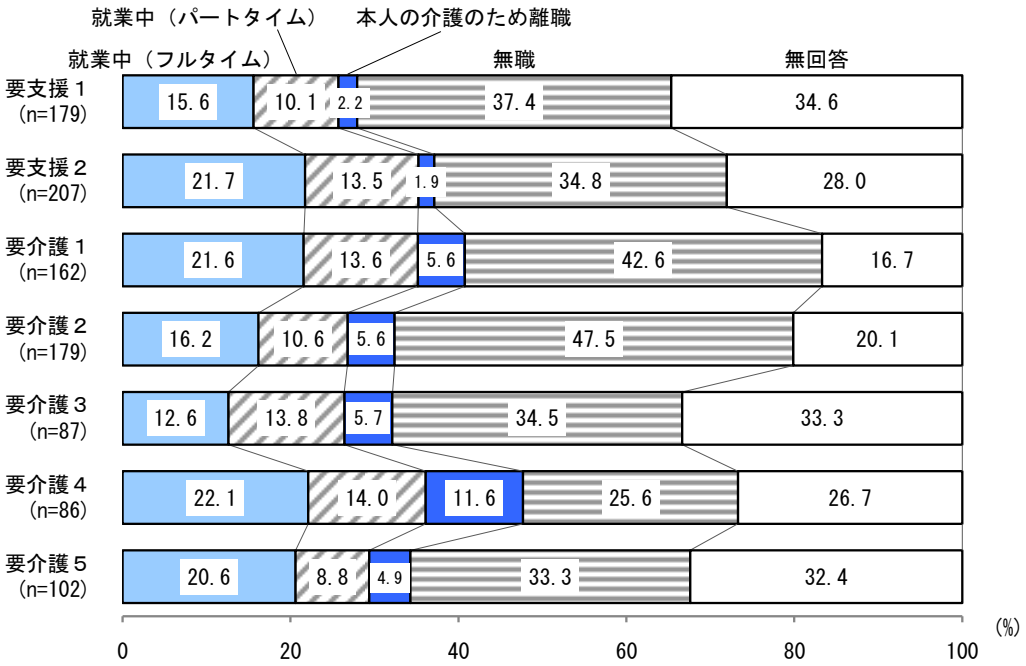


サービス未利用者の介護者の就業状況については、「無職」が36.6%で最も多く、次いで「就業中（フルタイム）」が17.5%、「就業中（パートタイム）」が11.7%となっている。また「本人の介護のため離職」は4.3%となっている。

前回調査と比較すると、「無職」が最も多い傾向は変わらない。(B図30[35])

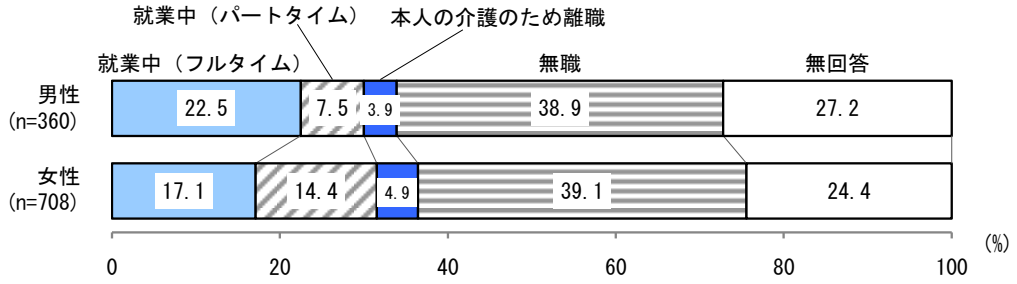
本人の要介護度別でみると、本人の要介護度にかかわらず、介護者は「無職」が最も多くなっている。就業している介護者の割合では、要支援２と要介護１・４を介護している人で３割台となっている。また、要介護４では「本人の介護のため離職」が11.6%と他の要介護度に比べて高い割合になっている。(B図30[35]-a)

【B図30[35]-a　介護者の就業状況（本人の要介護度別）】



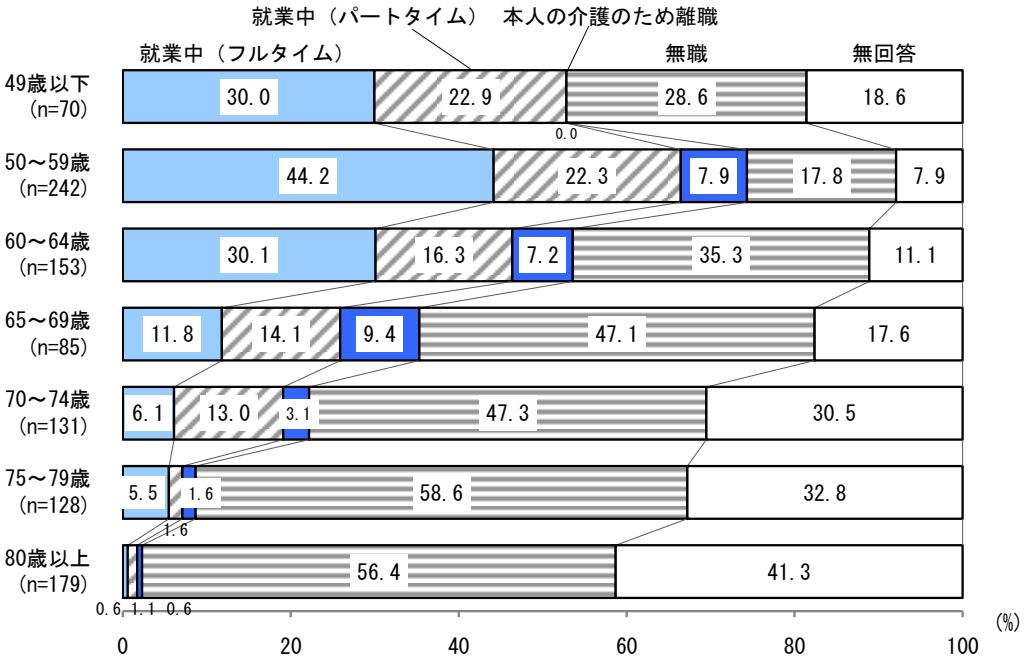
介護者の性別でみると、男女とも「無職」が４割弱で最も多くなっている。就業している介護者では、男女とも３割前後を占めているが、男性は「就業中（フルタイム）」（22.5%）が女性（17.1%）より5.4ポイント高く、女性は「就業中（パートタイム）」（14.4%）が男性（7.5%）より6.9ポイント高い割合になっている。(B図30[35]-b)

【B図30[35]-b　介護者の就業状況（介護者の性別）】



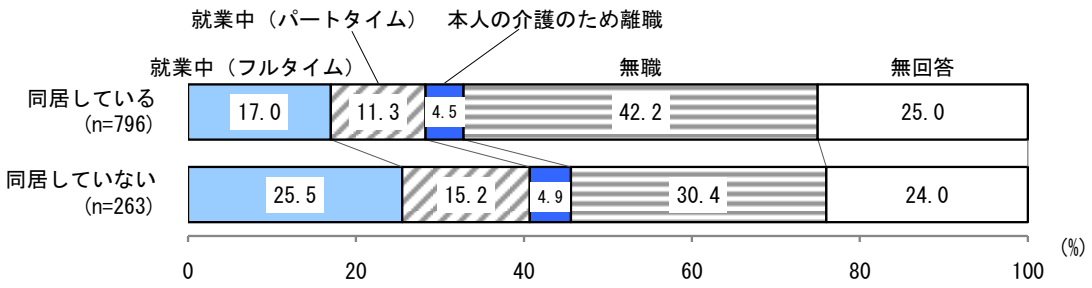
介護者の年齢別でみると、59歳以下の各年代の介護者は「就業中（フルタイム）」が最も多く、就業している割合は49歳以下が52.9%、50～59歳が66.5%となっている。60～64歳では「無職」が35.3%で最も多いが、就業している割合は46.4%を占めている。65歳以降になると、就業している介護者の割合は低くなっている。なお、「本人の介護のため離職」の割合では、65～69歳の介護者が9.4%で最も高く、次いで50～59歳の介護者が7.9%、60～64歳の介護者が7.2%となっている。(B図30[35]-c)

【B図30[35]-c　介護者の就業状況（介護者の年齢別）】



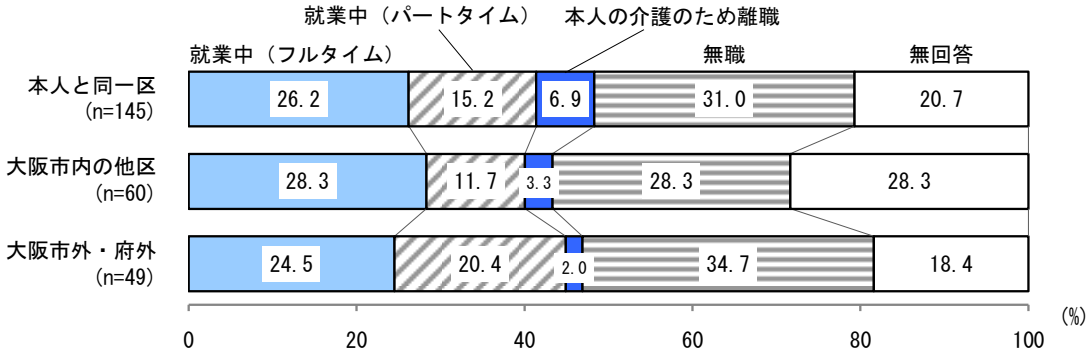
同居有無別でみると、同居の有無にかかわらず「無職」が最も多く、同居している介護者は42.2%、同居していない介護者は30.4%で、同居している介護者のほうが11.8ポイント高い割合になっている。一方、就業している介護者の割合では、同居していない介護者が40.7%に対し、同居している介護者は28.3%で、同居していない介護者のほうが12.4ポイント高くなっている。(B図30[35]-d)

【B図30[35]-d　介護者の就業状況（同居有無別）】



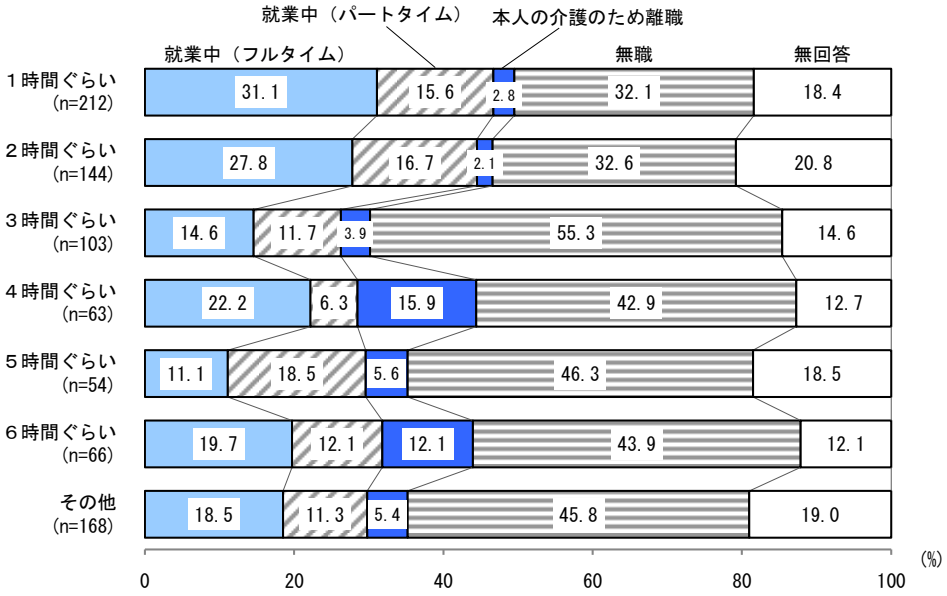
同居していない介護者の居住区別でみると、本人と同一区の介護者と大阪市外・府外の介護者は「無職」が３割台で最も多く、大阪市内の他区の介護者では「就業中（フルタイム)」と「無職」がともに28.3%で最も多くなっている。なお、就業している介護者の割合では、本人との居住距離にかかわらず４割強を占めている。また、「本人の介護のため離職」の割合では、本人との居住距離が近いほど割合が高くなる傾向がみられる。(B図30[35]-e)

【B図30[35]-e　介護者の就業状況（同居していない介護者の居住区別）】



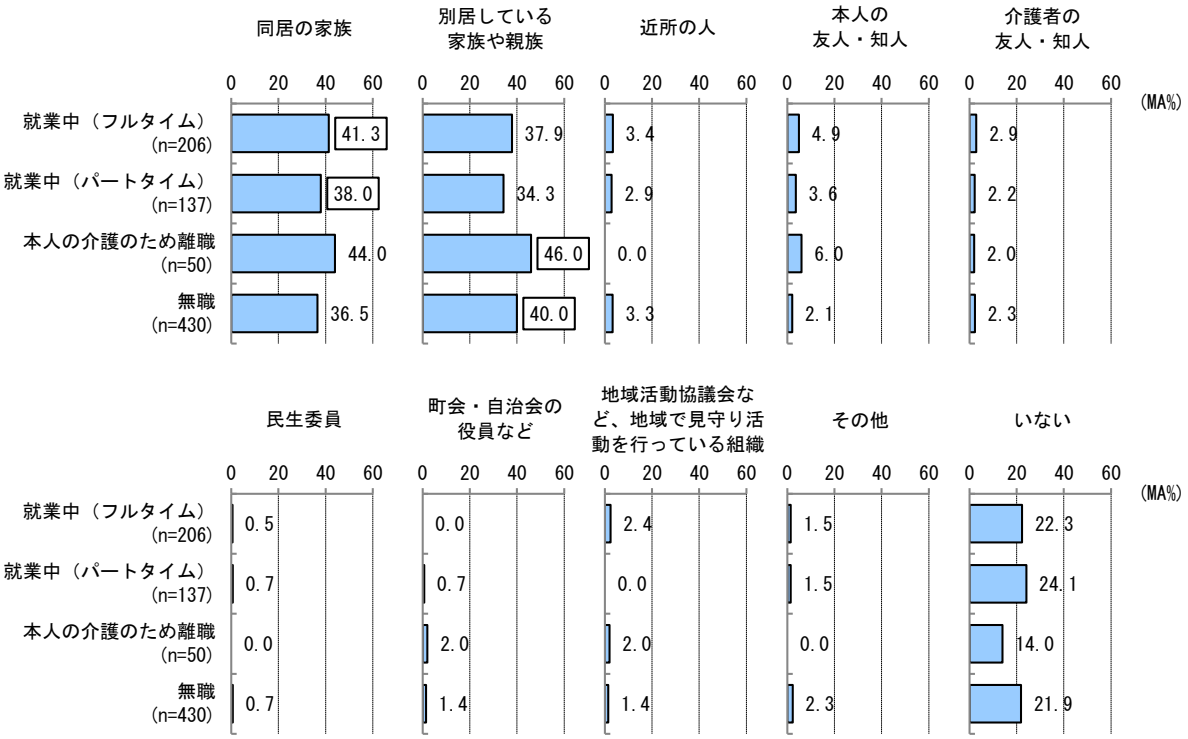
１日平均の介護時間別でみると、介護時間にかかわらず「無職」が最も多くなっているが、就業している割合では、２時間ぐらいまで介護をしている介護者が４割台となっている。また、「本人の介護のため離職」の割合では、４時間ぐらいの介護をしている介護者が15.9％で最も高く、次いで６時間ぐらいの介護をしている介護者が12.1％となっている。(B図30[35]-f)

【B図30[35]-f　介護者の就業状況（１日平均の介護時間別）】



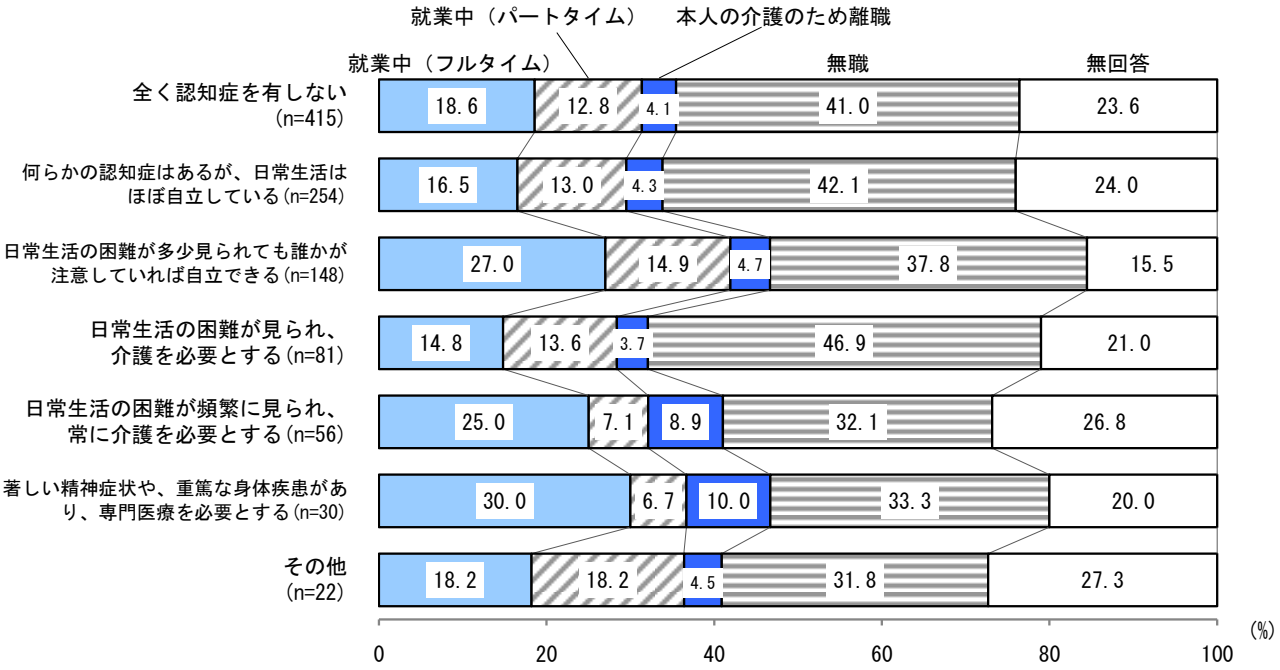
介護を手助けしてくれる人の有無を、介護者の就業状況別でみると、就業している介護者は「同居の家族」が４割前後で最も多く、離職や無職の介護者は「別居している家族や親族」が４割台で最も多くなっている。また、「(介護を手助けしてくれる人が）いない」の割合では、離職した介護者が14.0％で、就業中や無職の介護者に比べて低くなっている。(B図30[35]-g)

【B図30[35]-g　介護を手助けしてくれる人の有無（介護者の就業状況別）】



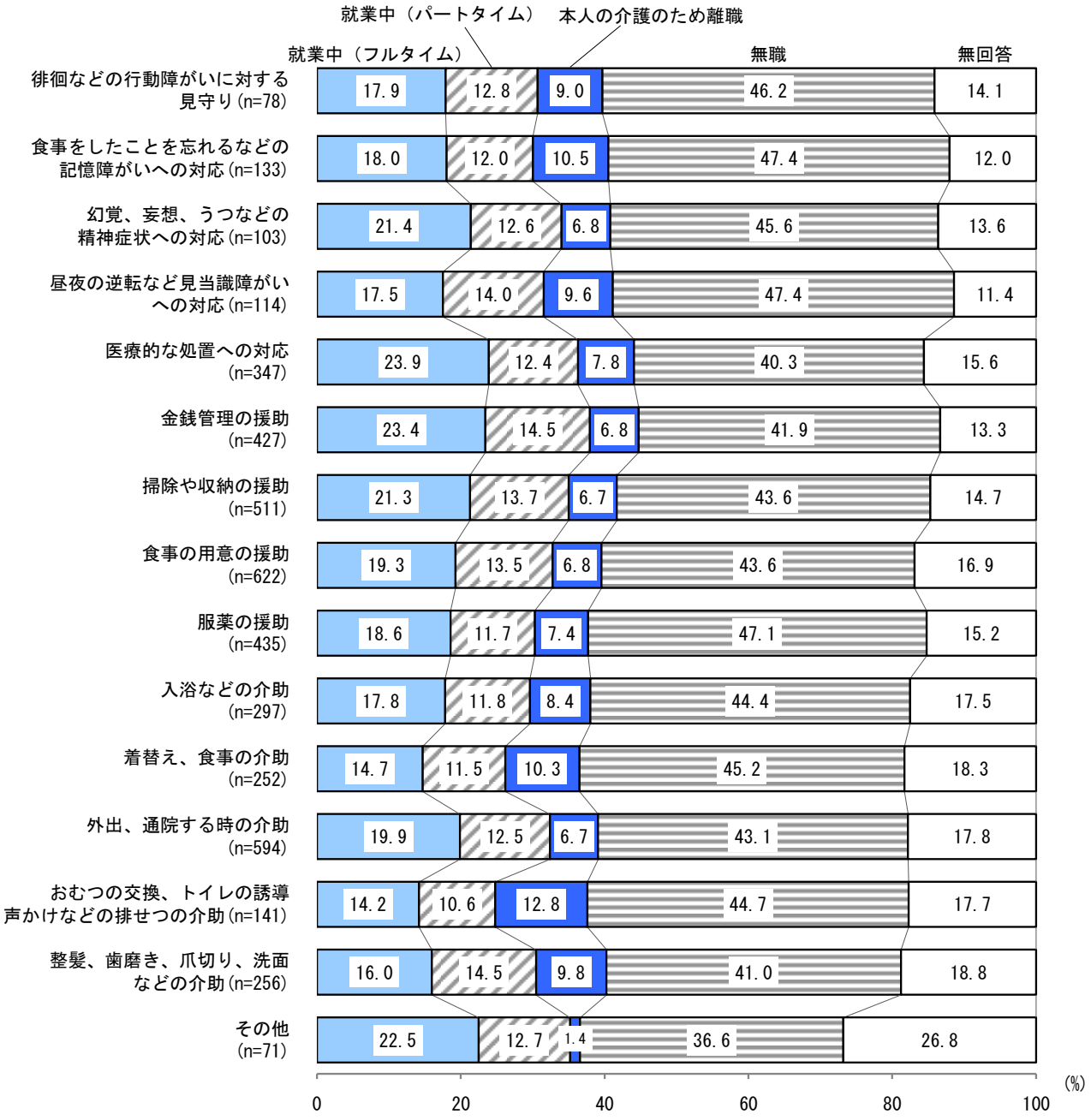
本人の認知症の程度別でみると、認知症の程度にかかわらず、介護者は「無職」が最も多くなっている。なお、「本人の介護のため離職」の割合では、専門医療を必要とする本人を介護している介護者が10.0%で最も高く、次いで、常に介護が必要な本人を介護している介護者が8.9%となっている。(B図30[35]-h)

【B図30[35]-h　介護者の就業状況（本人の認知症の程度別）】



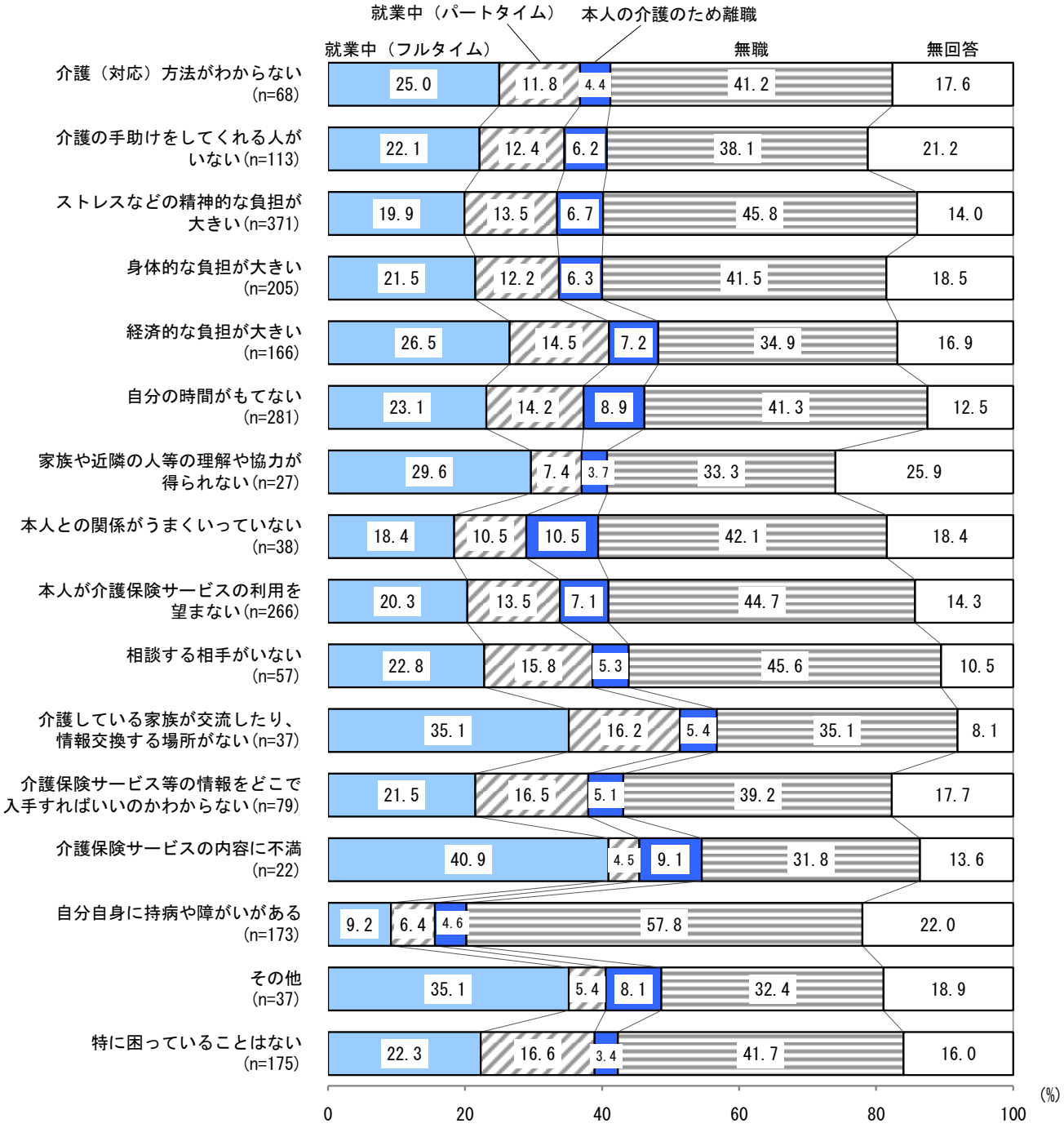
本人に行っている介護内容別でみると、介護内容にかかわらず、介護者は「無職」が最も多くなっている。「本人の介護のため離職」の割合では、排せつの介助をしている介護者が12.8%で最も高く、次いで記憶障がいの対応をしている介護者が10.5%、着替え・食事の介助をしている介護者が10.3%となっている。(B図30[35]-i)

【B図30[35]-i　介護者の就業状況（本人に行っている介護内容別）】



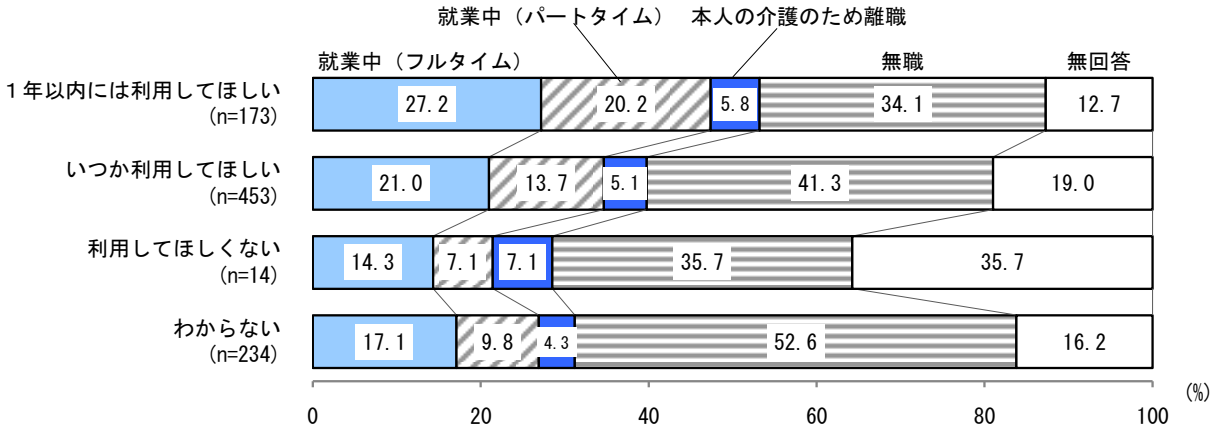
自宅での介護で困っていること別でみると、「就業中（フルタイム）」の割合が高いのは、介護保険サービスの内容に不満がある介護者が40.9%、情報交換する場所がない介護者が35.1%、周りの理解や協力が得られない介護者が29.6%となっている。また、「本人の介護のため離職」の割合では、本人との関係がうまくいっていない介護者が10.5%で最も高くなっている。(B図30[35]-j)

【B図30[35]-j　介護者の就業状況（自宅での介護で困っていること別）】



本人に対する介護保険サービスの利用意向別でみると、利用意向の有無にかかわらず、「無職」が最も多くなっている。しかし、介護者の利用意向が高くなるほど「就業中（フルタイム）」と「就業中（パートタイム）」の割合が高い傾向がみられる。(B図30[35]-k)

【B図30[35]-k　介護者の就業状況（本人に対する介護保険サービスの利用意向別）】

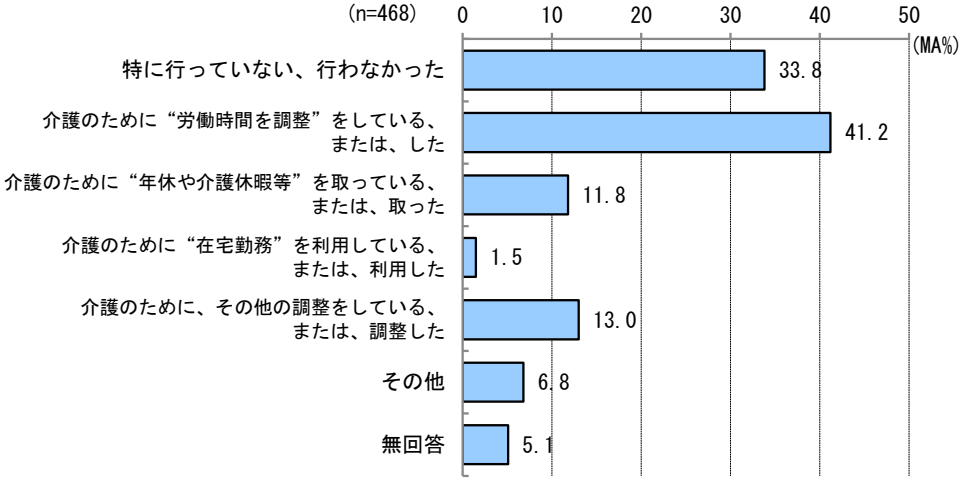


問31[36]　介護をするにあたって行っている働き方の調整

【問30[35]で「１　就業中（フルタイム）」、「２　就業中（パートタイム）」、「３　本人の介護のため離職」と回答された方のみお答えください。】
主な介護者は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか、または、していましたか。（○はいくつでも）

＜Ａ．サービス利用者＞

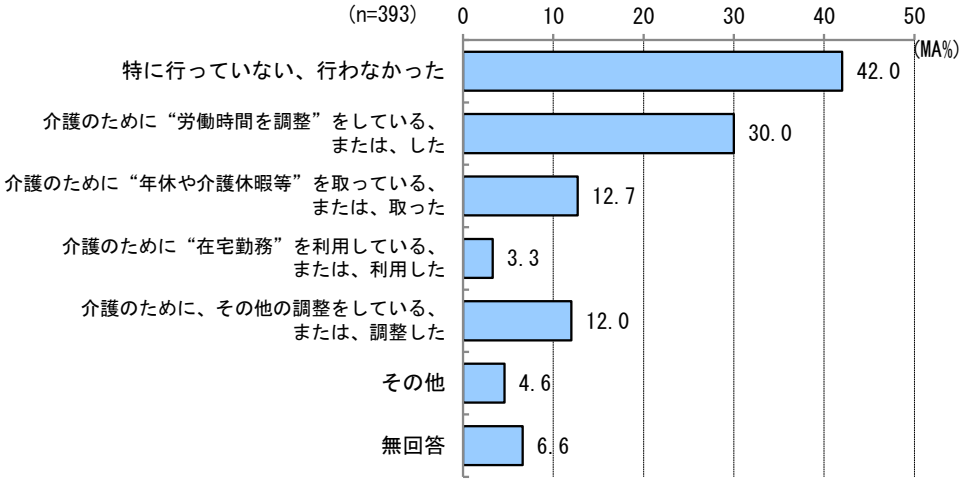
【A図31[36]　介護をするにあたって行っている働き方の調整】



サービス利用者の介護をするにあたって行っている働き方の調整については、「介護のために“労働時間を調整”をしている、または、した」が41.2%で最も多く、次いで「特に行っていない、行わなかった」が33.8%、「介護のために、その他の調整をしている、または、調整した」が13.0%となっている。(A図31[36])

＜Ｂ．サービス未利用者＞

【B図31[36]　介護をするにあたって行っている働き方の調整】



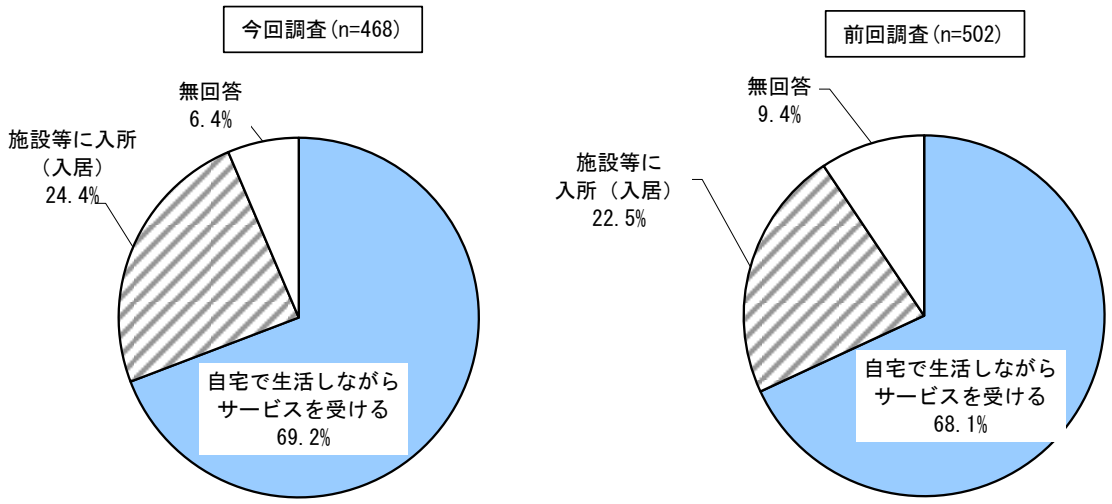
サービス未利用者の介護をするにあたって行っている働き方の調整については、「特に行っていない、行わなかった」が42.0%で最も多く、次いで「介護のために“労働時間を調整”をしている、または、した」が30.0%、「介護のために“年休や介護休暇等”を取っている、または、取った」が12.7%となっている。(B図31[36])

問32[37]　仕事を続けるにあって必要な介護保険サービス

【問30[35]で「１　就業中（フルタイム）」、「２　就業中（パートタイム）」、「３　本人の介護のため離職」と回答された方のみお答えください。】
仕事を続けていくにあたって、必要と思われる介護保険サービスはどちらですか。（○はひとつ）

＜Ａ．サービス利用者＞

【A図32[37]　仕事を続けるにあたって必要な介護保険サービス（経年比較）】

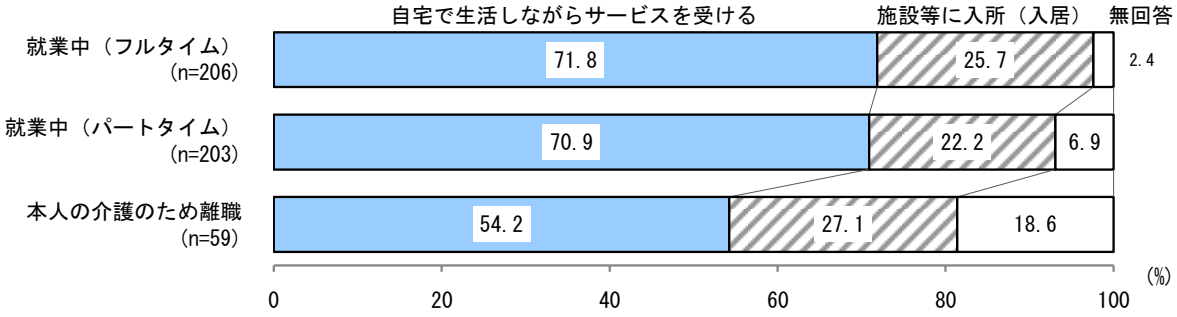


就業中、またはサービス利用者本人の介護のため離職と回答した介護者に、仕事を続けるにあたって必要な介護保険サービスをたずねると、「自宅で生活しながらサービスを受ける」が69.2%、「施設等に入所（入居）」が24.4%となっている。

前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。(A図32[37])

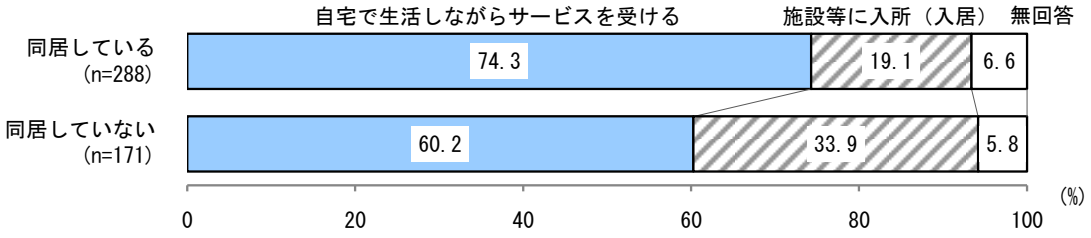
介護者の就業状況別でみると、就業状況にかかわらず「自宅で生活しながらサービスを受ける」のほうが多くなっており、現在就業中の介護者のほうが高い割合になっている。(A図32[37]-a)

【A図32[37]-a　仕事を続けるにあたって必要な介護保険サービス（介護者の就業状況別）】



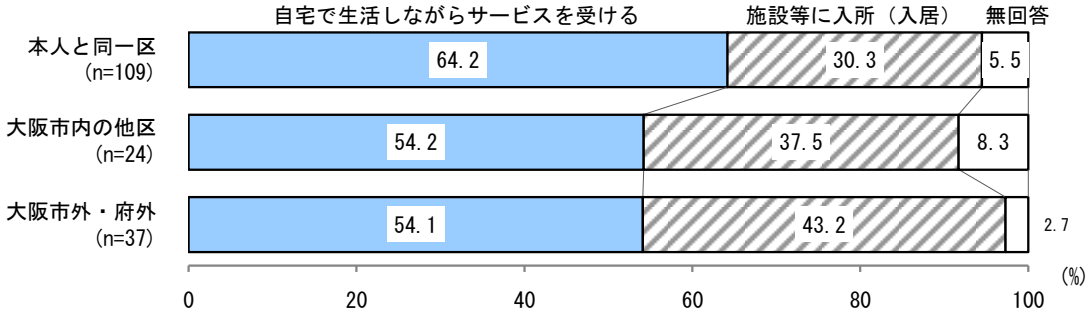
同居有無別でみると、同居の有無にかかわらず「自宅で生活しながらサービスを受ける」のほうが多くなっており、同居している介護者のほうが14.1ポイント高い割合になっている。一方、同居していない介護者では「施設等に入所(入居)」が33.9%を占めている。(A図32[37]-b)

【A図32[37]-b　仕事を続けるにあたって必要な介護保険サービス（同居有無別）】



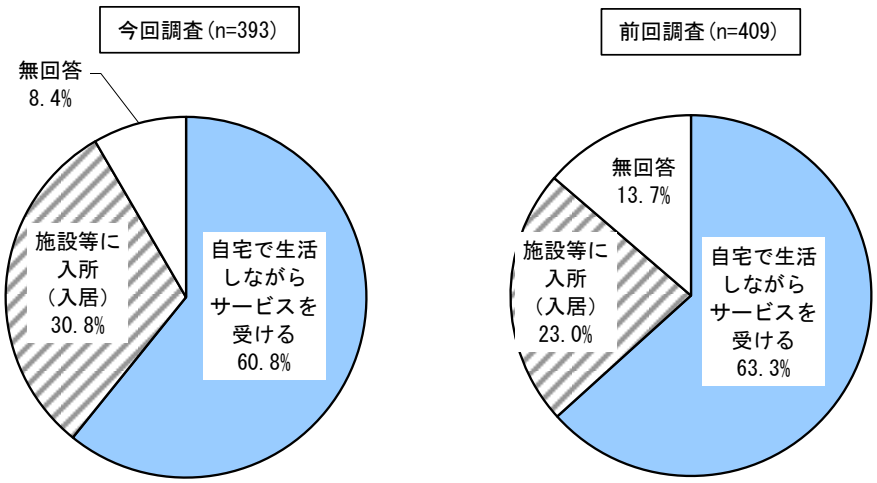
同居していない介護者の居住区別でみると、本人との居住距離にかかわらず「自宅で生活しながらサービスを受ける」のほうが多くなっており、特に本人と同一区の介護者が64.2%で、それより遠方に住む介護者に比べて10ポイント高い割合になっている。また、「施設等に入所（入居）」の割合は、本人との居住距離が遠くなるほど割合が高くなる傾向にある。(A図32[37]-c)

【A図32[37]-c　仕事を続けるにあたって必要な介護保険サービス（同居していない介護者の居住区別）】



＜Ｂ．サービス未利用者＞

【B図32[37]　仕事を続けるにあたって必要な介護保険サービス（経年比較）】

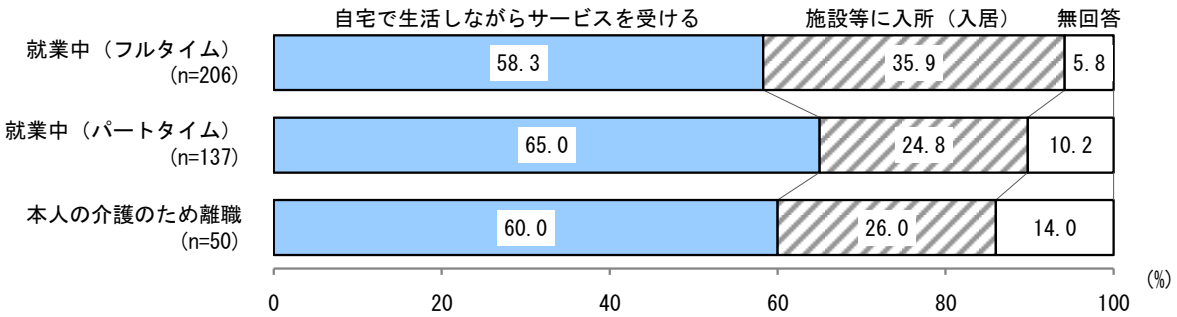


就業中、またはサービス未利用者本人の介護のため離職と回答した介護者に、仕事を続けるにあたって必要な介護保険サービスをたずねると、「自宅で生活しながらサービスを受ける」が60.8%、「施設等に入所（入居）」が30.8%となっている。

前回調査と比較すると、「施設等に入所（入居）」の割合が7.8ポイント高くなっている。(B図32[37])

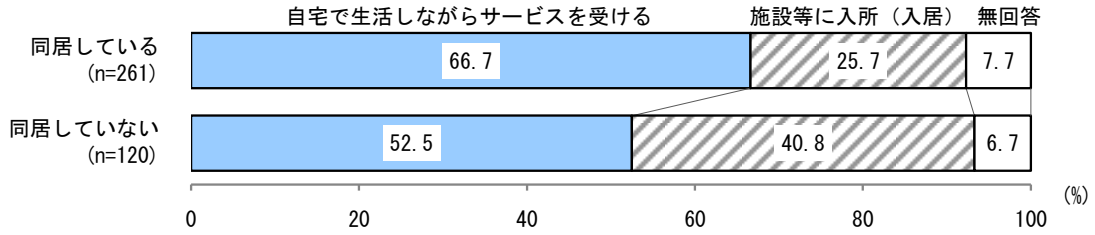
介護者の就業状況別でみると、就業状況にかかわらず「自宅で生活しながらサービスを受ける」のほうが多くなっており、パートタイムの介護者が65.0%で最も高い割合になっている。一方、「施設等に入所（入居）」の割合では、フルタイムの介護者が35.9%で他に比べて高い割合になっている。(B図32[37]-a)

【B図32[37]-a　仕事を続けるにあたって必要な介護保険サービス（介護者の就業状況別）】



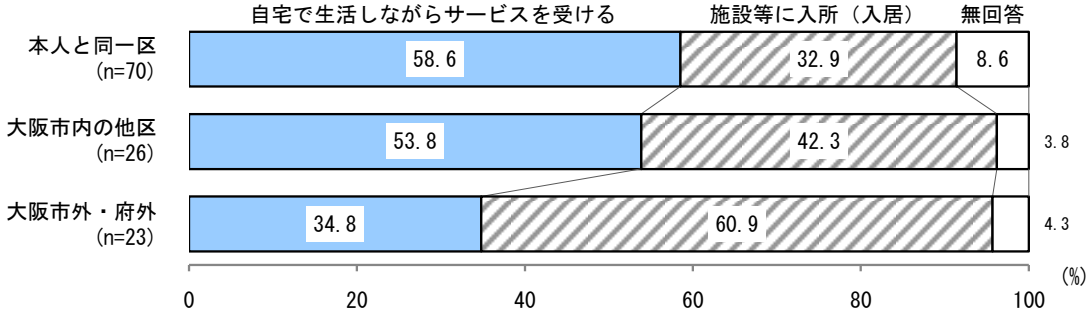
同居有無別でみると、同居の有無にかかわらず「自宅で生活しながらサービスを受ける」のほうが多く、同居している介護者は66.7%、同居していない介護者は52.5%で、同居している介護者のほうが14.2ポイント高い割合になっている。一方、「施設等に入所（入居）」の割合では、同居していない介護者が40.8%となっている。(B図32[37]-b)

【B図32[37]-b　仕事を続けるにあたって必要な介護保険サービス（同居有無別）】



同居していない介護者の居住区別でみると、大阪市内の他区と大阪市外・府外の介護者の母数は少ないので一概には言えないが、大阪市内の介護者は「自宅で生活しながらサービスを受ける」のほうが多く、大阪市外・府外の介護者は「施設等に入所（入居）」のほうが多くなっている。また、本人との居住距離が近くなるほど「自宅で生活しながらサービスを受ける」の割合が高くなる傾向にある。(B図32[37]-c)

【B図32[37]-c　仕事を続けるにあたって必要な介護保険サービス（同居していない介護者の居住区別）】

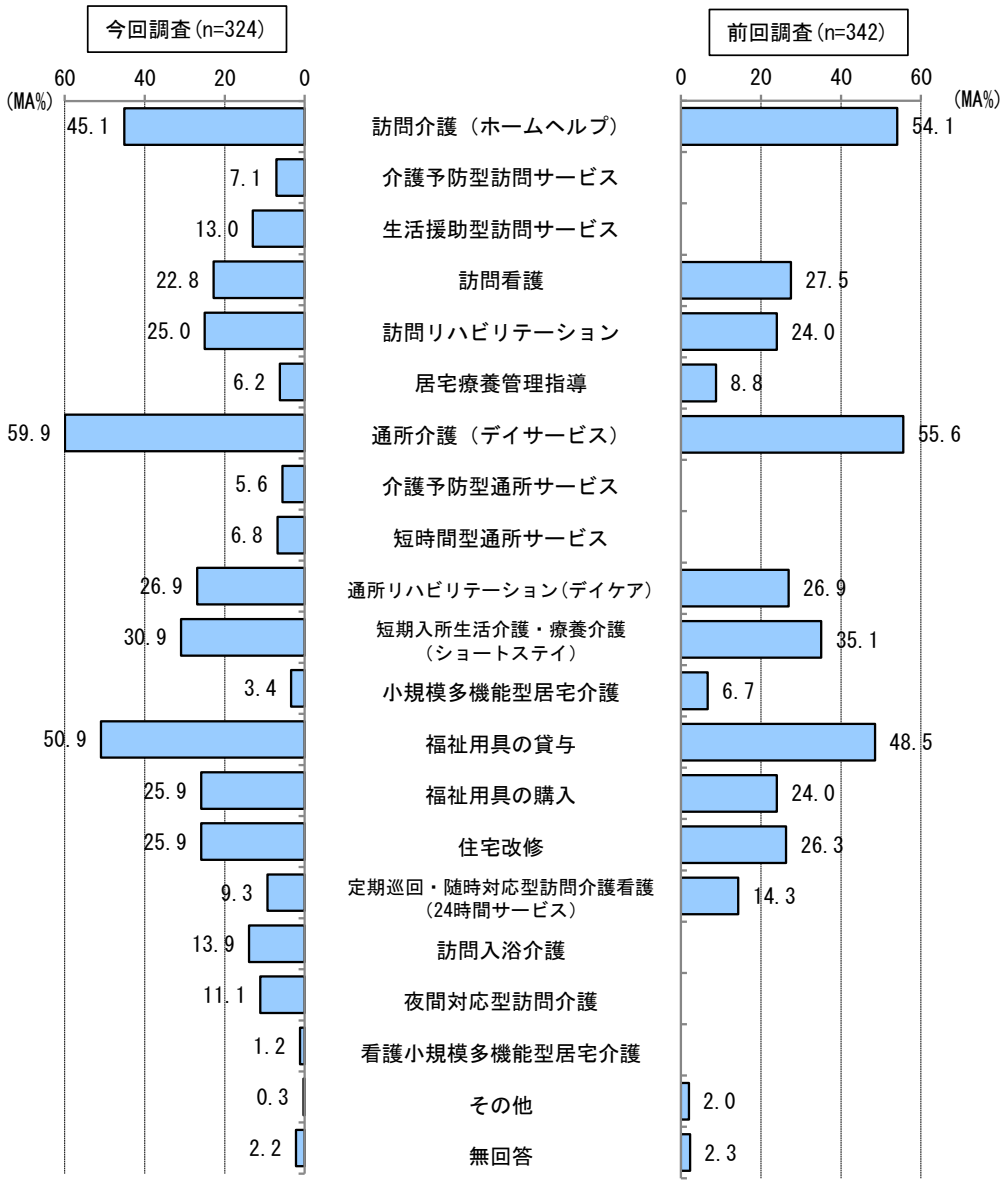


問32-1[37-1]　仕事を続けるのに必要な居宅サービス

【問32[37]で「１　自宅で生活しながらサービスを受ける」と回答された方におうかがいします。】
具体的にどのサービスが必要ですか。（○はいくつでも）

＜Ａ．サービス利用者＞

【A図32-1[37-1]　仕事を続けるのに必要な居宅サービス（経年比較）】



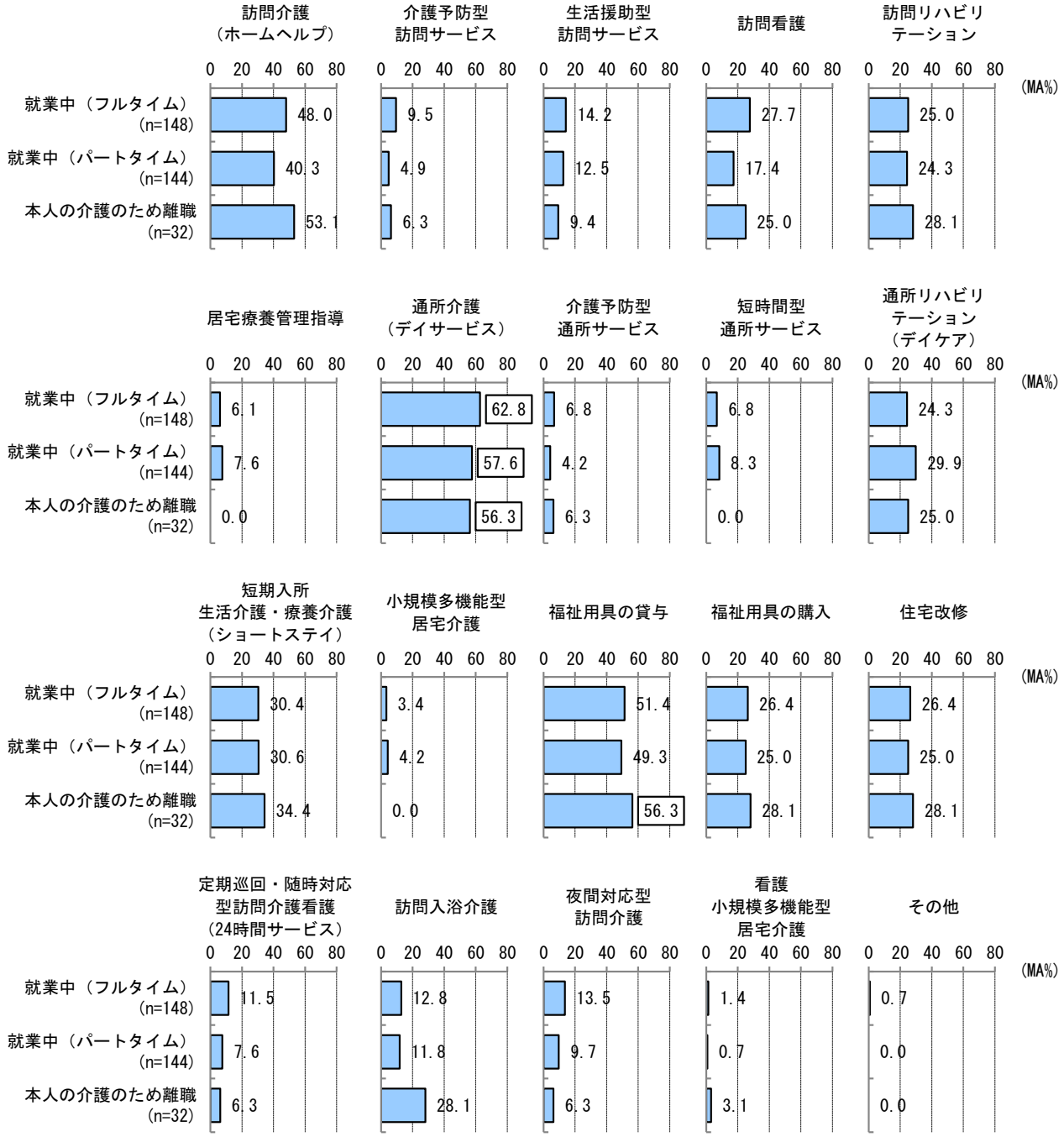
※「介護予防型訪問サービス」「生活援助型訪問サービス」「介護予防型通所サービス」「短時間型通所サービス」「訪問入浴介護」「夜間対応型訪問介護」「看護小規模多機能型居宅介護」は、今回調査の新規項目である。

仕事を続けるために、自宅で生活しながらサービスを受けると回答した介護者に、サービス利用者本人に必要な居宅サービスをたずねると、「通所介護（デイサービス）」が59.9％で最も多く、次いで「福祉用具の貸与」が50.9％、「訪問介護（ホームヘルプ）」が45.1％となっている。

前回調査と設問項目が異なるため一概には比較できないが、上記３項目が多い傾向は変わらない。(A図32-1[37-1])

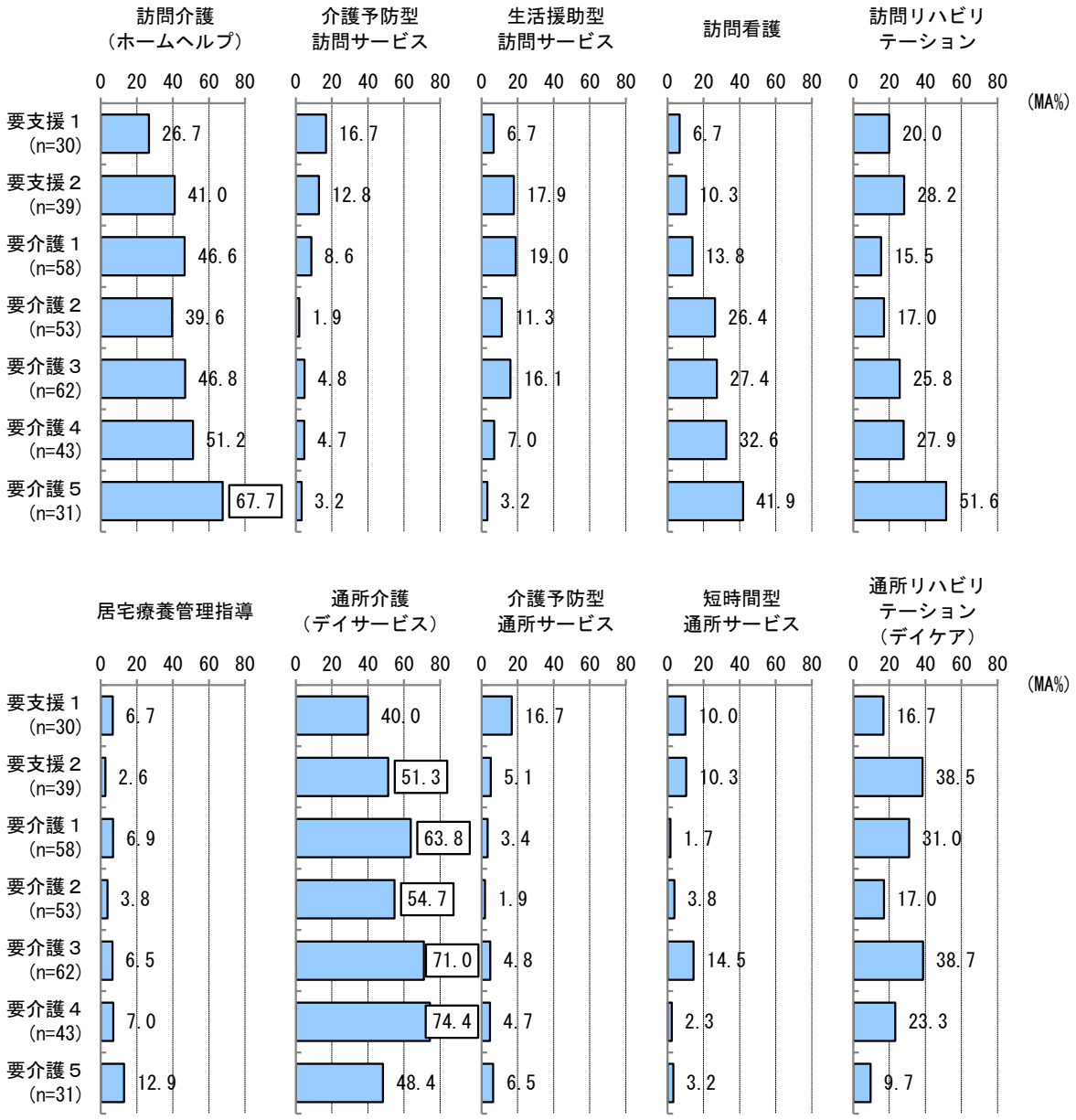
介護者の就業状況別でみると、就業状況にかかわらず「通所介護（デイサービス）」が６割前後で最も多くなっており、離職した介護者は同率で「福祉用具の貸与」も最も多くなっている。(A図32-1[37-1]-a)

【A図32-1[37-1]-a　仕事を続けるのに必要な居宅サービス（介護者の就業状況別）】

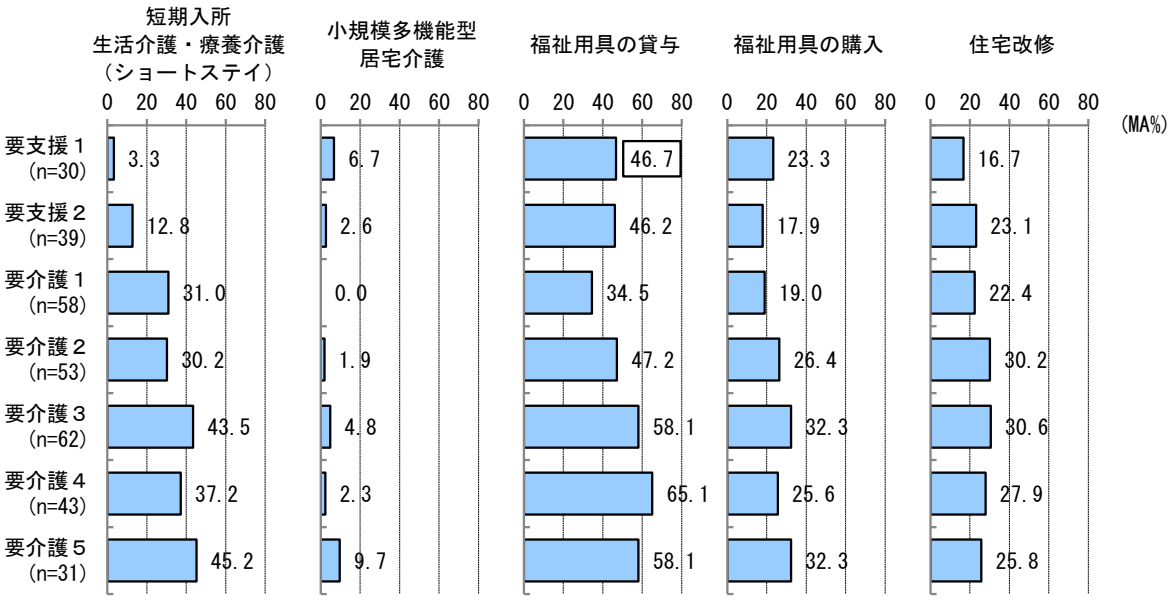


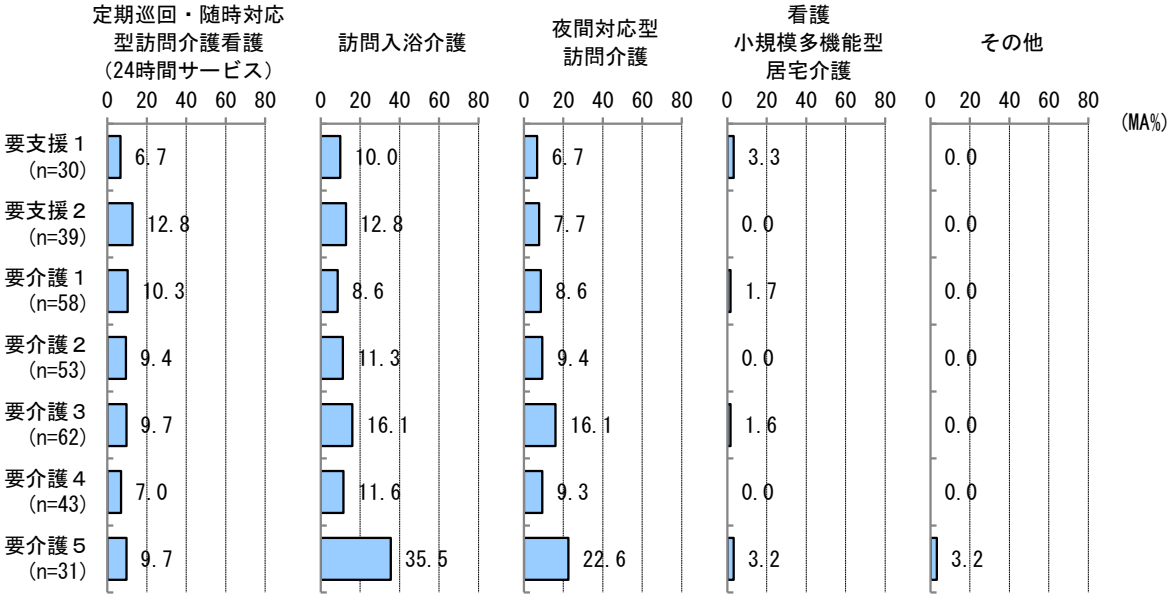
本人の要介護度別でみると、要支援１は「福祉用具の貸与」、要支援２と要介護１～４は「通所介護（デイサービス）」、要介護５は「訪問介護（ホームヘルプ）」が、それぞれ最も多くなっている。また、重度になるほど「訪問介護（ホームヘルプ）」「訪問介護」「短期入所生活介護・療養介護（ショートステイ）」の割合が高くなる傾向がみられる。（A図32-1[37-1]-b）

【A図32-1[37-1]-b　仕事を続けるのに必要な居宅サービス（本人の要介護度別）①】



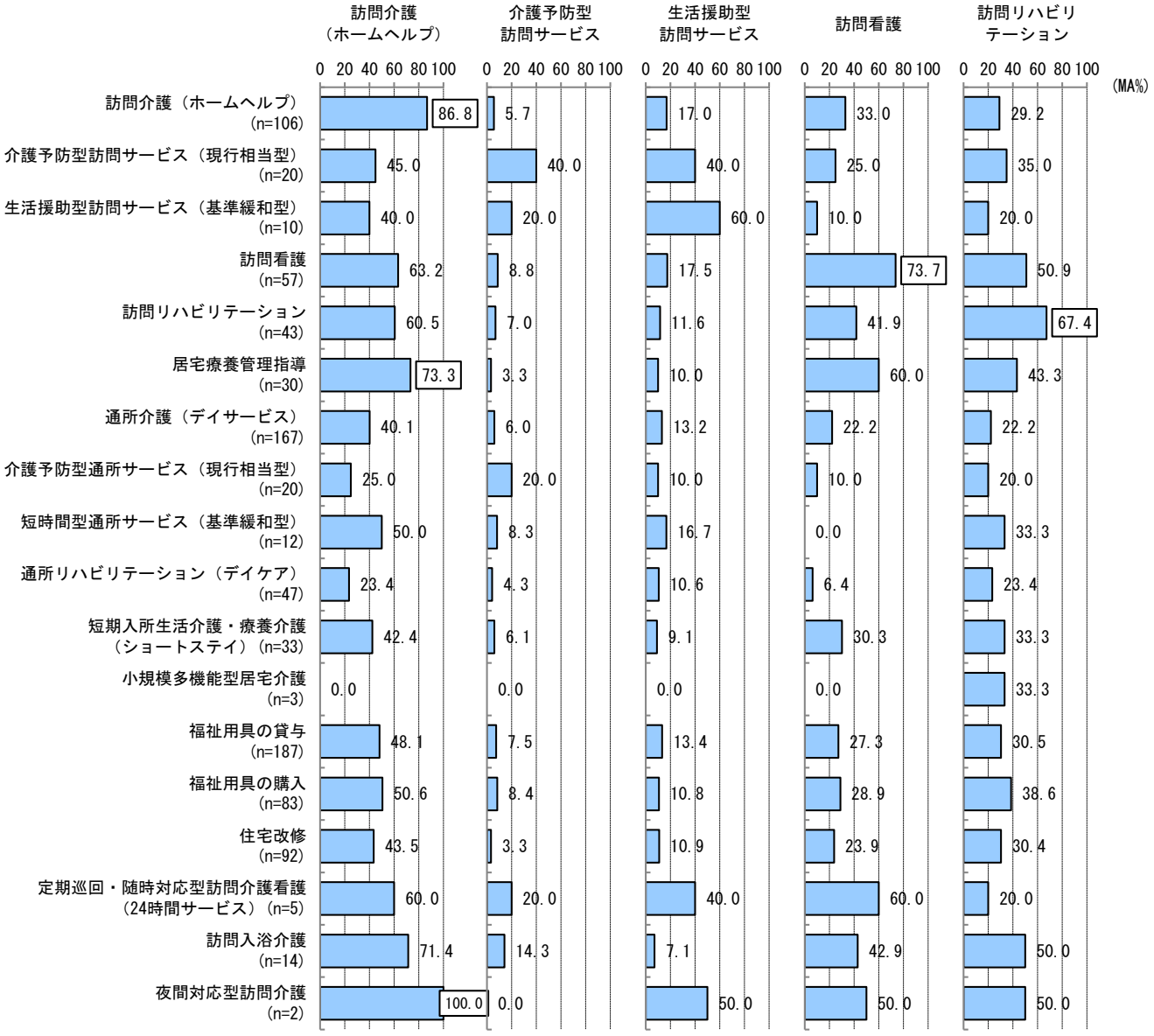
【A図32-1[37-1]-b　仕事を続けるのに必要な居宅サービス（本人の要介護度別）②】



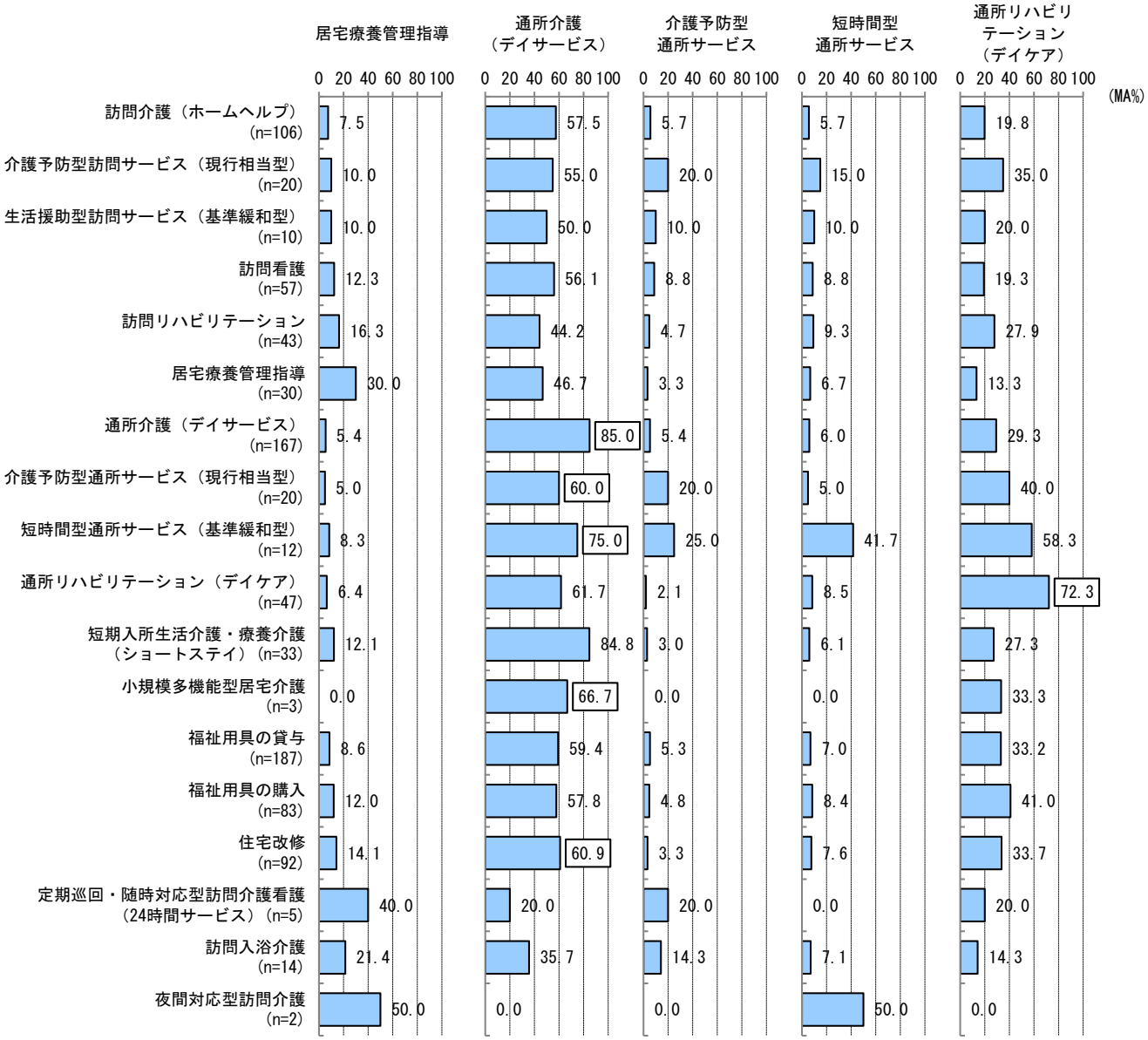


現在利用している介護保険サービス及び介護予防サービス別でみると、現在利用中のサービスが今後も必要であると最も多く回答されたサービスは、「訪問介護（ホームヘルプ）」「訪問看護」「訪問リハビリテーション」「通所介護（デイサービス）」「通所リハビリテーション（デイケア）」「短期入所生活介護・療養介護（ショートステイ）」「小規模多機能型居宅介護」「福祉用具の貸与」「訪問入浴介護」「夜間対応型訪問介護」となっている。(A図32-1[37-1]-c)

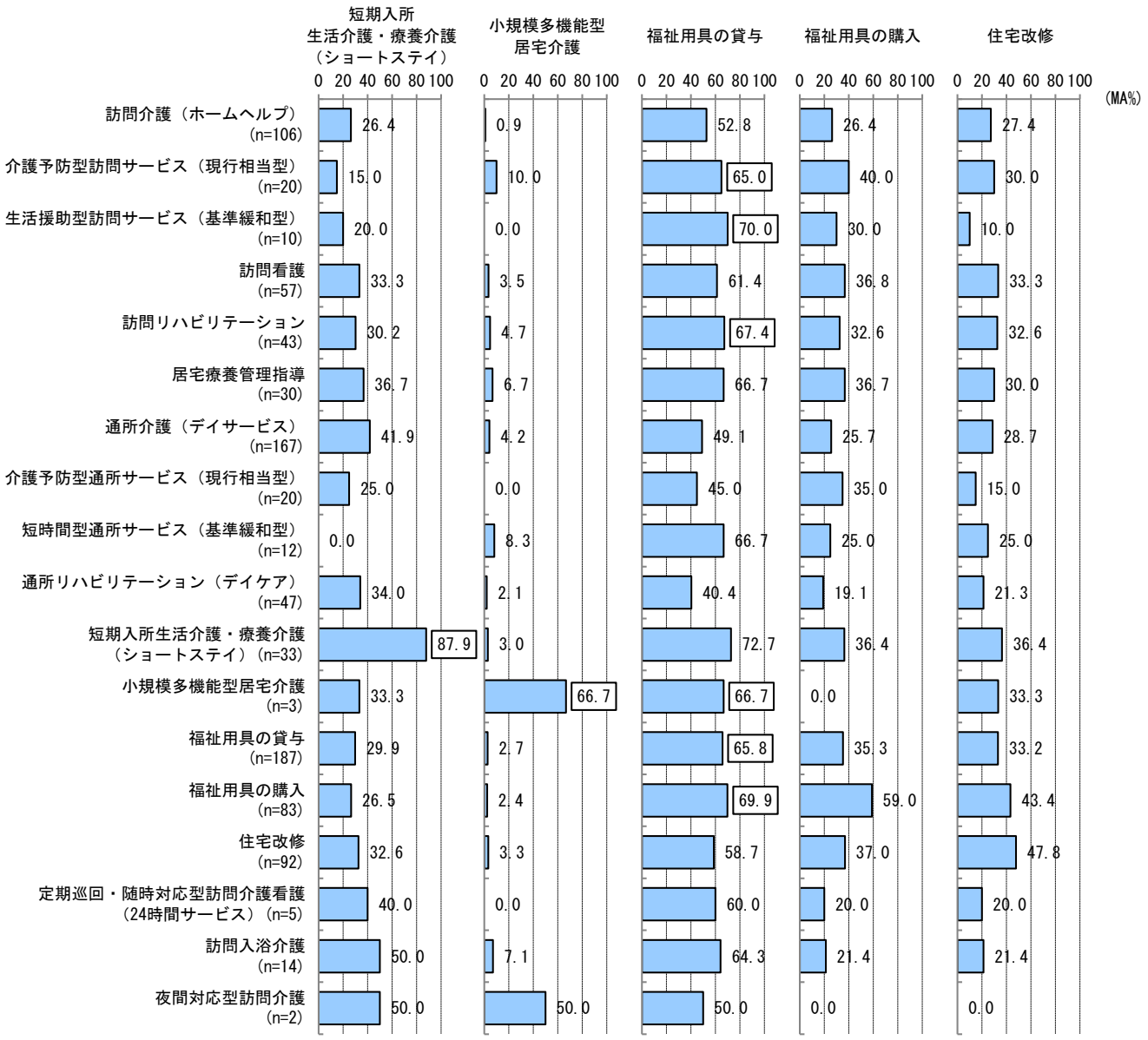
【A図32-1[37-1]-c　仕事を続けるのに必要な居宅サービス（現在利用している介護保険サービス及び介護予防サービス別）①】



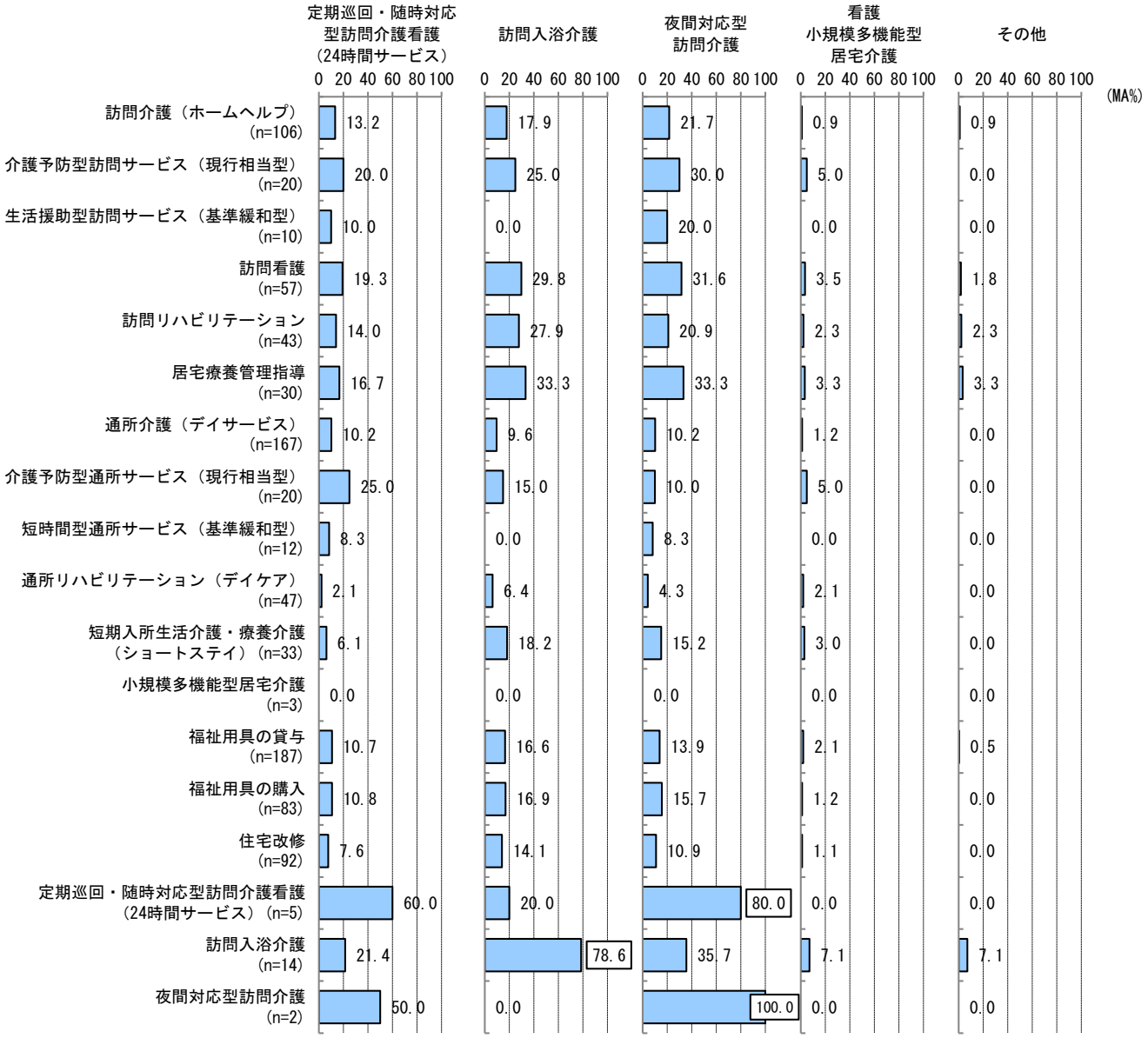
【A図32-1[37-1]-c　仕事を続けるのに必要な居宅サービス(現在利用している介護保険サービス及び介護予防サービス別)②】



【A図32-1[37-1]-c　仕事を続けるのに必要な居宅サービス(現在利用している介護保険サービス及び介護予防サービス別)③】



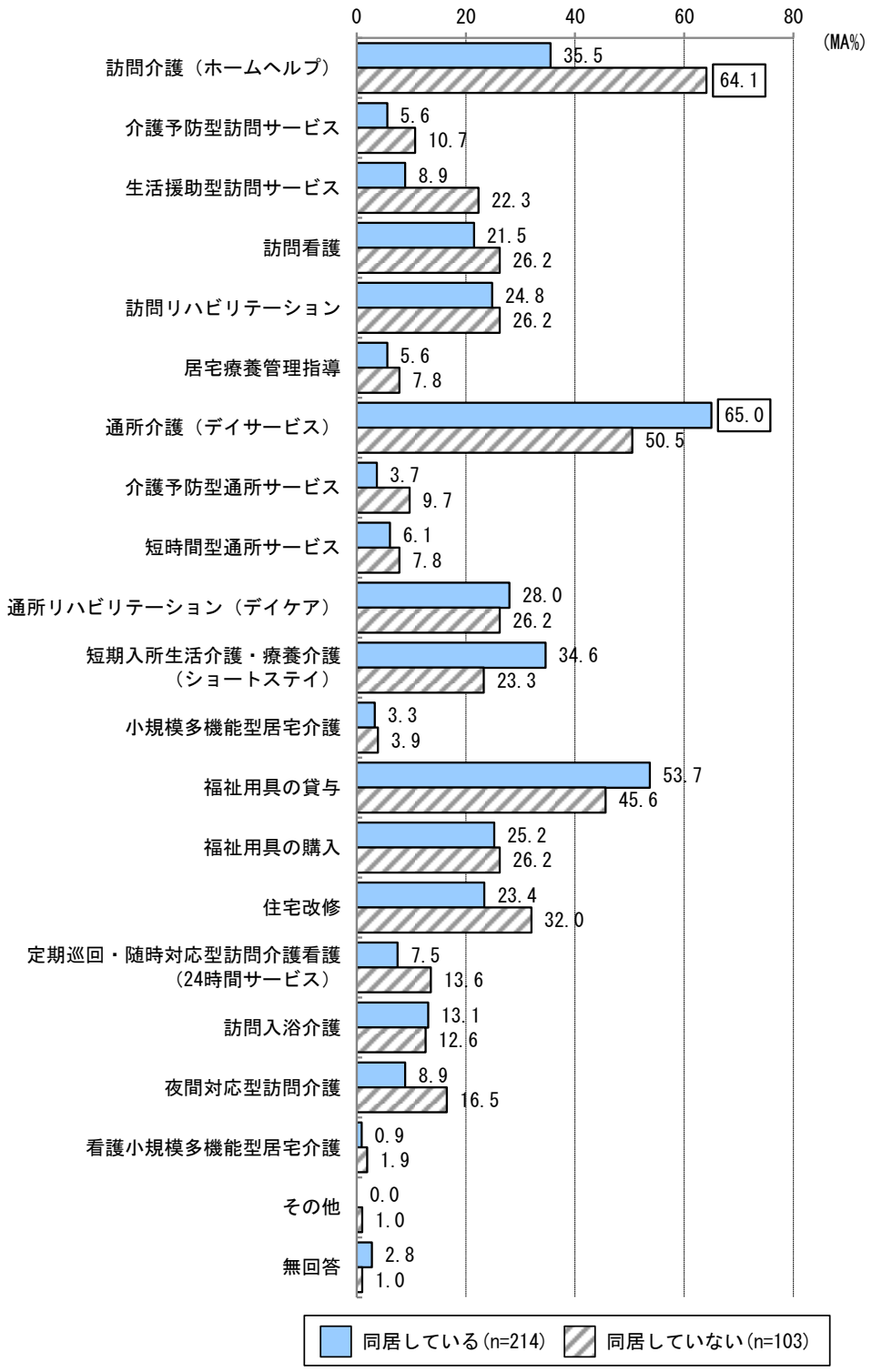
【A図32-1[37-1]-c　仕事を続けるのに必要な居宅サービス(現在利用している介護保険サービス及び介護予防サービス別)④】



同居有無別でみると、同居している介護者は「通所介護（デイサービス）」が65.0％で最も多く、次いで「福祉用具の貸与」が53.7％、「訪問介護（ホームヘルプ）」が35.5％となっている。同居していない介護者は「訪問介護（ホームヘルプ）」が64.1％で最も多く、次いで「通所介護（デイサービス）」が50.5％、「福祉用具の貸与」が45.6％となっている。

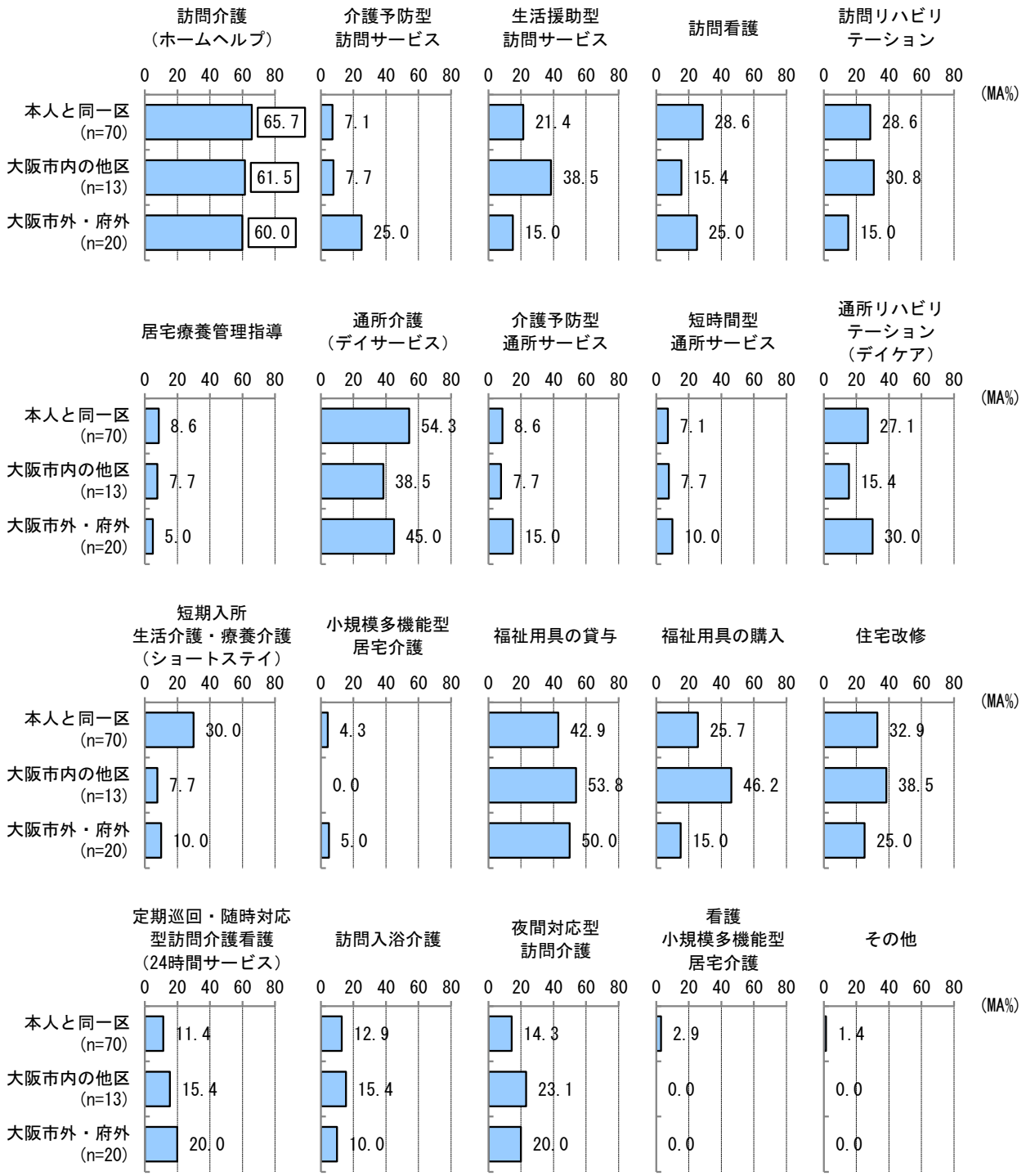
また、訪問サービスの割合は、同居していない介護者のほうが高い傾向がみられる。一方、通所・短期入所サービスの割合は、同居している介護者のほうが高い傾向がみられる。（A図32-1[37-1]-d）

【A図32-1[37-1]-d　仕事を続けるのに必要な居宅サービス（同居有無別）】



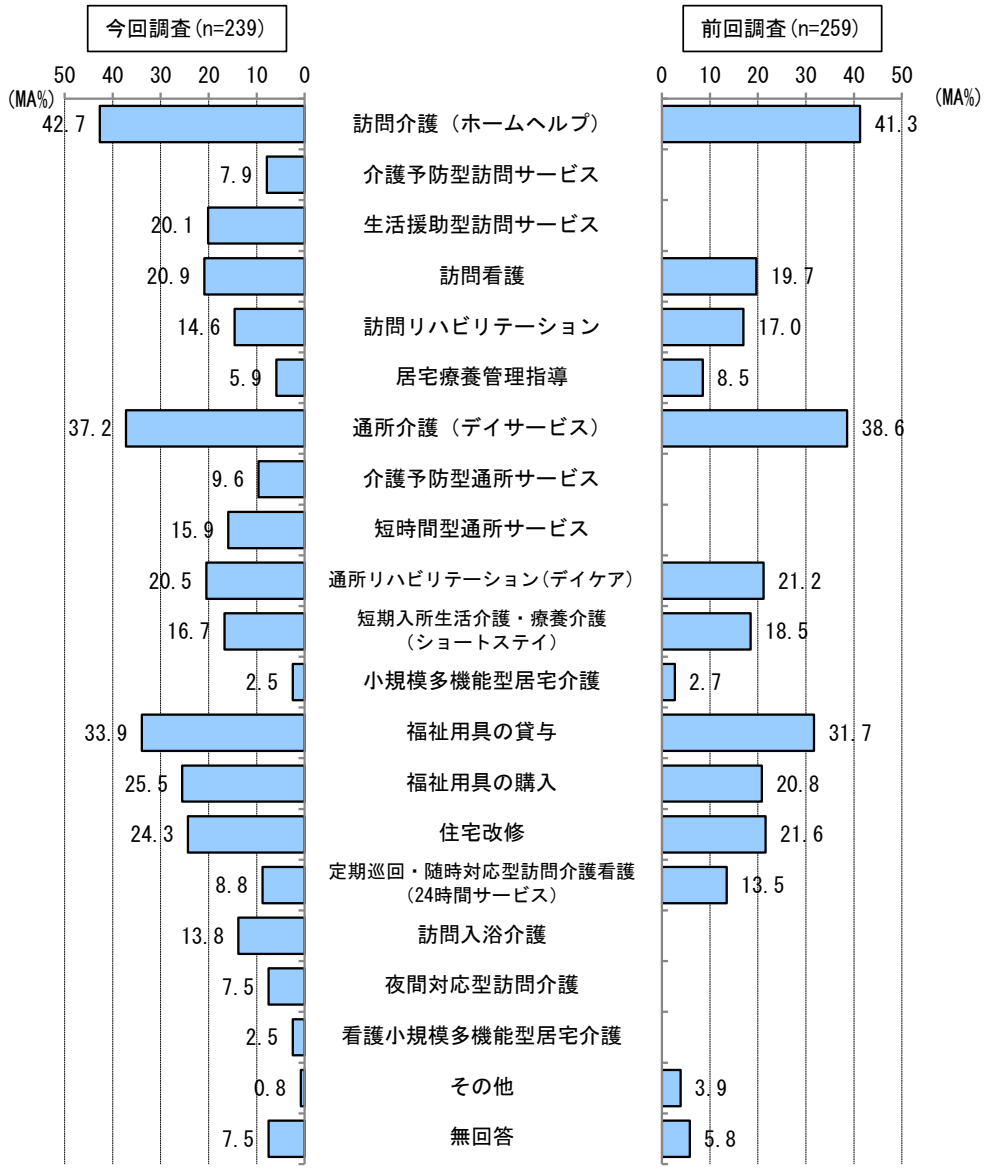
同居していない介護者の居住区別でみると、大阪市内の他区と大阪市外・府外の介護者は母数が少ないので一概には言えないが、本人との居住距離にかかわらず「訪問介護（ホームヘルプ）」が最も多くなっている。(A図32-1[37-1]-e)

【A図32-1[37-1]-e　仕事を続けるのに必要な居宅サービス（同居していない介護者の居住区別）】



＜Ｂ．サービス未利用者＞

【B図32-1[37-1]　仕事を続けるのに必要な居宅サービス（経年比較）】



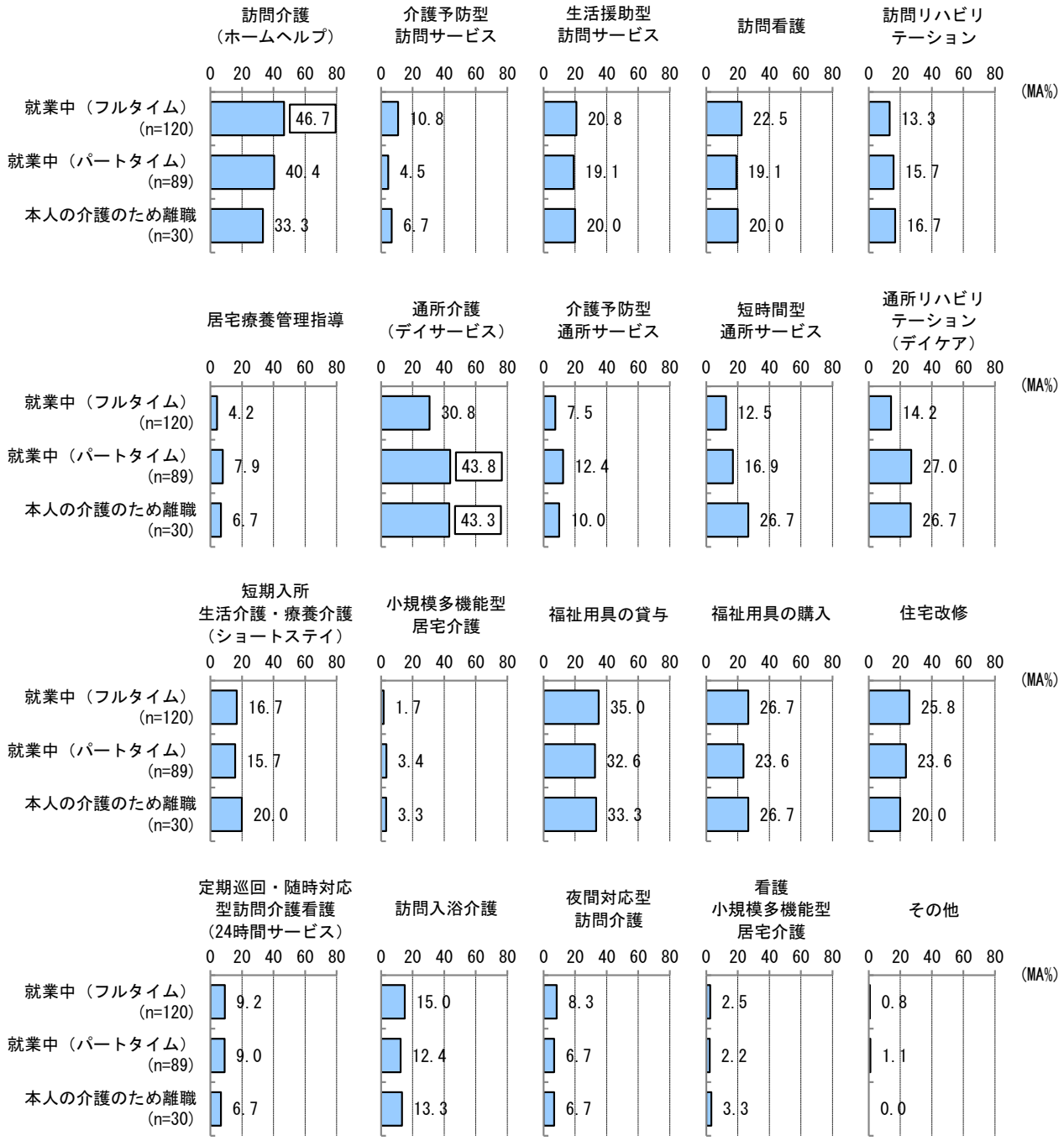
※「介護予防型訪問サービス」「生活援助型訪問サービス」「介護予防型通所サービス」「短時間型通所サービス」「訪問入浴介護」「夜間対応型訪問介護」「看護小規模多機能型居宅介護」は、今回調査の新規項目である。

仕事を続けるために、自宅で生活しながらサービスを受けると回答した介護者に、サービス未利用者本人に必要な居宅サービスをたずねると、「訪問介護（ホームヘルプ）」が42.7%で最も多く、次いで「通所介護サービス（デイサービス）」が37.2%で最も多く、次いで「福祉用具の貸与」が33.9%となっている。

前回調査と設問項目が異なるため一概には比較できないが、上記３項目が多い傾向は変わらない。(B図32-1[37-1])

介護者の就業状況別でみると、フルタイムの介護者は「訪問介護（ホームヘルプ）」、パートタイムと離職した介護者は「通所介護（デイサービス）」が、それぞれ最も多くなっている。（B図32-1[37-1]-a）

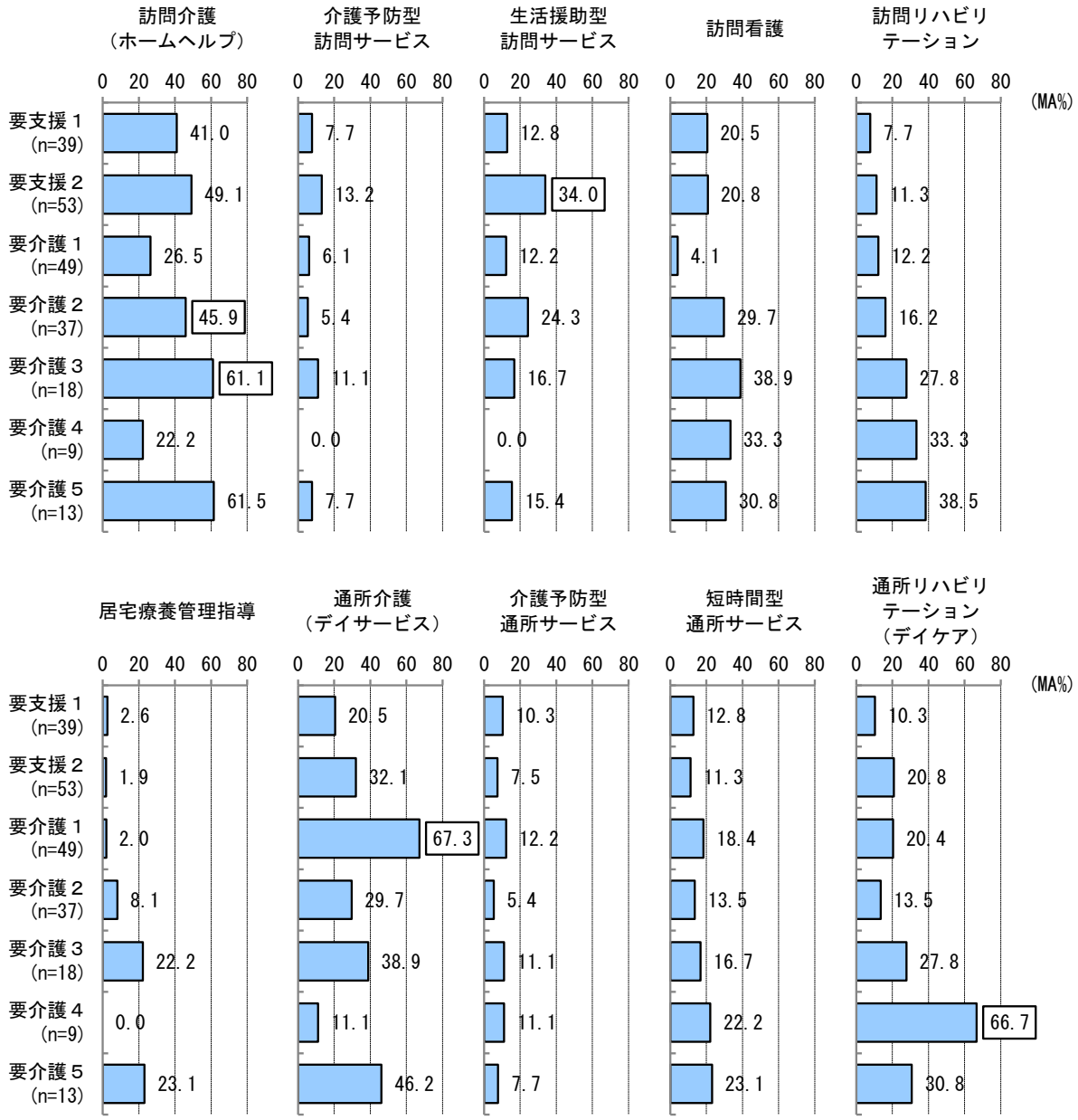
【B図32-1[37-1]-a　仕事を続けるのに必要な居宅サービス（介護者の就業状況別）】



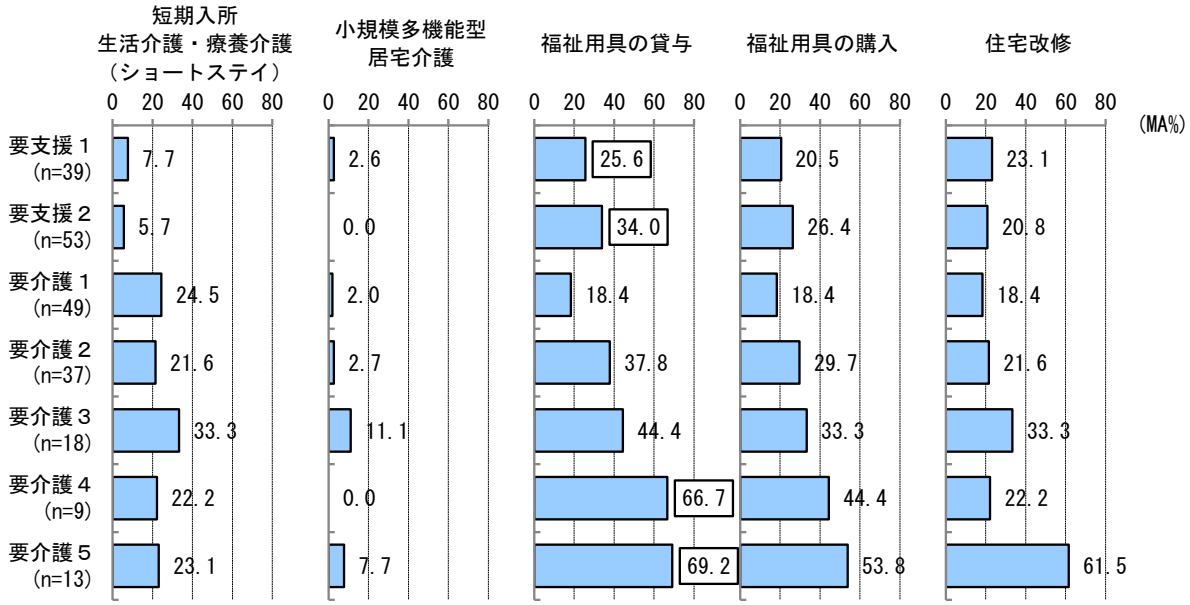
本人の要介護度別でみると、要介護３～５は母数が少ないので一概には言えないが、要支援１・２と要介護４・５は「福祉用具の貸与」が最も多く、要支援２は「生活援助型訪問サービス」、要介護４は「通所リハビリテーション（デイケア）」がそれぞれ同率で最も多くなっている。要介護１は「通所介護（デイサービス）」、要介護２・３は「訪問介護（ホームヘルプ）」が、それぞれ最も多くなっている。(B図32-1[37-1]-b)

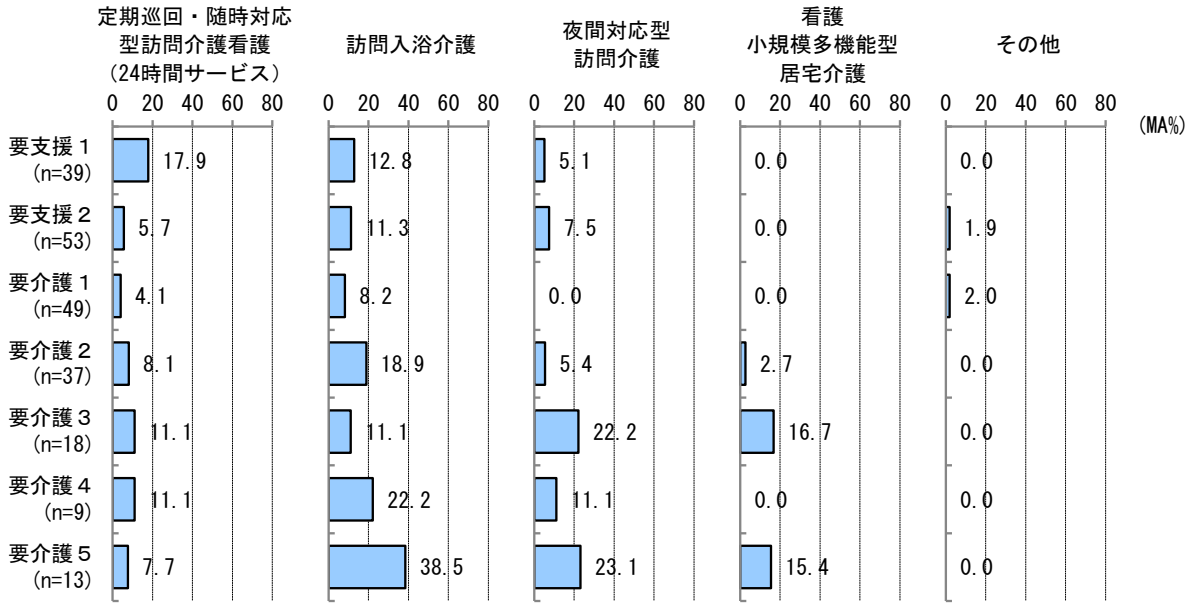
【B図32-1[37-1]-b　仕事を続けるのに必要な居宅サービス（本人の要介護度別）①】

※要支援１・２の「訪問介護（ホームヘルプ）」「通所介護（デイサービス）」の割合が高いが、回答者の誤認と示唆されるため、分析に注意が必要である。



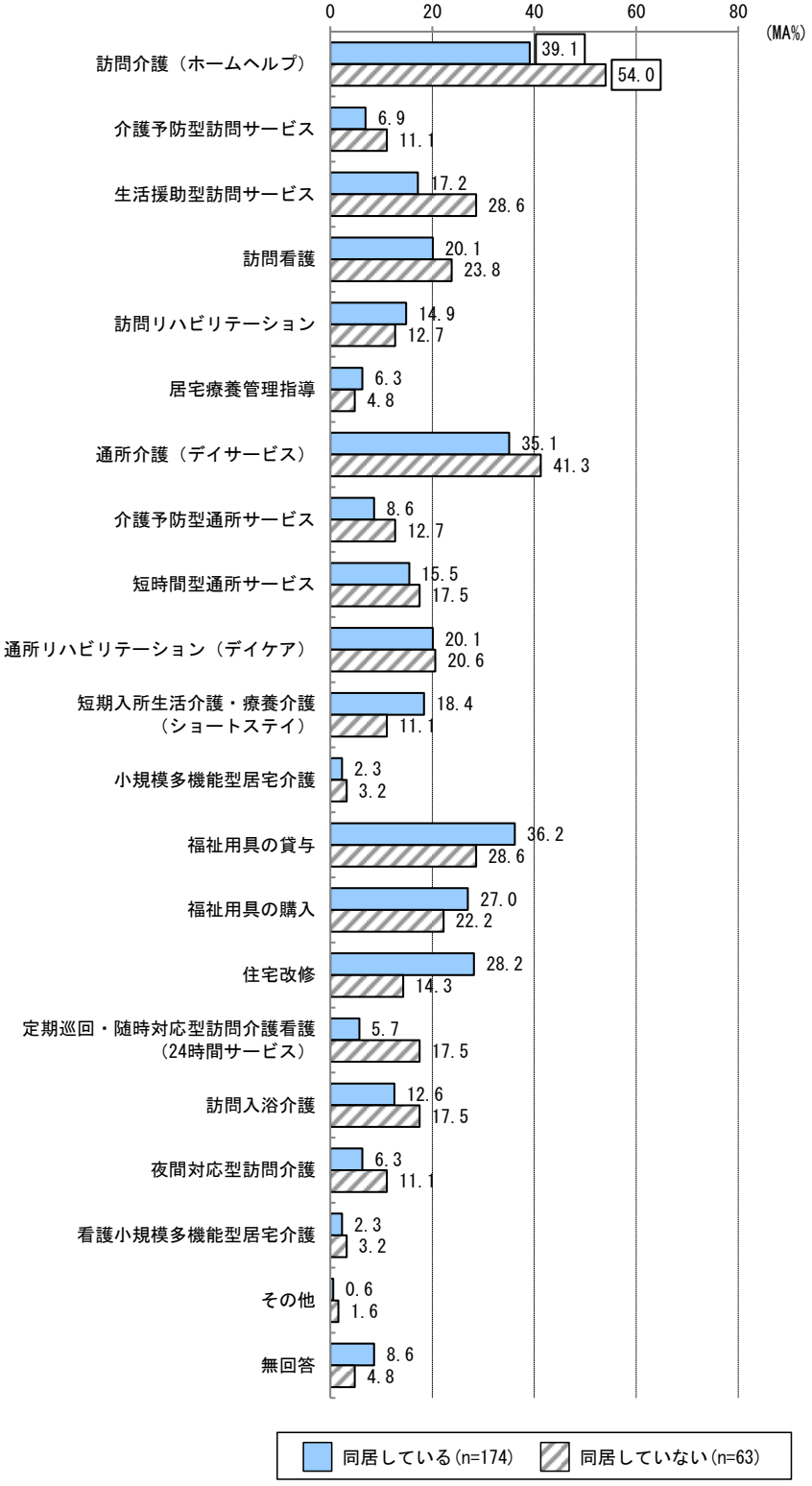
【B図32-1[37-1]-b　仕事を続けるのに必要な居宅サービス（本人の要介護度別）②】





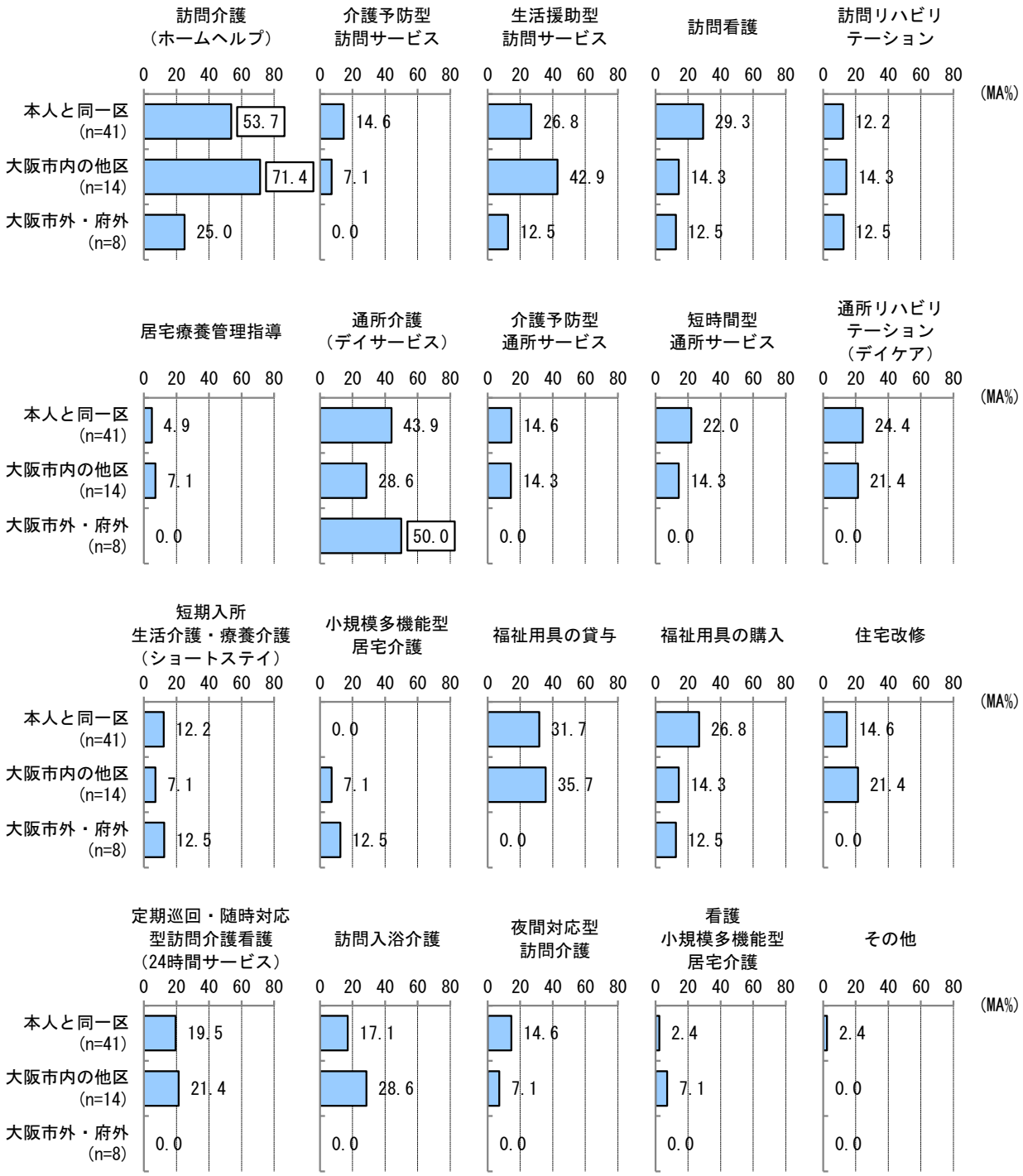
同居有無別でみると、同居の有無にかかわらず「訪問介護（ホームヘルプ）」が最も多く、同居している介護者は39.1%、同居していない介護者は54.0%で、同居していない介護者のほうが14.9ポイント高い割合になっている。なお、同居している介護者は「福祉用具の貸与」が36.2%で続いて多くなっており、同居している介護者では「福祉用具の貸与」「福祉用具の購入」「住宅改修」の割合が、同居していない介護者に比べて高い割合になっている。一方、同居していない介護者は「通所介護（デイサービス）」が41.3%で続いて多くなっており、同居している介護者に比べて6.2ポイント高い割合になっている。(B図32-1[37-1]-c)

【B図32-1[37-1]-c　仕事を続けるのに必要な居宅サービス（同居有無別）】



同居していない介護者の居住区別でみると、大阪市内の他区と大阪市外・府外の介護者の母数が少ないので一概には言えないが、大阪市内の介護者は「訪問介護（ホームヘルプ）」、大阪市外・府外の介護者は「通所介護（デイサービス）」が、それぞれ最も多くなっている。（B図32-1[37-1]-d）

【B図32-1[37-1]-d　仕事を続けるのに必要な居宅サービス（同居していない介護者の居住区別）】

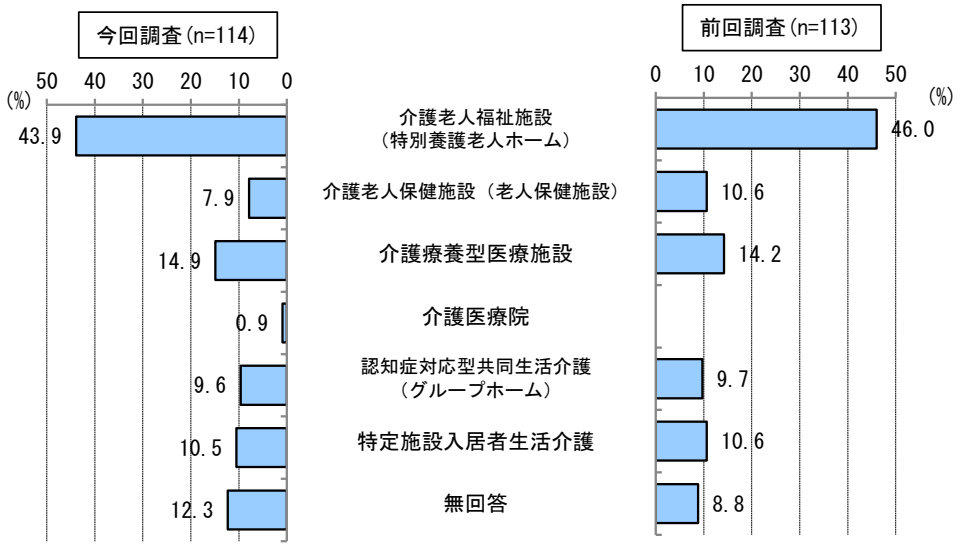


問32-2[37-2]　仕事が続けることができる施設サービス

【問32[37]で「２ 施設等に入所（入居）」と回答された方におうかがいします。】
どのような施設があれば、仕事を続けることができますか。（○はひとつ）

＜Ａ．サービス利用者＞

【A図32-2[37-2]　仕事を続けることができる施設サービス（経年比較）】



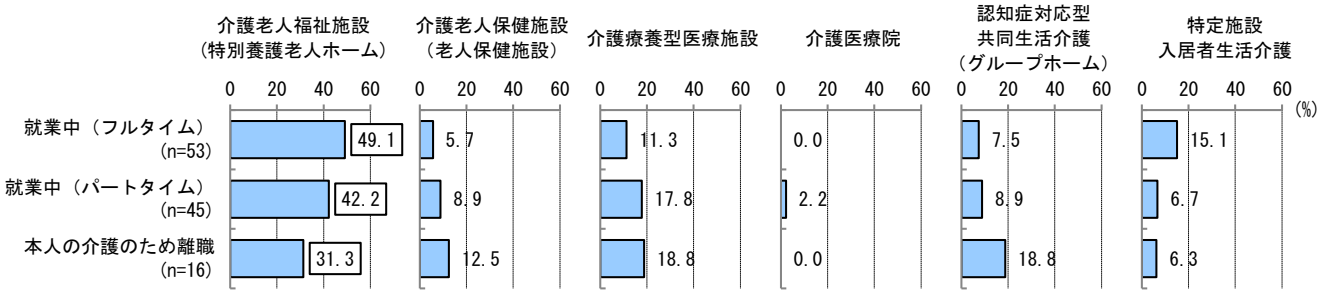
※「介護医療院」は、今回調査の新規項目である。

仕事を続けるために、施設等に入所と回答した介護者に、サービス利用者本人に必要な施設サービスをたずねると、「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」が43.9%で最も多く、次いで「介護療養型医療施設」が14.9%、「特定施設入居者生活介護」が10.5%となっている。

前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。（A図32-2[37-2]）

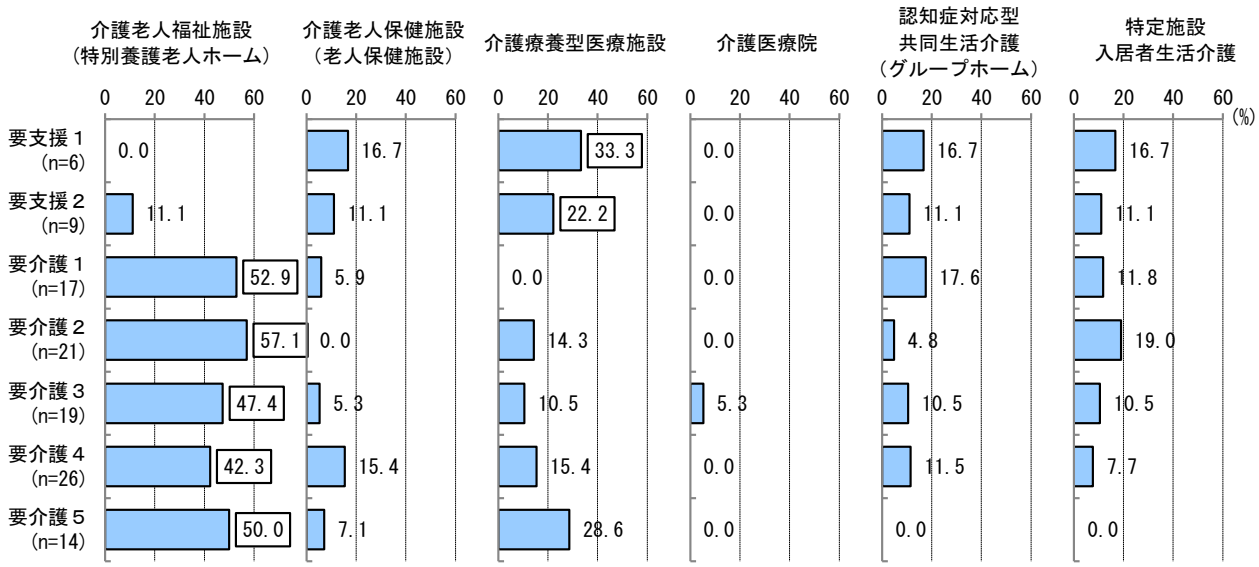
介護者の就業状況別でみると、就労状況にかかわらず「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム)」が最も多く、フルタイム就業の介護者が49.1%、パートタイム就業の介護者が42.2%となっている。(A図32-2[37-2]-a)

【A図32-2[37-2]-a　仕事を続けることができる施設サービス（介護者の就業状況別)】



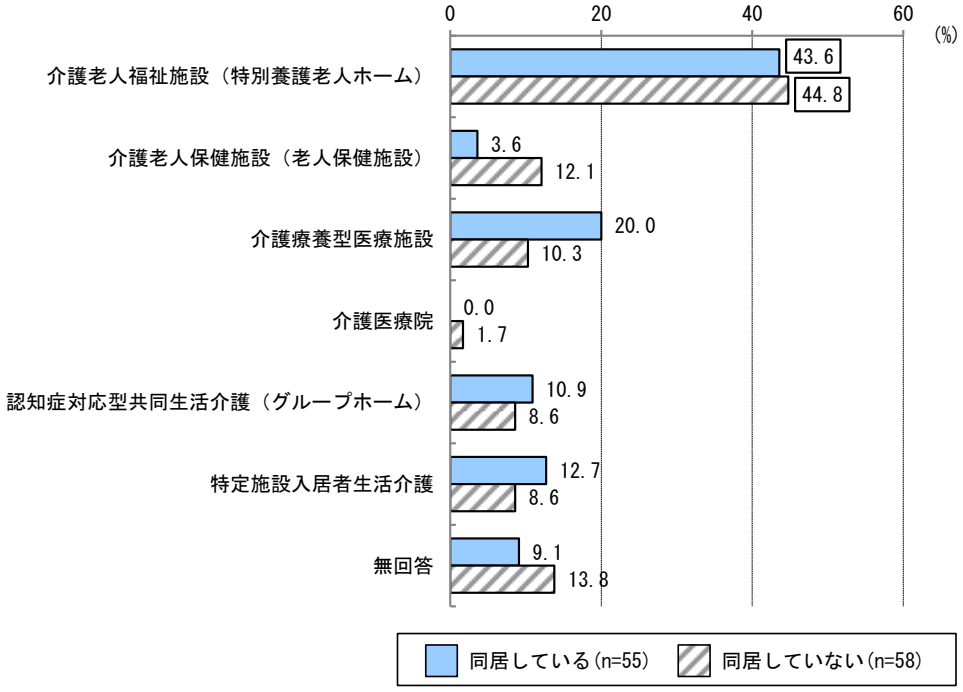
本人の要介護度別でみると、母数が少ないので一概には言えないが、要支援１・２は「介護老人保健施設（老人保健施設)」が最も多く、要介護１～５は「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム)」が最も多くなっている。(A図32-2[37-2]-b)

【A図32-2[37-2]-b　仕事を続けることができる施設サービス（本人の要介護度別)】



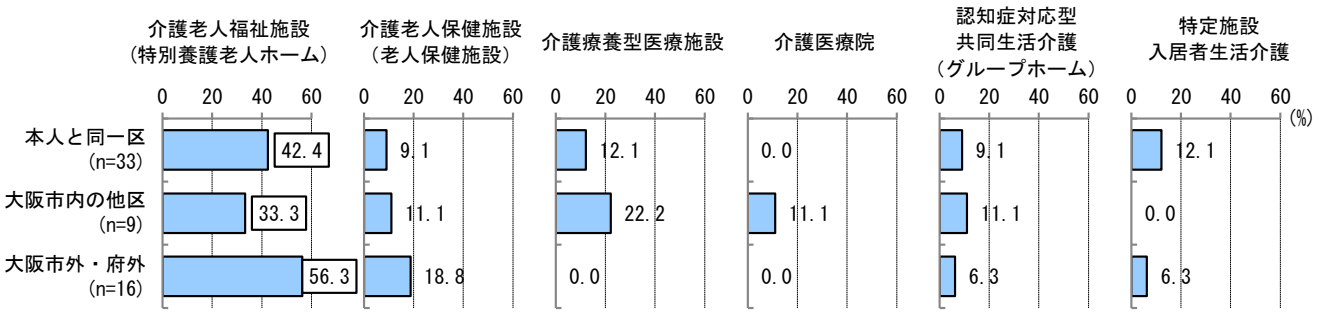
同居有無別でみると、同居の有無にかかわらず「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」が４割台で最も多くなっている。また、同居している介護者は「介護療養型医療施設」の割合が20.0％で、同居していない介護者（10.3％）に比べて9.7ポイント高くなっている。一方、同居していない介護者は「介護老人保健施設（老人保健施設）」の割合が12.1％で、同居している介護者（3.6％）に比べて8.5ポイント高くなっている。（A図32-2[37-2]-c）

【A図32-2[37-2]-c　仕事を続けることができる施設サービス（同居有無別）】



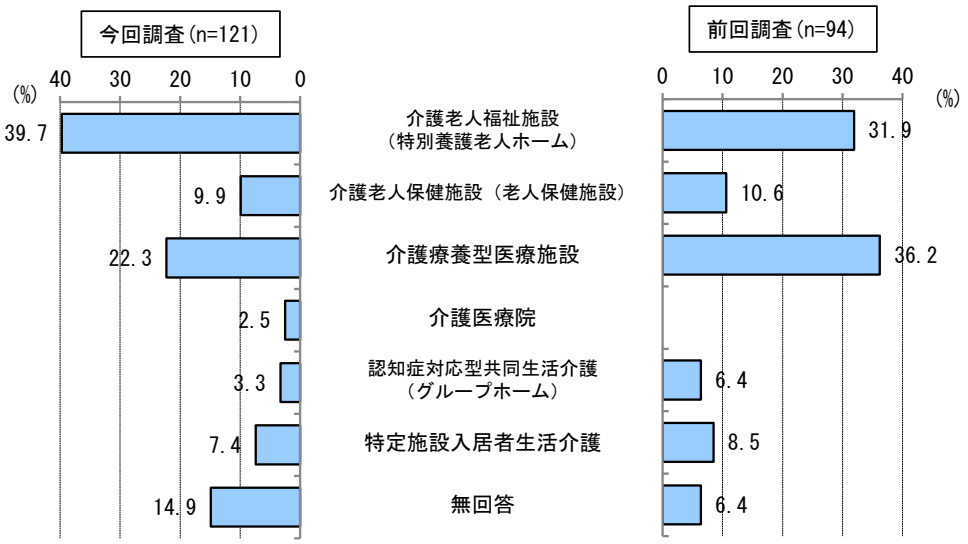
同居していない介護者の居住区別でみると、母数が少ないので一概には言えないが、本人との居住距離にかかわらず「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」が最も多くなっている。（A図32-2[37-2]-d）

【A図32-2[37-2]-d　仕事を続けることができる施設サービス（同居していない介護者の居住区別）】



＜Ｂ．サービス未利用者＞

【B図32-2[37-2]　仕事を続けることができる施設サービス（経年比較）】



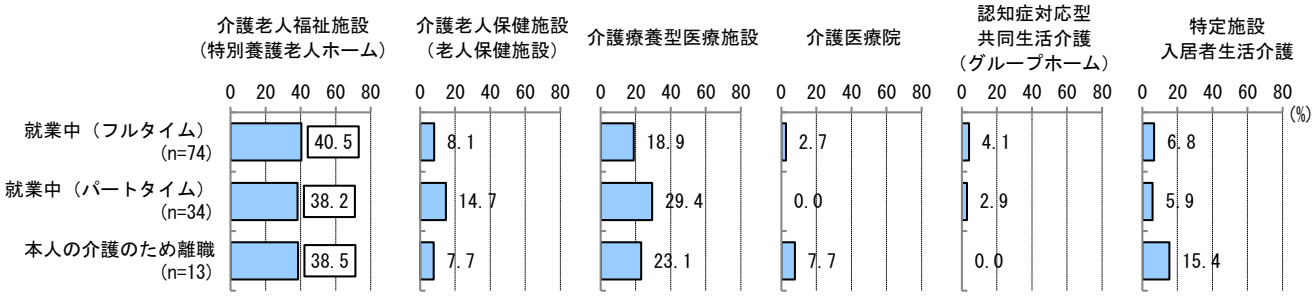
※「介護医療院」は、今回調査の新規項目である。

仕事を続けるために、施設等に入所と回答した介護者に、サービス未利用者本人に必要な施設サービスをたずねると、「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」が39.7％で最も多く、次いで「介護療養型医療施設」が22.3％、「介護老人保健施設（老人保健施設）」が9.9％となっている。

前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。(B図32-2[37-2])

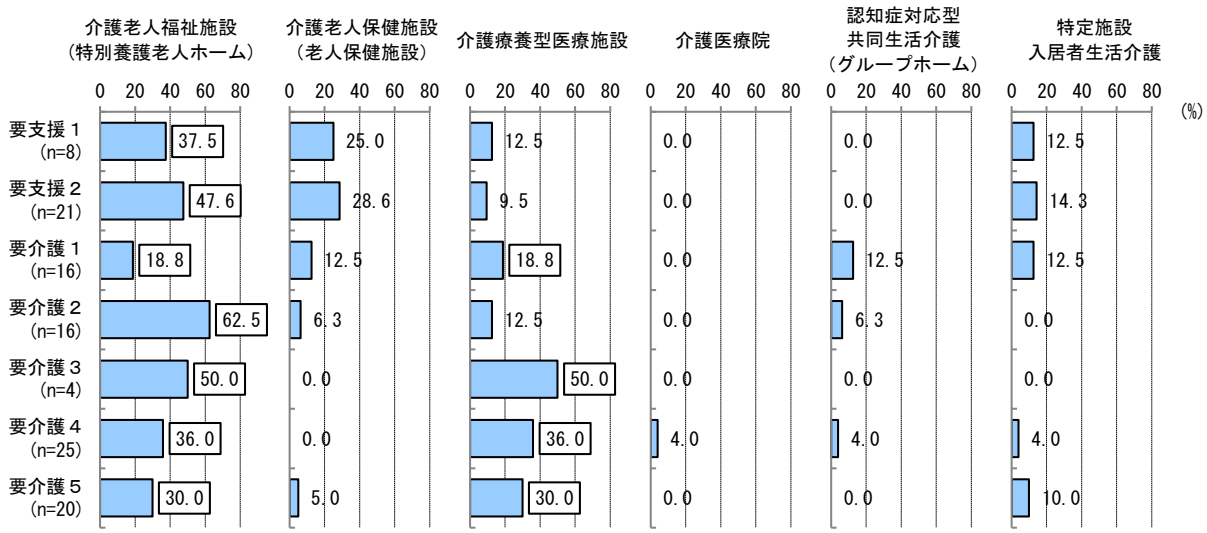
介護者の就業状況別でみると、就業状況にかかわらず「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」が最も多くなっている。また、パートタイムの介護者では、「介護老人保健施設（老人保健施設）」が14.7%、「介護療養型医療施設」が29.4%で他に比べて高い割合になっている。(B図32-2[37-2]-a)

【B図32-2[37-2]-a　仕事を続けることができる施設サービス（介護者の就業状況別）】



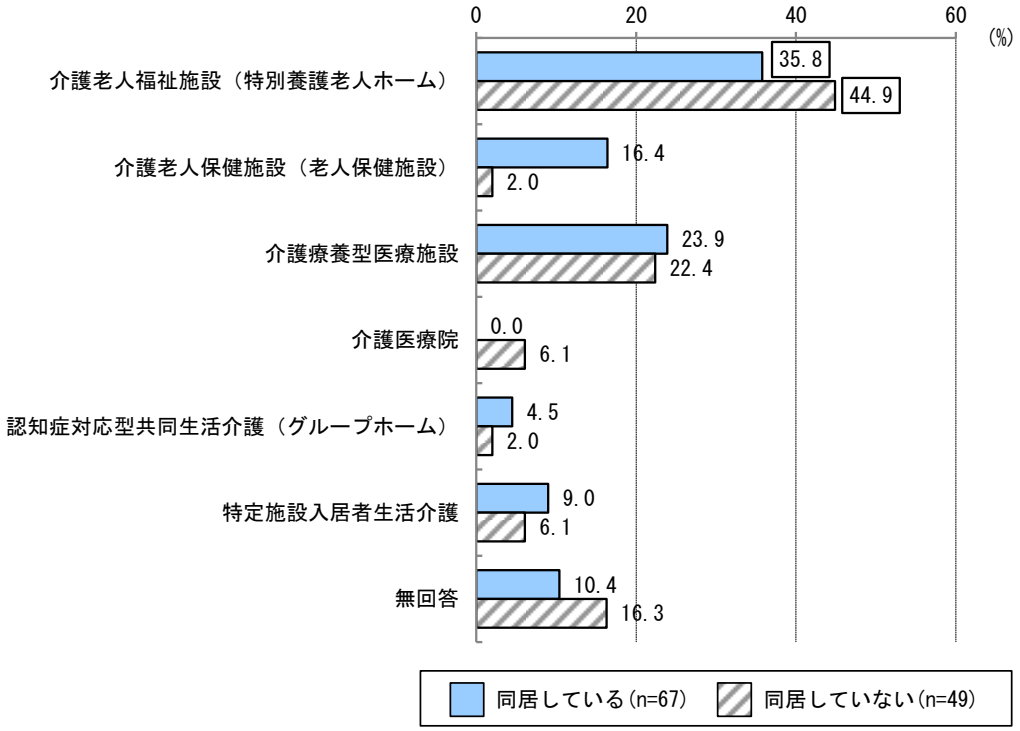
本人の要介護度別でみると、母数が少ないので一概には言えないが、要介護度にかかわらず「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」が最も多く、要介護１・３～５では同率で「介護療養型医療施設」も最も多くなっている。(B図32-2[37-2]-b)

【B図32-2[37-2]-b　仕事を続けることができる施設サービス（本人の要介護度別）】



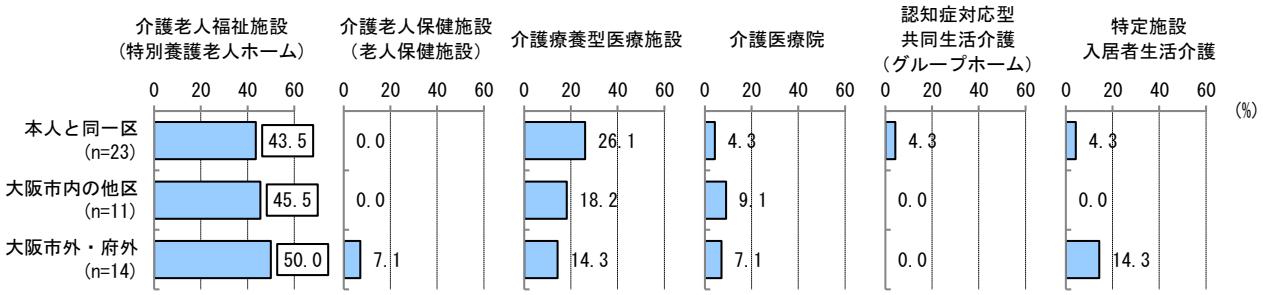
同居有無別でみると、同居の有無にかかわらず「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」が最も多く、同居している介護者は35.8％、同居していない介護者は44.9％で、同居していない介護者のほうが9.1ポイント高い割合になっている。また、「介護老人保健施設（老人保健施設）」の割合では、同居している介護者が16.4％で、同居していない介護者（2.0％）と比べて14.4ポイント高くなっている。（B図32-2[37-2]-c）

【B図32-2[37-2]-c　仕事を続けることができる施設サービス（同居有無別）】



同居していない介護者の居住区別でみると、母数が少ないので一概には言えないが、本人との居住距離にかかわらず「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」が最も多くなっている。（B図32-2[37-2]-d）

【B図32-2[37-2]-d　仕事を続けることができる施設サービス（同居していない介護者の居住区別）】

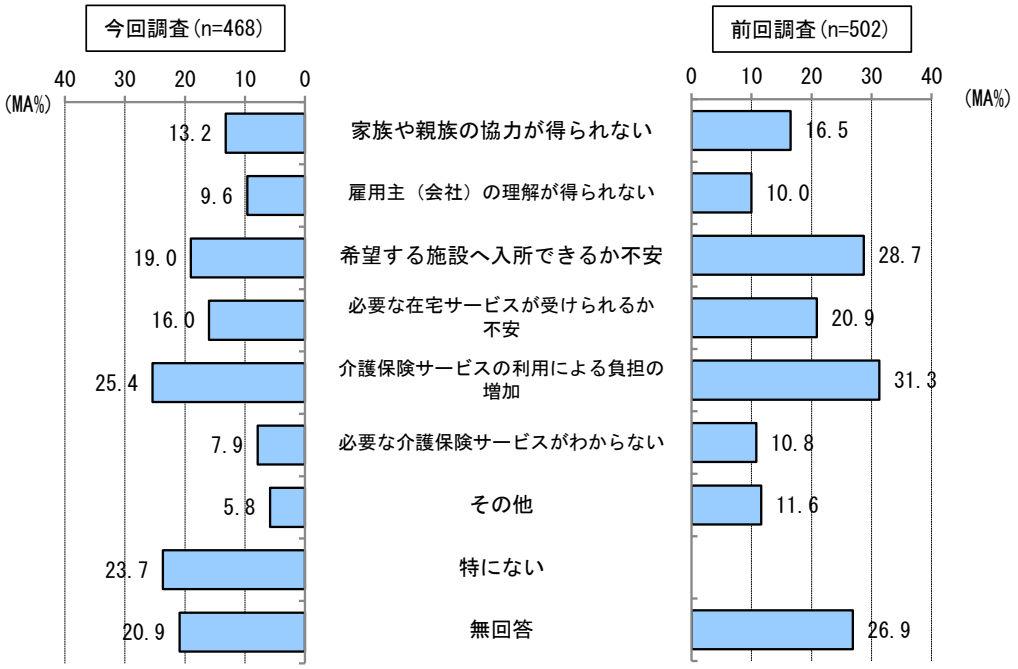


問33[38]　仕事を続けるにあたって不安なこと

【問30[35]で「１ 就業中（フルタイム）」、「２ 就業中（パートタイム）」、「３ 本人の介護のため離職」と回答された方のみお答えください。】
仕事を続けるにあたって、不安なこと、もしくは不安であったことがありましたか。
（○はいくつでも）

＜Ａ．サービス利用者＞

【A図33[38]　仕事を続けるにあたって不安なこと（経年比較）】



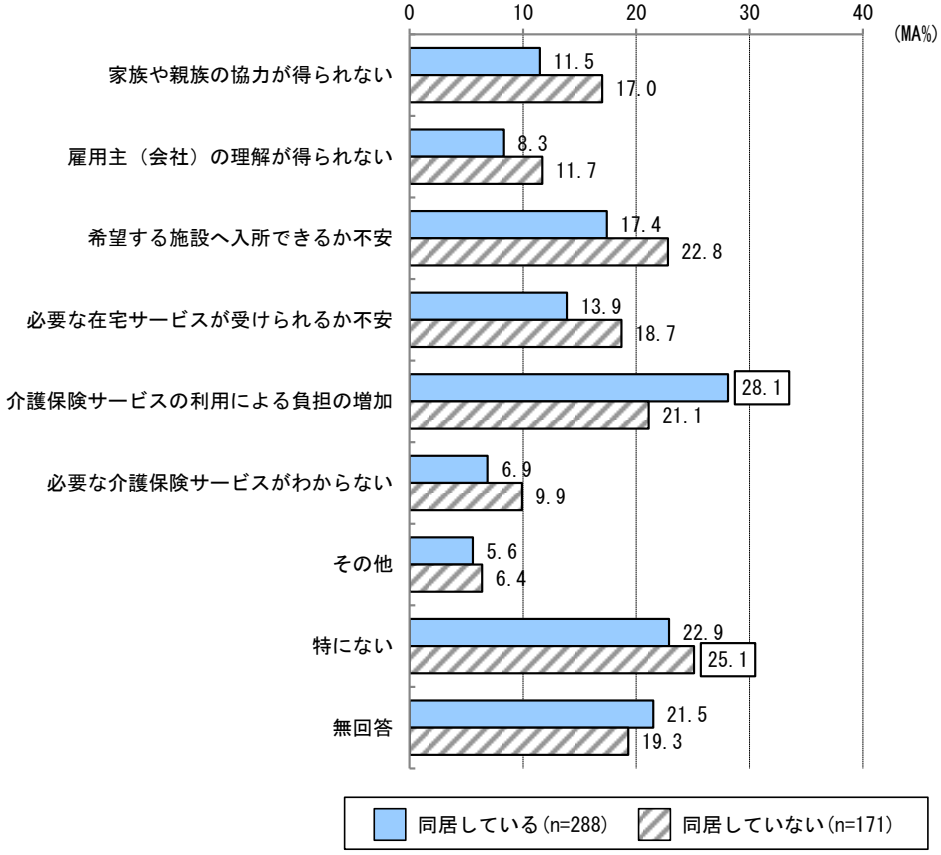
※「特にない」は、前回調査では設けていない。

就業中、またはサービス利用者本人の介護のため離職と回答した介護者に、仕事を続けるにあたって不安なことをたずねると、「介護保険サービスの利用による負担の増加」が25.4%で最も多く、次いで「希望する施設へ入所できるか不安」が19.0%、「必要な在宅サービスが受けられるか不安」が16.0%となっている。また「特にない」は23.7%となっている。

前回調査と比較すると、「希望する施設へ入所できるか不安」の割合が9.7ポイント低くなっている。(A図33[38])

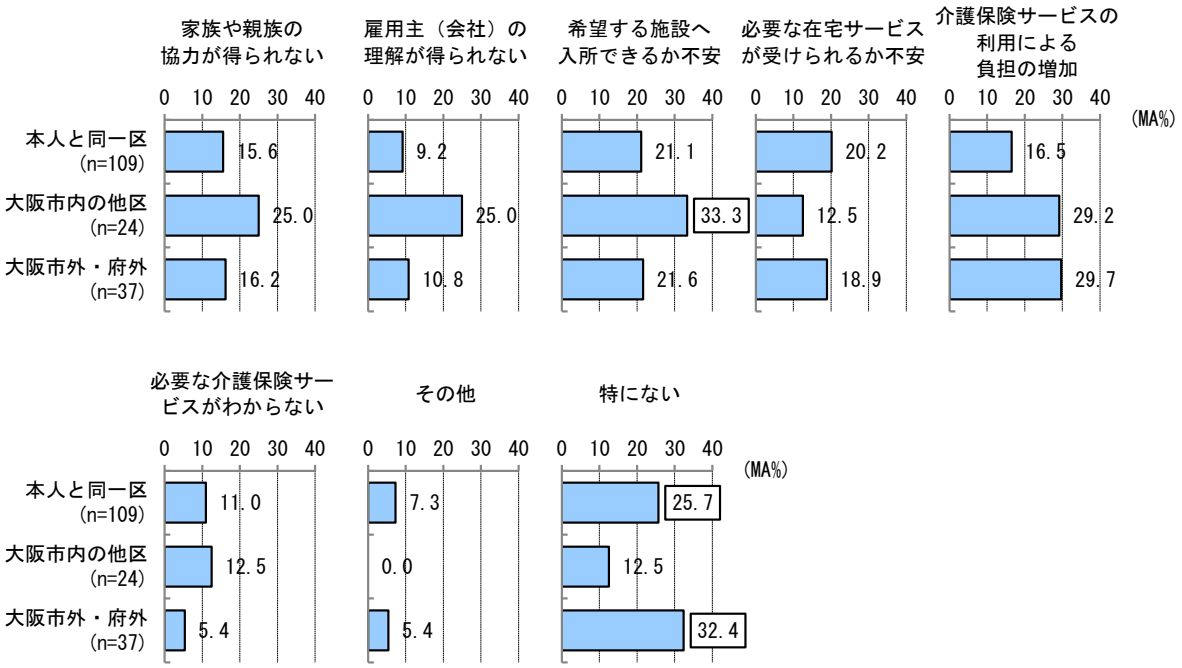
同居有無別でみると、同居している介護者は「介護保険サービスの利用による負担の増加」が28.1%で最も多く、同居していない介護者（21.1%）に比べて7.0ポイント高い割合になっている。一方、同居していない介護者は「特にない」が25.1%で最も多く、不安なことでは「希望する施設へ入所できるか不安」が22.8%で最も多くなっている。また、同居していない介護者では、「介護保険サービスの利用による負担の増加」以外の不安なことは、同居している介護者に比べて高い割合になっており、特に「家族や親族の協力が得られない」と「希望する施設へ入所できるか不安」の割合は５ポイント以上高くなっている。(A図33[38]-a)

【A図33[38]-a　仕事を続けるにあたって不安なこと（同居有無別）】



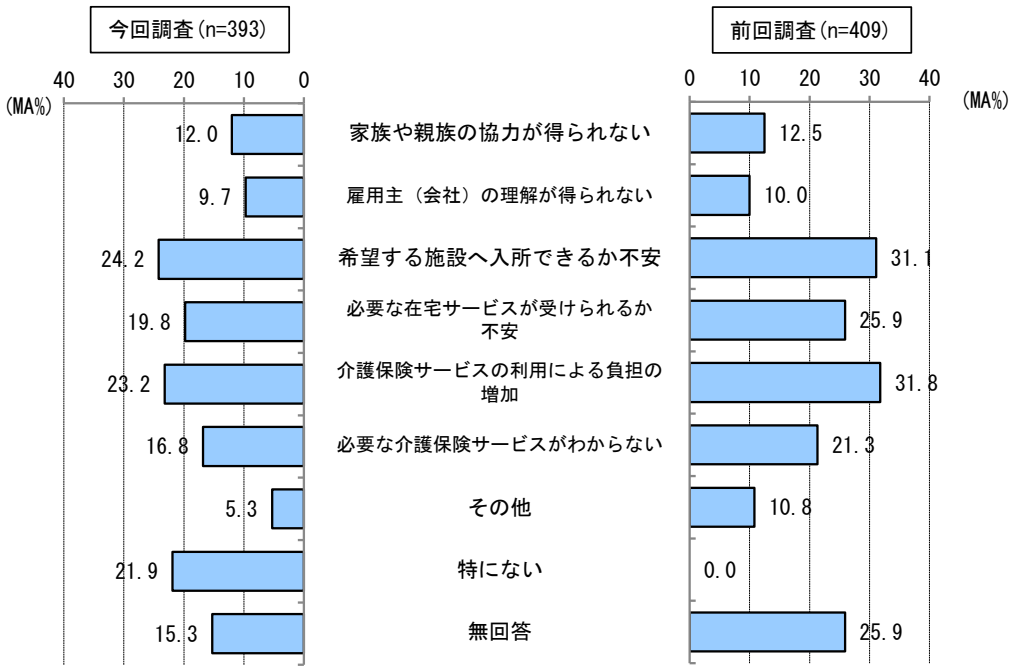
同居していない介護者の居住区別でみると、本人と同一区の介護者と、大阪市外・府外の介護者は「特にない」が最も多くなっている。不安なことでは、本人と同一区の介護者と大阪市内の他区の介護者が「希望する施設へ入所できるか不安」、大阪市外・府外の介護者は「介護保険サービスの利用による負担の増加」が、それぞれ最も多くなっている。(A図33[38]-b)

【A図33[38]-b　仕事を続けるにあたって不安なこと（同居していない介護者の居住区別）】



＜Ｂ．サービス未利用者＞

【B図33[38]　仕事を続けるにあたって不安なこと（経年比較）】



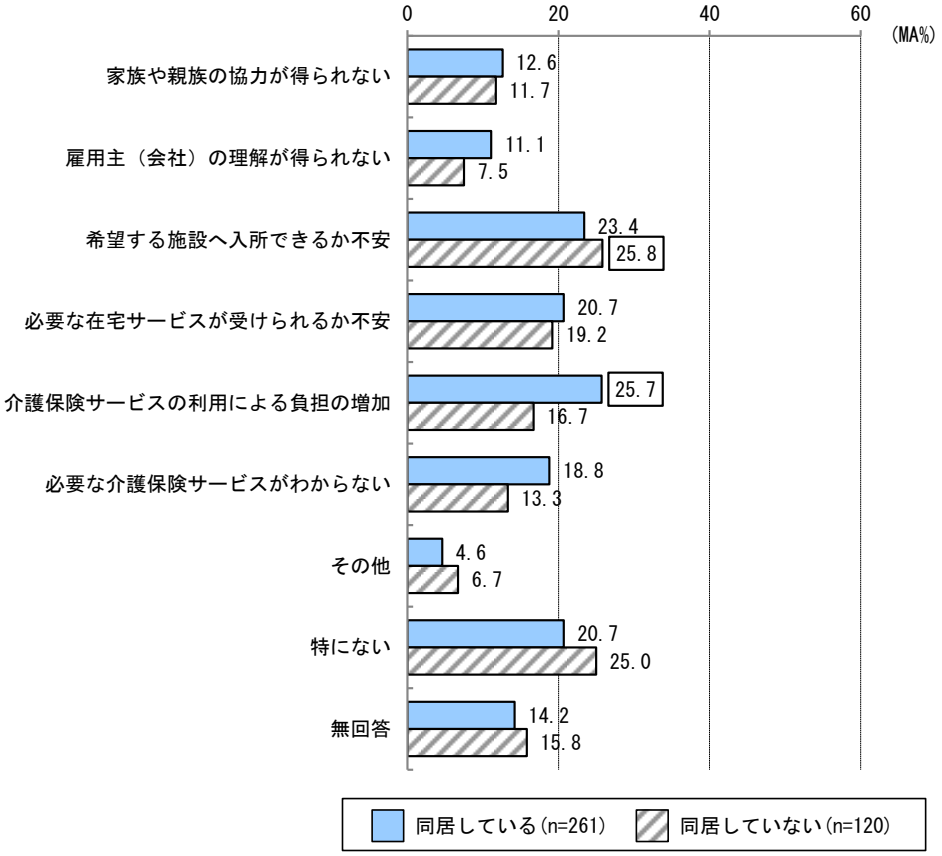
※「特にない」は、前回調査では設けていない。

就業中、またはサービス未利用者本人の介護のため離職と回答した介護者に、仕事を続けるにあたって不安なことをたずねると、「希望する施設へ入所できるか不安」が24.2％で最も多く、次いで「介護保険サービスの利用による負担の増加」が23.2％、「必要な在宅サービスが受けられるか不安」が19.8％となっている。また「特にない」は21.9％となっている。

前回調査と比較すると、「介護保険サービスの利用による負担の増加」の割合が8.6ポイント低くなっている。(B図33[38])

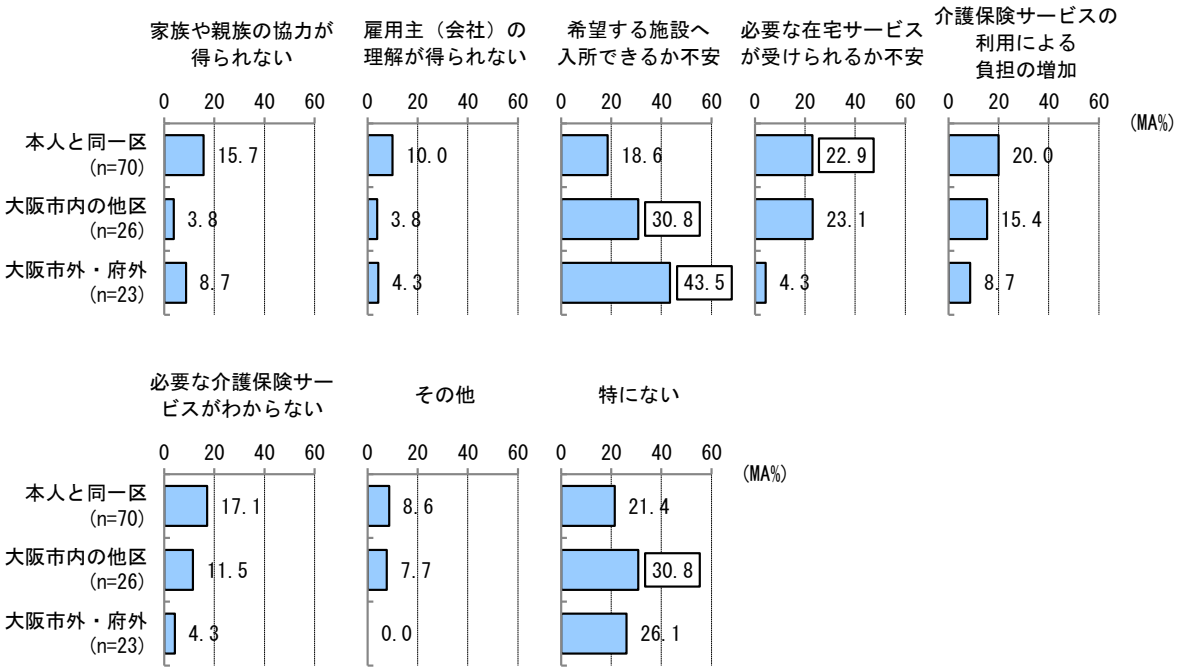
同居有無別でみると、同居している介護者は「介護保険サービスの利用による負担の増加」が25.7％で最も多く、同居していない介護者（16.7％）に比べて9.0ポイント高い割合になっている。これに次いで、「希望する施設へ入所できるか不安」が23.4％、「必要な在宅サービスが受けられるか不安」が20.7％と続いている。一方、同居していない介護者は「希望する施設へ入所できるか不安」が25.8％で最も多く、僅差で「特にない」が25.0％となっている。(B図33[38]-a)

【B図33[38]-a　仕事を続けるにあたって不安なこと（同居有無別）】



同居していない介護者の居住区別でみると、本人と同一区の介護者は「必要な在宅サービスが受けられるか不安」が最も多くなっている。大阪市内の他区と大阪市外・府外の介護者では母数が少ないので一概には言えないが、「希望する施設へ入所できるか不安」が最も多く、大阪市内の他区の介護者は同率で「特にない」も最も多くなっている。(B図33[38]-b)

【B図33[38]-b　仕事を続けるにあたって不安なこと（同居していない介護者の居住区別）】

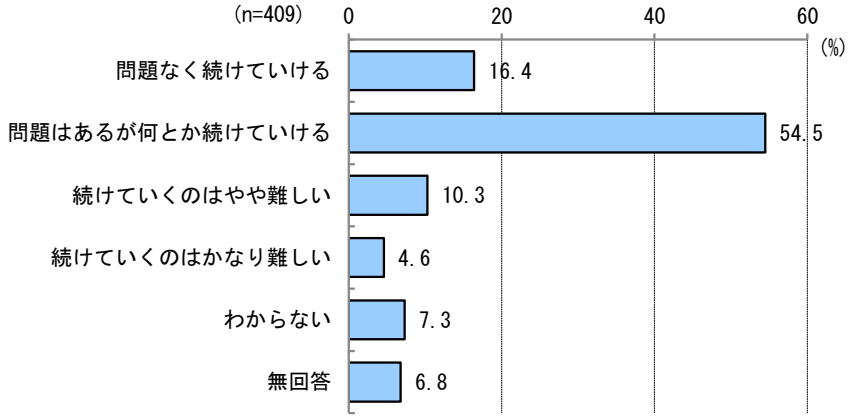


問34[39]　働きながら介護を続けることの意向

【問30[35]で「１　就業中（フルタイム)」、「２　就業中（パートタイム)」と回答された方のみお答えください。】
主な介護者は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。（○はひとつ）

＜Ａ．サービス利用者＞

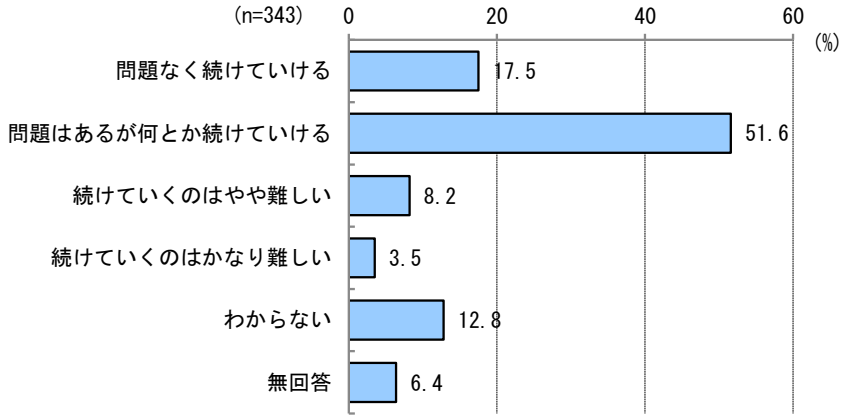
【A図34[39]　働きながら介護を続けることの意向】



就業中の介護者に、働きながら介護を続けていけそうかをたずねると、「問題はあるが何とか続けていける」が54.5％で最も多く、次いで「問題なく続けていける」が16.4％、「続けていくのはやや難しい」が10.3％となっている。(A図34[39])

＜Ｂ．サービス未利用者＞

【B図34[39]　働きながら介護を続けることの意向】



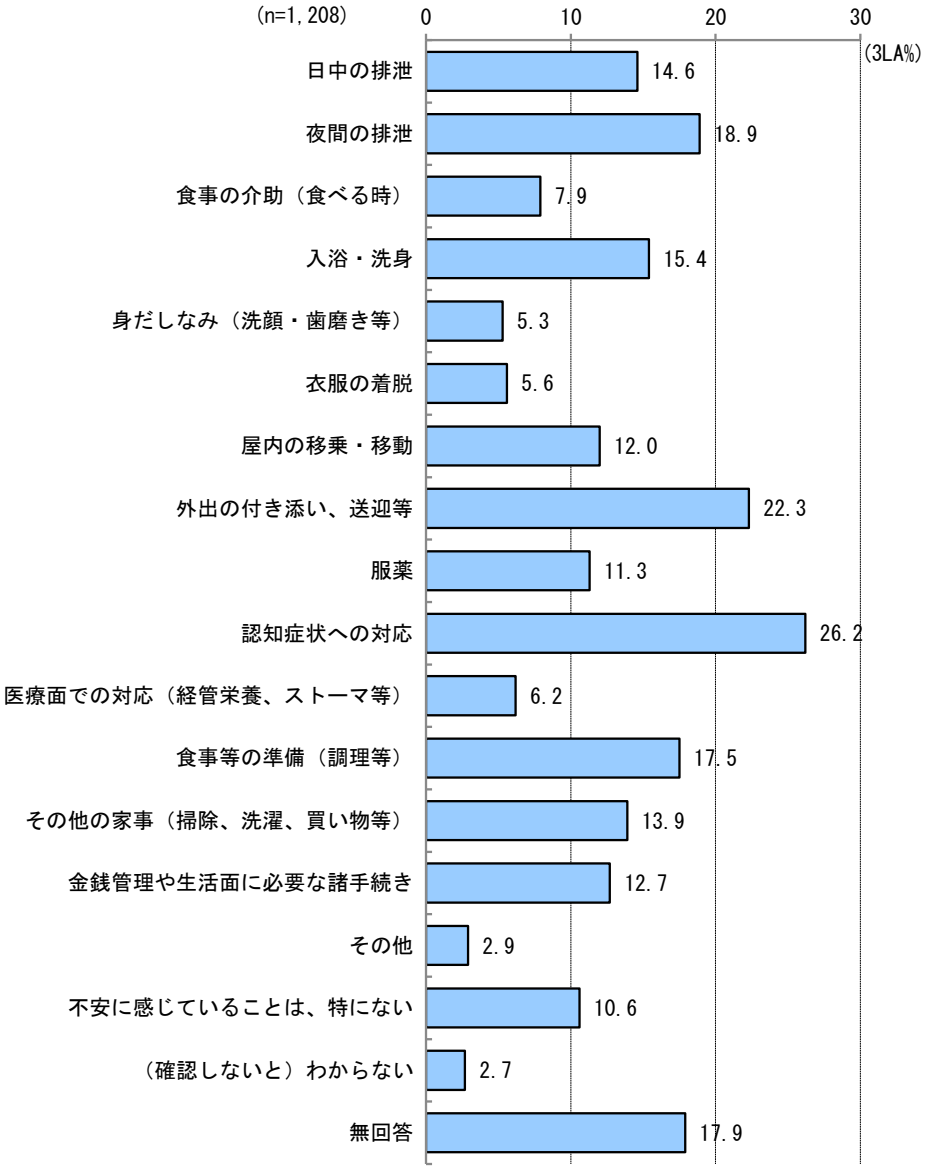
就業中の介護者に、働きながら介護を続けていけそうかをたずねると、「問題はあるが何とか続けていける」が51.6％で最も多く、次いで「問題なく続けていける」が17.5％、「わからない」が12.8％となっている。(B図34[39])

問35[40]　現在の生活を継続していくにあたって不安に感じる介護

現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安に感じる介護等はどのようなことですか。（現状で行っているか否かは問いません）（○は３つまで）

＜Ａ．サービス利用者＞

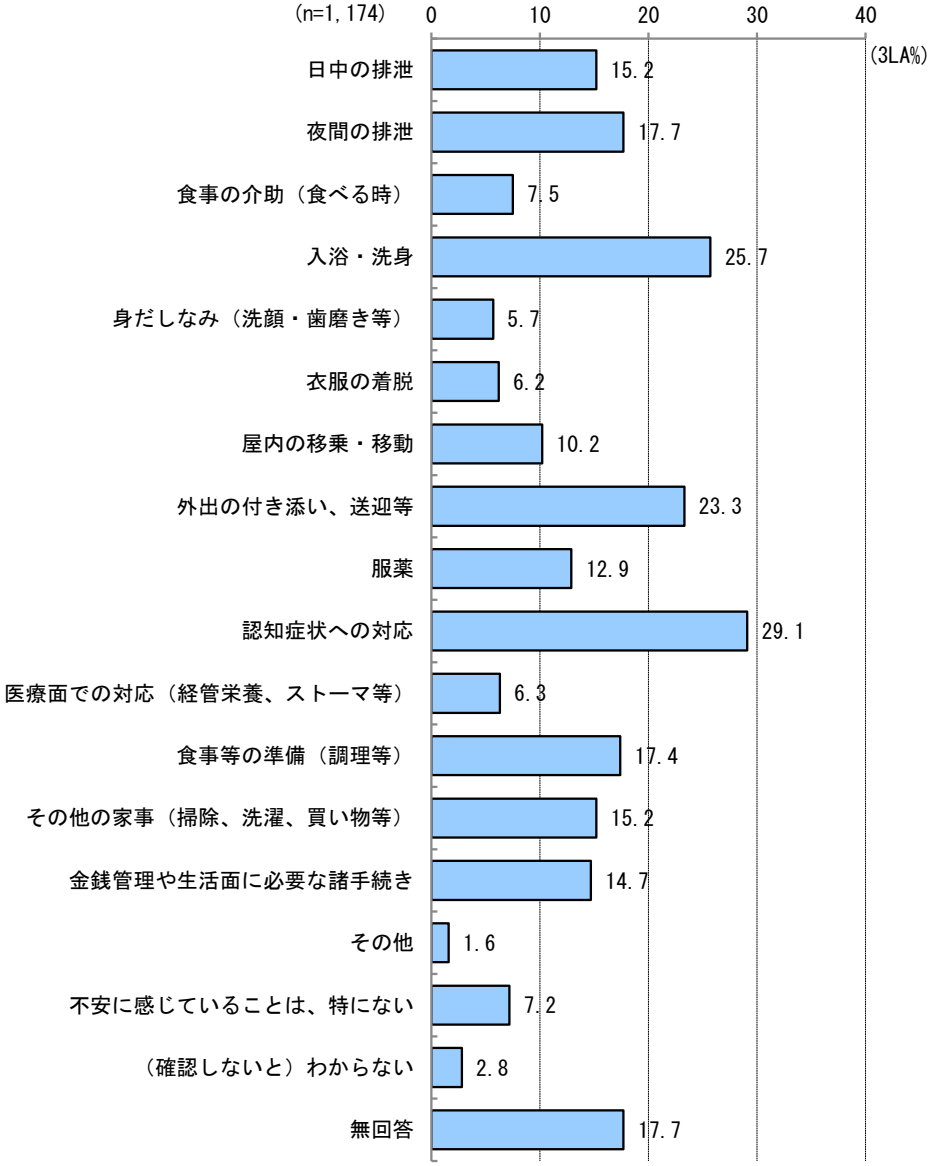
【A図35[40]　現在の生活を継続していくにあたって不安に感じる介護】



現在の生活を継続していくにあたって不安に感じるサービス利用者本人への介護については、「認知症状への対応」が26.2%で最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が22.3%、「夜間の排泄」が18.9%となっている。(A図35[40])

＜Ｂ．サービス未利用者＞

【B図35[40]　現在の生活を継続していくにあたって不安に感じる介護】



現在の生活を継続していくにあたって不安に感じるサービス未利用者本人への介護については、「認知症状への対応」が29.1％で最も多く、次いで「入浴・洗身」が25.7％、「外出の付き添い、送迎等」が23.3％となっている。(B図35[40])